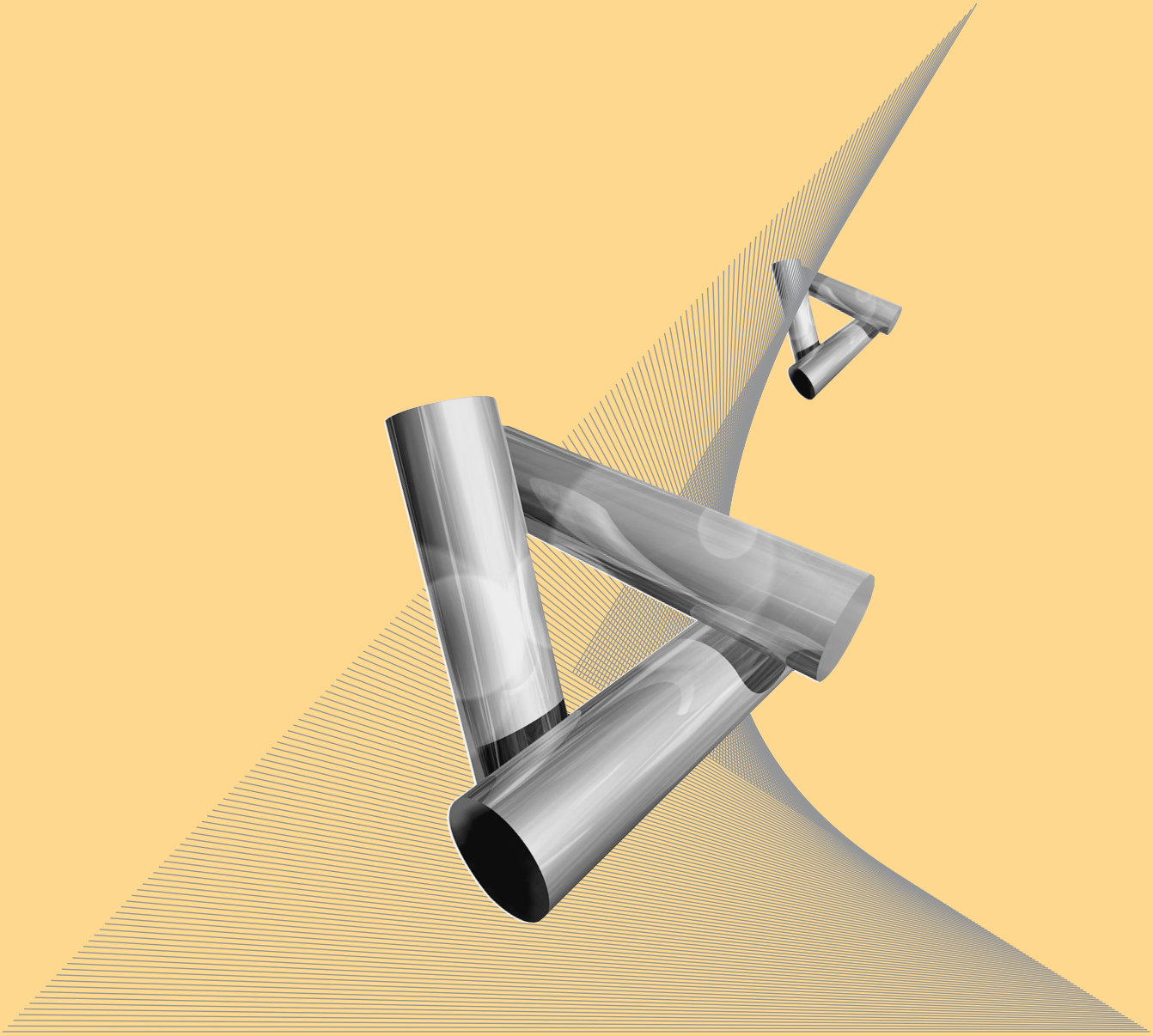
2006年度

シラバス
全学共通授業科目



獨協大学

全学共通授業科目
シラバス
【総合目次一覧】

【全学共通授業科目　2003年度以降入学生】

◆学則別表

2005年度以降入学生用　Ⅰ－1～2

2003～2004年度入学生用　Ⅱ－1～2

◆授業科目目次　Ⅲ－1～12

【外国語学部共通科目　2002年度以前入学生】

◆学則別表　Ⅳ－1

◆授業科目目次　Ⅴ－1～6

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
学生諸君は、シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003年度以降入学生用の「全学共通授業科目」と、2002年度以前入学生用の「外国語学部共通科目」のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し、目次を参照してください。

Ⅰ　目次について

1　検索方法

①　【目次一覧】で自分の入学年度・学科に該当する目次ページを確認してください。

②　目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。

2　「履修不可」について

①　目次には「履修不可」学科が記載されています。他学部・他学科の履修をする際に参照してください。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

②　表記方法

外：	外国語学部	経：	経済学部	法：	法学部
独：	ドイツ語学科	済：	経済学科	律：	法律学科
英：	英語学科	営：	経営学科	国：	国際関係法学科
仏：	フランス語学科				
言：	言語文化学科				

言（*1）：言語文化学科、スペイン語履修者
言（*2）：言語文化学科、中国語履修者

Ⅱ　シラバスについて

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要	授業計画		
④	⑤ 第１週 第２週 第３週 春学期 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週		
テキスト、参考文献	評価方法		
⑥	⑦		

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要	授業計画		
④	⑤ 第１週 第２週 第３週 秋学期 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週		
テキスト、参考文献	評価方法		
⑥	⑦		

★　上段＝春学期科目
★　下段＝秋学期科目

①②　入学年度により科目名が異なります。
05年度以降・・・2005年度～2006年度入学
04年度以前・・・2003年度～2004年度入学
＊科目名は2003年度以降の「全学共通授業科目」を基本に表記してあります。2002年度以前入学生については目次を参照して科目名を確認してください。

③　担当教員氏名

④　授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。

⑤　学期の授業計画についての欄です。
各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑥　授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。

⑦　評価方法について記載されています。
成績の通知・・・成績通知表を郵送します。
春学期科目：　9月中旬
秋学期科目：　3月末

【注意】

1. 履修条件
担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認し登録してください。

2. 定員
「全学共通授業科目」および合併される「外国語学部共通科目」は定員を設けています。
詳細は「授業時間割表」を参照してください。

3. 集中講義
集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

4. カテゴリーⅠ「全学総合講座」および1部の科目については記載方法が異なる場合があります。

2005年度以降入学生　学則別表

別表Ⅳ全学共通授業科目

別表Ⅳ-1　全学総合科目

科目群	カテゴリー	部門	科目	単位
講義科目	Ⅰ	全学総合講座		2
	Ⅱ	ことばと思想	哲学a	2
			哲学b	2
			倫理学a	2
			倫理学b	2
			社会思想史a	2
			社会思想史b	2
			心理学a	2
			心理学b	2
			言語学a	2
			言語学b	2
			文学a	2
			文学b	2
		歴史と文化	歴史学a	2
			歴史学b	2
			文化人類学a	2
			文化人類学b	2
			現代文化論a **	2
			現代文化論b **	2
			比較文化論a *	2
			比較文化論b *	2
		現代社会	経済学a **	2
			経済学b **	2
			日本国憲法	2
			国際法a	2
			国際法b	2
			政治学a	2
			政治学b	2
			社会学a	2
			社会学b	2
			地理学a	2
			地理学b	2
			女性学a	2
			女性学b	2
		自然・環境・人間	数学a	2
			数学b	2
			物理学a	2
			物理学b	2
			化学a	2
			化学b	2
			生物学a	2
			生物学b	2
			地球科学a	2
			地球科学b	2
			健康科学a	2
			健康科学b	2
			スポーツ・レクリエーション学a	2
			スポーツ・レクリエーション学b	2
	Ⅲ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅲ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅲ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅲ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅲ)	2
講義・実習科目	Ⅳ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅳ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅳ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅳ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅳ)	2
体育科目	Ⅴ	スポーツ・レクリエーション		1

備考:
(1)全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
(2) *外国語学部言語文化学科からの学部提供科目。**経済学部からの学部提供科目。
○　本表は、2003年度入学者から適用する。

付記:　教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。
(1) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第二欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅠ」の科目に読みかえることができる。
(2) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第三欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(3) 学則別表Ⅴ-2「各学部共通科目」は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(4) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第四欄」の科目の内、「各教科の指導法」を除く科目は全学総合科目の「カテゴリーⅢ」の科目に読みかえることができる。
(5) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第五欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
(6) 学則別表Ⅴ-3「教科または教職に関する科目」の内、「介護ボランティアの理論と実践」は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
以上の読みかえは、合計20単位までとする。

2005年度以降入学生　学則別表

別表Ⅳ-2　外国語科目

部門	科目	単位
英語科目	English 110-a Introductory Reading Strategies	1
	English 110-b Introductory Reading Strategies	1
	English 111-a Basic Reading Strategies	1
	English 111-b Basic Reading Strategies	1
	English 112-a Reading Strategies	1
	English 112-b Reading Strategies	1
	English 121-a Basic Composition	1
	English 121-b Basic Composition	1
	English 122-a Composition	1
	English 122-b Composition	1
	English 131-a Basic Communicative English	1
	English 131-b Basic Communicative English	1
	English 132-a Communicative English	1
	English 132-b Communicative English	1
	English 141-a Basic Listening Comprehension	1
	English 141-b Basic Listening Comprehension	1
	English 142-a Speech Communication	1
	English 142-b Speech Communication	1
	English 211-a Basic Reading Strategies	1
	English 211-b Basic Reading Strategies	1
	English 212-a Reading Strategies	1
	English 212-b Reading Strategies	1
	English 221-a Basic Composition	1
	English 221-b Basic Composition	1
	English 222-a Composition	1
	English 222-b Composition	1
	English 231-a Basic Communicative English	1
	English 231-b Basic Communicative English	1
	English 232-a Communicative English	1
	English 232-b Communicative English	1
	English 241-a Basic Listening Comprehension	1
	English 241-b Basic Listening Comprehension	1
	English 242-a Speech Communication	1
	English 242-b Speech Communication	1
	English 311-a Reading English for Specific Purposes	1
	English 311-b Reading English for Specific Purposes	1
	English 321-a Writing English for Specific Purposes	1
	English 321-b Writing English for Specific Purposes	1
	English 331-a Speech Communication	1
	English 331-b Speech Communication	1
	English 351 Computer-Assisted English Learning*	2
英語以外の外国語科目	ドイツ語Ⅰa	1
	ドイツ語Ⅰb	1
	ドイツ語Ⅱa	1
	ドイツ語Ⅱb	1
	ドイツ語Ⅲa	1
	ドイツ語Ⅲb	1
	フランス語Ⅰa	1
	フランス語Ⅰb	1
	フランス語Ⅱa	1
	フランス語Ⅱb	1
	フランス語Ⅲa	1
	フランス語Ⅲb	1
	スペイン語Ⅰa	1
	スペイン語Ⅰb	1
	スペイン語Ⅱa	1
	スペイン語Ⅱb	1
	スペイン語Ⅲa	1
	スペイン語Ⅲb	1
	中国語Ⅰa	1
	中国語Ⅰb	1
	中国語Ⅱa	1
	中国語Ⅱb	1
	中国語Ⅲa	1
	中国語Ⅲb	1

部門	科目	単位
英語以外の外国語科目	イタリア語Ⅰa	1
	イタリア語Ⅰb	1
	イタリア語Ⅱa	1
	イタリア語Ⅱb	1
	ポルトガル語Ⅰa	1
	ポルトガル語Ⅰb	1
	ポルトガル語Ⅱa	1
	ポルトガル語Ⅱb	1
	ロシア語Ⅰa	1
	ロシア語Ⅰb	1
	ロシア語Ⅱa	1
	ロシア語Ⅱb	1
	朝鮮語Ⅰa	1
	朝鮮語Ⅰb	1
	朝鮮語Ⅱa	1
	朝鮮語Ⅱb	1
	タイ語Ⅰa	1
	タイ語Ⅰb	1
	タイ語Ⅱa	1
	タイ語Ⅱb	1
	アラビア語Ⅰa	1
	アラビア語Ⅰb	1
	アラビア語Ⅱa	1
	アラビア語Ⅱb	1
	現代ヘブライ語Ⅰa	1
	現代ヘブライ語Ⅰb	1
	現代ヘブライ語Ⅱa	1
	現代ヘブライ語Ⅱb	1
古典語科目	古典ギリシア語Ⅰa	2
	古典ギリシア語Ⅰb	2
	古典ギリシア語Ⅱa	2
	古典ギリシア語Ⅱb	2
	ラテン語Ⅰa	2
	ラテン語Ⅰb	2
	ラテン語Ⅱa	2
	ラテン語Ⅱb	2

備考:
(1)全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
(2)*を付した「English351 Computer-Assisted English Learning」は、45分×4コマの正規授業と、
それと同等の自習時間により2単位科目とする。
○ 本表は、2005年度入学者から適用する。
ただし、中国語Ⅲa、中国語Ⅲb、およびイタリア語Ⅰa、イタリア語Ⅰb、
ならびにイタリア語Ⅱa、イタリア語Ⅱbは2003年度入学者から適用する。

2003～2004年度入学生　学則別表

別表Ⅳ全学共通授業科目

別表Ⅳ-1　全学総合科目

科目群	カテゴリー	部門	科目	単位
講義科目	Ⅰ	全学総合講座		2
	Ⅱ	ことばと思想	哲学a	2
			哲学b	2
			倫理学a	2
			倫理学b	2
			社会思想史a	2
			社会思想史b	2
			心理学a	2
			心理学b	2
			言語学a	2
			言語学b	2
			文学a	2
			文学b	2
		歴史と文化	歴史学a	2
			歴史学b	2
			文化人類学a	2
			文化人類学b	2
			現代文化論a **	2
			現代文化論b **	2
			比較文化論a *	2
			比較文化論b *	2
		現代社会	経済学a **	2
			経済学b **	2
			日本国憲法	2
			国際法a	2
			国際法b	2
			政治学a	2
			政治学b	2
			社会学a	2
			社会学b	2
			地理学a	2
			地理学b	2
			女性学a	2
			女性学b	2
		自然・環境・人間	数学a	2
			数学b	2
			物理学a	2
			物理学b	2
			化学a	2
			化学b	2
			生物学a	2
			生物学b	2
			地球科学a	2
			地球科学b	2
			健康科学a	2
			健康科学b	2
			スポーツ・レクリエーション学a	2
			スポーツ・レクリエーション学b	2
	Ⅲ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅲ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅲ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅲ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅲ)	2
講義・実習科目	Ⅳ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅳ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅳ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅳ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅳ)	2
体育科目	Ⅴ	スポーツ・レクリエーション		1

備考:
(1)全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
(2) *外国語学部言語文化学科からの学部提供科目。**経済学部からの学部提供科目。
○　本表は、2003年度入学者から適用する。

付記:　教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。
(1) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第二欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅠ」の科目に読みかえることができる。
(2) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第三欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(3) 学則別表Ⅴ-2「各学部共通科目」は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(4) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第四欄」の科目の内、「各教科の指導法」を除く科目は全学総合科目の「カテゴリーⅢ」の科目に読みかえることができる。
(5) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第五欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
(6) 学則別表Ⅴ-3「教科または教職に関する科目」の内、「介護ボランティアの理論と実践」は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
以上の読みかえは、合計20単位までとする。

2003～2004年度入学生　学則別表

別表Ⅳ-2　外国語科目

部門	科目	単位
英語科目	English 110-a Introductory Reading Strategies	1
	English 110-b Introductory Reading Strategies	1
	English 111-a Basic Reading Strategies	1
	English 111-b Basic Reading Strategies	1
	English 112-a Reading Strategies	1
	English 112-b Reading Strategies	1
	English 121-a Basic Composition	1
	English 121-b Basic Composition	1
	English 122-a Composition	1
	English 122-b Composition	1
	English 131-a Basic Communicative English	1
	English 131-b Basic Communicative English	1
	English 132-a Communicative English	1
	English 132-b Communicative English	1
	English 141-a Basic Listening Comprehension	1
	English 141-b Basic Listening Comprehension	1
	English 142-a Speech Communication	1
	English 142-b Speech Communication	1
	English 211-a Basic Reading Strategies	1
	English 211-b Basic Reading Strategies	1
	English 212-a Reading Strategies	1
	English 212-b Reading Strategies	1
	English 221-a Basic Composition	1
	English 221-b Basic Composition	1
	English 222-a Composition	1
	English 222-b Composition	1
	English 231-a Basic Communicative English	1
	English 231-b Basic Communicative English	1
	English 232-a Communicative English	1
	English 232-b Communicative English	1
	English 241-a Basic Listening Comprehension	1
	English 241-b Basic Listening Comprehension	1
	English 242-a Speech Communication	1
	English 242-b Speech Communication	1
	English 311-a Reading English for Specific Purposes	1
	English 311-b Reading English for Specific Purposes	1
	English 321-a Writing English for Specific Purposes	1
	English 321-b Writing English for Specific Purposes	1
	English 331-a Speech Communication	1
	English 331-b Speech Communication	1
	English 351 Computer-Assisted English Learning*	2
英語以外の外国語科目	ドイツ語ⅠAa	1
	ドイツ語ⅠAb	1
	ドイツ語ⅠBa	1
	ドイツ語ⅠBb	1
	ドイツ語ⅠCa	1
	ドイツ語ⅠCb	1
	ドイツ語ⅡAa	1
	ドイツ語ⅡAb	1
	ドイツ語ⅡBa	1
	ドイツ語ⅡBb	1
	ドイツ語ⅡCa	1
	ドイツ語ⅡCb	1
	ドイツ語ⅢAa	1
	ドイツ語ⅢAb	1
	ドイツ語ⅢBa	1
	ドイツ語ⅢBb	1
	フランス語ⅠAa	1
	フランス語ⅠAb	1
	フランス語ⅠBa	1
	フランス語ⅠBb	1
	フランス語ⅠCa	1
	フランス語ⅠCb	1
	フランス語ⅡAa	1
	フランス語ⅡAb	1
	フランス語ⅡBa	1
	フランス語ⅡBb	1
	フランス語ⅡCa	1
	フランス語ⅡCb	1
	フランス語ⅢAa	1
	フランス語ⅢAb	1
	フランス語ⅢBa	1
	フランス語ⅢBb	1

部門	科目	単位
英語以外の外国語科目	スペイン語ⅠAa	1
	スペイン語ⅠAb	1
	スペイン語ⅠBa	1
	スペイン語ⅠBb	1
	スペイン語ⅠCa	1
	スペイン語ⅠCb	1
	スペイン語ⅡAa	1
	スペイン語ⅡAb	1
	スペイン語ⅡBa	1
	スペイン語ⅡBb	1
	スペイン語ⅡCa	1
	スペイン語ⅡCb	1
	スペイン語ⅢAa	1
	スペイン語ⅢAb	1
	スペイン語ⅢBa	1
	スペイン語ⅢBb	1
	中国語ⅠAa	1
	中国語ⅠAb	1
	中国語ⅠBa	1
	中国語ⅠBb	1
	中国語ⅠCa	1
	中国語ⅠCb	1
	中国語ⅡAa	1
	中国語ⅡAb	1
	中国語ⅡBa	1
	中国語ⅡBb	1
	中国語ⅡCa	1
	中国語ⅡCb	1
	ポルトガル語Ⅰa	1
	ポルトガル語Ⅰb	1
	ポルトガル語Ⅱa	1
	ポルトガル語Ⅱb	1
	ロシア語ⅠAa	1
	ロシア語ⅠAb	1
	ロシア語ⅠBa	1
	ロシア語ⅠBb	1
	ロシア語ⅡAa	1
	ロシア語ⅡAb	1
	ロシア語ⅡBa	1
	ロシア語ⅡBb	1
	朝鮮語ⅠAa	1
	朝鮮語ⅠAb	1
	朝鮮語ⅠBa	1
	朝鮮語ⅠBb	1
	朝鮮語ⅡAa	1
	朝鮮語ⅡAb	1
	朝鮮語ⅡBa	1
	朝鮮語ⅡBb	1
	タイ語Ⅰa	1
	タイ語Ⅰb	1
	タイ語Ⅱa	1
	タイ語Ⅱb	1
	アラビア語Ⅰa	1
	アラビア語Ⅰb	1
	アラビア語Ⅱa	1
	アラビア語Ⅱb	1
	現代ヘブライ語Ⅰa	1
	現代ヘブライ語Ⅰb	1
	現代ヘブライ語Ⅱa	1
	現代ヘブライ語Ⅱb	1
古典語科目	古典ギリシア語Ⅰa	2
	古典ギリシア語Ⅰb	2
	古典ギリシア語Ⅱa	2
	古典ギリシア語Ⅱb	2
	ラテン語Ⅰa	2
	ラテン語Ⅰb	2
	ラテン語Ⅱa	2
	ラテン語Ⅱb	2

備考：

（1）全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。

（2）*を付した「English351 Computer-Assisted English Learning」は、45分×4コマの正規授業と、それと同等の自習時間により2単位科目とする。

○　本表は、2003年度入学者から適用する。

全学共通授業科目（2003年度以降入学生用）

目次

〔全学総合科目〕カテゴリーⅠ～Ⅴ

カテゴリーⅠ　全学総合講座

科目名	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
全学総合講座			各担当教員		
（現代世界論）	秋	月4	佐藤　勘治	言	1
（キャンパスライフと仕事）	春	木2	伊藤　為一郎		2
（キャンパスライフと仕事）	秋	木2	伊藤　為一郎		2
（平和と人権−アジア地域の紛争と私たち）	秋	火4	古関　彰一		3
（獨協学）	春	水2	新井　孝重		4
（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	春	金2	古川　堅治		5
（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	秋	金2	古川　堅治		5
（スポーツ・健康の世界）	春	木4	松原　裕		6
（スポーツ・健康の世界）	秋	木4	松原　裕		6
（環境学）	春	火2	湯田　雅夫		7
（環境学）	秋	火2	湯田　雅夫		7
（童話(メルヒェン)の可能性をめぐって）	秋	火3	矢羽々　崇		8
（ものづくりの現場から）	春	金4	上坂　卓郎		9
（ものづくりの現場から）	秋	金4	上坂　卓郎		9
（働くための基礎知識−知って得する労働問題）	春	月2	斉藤　美彦		10
（心と体の健康）	春	月4	田口　雅徳		11
（自由時間設計）	秋	火3	和田　智		12
（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）	春	月5	高松　和幸		13
（国際協力の理念と実践）	春	火2	浦部　浩之		14
（多様な「南」の世界を知る）	秋	火2	浦部　浩之		15
（食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」）	春	火4	青柳　多恵子		16
（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	秋	火4	青柳　多恵子		17
（あなたのキャリアデザインを考える）	春	土2	町田　喜義		18
（あなたのキャリアデザインを考える）	秋	土2	町田　喜義		18
（さまざまな視点からのアート）	秋	月5	高松　和幸		19

カテゴリーⅡ　概論科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
哲学a(哲学の諸問題1)	春	月2	谷口　郁夫		20
哲学b(哲学の諸問題2)	秋	月2	谷口　郁夫		20
倫理学a(倫理の基本について考える)	春	火3	市川　達人		21
倫理学b(環境と生命の倫理)	秋	火3	市川　達人		21
社会思想史a(魔女裁判と現代)	春	水2	松丸　壽雄		22
社会思想史b(錬金術と現代)	秋	水2	松丸　壽雄		22
社会思想史a(市民的社会像の黎明期)	春	火4	市川　達人		23
社会思想史b(市民的社会像の確立期)	秋	火4	市川　達人		23
心理学a(知覚・認知)	春	月1	増田　直衛		24
心理学b(行動・個性)	秋	月1	増田　直衛		24
心理学a(知覚・認知)	春	月2	増田　直衛		24
心理学b(行動・個性)	秋	月2	増田　直衛		24
心理学a(人間の行動・認知・感情の共通法則)	春	木1	杉山　憲司		25
心理学b(人間の個性・多様性理解)	秋	木1	杉山　憲司		25
心理学a(人間の行動・認知・感情の共通法則)	春	木2	杉山　憲司		25
心理学b(人間の個性・多様性理解)	秋	木2	杉山　憲司		25
言語学a(一般言語学)	春	月3	二宮　哲		26

言語学b(一般言語学)	秋	月3	二宮　哲		26
言語学a(母語の修得と日本人)	春	火4	桂　千佳子		27
言語学b(コトバの構造と文法観)	秋	火4	桂　千佳子		27
文学a(恐怖の日本文学)	春	月1	佐藤　毅		28
文学b(癒しの日本文学)	秋	月1	佐藤　毅		28
文学a(スペイン文学)	春	火5	野々山　ミチコ		29
文学b(ラテンアメリカ文学)	秋	火5	野々山　ミチコ		29
文学a(日本文学－奈良時代の文学を読む)	春	月3	福沢　健		30
文学b(日本文学－平安時代の文学を読む)	秋	月3	福沢　健		30
歴史学a(「15年戦争」をどうとらえるか)	春	火4	丸浜　昭	言	31
歴史学b(戦後史の中の「15年戦争」)	秋	火4	丸浜　昭	言	31
歴史学a(イスラーム世界の成立と拡大)	春	木3	熊谷　哲也		32
歴史学b(イスラーム世界の近代化とその後)	秋	木3	熊谷　哲也		32
歴史学a(中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	春	木4	張　士陽		33
歴史学b(中国近代史概説－近代国家創成の試み)	秋	木4	張　士陽		33
歴史学a(ヨーロッパの歴史-統合と分裂の視点から)	春	金3	古川　堅治		34
歴史学b(バルカン情勢の現在-地域・国家・民族の視点から)	秋	金3	古川　堅治		34
歴史学a(アメリカのエスニック・ヒストリー)	春	金3	佐藤　唯行		35
歴史学b(アメリカのエスニック・ヒストリー)	秋	金3	佐藤　唯行		35
歴史学a(現代史と映像)	春	火2	増谷　英樹		36
歴史学b(歴史と映像)	秋	火2	増谷　英樹		36
歴史学a(中世の仏教と社会)	春	木5	新井　孝重		37
歴史学b(中世の「悪党」と民衆)	秋	木5	新井　孝重		37
現代文化論a(グローバリゼーションを巡って)	春	水3	柴崎　信三	経	38
現代文化論b(日本の表象と世界)	秋	水3	柴崎　信三	経	38
比較文化論a(東西の文化を結ぶもの)	春	木4	熊谷　哲也	言	39
比較文化論b(東西文化と近代化)	秋	木4	熊谷　哲也	言	39
経済学a(国民所得の概念と決定メカニズム)	春	水2	浜本　光紹	経	40
経済学b(経済政策の基礎理論と課題)	秋	水2	浜本　光紹	経	40
経済学a(ミクロの視点で考える)	春	火2	米山　昌幸	経	41
経済学b(マクロの視点で考える)	秋	火2	米山　昌幸	経	41
日本国憲法(憲法と私たち)	春	水2	大藤　紀子	法	42
日本国憲法(憲法と私たち)	春	火1	加藤　一彦	法	43
日本国憲法(憲法と私たち)	秋	火1	加藤　一彦	法	43
国際法a(国際社会と私たち)	春	火3	一之瀬　高博		44
国際法b(国際紛争を考える)	秋	火3	一之瀬　高博		44
政治学a(政治システムの構成要素)	春	木2	津田　由美子		45
政治学b(現代の民主主義)	秋	木2	津田　由美子		45
社会学a(社会理解の基礎構築)	春	火2	圓岡　偉男		46
社会学b(社会問題の考察)	秋	火2	圓岡　偉男		46
社会学a(社会理解の基礎構築)	春	火4	圓岡　偉男		46
社会学b(社会問題の考察)	秋	火4	圓岡　偉男		46
地理学a(自然環境と文化)	春	水2	秋本　弘章		47
地理学b(自然環境と文化)	秋	水2	秋本　弘章		47
地理学a(世界の自然環境と文化)	春	月2	犬井　正	言	48
地理学b(世界の自然環境と文化)	秋	月2	犬井　正	言	48
女性学a(生活のなかの女性学)	春	水2	井上　たか子		49
女性学b(ジェンダーと表象)	秋	木3	上野　直子		49
数学a(微分学)	春	月3	福井　尚生		50
数学b(積分学)	秋	月3	福井　尚生		50
物理学a(特殊相対論の世界)	春	金3	東　孝博		51
物理学b(一般相対論の世界)	秋	金3	東　孝博		51
化学a(自然と環境の化学)	春	火2	和田　浩志		52
化学b(生命と健康の化学)	秋	火2	和田　浩志		52
生物学a(植物の特性と自然の仕組み)	春	火1	加藤　僖重		53
生物学b(植物の分布)	秋	火1	加藤　僖重		53
地球科学a(恒星天文学)	春	水1	福井　尚生		54
地球科学b(銀河天文学)	秋	水1	福井　尚生		54
スポーツ・レクリエーション学a(トレーニングの科学的基礎)	春	木2	梶野　克之		55
スポーツ・レクリエーション学a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	春	金3	和田　智		56
スポーツ・レクリエーション学b(最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう)	秋	金3	和田　智		56

カテゴリーⅢ　各論科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想a)	春	火2	福井　嘉彦	英	57
ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想b)	秋	火2	福井　嘉彦	英	57
ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	春	火2	田口　雅徳		58
ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	秋	火4	中西　家栄子	言	59
ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学1)	春	月3	谷口　郁夫		60
ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学2)	秋	月3	谷口　郁夫		60
ことばと思想(Ⅲ)(日本語の仕組みa)	春	水3	城田　俊	言	61
ことばと思想(Ⅲ)(日本語の仕組みb)	秋	水3	城田　俊	言	61
歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史a)	春	木1	小澤　浩	言	62
歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史b)	秋	木1	小澤　浩	言	62
歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	春	木2	小山　慎治		63
歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化とイスラム-公と私)	春	月2	水口　章		64
歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	秋	月2	水口　章		64
歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの音楽史)	春	木3	園田　みどり		65
歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの声楽曲)	秋	木3	園田　みどり		65
歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築)	秋	火1	鈴木　隆		66
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説a)	春	金3	藤田　永祐	英	67
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説b)	秋	木3	北澤　滋久	英	67
歴史と文化(Ⅲ)(能楽論)	春	火2	瀬尾　菊次	言	68
歴史と文化(Ⅲ)(能楽における中世武士の諸像)	秋	火2	瀬尾　菊次	言	68
現代社会(Ⅲ)(英国人は階級問題抜きで語れない)	春	火2	有吉　広介		69
現代社会(Ⅲ)(少子・高齢社会を生きる)	秋	火2	有吉　広介		69
現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	春	火3	山越　徳		70
現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	秋	火3	山越　徳		70
現代社会(Ⅲ)(中東政治思想a)	春	月1	藤原　和彦		71
現代社会(Ⅲ)(中東政治思想b)	秋	月1	藤原　和彦		71
現代社会(Ⅲ)(中国を考えるa)	春	木3	辻　康吾		72
現代社会(Ⅲ)(中国を考えるb)	秋	木3	辻　康吾		72
現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	春	木4	柴崎　信三		73
現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	秋	木4	柴崎　信三		73
現代社会(Ⅲ)(広告論a)	春	月2	市川　嘉彦	経	74
現代社会(Ⅲ)(広告論b)	秋	月2	市川　嘉彦	経	74
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論a)	春	火1	堅田　剛	法	75
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論b)	秋	火1	堅田　剛	法	75
現代社会(Ⅲ)(教育法a)	春	金2	市川　須美子	法	76
現代社会(Ⅲ)(教育法b)	秋	金2	市川　須美子	法	76
現代社会(Ⅲ)(民法a)	春	金2	石井　保雄	法	77
現代社会(Ⅲ)(民法b)	秋	金2	石井　保雄	法	77
現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開)	春	土1	阿部　純一		78
現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望)	秋	土1	阿部　純一		78
現代社会(Ⅲ)(アンダルシアの文化)	春	火4	野々山　ミチコ		79
現代社会(Ⅲ)(現代スペイン社会の諸問題)	秋	火4	野々山　ミチコ		79
現代社会(Ⅲ)(ビジネス思考で考える)	春	火4	上坂　卓郎		80
現代社会(Ⅲ)(ビジネス思考で考える)	秋	火4	上坂　卓郎		80
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	春	火2	鈴木　滋		81
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	秋	火2	鈴木　滋		81
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論a)	春	金1	福井　尚生		82
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論b)	秋	金1	福井　尚生		82
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論a)	春	月1	福井　尚生		83
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論b)	秋	月1	福井　尚生		83

カテゴリーⅣ　実習実践科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	春	月2	福沢　健		84
ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	秋	月2	福沢　健		84
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	春	月4	福沢　健		84
ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	秋	月4	福沢　健		84
ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	春	月2	佐藤　毅		85
ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	秋	月2	佐藤　毅		85
ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	春	土2	梅津　正樹		86
ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	秋	土2	梅津　正樹		86
ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)	春	月1	長野　隆之		87
ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)	秋	月1	長野　隆之		87
ことばと思想(Ⅳ)(生活史を読む)	春	月2	長野　隆之		88
ことばと思想(Ⅳ)(生活史を書く)	秋	月2	長野　隆之		88
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	春	土1	福井　星一		89
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	秋	土1	福井　星一		89
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事2)	春	火3	福井　星一		90
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事2)	秋	火3	福井　星一		90
ことばと思想Ⅳ(生きたコトバづかい・文章編)	春	金3	下川　浩		91
ことばと思想Ⅳ(生きたコトバづかい・文章編)	秋	金3	下川　浩		91
ことばと思想(Ⅳ)(ネーミングの言語学)	春	金3	田中　善英		92
ことばと思想(Ⅳ)(ネーミングの言語学)	秋	金3	田中　善英		92
ことばと思想(Ⅳ)(哲学的実習：愛について)	春	金3	松丸　壽雄		93
ことばと思想(Ⅳ)(哲学的実習：生きる意味)	秋	金3	松丸　壽雄		93
ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	秋	火2	田口　雅徳		58
ことばと思想(Ⅳ)(現代ジャーナリズム考1)	春	金3	細野　徳治		94
ことばと思想(Ⅳ)(現代ジャーナリズム考2)	秋	金3	細野　徳治		94
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	春	月1	清水　絹代		95
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	秋	月1	清水　絹代		95
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	春	月2	清水　絹代		95
ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	秋	月2	清水　絹代		95
歴史と文化(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1)	春	木2	伊藤　幸次		96
歴史と文化(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2)	秋	木2	伊藤　幸次		96
歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽1)	春	木2	園田　みどり		97
歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽2)	秋	木2	園田　みどり		97
歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタa)	春	月3	児嶋　一男	英	98
歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタb)	秋	月3	児嶋　一男	英	98
歴史と文化(Ⅳ)(アメリカの詩の楽しみ方)	春	火2	原　成吉	英	99
歴史と文化(Ⅳ)(イギリスの詩の楽しみ方)	秋	月4	白鳥　正孝	英	99
歴史と文化(Ⅳ)(西洋美術史a)	春	火3	前川　久美子		100
歴史と文化(Ⅳ)(西洋美術史b)	秋	火3	前川　久美子		100
現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	春	土1	阿部　正浩		101
現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	春	土2	阿部　正浩		101
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)a)	春	月2	杉　麻利子		102
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)b)	秋	月2	杉　麻利子		102
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)a)	春	月3	杉　麻利子		103
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)b)	秋	月3	杉　麻利子		103
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春		各担当教員	外・経	104
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋		各担当教員	外・経	104
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	金3	黄　海湘	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	金3	黄　海湘	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	火4	久東　義典	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	火4	久東　義典	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	金4	黄　海湘	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	金4	黄　海湘	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	月2	長　慎也	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	月2	長　慎也	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	金3	杉村　和枝	外・経	〃
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	金3	杉村　和枝	外・経	〃

現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンスa)	春	月2	兼宗　進	外・経	105
現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンスb)	秋	月2	兼宗　進	外・経	105
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	春	水5	A. ベロフ		106
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	秋	水5	A. ベロフ		106
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	春	火5	久東　義典		107
現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	秋	火5	久東　義典		107
現代社会(Ⅳ)(模擬国際裁判)	秋	金2	鈴木　淳一	法	108
現代社会Ⅳ(生きたコトバづかい・話し合い編)	春	金5	下川　浩		109
現代社会Ⅳ(生きたコトバづかい・話し合い編)	秋	金5	下川　浩		109
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	春	金4	大井　正博		110
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	秋	金4	大井　正博		110
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	春	火3	矢羽々　崇	独	111
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	秋	水3	金井　満	独	111
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	春	月3	工藤　達也	独	112
現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	秋	月3	工藤　達也	独	112
現代社会(Ⅳ)(新聞を読む1)	春	金4	細野　徳治		113
現代社会(Ⅳ)(新聞を読む2)	秋	金4	細野　徳治		113
現代社会(Ⅳ)(現代中国世相)	春	月1	張　進山		＊
現代社会(Ⅳ)(現代中国世相)	秋	月1	張　進山		＊
現代社会(Ⅳ)(中日経済関係)	春	木1	張　進山		＊
現代社会(Ⅳ)(中日経済関係)	秋	木1	張　進山		＊
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)	春	木2	加藤　僖重		114
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)	秋	木2	加藤　僖重		114
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)	春	木3	加藤　僖重		114
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)	秋	木3	加藤　僖重		114
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)	春	木4	加藤　僖重		114
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)	秋	木4	加藤　僖重		114
自然・環境・人間(Ⅳ)(東洋の健康哲学a)	春	月1	青柳　多恵子		115
自然・環境・人間(Ⅳ)(東洋の健康哲学b)	秋	月1	青柳　多恵子		115
自然・環境・人間(Ⅳ)(トレーニングの理論と実際)	秋	木2	梶野　克之		55
自然・環境・人間(Ⅳ)(からだの仕組み)	春	月2	依田　珠江		116
自然・環境・人間(Ⅳ)(からだの仕組み)	秋	月2	依田　珠江		116

＊ 最初の授業で指示する。

カテゴリー　Ⅴ　体育科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
スポーツ･レクリエーション			各担当教員		
(アウトドアレクリエーション)	春	火3	青柳　多恵子		117
(アウトドア山岳)	春	集中	青柳　多恵子		117
(アウトドアレクリエーション)	春	金2	和田　智		118
(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	春	集中	和田　智		118
(アウトドアレクリエーション)	春	水2	和田　智		118
(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	春	集中	和田　智		118
(スケートトレーニング)	秋	火2	和田　智		119
(アイススポーツ)	秋	集中	和田　智		119
(バランストレーニング)	秋	土1	松原　裕		120
(スノースポーツ)	秋	集中	松原　裕		120
(インラインスケートa)	春	水1	和田　智		121
(インラインスケートb)	秋	水1	和田　智		121
(インラインスケートa)	春	土2	和田　智		121
(インラインスケートb)	秋	土2	和田　智		121
(硬式テニスa)	春	木1	田中　茂宏		122
(硬式テニスb)	秋	木1	田中　茂宏		122
(硬式テニスa)	春	木3	田中　茂宏		122
(硬式テニスb)	秋	木3	田中　茂宏		122
(硬式テニスa)	春	火2	松原　裕		123
(硬式テニスb)	秋	火2	松原　裕		123
(硬式テニスa)	春	火3	松原　裕		123

(硬式テニスb)	秋	火3	松原　裕	123
(硬式テニスa)	春	金3	依田　珠江	124
(硬式テニスb)	秋	金3	依田　珠江	124
(ゴルフa)	春	月1	山中　邦夫	125
(ゴルフb)	秋	月1	山中　邦夫	125
(ゴルフa)	春	月2	山中　邦夫	125
(ゴルフb)	秋	月2	山中　邦夫	125
(ゴルフa)	春	金1	吉田　卓司	126
(ゴルフb)	秋	金1	吉田　卓司	126
(ゴルフa)	春	金2	吉田　卓司	126
(ゴルフb)	秋	金2	吉田　卓司	126
(サッカーa)	春	木3	桧山　康	127
(サッカーb)	秋	木3	桧山　康	127
(サッカーa)	春	水1	松原　裕	128
(サッカーb)	秋	水1	松原　裕	128
(サッカーa)	春	月2	松本　光弘	129
(サッカーb)	秋	月2	松本　光弘	129
(サッカーa)	春	月3	松本　光弘	129
(サッカーb)	秋	月3	松本　光弘	129
(スポーツエクササイズa)	春	水2	梶野 克之	130
(スポーツエクササイズb)	秋	水2	梶野　克之	130
(ソフトボールa)	春	火1	池垣　功一	131
(ソフトボールb)	秋	火1	池垣　功一	131
(ソフトボールa)	春	火2	池垣　功一	131
(ソフトボールb)	秋	火2	池垣　功一	131
(ソフトボールa)	春	金2	太田　朝博	132
(ソフトボールb)	秋	金2	太田　朝博	132
(ソフトボールa)	春	木1	萩野　元祐	133
(ソフトボールb)	秋	木1	萩野　元祐	133
(ソフトボールa)	春	木2	萩野　元祐	133
(ソフトボールb)	秋	木2	萩野　元祐	133
(卓球a)	春	土1	小山　さなえ	134
(卓球b)	秋	土1	小山　さなえ	134
(卓球a)	春	土2	小山　さなえ	134
(卓球b)	秋	土2	小山　さなえ	134
(卓球a)	春	月1	神宮司　親治	135
(卓球b)	秋	月1	神宮司　親治	135
(卓球a)	春	月3	神宮司　親治	135
(卓球b)	秋	月3	神宮司　親治	135
(卓球a)	春	火1	松原　裕	136
(卓球b)	秋	火1	松原　裕	136
(バスケットボールa)	春	水1	依田　珠江	137
(バスケットボールb)	秋	水1	依田　珠江	137
(バスケットボールa)	春	水2	依田　珠江	137
(バスケットボールb)	秋	水2	依田　珠江	137
(バスケットボールa)	春	金1	依田　珠江	137
(バスケットボールb)	秋	金1	依田　珠江	137
(バスケットボールa)	春	金2	依田　珠江	137
(バスケットボールb)	秋	金2	依田　珠江	137
(バドミントンa)	春	金3	太田　朝博	138
(バドミントンb)	秋	金3	太田　朝博	138
(バドミントンa)	春	火2	梶野　克之	139
(バドミントンb)	秋	火2	梶野　克之	139
(バドミントンa)	春	火3	梶野　克之	139
(バドミントンb)	秋	火3	梶野　克之	139
(バドミントンa)	春	木3	梶野　克之	139
(バドミントンb)	秋	木3	梶野　克之	139
(バレーボールa)	春	月1	小川　又八朗	140
(バレーボールb)	秋	月1	小川　又八朗	140
(バレーボールa)	春	月3	小川　又八朗	140
(バレーボールb)	秋	月3	小川　又八朗	140

（バレーボールa）	春	土1	依田　珠江	141
（バレーボールb）	秋	土1	依田　珠江	141
（バレーボールa）	春	土2	依田　珠江	141
（バレーボールb）	秋	土2	依田　珠江	141
（フットサルa）	春	木2	桧山　康	142
（フットサルb）	秋	木2	桧山　康	142
（フットサルa）	春	木1	松原　裕	143
（フットサルb）	秋	木1	松原　裕	143
（フリスビーa）	春	金1	和田　智	144
（フリスビーb）	秋	金1	和田　智	144
（フリスビーa）	春	土1	和田　智	144
（フリスビーb）	秋	土1	和田　智	144
（ボールルームダンスa）	春	月2	青柳　多恵子	145
（ボールルームダンスb）	秋	月2	青柳　多恵子	145
（ボールルームダンスa）	春	火1	青柳　多恵子	145
（ボールルームダンスb）	秋	火1	青柳　多恵子	145
（ボールルームダンスa）	春	水2	青柳　多恵子	145
（ボールルームダンスb）	秋	水2	青柳　多恵子	145

〔外国語科目〕

英語科目

■クラス指定科目

科目名			対象・コース等	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
English 111	a	Basic Reading Strategies		春		各担当教員	—	146
English 111	b	Basic Reading Strategies		秋		〃	—	146
English 112	a	Reading Strategies		春		各担当教員	—	146
English 112	b	Reading Strategies		秋		〃	—	146
English 112	a	Reading Strategies	(Super)	春		各担当教員	—	147
English 112	b	Reading Strategies		秋		〃	—	147
English 121	a	Basic Composition	(国際関係法学科)	春		各担当教員	—	148
English 121	b	Basic Composition		秋		〃	—	148
English 122	a	Composition		春		各担当教員	—	148
English 122	b	Composition		秋		〃	—	148
English 141	a	Basic Listening Comprehension	(ドイツ語・フランス語学科)	春		各担当教員	—	149
English 141	b	Basic Listening Comprehension		秋		〃	—	149
English 141	a	Basic Listening Comprehension	(経済学部・法学部)	春		各担当教員	—	149
English 141	b	Basic Listening Comprehension		秋		〃	—	149
English 142	a	Speech Communication		春		各担当教員	—	149
English 142	b	Speech Communication		秋		〃	—	149
English 142	a	Speech Communication	(ドイツ語・フランス語学科)	春		各担当教員	—	150
English 142	b	Speech Communication		秋		〃	—	150
English 142	a	Speech Communication	(Super)	春		各担当教員	—	151
English 142	b	Speech Communication		秋		〃	—	151
English 211	a	Basic Reading Strategies	(ドイツ語・フランス語学科、法学部)	春		各担当教員	—	152
English 211	b	Basic Reading Strategies		秋		〃	—	152
English 212	a	Reading Strategies		春		各担当教員	—	152
English 212	b	Reading Strategies		秋		〃	—	152
English 212	a	Reading Strategies	(Super)	春		各担当教員	—	153
English 212	b	Reading Strategies		秋		〃	—	153
English 221	a	Basic Composition	(国際関係法学科)	春		各担当教員	—	154
English 221	b	Basic Composition		秋		〃	—	154
English 222	a	Composition		春		各担当教員	—	154
English 222	b	Composition		秋		〃	—	154
English 241	a	Basic Listening Comprehension	(ドイツ語・フランス語学科、法学部)	春		各担当教員	—	155
English 241	b	Basic Listening Comprehension		秋		〃	—	155
English 242	a	Speech Communication		春		各担当教員	—	155
English 242	b	Speech Communication		秋		〃	—	155
English 242	a	Speech Communication	(Super)	春		各担当教員	—	156
English 242	b	Speech Communication		秋		〃	—	156
English 311	a	Reading English for Specific Purposes	(ドイツ語・フランス語学科)	春		各担当教員	—	157
English 311	b	Reading English for Specific Purposes		秋		〃	—	157

■対象者指定科目

English 110	a	Introductory Reading Strategies	(既習、外国人学生)	春		保坂　華子	—	158
English 110	b	Introductory Reading Strategies		秋		保坂　華子	—	158
English 110	a	Introductory Reading Strategies		春		保坂　華子	—	158
English 110	b	Introductory Reading Strategies		秋		保坂　華子	—	158
English 211	a	Basic Reading Strategies		春		髙木　亜希子	—	159
English 211	b	Basic Reading Strategies		秋		髙木　亜希子	—	159

■選択科目

English 121	a	Basic Composition		春	木2	堀　いづみ	国	160
English 121	b	Basic Composition		秋	木2	堀　いづみ	国	160
English 121	a	Basic Composition		春	木3	松岡　昇	国	161
English 121	b	Basic Composition		秋	木3	松岡　昇	国	161
English 121	a	Basic Composition		春	木4	石月　正伸	国	162
English 121	b	Basic Composition		秋	木4	石月　正伸	国	162

English 131	a	Basic Communicative English	春	月3	J. スティベンソン	経・法	163
English 131	b	Basic Communicative English	秋	月3	J. スティベンソン	経・法	163
English 131	a	Basic Communicative English	春	水3	J. スティベンソン	経・法	163
English 131	b	Basic Communicative English	秋	水3	J. スティベンソン	経・法	163
English 131	a	Basic Communicative English	春	木3	M. ウーラートン	経・法	164
English 131	b	Basic Communicative English	秋	木3	M. ウーラートン	経・法	164
English 131	a	Basic Communicative English	春	土1	M. フッド	経・法	165
English 131	b	Basic Communicative English	秋	土1	M. フッド	経・法	165
English 131	a	Basic Communicative English	春	水3	G. G. コッホ	独・仏	166
English 131	b	Basic Communicative English	秋	水3	G. G. コッホ	独・仏	166
English 131	a	Basic Communicative English	春	金4	B. K. カートル	独・仏	167
English 131	b	Basic Communicative English	秋	金4	B. K. カートル	独・仏	167
English 211	a	Basic Reading Strategies	春	火3	岡田　圭子	独・仏・法	168
English 211	b	Basic Reading Strategies	秋	火3	岡田　圭子	独・仏・法	168
English 221	a	Basic Composition	春	土2	笠原　誠也	国	169
English 221	b	Basic Composition	秋	土2	笠原　誠也	国	169
English 231	a	Basic Communicative English	春	火4	D. ブラドリー	経・法	170
English 231	b	Basic Communicative English	秋	火4	D. ブラドリー	経・法	170
English 231	a	Basic Communicative English	春	水2	C. カーペンター	独・仏	171
English 231	b	Basic Communicative English	秋	水2	C. カーペンター	独・仏	171
English 241	a	Basic Listening Comprehension	春	水1	C. カーペンター	法	172
English 241	b	Basic Listening Comprehension	秋	水1	C. カーペンター	法	172
English 311	a	Reading English for Specific Purposes	春	火2	佐々木　恵理		173
English 311	b	Reading English for Specific Purposes	秋	火2	佐々木　恵理		173
English 311	a	Reading English for Specific Purposes	春	水3	佐藤　保		174
English 311	b	Reading English for Specific Purposes	秋	水3	佐藤　保		174
English 311	a	Reading English for Specific Purposes	春	水4	大田原　眞澄		175
English 311	b	Reading English for Specific Purposes	秋	水4	大田原　眞澄		175
English 321	a	Writing English for Spesific Purposes	春	水3	髙木　亜希子		176
English 321	b	Writing English for Spesific Purposes	秋	水3	髙木　亜希子		176
English 331	a	Speech Communication	春	水3	T. J. フォトス		177
English 331	b	Speech Communication	秋	水3	T. J. フォトス		177
English 351		Computer-Assisted English Learning	春	水2	J. スティベンソン		178
English 351		Computer-Assisted English Learning	秋	水2	J. スティベンソン		178

英語以外の外国語科目

科目名			対象・コース等	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
ドイツ語Ⅰ	a	（基礎）	〔2005年度以降〕（基礎コース）	春		各担当教員	独	179
ドイツ語Ⅰ	b	（基礎）		秋		〃	独	179
ドイツ語ⅠA	a		〔2004年度以前〕（基礎コース）	春		各担当教員	独	179
ドイツ語ⅠA	b			秋		〃	独	179
ドイツ語Ⅰ	a	（基礎）	〔2005年度以降〕（総合コース）	春		各担当教員	独	180
ドイツ語Ⅰ	b	（基礎）		秋		〃	独	180
ドイツ語Ⅰ	a	（会話）		春		各担当教員	独	181
ドイツ語Ⅰ	b	（会話）		秋		〃	独	181
ドイツ語ⅠB	a		〔2004年度以前〕（総合コース）	春		各担当教員	独	180
ドイツ語ⅠB	b			秋		〃	独	180
ドイツ語ⅠC	a			春		各担当教員	独	181
ドイツ語ⅠC	b			秋		〃	独	181
ドイツ語Ⅱ	a	（基礎）	〔2005年度以降〕（基礎コース）	春		各担当教員	独	182
ドイツ語Ⅱ	b	（基礎）		秋		〃	独	182
ドイツ語ⅡA	a		〔2004年度以前〕（基礎コース）	春		各担当教員	独	182
ドイツ語ⅡA	b			秋		〃	独	182
ドイツ語Ⅱ	a	（基礎）	〔2005年度以降〕（総合コース）	春		各担当教員	独	183
ドイツ語Ⅱ	b	（基礎）		秋		〃	独	183
ドイツ語Ⅱ	a	（会話）		春		各担当教員	独	184
ドイツ語Ⅱ	b	（会話）		秋		〃	独	184

ドイツ語ⅡB	a		〔2004年度以前〕(総合コース)	春		各担当教員	独	183
ドイツ語ⅡB	b			秋		〃	独	183
ドイツ語ⅡC	a			春		各担当教員	独	184
ドイツ語ⅡC	b			秋		〃	独	184
ドイツ語ⅢB	a		〔2004年度以前〕	春	木2	田島　加奈子	独	185
ドイツ語ⅢB	b			秋	木2	田島　加奈子	独	185
フランス語Ⅰ	a	(基礎)	〔2005年度以降〕(基礎コース)	春		各担当教員	仏	186
フランス語Ⅰ	b	(基礎)		秋		〃	仏	186
フランス語ⅠA	a		〔2004年度以前〕(基礎コース)	春		各担当教員	仏	186
フランス語ⅠA	b			秋		〃	仏	186
フランス語Ⅰ	a	(総合J)	〔2005年度以降〕(総合コース)	春		各担当教員	仏	187
フランス語Ⅰ	b	(総合J)		秋		〃	仏	187
フランス語Ⅰ	a	(総合F)		春		各担当教員	仏	188
フランス語Ⅰ	b	(総合F)		秋		〃	仏	188
フランス語ⅠB	a		〔2004年度以前〕(総合コース)	春		各担当教員	仏	187
フランス語ⅠB	b			秋		〃	仏	187
フランス語ⅠC	a			春		各担当教員	仏	188
フランス語ⅠC	b			秋		〃	仏	188
フランス語Ⅱ	a	(基礎)	〔2005年度以降〕(基礎コース)	春		各担当教員	仏	189
フランス語Ⅱ	b	(基礎)		秋		〃	仏	189
フランス語ⅡA	a		〔2004年度以前〕(基礎コース)	春		各担当教員	仏	189
フランス語ⅡA	b			秋		〃	仏	189
フランス語Ⅱ	a	(総合J)	〔2005年度以降〕(総合コース)	春		各担当教員	仏	190
フランス語Ⅱ	b	(総合J)		秋		〃	仏	190
フランス語Ⅱ	a	(総合F)		春		各担当教員	仏	191
フランス語Ⅱ	b	(総合F)		秋		〃	仏	191
フランス語ⅡB	a		〔2004年度以前〕(総合コース)	春		各担当教員	仏	190
フランス語ⅡB	b			秋		〃	仏	190
フランス語ⅡC	a			春		各担当教員	仏	191
フランス語ⅡC	b			秋		〃	仏	191
フランス語ⅢA	a		〔2004年度以前〕	春	月2	L. フォンテーヌ	仏	192
フランス語ⅢA	b			秋	月2	L. フォンテーヌ	仏	192
フランス語ⅢA	a		〔2004年度以前〕	春	金2	近江屋　志穂	仏	193
フランス語ⅢA	b			秋	金2	近江屋　志穂	仏	193
スペイン語Ⅰ	a	(文法)	〔2005年度以降〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊1)	194
スペイン語Ⅰ	b	(文法)		秋		〃	言(＊1)	194
スペイン語ⅠA	a		〔2004年度以前〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊1)	194
スペイン語ⅠA	b			秋		〃	言(＊1)	194
スペイン語Ⅰ	a	(文法)	〔2005年度以降〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊1)	195
スペイン語Ⅰ	b	(文法)		秋		〃	言(＊1)	195
スペイン語Ⅰ	a	(会話)		春		各担当教員	言(＊1)	196
スペイン語Ⅰ	b	(会話)		秋		〃	言(＊1)	196
スペイン語ⅠB	a		〔2004年度以前〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊1)	195
スペイン語ⅠB	b			秋		〃	言(＊1)	195
スペイン語ⅠC	a			春		各担当教員	言(＊1)	196
スペイン語ⅠC	b			秋		〃	言(＊1)	196
スペイン語Ⅱ	a	(文法)	〔2005年度以降〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊1)	197
スペイン語Ⅱ	b	(文法)		秋		〃	言(＊1)	197
スペイン語ⅡA	a		〔2004年度以前〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊1)	197
スペイン語ⅡA	b			秋		〃	言(＊1)	197
スペイン語Ⅱ	a	(文法)	〔2005年度以降〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊1)	198
スペイン語Ⅱ	b	(文法)		秋		〃	言(＊1)	198
スペイン語Ⅱ	a	(会話)		春		各担当教員	言(＊1)	199
スペイン語Ⅱ	b	(会話)		秋		〃	言(＊1)	199
スペイン語ⅡB	a		〔2004年度以前〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊1)	198
スペイン語ⅡB	b			秋		〃	言(＊1)	198
スペイン語ⅡC	a			春		各担当教員	言(＊1)	199
スペイン語ⅡC	b			秋		〃	言(＊1)	199
スペイン語ⅢA	a		〔2004年度以前〕	春	月2	北岸　団	言(＊1)	200
スペイン語ⅢA	b			秋	月2	北岸　団	言(＊1)	200

スペイン語ⅢB	a		〔2004年度以前〕	春	金5	J. フェレーラス	言(＊1)	201
スペイン語ⅢB	b			秋	金5	J. フェレーラス	言(＊1)	201
中国語Ⅰ	a	(会話)	〔2005年度以降〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊2)	202
中国語Ⅰ	b	(会話)		秋		〃	言(＊2)	202
中国語ⅠA	a		〔2004年度以前〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊2)	202
中国語ⅠA	b			秋		〃	言(＊2)	202
中国語Ⅰ	a	(会話)	〔2005年度以降〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊2)	203
中国語Ⅰ	b	(会話)		秋		〃	言(＊2)	203
中国語Ⅰ	a	(講読・文法)		春		各担当教員	言(＊2)	204
中国語Ⅰ	b	(講読・文法)		秋		〃	言(＊2)	204
中国語ⅠB	a		〔2004年度以前〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊2)	203
中国語ⅠB	b			秋		〃	言(＊2)	203
中国語ⅠC	a			春		各担当教員	言(＊2)	204
中国語ⅠC	b			秋		〃	言(＊2)	204
中国語Ⅱ	a	(会話)	〔2005年度以降〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊2)	205
中国語Ⅱ	b	(会話)		秋		〃	言(＊2)	205
中国語ⅡA	a		〔2004年度以前〕(基礎コース)	春		各担当教員	言(＊2)	205
中国語ⅡA	b			秋		〃	言(＊2)	205
中国語Ⅱ	a	(会話)	〔2005年度以降〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊2)	206
中国語Ⅱ	b	(会話)		秋		〃	言(＊2)	206
中国語Ⅱ	a	(講読・文法)		春		各担当教員	言(＊2)	207
中国語Ⅱ	b	(講読・文法)		秋		〃	言(＊2)	207
中国語ⅡB	a		〔2004年度以前〕(総合コース)	春		各担当教員	言(＊2)	206
中国語ⅡB	b			秋		〃	言(＊2)	206
中国語ⅡC	a			春		各担当教員	言(＊2)	207
中国語ⅡC	b			秋		〃	言(＊2)	207
中国語Ⅲ	a	(会話)		春	火4	張　継英	言(＊2)	208
中国語Ⅲ	b	(会話)		秋	火4	張　継英	言(＊2)	208
中国語Ⅲ	a	(講読・文法)		春	火1	平野　佐和	言(＊2)	209
中国語Ⅲ	b	(講読・文法)		秋	火1	平野　佐和	言(＊2)	209
イタリア語Ⅰ	a			春	木4	島津　寛		210
イタリア語Ⅰ	b			秋	木4	島津　寛		210
イタリア語Ⅰ	a			春	木5	島津　寛		210
イタリア語Ⅰ	b			秋	木5	島津　寛		210
イタリア語Ⅱ	a			春	木4	園田　みどり		211
イタリア語Ⅱ	b			秋	木4	園田　みどり		211
ポルトガル語Ⅰ	a			春	金3	牧野　真也		212
ポルトガル語Ⅰ	b			秋	金3	牧野　真也		212
ポルトガル語Ⅱ	a			春	金4	牧野　真也		213
ポルトガル語Ⅱ	b			秋	金4	牧野　真也		213
ロシア語Ⅰ	a	(総合)	〔2005年度以降〕	春	水4	齊藤　毅		214
ロシア語Ⅰ	b	(総合)		秋	水4	齊藤　毅		214
ロシア語ⅠA	a		〔2004年度以前〕	春	水4	齊藤　毅		214
ロシア語ⅠA	b			秋	水4	齊藤　毅		214
ロシア語Ⅰ	a	(会話)	〔2005年度以降〕	春	金4	佐藤　千登勢		215
ロシア語Ⅰ	b	(会話)		秋	金4	佐藤　千登勢		215
ロシア語ⅠB	a		〔2004年度以前〕	春	金4	佐藤　千登勢		215
ロシア語ⅠB	b			秋	金4	佐藤　千登勢		215
ロシア語Ⅱ	a	(総合)	〔2005年度以降〕	春	水3	齊藤　毅		216
ロシア語Ⅱ	b	(総合)		秋	水3	齊藤　毅		216
ロシア語ⅡA	a		〔2004年度以前〕	春	水3	齊藤　毅		216
ロシア語ⅡA	b			秋	水3	齊藤　毅		216
ロシア語Ⅱ	a	(会話)	〔2005年度以降〕	春	金3	佐藤　千登勢		217
ロシア語Ⅱ	b	(会話)		秋	金3	佐藤　千登勢		217
ロシア語ⅡB	a		〔2004年度以前〕	春	金3	佐藤　千登勢		217
ロシア語ⅡB	b			秋	金3	佐藤　千登勢		217
朝鮮語Ⅰ	a	(総合)	〔2005年度以降〕	春	月1	金　貞我		218
朝鮮語Ⅰ	b	(総合)		秋	月1	金　貞我		218
朝鮮語Ⅰ	a	(総合)	〔2005年度以降〕	春	土1	森　勇俊		219
朝鮮語Ⅰ	b	(総合)		秋	土1	森　勇俊		219

朝鮮語ⅠA	a		〔2004年度以前〕	春	月1	金　貞我		218
朝鮮語ⅠA	b			秋	月1	金　貞我		218
朝鮮語ⅠA	a		〔2004年度以前〕	春	土1	森　勇俊		219
朝鮮語ⅠA	b			秋	土1	森　勇俊		219
朝鮮語Ⅰ	a	（講読・会話）	〔2005年度以降〕	春	月2	金　貞我		220
朝鮮語Ⅰ	b	（講読・会話）		秋	月2	金　貞我		220
朝鮮語Ⅰ	a	（講読・会話）	〔2005年度以降〕	春	土2	森　貞美		221
朝鮮語Ⅰ	b	（講読・会話）		秋	土2	森　貞美		221
朝鮮語ⅠB	a		〔2004年度以前〕	春	月2	金　貞我		220
朝鮮語ⅠB	b			秋	月2	金　貞我		220
朝鮮語ⅠB	a		〔2004年度以前〕	春	土2	森　貞美		221
朝鮮語ⅠB	b			秋	土2	森　貞美		221
朝鮮語Ⅱ	a	（総合）	〔2005年度以降〕	春	土1	森　貞美		222
朝鮮語Ⅱ	b	（総合）		秋	土1	森　貞美		222
朝鮮語ⅡA	a		〔2004年度以前〕	春	土1	森　貞美		222
朝鮮語ⅡA	b			秋	土1	森　貞美		222
朝鮮語Ⅱ	a	（講読・会話）	〔2005年度以降〕	春	土2	森　勇俊		223
朝鮮語Ⅱ	b	（講読・会話）		秋	土2	森　勇俊		223
朝鮮語ⅡB	a		〔2004年度以前〕	春	土2	森　勇俊		223
朝鮮語ⅡB	b			秋	土2	森　勇俊		223
タイ語Ⅰ	a			春	火3	江藤　双恵		224
タイ語Ⅰ	b			秋	火3	江藤　双恵		224
タイ語Ⅱ	a			春	火2	江藤　双恵		225
タイ語Ⅱ	b			秋	火2	江藤　双恵		225
アラビア語Ⅰ	a			春	月3	師岡　カリーマ・エルサムニー		226
アラビア語Ⅰ	b			秋	月3	師岡　カリーマ・エルサムニー		226
アラビア語Ⅱ	a			春	月2	師岡　カリーマ・エルサムニー		227
アラビア語Ⅱ	b			秋	月2	師岡　カリーマ・エルサムニー		227
現代ヘブライ語Ⅰ	a			春	月3	高橋　正男		228
現代ヘブライ語Ⅰ	b			秋	月3	高橋　正男		228
現代ヘブライ語Ⅱ	a			春	月4	高橋　正男		229
現代ヘブライ語Ⅱ	b			秋	月4	高橋　正男		229

古典語科目

科目名		対象・コース等	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
古典ギリシア語Ⅰ	a		春	木4	古川　堅治		230
古典ギリシア語Ⅰ	b		秋	木4	古川　堅治		230
古典ギリシア語Ⅱ	a		春	木3	古川　堅治		231
古典ギリシア語Ⅱ	b		秋	木3	古川　堅治		231
ラテン語Ⅰ	a		春	水2	古川　堅治		232
ラテン語Ⅰ	b		秋	水2	古川　堅治		232
ラテン語Ⅱ	a		春		本年度休講		―
ラテン語Ⅱ	b		秋		本年度休講		―

学則別表（2002年度以前入学者用）

部門	科目	単位	必修	選択必修		選択
人文科学	哲学	4				
	心理学	4				
	倫理学	4				
	国語学	4		4		
	国語表現	4				
	日本文学	4				
	外国文学	4				
	歴史学	4				
	人文科学特殊講義A	4				
	人文科学特殊講義B	*2				
社会科学	経済学	4				
	経済原論	4				
	政治学	4				
	日本国憲法	4				
	教育法	4				
	民法	4				
	国際法	4		4	8	
	国際関係論	4				
	社会学	4				
	社会思想史	4				
	社会心理学	4				
	文化人類学	4				
	社会科学特殊講義A	4				
	社会科学特殊講義B	*2				
自然科学	数学	4				
	物理学	4				
	地学	4		4		
	生物学	4				
	自然科学概論	4				
	自然科学特殊講義A	4				
	自然科学特殊講義B	*2				
情報科学	コンピュータ入門	*2				
	情報科学概論	4				
	言語学	4				
	情報科学各論	*2				
日本語教育	日本語学概論	4				4
	日本語教育概論	*2				
	日本語学特殊講義A	4				
	日本語学特殊講義B	*2				
第三外国語	基礎ドイツ語Ⅰ	2				
	基礎ドイツ語Ⅱ	2				
	基礎フランス語Ⅰ	2				
	基礎フランス語Ⅱ	2				
	基礎スペイン語Ⅰ	2				
	基礎スペイン語Ⅱ	2				
	基礎ポルトガル語Ⅰ	2				
	基礎ポルトガル語Ⅱ	2				
	基礎ロシア語Ⅰ	2				
	基礎ロシア語Ⅱ	2				
	基礎中国語Ⅰ	2				
	基礎中国語Ⅱ	2				
	基礎朝鮮語Ⅰ	2				
	基礎朝鮮語Ⅱ	2				
	基礎タイ語Ⅰ	2				
	基礎タイ語Ⅱ	2				
	基礎アラビア語Ⅰ	2				
	基礎アラビア語Ⅱ	2				
	現代ヘブライ語Ⅰ	2				
	現代ヘブライ語Ⅱ	2				
	古典ギリシア語Ⅰ	4				
	古典ギリシア語Ⅱ	4				
	ラテン語Ⅰ	4				
	ラテン語Ⅱ	4				
総合	総合講座A	4				
	総合講座B	*2				
保健体育	体育Ⅰ	2	2			
	体育Ⅱ	2		2		
	保健体育講義	*2				
卒業に必要な単位数合計			2	22		4
			28			

備考
(1) *は半期完結科目を表す。
(2) 保健体育部門を除く部門から所定の単位数を超えて修得した単位は、各学科の定める選択科目の単位数に算入される。
(3) 言語文化学科においては、「コンピュータ入門」を必修とする。

○ 本表は、1999年度入学者から適用する。ただし、基礎ポルトガル語ⅠおよびⅡ、ならびに基礎タイ語ⅠおよびⅡは、1997年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目（2002年度以前入学者用）

目次

※「外国語学部共通科目」と「全学共通授業科目」は合併しています。目次の「外国語学部共通科目名」より履修したい科目を選択し、該当ページに書かれている科目名と「全学共通授業科目名」が同じであるか確認してください。

外国語学部共通科目名（02年度以前）	全学共通授業科目名（03～06年度）	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
「人文科学」部門						
哲学	Ⅱ哲学a（哲学の諸問題1） Ⅱ哲学b（哲学の諸問題2）	通年	月 2	谷口　郁夫	経	20
哲学	Ⅳことばと思想（哲学的実習：愛について） Ⅳことばと思想（哲学的実習：生きる意味）	通年	金 3	松丸　壽雄	経	93
心理学	Ⅱ心理学a（人間の行動・認知・感情の共通法則） Ⅱ心理学b（人間の個性・多様性理解）	通年	木 1	杉山　憲司	経・法	25
心理学	Ⅱ心理学a（人間の行動・認知・感情の共通法則） Ⅱ心理学b（人間の個性・多様性理解）	通年	木 2	杉山　憲司	経・法	25
心理学	Ⅱ心理学a（知覚・認知） Ⅱ心理学b（行動・個性）	通年	月 1	増田　直衛	経・法	24
心理学	Ⅱ心理学a（知覚・認知） Ⅱ心理学b（行動・個性）	通年	月 2	増田　直衛	経・法	24
心理学	Ⅲことばと思想（科学としての心理学とこころの世界） Ⅳことばと思想（心理検査法とこころの健康）	通年	火 2	田口　雅徳	経・法	58
倫理学	Ⅱ倫理学a（倫理の基本について考える） Ⅱ倫理学b（環境と生命の倫理）	通年	火 3	市川　達人		21
国語学	Ⅱ言語学a（母語の修得と日本人） Ⅱ言語学b（コトバの構造と文法観）	通年	火 4	桂　千佳子	法	27
国語表現	Ⅳことばと思想（日本語音声表現のトレーニング基礎篇） Ⅳことばと思想（日本語音声表現のトレーニング表現篇）	通年	土 2	梅津　正樹	経・法	86
国語表現	Ⅳことばと思想（論文を書く） Ⅳことばと思想（口頭発表を行う）	通年	月 2	福沢　健	経・法	84
国語表現	Ⅳことばと思想（生活文化の発見） Ⅳことばと思想（生活文化の記述）	通年	月 1	長野　隆之	経・法	87
国語表現	Ⅳことばと思想（生活史を読む） Ⅳことばと思想（生活史を書く）	通年	月 2	長野　隆之	経・法	88
国語表現	Ⅳことばと思想（書き言葉の問題） Ⅳことばと思想（話し言葉の問題）	通年	月 2	佐藤　毅	経・法	85
国語表現	Ⅳことばと思想（論文を書く） Ⅳことばと思想（口頭発表を行う）	通年	月 4	福沢　健	経・法	84
日本文学	Ⅱ文学a（恐怖の日本文学） Ⅱ文学b（癒しの日本文学）	通年	月 1	佐藤　毅	経	28
日本文学	Ⅱ文学a（日本文学－奈良時代の文学を読む） Ⅱ文学b（日本文学－平安時代の文学を読む）	通年	月 3	福沢　健	経	30
外国文学	Ⅱ文学a（スペイン文学） Ⅱ文学b（ラテンアメリカ文学）	通年	火 5	野々山　ミチコ	経	29
歴史学(日本史)	Ⅱ歴史学a（中世の仏教と社会） Ⅱ歴史学b（中世の「悪党」と民衆）	通年	木 5	新井　孝重	経・法	37
歴史学(日本史)	Ⅱ歴史学a（「15年戦争」をどうとらえるか） Ⅱ歴史学b（戦後史の中の「15年戦争」）	通年	火 4	丸浜　昭	言・経・法	31
歴史学(東洋史)	Ⅱ歴史学a（中国近代史概説－清朝国家の黄昏） Ⅱ歴史学b（中国近代史概説－近代国家創成の試み）	通年	木 4	張　士陽	経・法	33
歴史学(東洋史)	Ⅱ歴史学a（イスラーム世界の成立と拡大） Ⅱ歴史学b（イスラーム世界の近代化とその後）	通年	木 3	熊谷　哲也	経・法	32
歴史学(西洋史)	Ⅱ歴史学a（アメリカのｴｽﾆｯｸ・ﾋｽﾄﾘｰ） Ⅱ歴史学b（アメリカのｴｽﾆｯｸ・ﾋｽﾄﾘｰ）	通年	金 3	佐藤　唯行	経・法	35

外国語学部共通科目名（02年度以前）	全学共通授業科目名（03～06年度）	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
歴史学(西洋史)	Ⅱ歴史学a（現代史と映像） Ⅱ歴史学b（歴史と映像）	通年	火 2	増谷　英樹	経・法	36
歴史学（西洋史）	Ⅱ歴史学a(ヨーロッパの歴史－統合と分裂の視点から) Ⅱ歴史学b（バルカン情勢の現在－地域・国家・民族の視点から）	通年	金 3	古川　堅治	経・法	34
人文科学特殊講義A						
（現代文化論）	Ⅱ現代文化論a（グローバリゼーションを巡って） Ⅱ現代文化論b（日本の表象と世界）	通年	水 3	柴崎　信三	経	38
（西洋美術史）	Ⅳ歴史と文化（西洋美術史a） Ⅳ歴史と文化（西洋美術史b）	通年	火 3	前川　久美子		100
人文科学特殊講義B						
（イタリアの音楽史）	Ⅲ歴史と文化（イタリアの音楽史）	春	木 3	園田　みどり		65
（イタリアの声楽曲）	Ⅲ歴史と文化（イタリアの声楽曲）	秋	木 3	園田　みどり		65
（西洋哲学史）	Ⅲことばと思想（生と死の意味の哲学1）	春	月 3	谷口　郁夫		60
（哲学思想史）	Ⅲことばと思想（生と死の意味の哲学2）	秋	月 3	谷口　郁夫		60
（英語通訳の仕事）	Ⅳことばと思想（英語通訳の仕事）	春秋	土 1	福井　星一		89
（英語通訳の仕事2）	Ⅳことばと思想（英語通訳の仕事2）	春秋	火 3	福井　星一		90

「社会科学」部門

経済学	Ⅱ経済学a（ミクロの視点で考える） Ⅱ経済学b（マクロの視点で考える）	通年	火 2	米山　昌幸	経・法	41
経済学	Ⅱ経済学a（国民所得の概念と決定メカニズム） Ⅱ経済学b（経済政策の基礎理解と課題）	通年	水 2	浜本　光紹	経・法	40
経済原論		通年	火 1	野村　容康	経・法	233
政治学	Ⅱ政治学a（政治システムの構成要素） Ⅱ政治学b（現代の民主主義）	通年	木 2	津田　由美子	経・法	45
教育法	Ⅲ現代社会（教育法a） Ⅲ現代社会（教育法b）	通年	金 2	市川　須美子	法	76
民法	Ⅲ現代社会（民法a） Ⅲ現代社会（民法b）	通年	金 2	石井　保雄	経・法	77
国際法	Ⅱ国際法a（国際社会と私たち） Ⅱ国際法b（国際紛争を考える）	通年	火 3	一之瀬　高博	法	44
国際関係論	Ⅲ現代社会（東アジア国際関係の史的展開） Ⅲ現代社会（東アジア国際関係の現状と展望）	通年	土 1	阿部　純一	法	78
社会学	Ⅱ社会学a（社会理解の基礎構築） Ⅱ社会学b（社会問題の考察）	通年	火 2	圓岡　偉男	経・法	46
社会学	Ⅱ社会学a（社会理解の基礎構築） Ⅱ社会学b（社会問題の考察）	通年	火 4	圓岡　偉男	経・法	46
社会思想史	Ⅱ社会思想史a（市民的社会像の黎明期） Ⅱ社会思想史b（市民的社会像の確立期）	通年	火 4	市川　達人	法	23
社会思想史	Ⅱ社会思想史a（魔女裁判と現代） Ⅱ社会思想史b（錬金術と現代）	通年	水 2	松丸　壽雄	法	22
社会心理学		通年	火 4	田口　雅徳		234

外国語学部共通科目名（02年度以前）	全学共通授業科目名（03～06年度）	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
社会科学特殊講義A						
（現代英米社会研究）	Ⅲ現代社会（英国人は階級問題抜きで語れない） Ⅲ現代社会（少子･高齢社会を生きる）	通年	火 2	有吉　広介		69
（社会科学概論）	Ⅲ現代社会（社会科学概論a） Ⅲ現代社会（社会科学概論b）	通年	火 1	堅田　剛	法	75
（広告論）	Ⅲ現代社会（広告論a） Ⅲ現代社会（広告論b）	通年	月 2	市川　嘉彦	経	74
（マスコミュニケーション論）	Ⅲ現代社会（歴史の中のメディア） Ⅲ現代社会（メディアと現代社会）	通年	木 4	柴崎　信三		73
（現代中国論）	Ⅲ現代社会（中国を考えるa） Ⅲ現代社会（中国を考えるb）	通年	木 3	辻　康吾		72
（生活に役立つ経理（A））	Ⅳ現代社会（生活に役立つ経理（A）a） Ⅳ現代社会（生活に役立つ経理（A）b）	通年	月 2	杉　麻利子	経	102
（生活に役立つ経理（B））	Ⅳ現代社会（生活に役立つ経理（B）a） Ⅳ現代社会（生活に役立つ経理（B）b）	通年	月 3	杉　麻利子	経	103
（イスラム（原理）主義過激思想）	Ⅲ現代社会（中東政治思想a） Ⅲ現代社会（中東政治思想b）	通年	月 1	藤原　和彦		71
（異文化との触れ合い）	Ⅲ歴史と文化（グローバル化とイスラムー公と私） Ⅲ歴史と文化（移民･交易に見る文化変容）	通年	月 2	水口　章		64
社会科学特殊講義B	※過去に「社会科学特殊講義A（女性学）」を修得した学生は、下記「女性学」の履修不可。 ※下記「女性学」は、春秋で重複履修可能。					
（女性学）	Ⅱ女性学a（生活の中の女性学）	春	水 2	井上　たか子		49
（女性学）	Ⅱ女性学b（ジェンダーと表象）	秋	木 3	上野　直子		49
（日本事情とコミュニケーション教育）	Ⅲ歴史と文化（日本事情とコミュニケーション教育）	春	木 2	小山　慎治		63

「自然科学」部門

数学	Ⅱ数学a（微分学） Ⅱ数学b（積分学）	通年	月 3	福井　尚生	経	50
物理学	Ⅱ物理学a（特殊相対論の世界） Ⅱ物理学b（一般相対論の世界）	通年	金 3	東　孝博		51
地学	Ⅱ地球科学a（恒星天文学） Ⅱ地球科学b（銀河天文学）	通年	水 1	福井　尚生		54
生物学A	Ⅱ生物学a（植物の特性と自然の仕組み） Ⅱ生物学b（植物の分布）	通年	火 1	加藤　僖重	経･法	53
生物学B	Ⅳ自然･環境･人間（身近な自然観察 春） Ⅳ自然･環境･人間（身近な自然観察 秋）	通年	木 2	加藤　僖重	経･法	114
生物学B	Ⅳ自然･環境･人間（身近な自然観察 春） Ⅳ自然･環境･人間（身近な自然観察 秋）	通年	木 3	加藤　僖重	経･法	114
生物学B	Ⅳ自然･環境･人間（身近な自然観察 春） Ⅳ自然･環境･人間（身近な自然観察 秋）	通年	木 4	加藤　僖重	経･法	114
自然科学概論	Ⅲ自然･環境･人間（地球外文明論a） Ⅲ自然･環境･人間（地球外文明論b）	通年	月 1	福井　尚生	法	83
自然科学特殊講義A						
（自然環境と文化）	Ⅱ地理学a（自然環境と文化） Ⅱ地理学b（自然環境と文化）	通年	水 2	秋本　弘章	経	47
（地球環境論）	Ⅲ自然･環境･人間（地球環境の変化とその要因） Ⅲ自然･環境･人間（地球環境問題と環境保全）	通年	火 2	鈴木　滋	経･法	81
（宇宙論）	Ⅲ自然･環境･人間（宇宙論a） Ⅲ自然･環境･人間（宇宙論b）	通年	金 1	福井　尚生		82
（化学）	Ⅱ化学a（自然と環境の化学） Ⅱ化学b（生命と健康の化学）	通年	火 2	和田　浩志		52

外国語学部共通科目名（02年度以前）	全学共通授業科目名（03～06年度）	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ

「情報科学」部門

コンピュータ入門				各担当教員	経・法	235
		春	月 1	長崎　等		
		春	月 4	金子　憲一		
		春	月 5	金子　憲一		
		春	火 1	田中　雅英		
		春	火 2	田中　雅英		
		春	木 4	内田　俊郎		
		春	金 2	松山　恵美子		
情報科学概論		通年	金 1	呉　浩東	経・法	236
言語学	Ⅱ言語学a（一般言語学） Ⅱ言語学b（一般言語学）	通年	月 3	二宮　哲		26
情報科学各論（初級－表計算入門）				各担当教員	経・法	237
		春	木 2	内田　俊郎		
		秋	木 2	内田　俊郎		
		春	月 3	金子　憲一		
		秋	月 5	金子　憲一		
		秋	水 2	呉　浩東		
		春	火 3	田中　雅英		
		秋	火 1	田中　雅英		
		秋	月 1	長崎　等		
		秋	金 2	松山　恵美子		
		春	金 3	松山　恵美子		
		秋	木 3	内田　俊郎		
		春	水 1	二宮　哲		
情報科学各論（初級－プレゼンテーション）		春	火 2	金井　満	経・法	238
		秋	火 2	金井　満		238
情報科学各論（初級－HTML入門）				各担当教員	経・法	239
		春	木 3	内田　俊郎		
		秋	木 4	内田　俊郎		
		秋	月 4	金子　憲一		
		春	水 2	呉　浩東		
		秋	火 2	田中　雅英		
		秋	水 1	二宮　哲		
情報科学各論（中級－表計算応用1）		秋	金 3	松山　恵美子	経・法	240
		春	金 4	松山　恵美子	経・法	240
情報科学各論（中級－表計算応用2）		秋	金 4	松山　恵美子	経・法	241
情報科学各論（中級－HTML応用1）		秋	月 3	金子　憲一		242
		秋	火 3	田中　雅英		243
情報科学各論（中級－データベース1）		春	月 2	長崎　等		244
情報科学各論（中級－データベース2）		秋	月 2	長崎　等		244
情報科学各論（中級－プログラミング論1）		春	月 2	呉　浩東	言	245
情報科学各論（中級－プログラミング論2）		秋	月 2	呉　浩東		245

「日本語教育」部門

日本語学概論	Ⅲことばと思想（日本語の仕組みa） Ⅲことばと思想（日本語の仕組みb）	通年	水 3	城田　俊		61
日本語教育概論	Ⅲことばと思想（外国語としての日本語教育）	秋	火 4	中西　家栄子		59

「第三外国語」部門

基礎ドイツ語Ⅰ	ドイツ語Ⅰa,b（基礎）	通年		各担当教員		179
			月 1	河合　節子		
			金 5	辻本　勝好		
			火 4	永岡　敦		
			金 4	大重　光太郎		
			木 2	本橋　右京		
			木 2	前田　智		

外国語学部共通科目名(02年度以前)	全学共通授業科目名(03～06年度)	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
基礎ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅱa,b(基礎)	通年		各担当教員		182
			火 4	井村　行子		
			木 2	大串　紀代子		
基礎フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰa,b(基礎)	通年		各担当教員		186
			月 3	佐藤　領時		
			木 1	M. ミズバヤシ		
			金 2	富塚　真理子		
			月 2	佐原　隆雄		
基礎フランス語Ⅱ	フランス語Ⅱa,b(基礎)	通年		各担当教員		189
			金 3	山田　秀男		
			金 2	渡沼　英二		
基礎スペイン語Ⅰ	スペイン語Ⅰa,b (文法)	通年		各担当教員		194
			水 2	二宮　哲		
			月 1	落合　佐枝		
基礎スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅱa,b (文法)		金 2	坂野　鉄也		197
基礎中国語Ⅰ	中国語Ⅰa,b(会話)	通年		各担当教員		202
			月 2	張　亜紅		
			木 2	張　継濱		
			月 1	星野　芳欣		
基礎中国語Ⅱ	中国語Ⅱa,b(会話)	通年	月 2	星野　芳欣		205
基礎ポルトガル語Ⅰ	ポルトガル語Ⅰa,b	通年	金 3	牧野　真也		212
基礎ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱa,b	通年	金 4	牧野　真也		213
基礎ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅰa,b(総合)	通年	水 4	斎藤　毅		214
基礎ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅰa,b(会話)	通年	金 4	佐藤　千登勢		215
基礎ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅱa,b(総合)	通年	水 3	斎藤　毅		216
基礎ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅱa,b(会話)	通年	金 3	佐藤　千登勢		217
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b　(総合)	通年	土 1	森　勇俊		219
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b　(総合)	通年	月 1	金　貞我		218
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b　(講読・会話)	通年	土 2	森　貞美		221
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b　(講読・会話)	通年	月 2	金　貞我		220
基礎朝鮮語Ⅱ	朝鮮語Ⅱa,b　(総合)	通年	土 1	森　貞美		222
基礎朝鮮語Ⅱ	朝鮮語Ⅱa,b　(講読・会話)	通年	土 2	森　勇俊		223
基礎タイ語Ⅰ	タイ語Ⅰa,b	通年	火 3	江藤　双恵		224
基礎タイ語Ⅱ	タイ語Ⅱa,b	通年	火 2	江藤　双恵		225
基礎アラビア語Ⅰ	アラビア語Ⅰa,b	通年	月 3	師岡　カリーマ　エルサムニー		226
基礎アラビア語Ⅱ	アラビア語Ⅱa,b	通年	月 2	師岡　カリーマ　エルサムニー		227
現代ヘブライ語Ⅰ	現代ヘブライ語Ⅰa,b	通年	月 3	高橋　正男		228
現代ヘブライ語Ⅱ	現代ヘブライ語Ⅱa,b	通年	月 4	高橋　正男		229
古典ギリシア語Ⅰ	古典ギリシア語Ⅰa,b	通年	木 4	古川　堅治		230
古典ギリシア語Ⅱ	古典ギリシア語Ⅱa,b	通年	木 3	古川　堅治		231
ラテン語Ⅰ	ラテン語Ⅰa,b	通年	水 2	古川　堅治		232
ラテン語Ⅱ	ラテン語Ⅱa,b			本年度休講		ー

「総合」部門

(春)総合講座B		春	水 3	青山　愛香	経・法	246
(秋)総合講座B		秋	水 3	木村　佐千子	経・法	246

「保健体育」部門

体育Ⅰ,Ⅱ	Ｖスポーツ・レクリエーション					
(インラインスケート)		通年	水 1	和田　智		121
(インラインスケート)		通年	土 2	和田　智		121
(硬式テニス)		通年	木 1	田中　茂宏		122
(硬式テニス)		通年	木 3	田中　茂宏		122
(硬式テニス)		通年	火 2	松原　裕		123
(硬式テニス)		通年	火 3	松原　裕		123
(硬式テニス)		通年	金 3	依田　珠江		124
(ゴルフ)		通年	月 1	山中　邦夫		125
(ゴルフ)		通年	月 2	山中　邦夫		125
(ゴルフ)		通年	金 1	吉田　卓司		126
(ゴルフ)		通年	金 2	吉田　卓司		126

外国語学部共通科目名（02年度以前）	全学共通授業科目名（03～06年度）	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
（サッカー）		通年	木 3	桧山 康		127
（サッカー）		通年	水 1	松原 裕		128
（サッカー）		通年	月 2	松本 光弘		129
（サッカー）		通年	月 3	松本 光弘		129
（スポーツエクササイズ）		通年	水 2	梶野 克之		130
（ソフトボール）		通年	火 1	池垣 功一		131
（ソフトボール）		通年	火 2	池垣 功一		131
（ソフトボール）		通年	金 2	太田 朝博		132
（ソフトボール）		通年	木 1	萩野 元祐		133
（ソフトボール）		通年	木 2	萩野 元祐		133
（卓球）		通年	土 1	小山 さなえ		134
（卓球）		通年	土 2	小山 さなえ		134
（卓球）		通年	月 1	神宮司 親治		135
（卓球）		通年	月 3	神宮司 親治		135
（卓球）		通年	火 1	松原 裕		136
（バスケットボール）		通年	水 1	依田 珠江		137
（バスケットボール）		通年	水 2	依田 珠江		137
（バスケットボール）		通年	金 1	依田 珠江		137
（バスケットボール）		通年	金 2	依田 珠江		137
（バドミントン）		通年	金 3	太田 朝博		138
（バドミントン）		通年	火 2	梶野 克之		139
（バドミントン）		通年	火 3	梶野 克之		139
（バドミントン）		通年	木 3	梶野 克之		139
（バレーボール）		通年	月 1	小川 又八朗		140
（バレーボール）		通年	月 3	小川 又八朗		140
（バレーボール）		通年	土 1	依田 珠江		141
（バレーボール）		通年	土 2	依田 珠江		141
（フットサル）		通年	木 2	桧山 康		142
（フットサル）		通年	木 1	松原 裕		143
（フリスビー）		通年	金 1	和田 智		144
（フリスビー）		通年	土 1	和田 智		144
（ボールルームダンス）		通年	月 2	青柳 多恵子		145
（ボールルームダンス）		通年	火 1	青柳 多恵子		145
（ボールルームダンス）		通年	水 2	青柳 多恵子		145
体育Ⅰ,Ⅱ 集中授業						
（アウトドアレクリエーション）		春	火 3	青柳 多恵子		117
（アウトドア山岳）		春	集中	青柳 多恵子		117
（アウトドアレクリエーション）		春	金 2	和田 智		118
（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）		春	集中	和田 智		118
（アウトドアレクリエーション）		春	水 2	和田 智		118
（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）		春	集中	和田 智		118
（スケートトレーニング）		秋	火 2	和田 智		119
（アイススポーツ）		秋	集中	和田 智		119
（バランストレーニング）		秋	土 1	松原 裕		120
（スノースポーツ）		秋	集中	松原 裕		120
保健体育講義	Ⅱスポーツ・レクリエーション学a（トレーニングの科学的基礎）	春	木 2	梶野 克之		55
保健体育講義	Ⅱスポーツ・レクリエーション学a （自由時間とクオリティオブライフを考えよう）	春	金 3	和田 智	経	56
保健体育講義	Ⅱスポーツ・レクリエーション学b （最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう）	秋	金 3	和田 智	経	56
保健体育講義	Ⅳ自然・環境・人間（東洋の健康哲学a）	春	月 1	青柳 多恵子		115
保健体育講義	Ⅳ自然・環境・人間（東洋の健康哲学b）	秋	月 1	青柳 多恵子		115

（秋）	全学総合講座(現代世界論)	担当者	佐藤　勘治

講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近な具体的テーマに沿って受講生とともに深く考える場とし、専門研究への足がかりとなることを目的とする。

現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

講義概要

主に言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生に関わる諸問題がひとつの柱となっている。担当教員の専門分野は、哲学、言語学、歴史、社会学、地域研究、政治学、心理学などである。

第５回目では、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏を招いて、無国籍者の現状やその問題点を講演していただく予定である。また、第６回目では、ジャーナリスト工藤律子氏を招いて、子どもたちをとりまく状況について講演していただく。工藤氏は、メキシコを中心にしてストリートチルドレン支援運動をおこなっている。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。

評価方法

各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。

テキスト、参考文献

各担当者が指示する。
参考文献：
陳　天璽『無国籍』（新潮社）2005 年
工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)

授業計画

１　佐藤勘治：
総論　グローバル化の進展と多文化共生社会（9/25）

２　飯島一彦：
多文化社会としての日本（10/2）

３　佐藤勘治：
南北アメリカの「先住民」とその運動：先住民とはだれか？（10/9）

４　辻　康吾：
日中関係の原点（10/16）

５　陳　天璽（ゲストスピーカー）：国立民族学博物館助教授
「無国籍」を生きるとは　（10/23）

６　工藤律子（ゲストスピーカー）：ジャーナリスト
路上に生きる子どもたち　メキシコシティのストリートチルドレン（10/30）

７　小島優生：
現代韓国の教育事情（仮題）　（11/13）

８　浅山佳郎：
外国人が日本語を学ぶわけ（11/20）

９　有吉広介：
日・中・韓、儒教世界の現代親子関係　（11/27）

10　田口雅徳：
E-mail はコミュニケーションを豊かにするか？（12/4）

11　浦部浩之：
民主主義は世界に定着するか？　国際選挙監視団の一員として（12/11）

12　松丸壽雄：
現代世界と私たち（12/18）

（春）（秋）	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	担当者	伊藤　爲一郎

講義目標

「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など日本の経済･社会をとりまく環境の変貌によって、就職･雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化がおきています。一方ではせっかく就職したのに、３年以内に離職する若者が３割にも達するという結果が出ています。その主な理由は、学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生でもっとも重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容が問われるのです。この講義は、皆さんが個性にあった生き方をデザインし充実した学生生活送れるよう支援するものです。

講義概要

生きていくためには何かの仕事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって、選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成、するために何が必要かその手順を実践的に考えてみます。目標を持ってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。

受講生への要望

将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれません。キャンパスライフの目標を見つけるために、辛抱して講義に出席しているとだんだんはっきりとしてくるでしょう。卒業時のはっきりとした将来像が楽しみです。

評価方法

レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況（１０回以上出席のこと）を総合して評価します。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。講義の中で参考文献を紹介します。

授業計画

第１回　オリエンテーション
講義の目的　、進め方などの説明

第２回　企業で働く（企業が学生に求めるもの）

第３回　公共部門（教員・公務員・ＮＰＯ）で働く

第４回　男女共同参画社会（男女共同参画社会を推進する）

第５回　労働市場と雇用はどのように変化してきたか

第６回　ベンチャー企業を起業する

第７回　正社員とフリーター

第８回　仕事と適性（仕事をどのように選ぶか）

第９回　自己理解・自己表現

第１０回　社会の求める人材とは

第１１回　活躍するＯＢ・ＯＧ

第１２回　キャンパスライフと仕事
パネルデイスカッシションを予定

（講義の順番が変わることがあります）

（秋）	全学総合講座（平和と人権－アジア地域の紛争と私たち）	担当者	古関　彰一

講義目標

アジアを中心に最近の戦争・紛争そして平和構築の現状を講師から報告していただくことによって、私たちが、現状をどうとらえ、何をしなければならないのかを考えることを目標にします。

講義概要

毎回、アジアを中心に戦争、紛争そして平和構築の現状を調査し、取材し、あるいは平和構築に参加されてきた方々を講師に招き、講義して形式で授業を進めます。

受講生への要望

講師に方々は、忙しい中を、ときには遠路をお越しいただきますので、雑談、居眠りなどは堅く禁じます。約束を守れない受講生は教室から出ていただきます。

評価方法

出席と秋学期の終わりに課すレポートで評価します。

テキスト、参考文献

その時々に指示します。

授業計画

ビルマ（ミャンマー）、アフガニスタン、東チモール、カンボジア、イラクなどの現状を新聞記者、ＮＧＯ、弁護士、研究者に報告して頂きます。

（現時点で、おいでいただく講師の方々と日程を確定することは困難ですので、最初の授業で担当者が、日程の入った授業計画を配布します）

（春）	全学総合講座(獨協学)	担当者	新井　孝重

講義目標

「獨協学」は、学生諸君が獨協学園の歴史を学ぶ講座である。学園と獨協大学は幾多の試練と変遷を経過しながら、創立以来今日に至るまで 120 年余の間、総じて教育の大道を歩んできた。

諸君がこの学園で学ぶことの意味と、未来への自己の可能性を展望する契機となることを目指している。

講義概要

1883 年(明治 16)に創立された獨逸学協会学校は、ドイツ学の普及を意図していた政府から、補助金等の援助を受けて、初期の専修科(法律学校)からは司法官・行政官を輩出した。

東京帝国大学の官僚養成体制が確立すると、政府の援助は停止され、専修科は廃止、中等教育機関としての普通科が残った。

やがて経営的に行きづまりをみせ、第一次世界大戦後には東京府への移管が考えられるほど困窮した。第二次大戦中、ヒトラー・ユーゲント来校など国際情勢もあって、勢いを盛り返したが、戦争によって学園は荒廃した。

戦後、先輩天野貞祐が校長に就任、人間尊重を掲げて学校再建をはかり、1964 年(昭和 39)、「大学は学問を通じての人間形成の場である」との理念のもと、獨協大学が建学された。

受講生への要望

講義・シンポジウムを問わず、積極的な質問、発言を期待する。

評価方法

課題に対するレポート(１回)。課題は講座後半に指示する。

テキスト、参考文献

『目で見る獨協百年』(獨協学園)。
『獨協学園史 1881-2000』(獨協学園)。
堅田剛『獨逸学協会と明治法制』(木鐸社)。
いずれも獨協大学図書館にあり。その他は講義中紹介する。

授業計画

Ⅰ、獨協の歴史を考える
１，ミニ・シンポジウム
司会：新井孝重
パネリスト：酒井　府
堅田　剛
湯田雅夫
新宮譲治

Ⅱ、獨逸学協会学校の創設と変質
２，法律学校としての獨逸学協会学校(堅田剛)
３，専修科廃止から医学予備門へ(新宮譲治)
４，校長大村仁太郎の先駆的教育論(新井孝重)

Ⅲ、戦争と平和－獨協のアイデンティティーを考える－
５，西周の「軍人勅諭と平和論」(新宮譲治)
６，第一次・第二次世界大戦と獨協(新宮譲治)
７，天野貞祐の校長就任から
獨協大学創設(新宮譲治)

Ⅳ、天野貞祐の教育理念
８，京大教授時代(新井孝重)
９，獨協大学創設時代(新井孝重)

Ⅴ、特別講義
10,「獨協大学創立期の回顧」
講師：下川　浩

Ⅵ、特別講義
11,「日本近代の私学 ――獨協を中心に」
講師：寺﨑昌男(東京大学名誉教授)

Ⅶ、獨協大学のあり方を考える
12, ミニ・シンポジウム
司会：新井孝重
パネリスト：酒井　府
堅田　剛
湯田雅夫
新宮譲治
合田　憲

（春）（秋）	全学総合講座(国家と国境を考える：地域･民族･国家)	担当者	古川　堅治

講義目標

本講座では、これまで自明のことと考えられてきた「国民国家の集合体としての現代世界」の構造が揺らぎはじめ、経済のグローバル化と社会の多文化主義の進展に伴い国家に対する見方自体もまた変化をみせていることを、さまざまな地域と視点から具体的に考えることを目的とする。

現在日本では、それまでの定住外国人に加えて、他の多くの国家と同じように、さまざまな地域から、労働者として、留学生として、あるいは国際結婚のパートナーなどとして多くの外国人が訪れ、隣人として暮らしている。今日本でも多文化共生社会の建設の必要性が求められている。その意味でここに掲げるテーマは極めて今日的である。それゆえに受講生は自らの問題として、国家と国境をめぐる諸問題を考えてもらいたい。

講義概要

各担当者には右に掲げるテーマで二回ずつ講義をお願いしている。初回はコーディネーターにより問題提起がなされ、二回目以降は各地域からの報告がなされる。カナダは多文化社会を標榜する国家であるが、そこでは民族共生のためのさまざまな取り組みがなされ、新たな国家像が提示されつつある。また、国家についての考え方が自明でなくなり、グローバル化が進行すると国境線の意味を失わせることになりがちだが、そのことは「国家」とは何かを強く意識させると同時に、国境線の役割もまた必ずしも弱めることにはならない。特に米国とメキシコとの関係では、経済統合とともに人の移動を妨げる壁として国境線の役割が逆に強化されている。

さらに国家という枠組みが問題になるのは、政治や経済という分野だけではない。文学にみられる言葉の越境性について考えることは新たな視点を与えてくれるだろう。また、台頭著しい中国の国内の民族諸関係や台湾問題などからは独自の国家像を窺うことができる。最後に沖縄から日本の抱える国家と国境の問題を考えることで身近な問題としてこの問題を再認識してもらいたい。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。受講生の積極的な発言を期待している。

評価方法

各回ごとに感想を含む小レポートが出される。また、最終回には全体に関わるテストを行なう。評価はそれらと出席点を含めて総合的に判断して出す。

テキスト、参考文献

各担当者がその都度指示する。

授業計画

（春学期）

１．古川堅治：問題提起（講座の目的と概要）

２．佐藤勘治：プエルトリコ

３．佐藤勘治：アメリカ・メキシコ国境の今

４．櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　１

５．櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　２

６．上野直子：国境を越える言葉　１

７．上野直子：国境を越える言葉　２

８．上村幸治：中国における民族と国境　１

９．上村幸治：中国における民族と国境　２

１０．戸邊秀明：沖縄人の南洋体験

１１．戸邊秀明：戦後沖縄の境界

１２．古川堅治：まとめ

（秋学期）

同上

（春）（秋）	全学総合講座(スポーツ・健康の世界)	担当者	松原　裕

講義目標

大学入学以前には、いろいろと大学生活を想像していたことでしょう。それは正確に捉えていたかもしれないし、捉えていなかったかもしれません。
この講義における目標は知的刺激を与えることです。正しいかどうか、という結論は少なく、今後の皆さんの生き方の決定に参考になる事柄があれば十分です。
健康に関すること、スポーツに関すること、世界を考えることの３つがテーマです。各々が大きな事柄ですから、とてもとても講義の時間だけで全てに触れることは無理でしょうが、各ゲストの方の人間性を垣間見てもらえれば十分です。

講義概要

講義は、健康、スポーツ、世界、の３つのテーマについてゲストをお願いして行います。
健康に関しては、腰痛など体調について、応急処置について、健康生活について、理論と実技を行います。実技には、三角巾が必要です。
スポーツに関しては、クラブの在り方、スポーツビジネス、イベントなど、社会的なところで活躍中のゲストを迎えて、講義をお願いします。
世界に関しては、平和と戦争を中心として、ジャーナリストの方を迎え、アメリカ取材、パレスチナ取材の経験から伝えてもらいます。

受講生への要望

すでに生き方の決まっている人が聞いても面白くないでしょう。
集中できるように体調を整えて参加してください。

評価方法

毎時間提出のコメント、３回のレポート提出、コーディネーター・ゲストとのコミュニケーション、以上を総合して評価します。

テキスト、参考文献

資料は、必要に応じて配布します。参考文献は、第１週にまとめて紹介し、必要に応じてさらに紹介します。

授業計画

Ⅰ．健康（松原・依田・音海）

第１週　オリエンテーション（松原）
　　講義予定の紹介
　　骨盤調整法・サッカーの紹介
第２週　人の体温の話（依田）
第３週　応急処置理論Ⅰ（音海）
第４週　応急処置理論Ⅱ（音海）
第５週　応急処置・骨盤調整実技（音海・松原）

Ⅱ．スポーツ（松原・田口・中塚）

第１週　W杯サッカーの歴史（松原）
第２週　スポーツと社会の関わり（田口）
第３週　総合型クラブの可能性（中塚）

Ⅲ．世界（吉田・今）

第１週　平和を考えるーヒッピー文化ー（吉田）
第２週　戦争を考えるーパレスチナー（今）
第３週　平和と戦争を考える（吉田）

Ⅳ．大座談会

松原ほかゲストで座談会

以上、全 12 回の講義の予定です。この原稿を作成しているのが１月末のため、ゲストの都合により順番が入れ替わったり、ゲストが変わる可能性があります。

（春）（秋）	全学総合講座(環境学)	担当者	湯田　雅夫

講義目標

「環境学」は、自然科学、人文科学、社会科学すべてにわたる学際的学問です。この授業は、「環境」領域に関わっている本学の諸先生に担当していただくとともに、各界で活躍されておられる方々をお招きして、「環境」領域についての多様な考え方、アプローチ方法を学習します。
「環境学」は、単に知識を身に付ける場ではありません。入手した新たな知識を学生諸君の生活の場に活かしていくことも大切です。授業に参加するだけではなく、各回の授業テーマについて各自問題意識を持ち、自分の考えを纏めるよう努めてください。

講義概要

講義のコーディネーターは湯田（経済学部）が担当します。今年度も数多くの環境諸課題を取り上げました。１回目は、「環境学」のオリエンテーションとして環境問題全般に触れます。４回目の人文科学の領域を除き、２回目から６回目までは、主として自然科学の領域に関するものです。８回目から１２回目までは、主として社会科学の領域に関するものです。

受講生への要望

今回の授業で取り上げたテーマは、それぞれ１回の授業で完結していますが、十分な時間ではありません。この授業をきっかけに環境問題を深く学習する機会を是非持ってください。

評価方法

定期試験の成績に出席状況を加味した総合評価です。なお、定期試験は、各授業ごとに選択肢から適切なもの（言葉、数字など）を選ぶ穴埋問題です。受講生は、全問解答しなければなりません。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。参考文献もできるだけ示すように努めます。

授業計画

１　オリエンテーション
　担当：湯田雅夫　経済学部教授

２　環境問題を考える前に知っておくべきこと
　担当：加藤僖重　外国語学部教授

３　環境資源について
　担当：秋本弘章　経済学部助教授

４　江戸に学ぶ　リサイクル社会
　担当：新宮譲治　元本学非常勤講師

５　都市と環境
　担当：鈴木　隆　外国語学部教授

６　環境リスク
　担当：大内　功（株）損保ジャパン･リスクマネジメント主任コンサルタント

７　環境問題と法
　担当：一之瀬高博　法学部教授

８　環境と管理会計
　担当：香取　徹　　経済学部教授

９　地方自治と環境
　担当：伊藤為一郎　経済学部教授

１０　環境経済
　担当：浜本光紹　　経済学部助教授

１１　環境政策
　担当：塩田尚樹　　経済学部助教授

１２　先進企業のケーススタディ
　担当：未定

（秋）	全学総合講座(童話(メルヒェン)の可能性をめぐって)	担当者	矢羽々　崇

講義目標

皆さんにとって，昔話・メルヒェンとはどういうものでしょうか？　子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？　これらの物語の形式は，その単純さのせいで軽視されたりもしますが，実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく，テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に，私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり，男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。

講義概要

この講座が目標とするのは，皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン，そして文学を意識し，できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である 19 世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた 20 世紀の様相。さらに今の私たちが生きる 21 世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら，21 世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば，この講座はその役割を果たすことになります。講座は基本的に約 1 時間の講師による講義，残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。

受講生への要望

積極的に参加してくれることを期待します。

評価方法

出席(10ー20%)および学期末に行う試験(90ー80%)によって決定します。欠席が４回以上は評価の対象としません。

テキスト、参考文献

第 1 回授業で指示します。

授業計画

詳しい内容については，第１回の授業で紹介します。

１．導入（矢羽々崇：本学ドイツ語学科）
２．グリム童話の故郷ドイツ（沖島博美先生：ジャーナリスト，グリム協会理事）
３．昔話の語り口（小澤俊夫先生：むかしばなし研究所，筑波大学名誉教授）
４．昔話のメッセージ（小澤俊夫先生）
５．昔話の国際比較（間宮史子先生：白百合女子大学助教授）
６．現代日本におけるメルヒェン（宮谷尚実先生：立教大学講師）
７．グリム・メルヒェンの成立１（矢羽々崇）
８．グリム・メルヒェンの成立２（矢羽々崇）
９．メルヒェンの展開１（渡部重美先生：本学ドイツ語学科教授）
１０．メルヒェンの展開２（渡部重美先生）
１１．明治期日本における受容（矢羽々崇）
１２．パネル・ディスカッション（学生＋渡部・矢羽々）

（春）（秋）	全学総合講座(ものづくりの現場から)	担当者	上坂　卓郎

講義目標

この講座は、企業のトップマネジメント経験者による生きた企業経営の現場をやさしく講義するものである。「ものづくりの現場」というテーマにしているが、製造業だけではなく、広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。
この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て働くことを通じて社会に貢献することとは何かをつかんでもらうことも意図している。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれると思われる。
受講者には経営の基本知識を前提としたいが、１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業経営に関する知識を独習し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。

受講生への要望

- ある程度の企業や経済的な知識が前提になるので出来れば２年次以降の受講が望ましい
- 15 分以上の遅刻は認めない
- ノートを必ずとること。試験に不可欠である
- 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する

評価方法

出席状況と試験を総合して行う。後者のウェイトが高い。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する）。

授業計画

第１回　科目ガイダンス

第２回　会社のしくみ－組織、予算、取締役の責任

第３回 トヨタの強み－カンバン方式とは

第４回　農場から食卓まで－食の安全を求めて

第５回　医療産業の難しさ・面白さ－日本製薬企業のビジョンと課題

第６回　ファッションビジネスとは－アパレル産業の周辺

第７回　花王の成長戦略－アジエンス成功の秘密

第８回　総合スーパーの勝ち組－イトーヨーカ堂の強さ

第９回　中国における小売現場のダイナミズム

第１０回　ツーリズム産業のすべて－航空・ホテル・旅行代理店

第１１回　海外事業進出－アサヒビールの海外戦略

第１２回　リース業と不動産ビジネスの概要

（春）	全学総合講座（働くための基礎知識−知って得する労働問題）	担当者	斉藤　美彦

講義目標

景気回復にともない雇用情勢も好転してきている。そして、大学生の就職状況も数年前とは違ってきている。しかし若年層においては正社員の労働強化と離職率の上昇、フリーターの増加、さらには働こうとしない、教育・訓練を受けているわけでもないニートの急増も話題となっている。かつて平等社会といわれた日本においても所得格差が顕著となっているかどうかについては大きな論争点となっている。本講義においては労働をめぐる種々の問題について多様な切り口から接近し、私たちの暮らしと労働がどのように関わっているかについて考えていくこととする。

講義概要

講義は授業計画のとおり毎回ゲストスピーカーを招き行うこととする。労働組合関係者だけではなく、経営者団体代表・厚生労働省審議官・労働法学者と多彩な一流の講師から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

受講生への要望

労働問題に関する新聞記事を読んだりテレビニュースを見て、現在何が問題となっているかを自分なりに把握しておくこと。真摯な態度で受講することを希望する。

評価方法

レポートによる。

テキスト、参考文献

各回の講義において指示する

授業計画

1. 「働くための基礎知識」とは何か　斉藤美彦
2. 労働法の基礎知識（１）
   上智大学名誉教授　花見忠
3. 国際労働規準とＩＬＯ
   厚生労働省総括審議官　恒川謙司
4. 働くということの意義
   全労共協会理事長　鷲尾悦也
5. 労働安全衛生
   中央労働災害防止協会理事長　澤田陽太郎
6. 労使関係論（１）労働組合からみて
   連合会長　高木剛
7. 労働法の基礎知識（２）
   上智大学名誉教授　花見忠
8. 労使関係論（２）経営からみて
   日本経団連専務理事　矢野弘典
9. 社会保障のあり方
   連合生活福祉局長　小島茂
10. 賃金の基礎知識
    全労共協会理事長　鷲尾悦也
11. 労働時間と生活時間
    全労共協会理事長　鷲尾悦也
12. 労働組合の役割
    全労共協会理事長　鷲尾悦也

＊講義の順番は変更になることがある。

（春）	全学総合講座（心と体の健康）	担当者	田口　雅徳

講義目標

今日，科学の進歩はめざましいものがあります。それらは，理学や工学などの自然科学に限定されるものではありません。人文科学や社会科学などあらゆる分野において，日々，あらたな知識が生み出されています。そして，そうした研究成果は，わたしたちの生活に還元され，直接・間接にわたしたちのくらしに影響を与えています。本講義では，日常生活のなかの身近な問題を取り上げて,それがいかに研究され，どのような研究成果があげられているのかを紹介していきたいとおもいます。そうした講義を通して，身近なものごとを深く考え，探求することのおもしろさを知ってほしいとおもいます。本講義では，とくに，「心と体の健康」というテーマを取り上げます。本講義を通して，大学生活をよりよく過ごすための基礎知識も身につけてください。

講義概要

上述しましたように，「心と体の健康」というテーマに沿って，さまざまなゲストをお招きし，講義をしてもらう予定です。ゲストスピーカーは家政学，宗教学，心理学などの分野でご活躍されている方々であり，それぞれのゲストスピーカーにご自身の研究内容，あるいは，実践活動をお話していただき，それらの講義をもとにして「こころと体の健康」についてみなさんと議論し，一緒に考えていきたいとおもいます。

受講生への要望

遅刻，および，授業での私語は厳禁です。授業における意見発表や質問は大いに歓迎します。授業に積極的に参加してくれることを期待します。

評価方法

毎回出席を確認します。また，必要に応じてレポートの提出を求めます。それらを総合的に評価して最終評価を出します。不真面目なレポートは大幅に減点します。

テキスト、参考文献

テキストはとくに使用しません。必要な資料などは配付する予定です。参考文献は適宜紹介していきます。

授業計画

今期の授業計画は以下のとおりです。

１．授業ガイダンス（大学生のこころとからだ）
担当：田口雅徳

２．大学生活と進路選択
担当：永作稔先生（筑波大学）

３．大学生活とこころの揺らぎ
担当：大塚秀高先生（星槎大学）

４．未定
担当：未定

５．食と健康の科学
担当：赤松利恵先生（お茶の水女子大学）

６．香りと健康の科学（仮）
担当：未定

７．青少年のメディア・ライフ①
担当：木村文香先生（江戸川大学）

８．青少年のメディア・ライフ②
担当：木村文香先生（江戸川大学）

９．未定
担当：未定

１０．宗教とこころのやすらぎ
担当：鈴木晋怜先生（大正大学）

１１．未定
担当：未定

１２．まとめ（こころとからだの健康を考える）
担当：田口雅徳

※ 講義の順序やゲストスピーカーは都合により変更することがあります。

（秋）	全学総合講座(自由時間設計)	担当者	和田　智

講義目標

―　レジャーとは何か　―

「レジャーとは何か」について考える機会を持ってもらうことがこの授業の目的である。

「レジャー」は学生時代だけでなく、これから先、生涯を通じて考え、実践していく価値を持っている。このことに早く気づいてほしい。

実践としてのレジャーを知り、学問としてのレジャーを学ぶことによって、自分の現在、将来へ向けてのレジャーライフをデザインし、クオリティライフを実践していくことが可能となるだろう。

レジャーの真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしている。

講義概要

「レジャーの現場から」では、レジャーをサポートする仕事についている方々のうち、特に私たちの目に触れにくい分野から講師を招き、講師の方々の情熱、またその実践がどのように現場で行われているのかを紹介していただく。

「私のレジャー実践」では、本学卒業生で自分の夢を達成するために努力を続け、現在発展途上にある方々の実践と、そこに至るまでの経緯を本学在学中のことから語っていただく。

「レジャーとは何か」では、学問としてのレジャーを学ぶ中で、これまで見てきた実践がそのような意味を持つのかについて考えてもらい整理するための時間となるだろう。

以上の授業を経て、まとめとして個々の学生が自分の現在から将来へ向けての自由時間をデザインしていただきたい。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。授業への参加意識を向上させるために携帯電話を利用する。Web アクセスにかかわる通信料は個々に負担していただく。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

１オリエンテーション
自由時間の現状
和田　智　　獨協大学助教授
２レジャーの現場から　レジャーをサポートする
高齢者のためのレジャー
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役
３レジャーの現場から　レジャーをサポートする
高齢者のためのレジャー
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役
４レジャーの現場から　レジャーをサポートする
身障者のための義手・義足を作る
濱田美穂　株式会社啓愛
５レジャーの現場から　レジャーをサポートする
身障者のための義手・義足を作る
濱田美穂　株式会社啓愛
６レジャーの現場から　レジャーをサポートする
バリアフリースクーバダイビングを推進する
椎名勝巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役
７レジャーの現場から　レジャーをサポートする
バリアフリースクーバダイビングを推進する
椎名勝巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役
８私のレジャー実践　先輩から後輩へパワーを伝える
田中勝之・千恵　ネイチャーライター（本学卒業生）
９私のレジャー実践　先輩から後輩へパワーを伝える
多胡光純　エアーフォトグラファー（本学卒業生）
１０レジャーとは何か
松田義幸　実践女子大学教授
１１レジャーとは何か
松田義幸　実践女子大学教授
１２まとめ　あなたの自由時間設計
和田　智　獨協大学助教授

（春）	全学総合講座(NPO 論 人を変える・地域を変える・世界を変える)	担当者	高松　和幸

講義目標

企業が社会貢献活動を通じて、社会的責任を果たすことで地域住民や生活者から支持される。win&win の関係づくりが大切な時代が到来しました。
アメリカでは、ワールドコムやエンロンの巨額不正経理疑惑、日本に目を転じれば、これまた食品偽装事件や原子力発電所のトラブル隠しが発覚、このところ企業の信頼を揺るがす事件が相次いでいる。
企業はモノやサービスを提供するだけではいけない。透明性を高め、社会に開かれた企業でなければならないことはいうまでもない。
今こそ、企業が社会的貢献を通じて、社会的責任を果たすことが大切な時代となりました。
本講義では、この意味から企業の社会貢献活動を通じて、実際のさまざまな企業の取り組みについて、臨場感あふれる様子を紹介することに主眼をおきました。登壇する企業は、現在、我が国の先端的な社会貢献活動の実績もあり、受講生にとっては、またとない貴重な体験となります。
授業を通じて、地域や社会を考え、そして世界を変えることを各講師陣から学びたいと思います。

講義概要

ここで「企業の社会的責任」というコンセプトを説明すると、その歴史は意外と長く、欧米における 20 世紀初頭の教会による宗教的倫理観からの企業活動評価や 20 世紀後半の公民権運動やベトナム反戦運動、反アパルトヘイト運動にその起源を辿ることができます。
つまり企業活動は、単に売上や株主利益など経済的パフォーマンスを達成すれば良しとされるものではなく、社会的価値観やコンプライアンス、環境や地域社会への配慮、労働者の生活保全や人権、男女機会平等など、企業も社会を構成する一員として多様なステイクホルダー（社会構成員）に対して責任ある行動をとることが求められる、という考え方です。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　３０％
レポート　３０％
その他（ノートなど）　４０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

第１回(4/10)　ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ　高松和幸　経済学部経営学科教授

第２回(4/17) NEC ｿﾌﾄの社会貢献活動の視点と取り組み
NEC ｿﾌﾄの社会貢献活動の理念、方針および具体的な活動展開
NEC ｿﾌﾄ㈱　総務部長　中戸川　浩

第３回(4/24) コスモ石油の社会貢献活動
NPO との協働による社会・環境との共生、新しい価値の創造
コスモ石油㈱　ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ部長　赤松邦春

第４回(5/1) 味の素ｸﾞﾙｰﾌﾟ社会貢献活動としての国際協力ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑについて
社会貢献ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとして実施中の国際協力ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの実際を説明し、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな社会的課題に対する企業の役割と責任について考える
味の素㈱ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ　CSR 推進本部　CSR 部専任部長　長谷川公彦

第５回(5/8)　沖電気の社会貢献活動
「できることからはじめよう」をｽﾛｰｶﾞﾝに、会社の資源（人材、資産、資金）を活用した社会貢献活動の実践。社員を巻き込んだ活動が活動を色分けする
沖電気工業㈱　ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ総務部　社会貢献推進室長　辻　秀和

第６回(5/15)　企業の社会性を高めるための取り組み
NPO と連携し、企業・社員が地域でいかに社会との接点を持つか、動機付けと継続のしくみを紹介する
ｷﾘﾝﾋﾞｰﾙ㈱　CSR・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ本部
社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｸﾞﾙｰﾌﾟ　社会環境室長　山村宣之

第７回(5/22) 三菱東京 UFJ 銀行の社会貢献活動について
地域社会、地球環境との共存共栄のために私たちが果たしていく役割
㈱三菱東京 UFJ 銀行　企画部　CSR 推進室調査役　植村直樹

第８回(5/29) JT の継続的な社会貢献活動
社会の一員として、社会に歓迎される、良き企業市民を目指し、社会・未来世代へのﾃﾞｨﾗｲﾄを実現する継続的な取り組み
日本たばこ産業㈱　ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ ﾘﾚｰｼｮﾝ部長　田中泰行

第９回(6/5) NPO と NGO の誕生とﾌｨﾗﾝｿﾛﾋﾟｰ
日本ﾌｨﾗﾝｿﾛﾋﾟｰ協会　理事長　高橋陽子

第 10 回(6/12) 小売業の特性を活かした社会への貢献活動
お客様に近いという特性を活かして行っている「地域に溶け込んだ」、「お客様とともに行う」社会への貢献活動を紹介する。
㈱ダイエー　総務人事部　お客様サービス部

第 11 回(6/19) NTT データの社会貢献活動について
企業の社会貢献分野における IT（ﾌﾞﾛｸﾞ、ｺﾐｭﾆﾃｨ）活用
㈱NTT ﾃﾞｰﾀ　ﾋﾞｼﾞﾈｽｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ本部ＥＣｿﾘｭｰｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽﾕﾆｯﾄ　ＥＣｿﾘｭｰｼｮﾝ担当　課長代理　友野健一

第 12 回(6/26)　わが社の社会貢献活動の視点（予定）
富士ゼロックス㈱　社会貢献活動担当　清水あつ子

（春）	全学総合講座(国際協力の理念と実践)	担当者	浦部　浩之

講義目標

獨協大学に在学している皆さんのなかで「国際協力」に興味を持っている人はきっと多いことと思う。将来、そういう分野で仕事をしてみたいという人もいるだろうし、在学中から「草の根」の活動に関わっている人もいるかもしれない。また、自分自身では行動しなくとも、紛争や貧富の格差といった問題やＰＫＯやＯＤＡなどの枠組みについて理解し、国際協力のあり方について考えるのは、先進国で暮らす我々自身の生き方を見つめるうえでも極めて重要なことである。

この授業では、政府、公的団体、自衛隊、国際機関、ＮＧＯといった様々な分野・領域で具体的に国際協力業務に従事している方々、またそうした現場をよく知るジャーナリストの方々をお招きし、それぞれのお立場でのお話を伺うこととした。

ぜひ「国際協力」の理念や現実、成果や困難さについて知り、現代世界を観る眼を研ぎ澄ましてほしい。

講義概要

右に掲げるとおり、すべて学外の実務家・専門家・ジャーナリストの方々による講義である。それぞれの方には、行政の立場から、国内の現場から、あるいは発展途上国の現場から、ジャーナリストの視点から、大学生にぜひ伝えたいと思われることを自由にお話し頂くようお願いしてある。

受講生への要望

最大のねらいは視野を広げることにあるが、授業科目のひとつなので単位認定の試験（下記）も行う。それを念頭にノートを取っておくことを勧める。

評価方法

マークシート式の期末試験を実施する。欠席・遅刻が３割を超えている者には受験をしても単位を認定しない（詳細は初回授業で説明）。

テキスト、参考文献

各講義担当者から必要に応じて紹介する。

授業計画

１．はじめに
「授業の概要説明 ―国際協力とは？」
本学（言語文化学科）　浦部浩之

２．政府（１）
「国連平和維持活動(ＰＫＯ)と日本の平和協力」
内閣府国際平和協力本部事務局　内閣府事務官

３．政府（２）
「政府開発援助(ＯＤＡ)と日本の開発協力」
外務省経済協力局　外務事務官

４．公的団体（１）
「開発とその連鎖 ―ブラジル大型農業開発協力事業の教訓」
国際協力機構(JICA)中南米部調査役　本郷 豊

５．公的団体（２）
「国内の人造り事業」
日本国際協力センター(JICE)総務部職員･研修監理員

６．自衛隊
「自衛隊の国際活動」
元航空自衛隊航空幕僚長　遠竹郁夫

７．国際機関（１）
「国連による開発協力とＵＮＤＰ」
国連開発計画(UNDP)広報･市民社会担当官　三上知佐

８．国際機関（２）
「開発金融機関の役割と国際協力」
米州開発銀行(IDB)駐日事務所長　鹿戸丈夫

９．ＮＧＯ（１）
「平和構築活動の現場 ―選挙監視・除隊兵士の社会復帰」
インターバンド事務局長代行　松浦香恵

10．ＮＧＯ（２）
「安全な水の確保 ―パラグアイ給水プロジェクトの現場」
プラン･ジャパン ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ･ｵﾌｨｻｰ　山形 文

11．ジャーナリストの視点から（１）
「現代ラテンアメリカ情勢」
元共同通信編集委員　伊高浩昭

12．ジャーナリストの視点から（２）
「国際協力と国連、ＮＧＯ」
日本経済新聞編集委員　原田勝広

なお、講義の順番は未定（初回の授業でスケジュールを配布する）。

（秋）	全学総合講座(多様な「南」の世界を知る)	担当者	浦部　浩之

講義目標

獨協大学の外国語学部・経済学部・法学部に在学している皆さんのうちの何人かは発展途上国を中心テーマとして研究を進めていくかもしれないが、かなり多くの人は日本、あるいは欧米先進国の言語や文化、歴史や文学、経済や社会、法律や政治を中心に勉強していくことになるのだと思う。

しかし世界の人口の約８割は、「南」の世界（発展途上地域）に暮らしている。

この授業では、世界各地にある発展途上国を幅広く取り上げてみることにした。インドやブラジルのような大国もあるし、トーゴやボリビアのような小国も選んである。

取り上げる題材もさまざまであるが、基本的には21 世紀を見据えての、現代社会の諸問題が中心である。

ぜひ多様な「南」の世界に接し、視野を広げてほしい。

講義概要

右に掲げるとおりの 11 の国について取り上げる。すべてフィールドワーク（現地での調査・研究・実務）の経験を豊富にお持ちの学外の専門家（政治学、経済学、社会学、文化人類学、地理学、外交官）による講義である。

受講生への要望

最大のねらいは視野を広げることにあるが、授業科目のひとつなので単位認定の試験（下記）も行う。それを念頭にノートを取っておくことを勧める。

評価方法

マークシート式の期末試験を実施する。欠席・遅刻が３割を超えている者には受験をしても単位を認定しない（詳細は初回授業で説明）。

テキスト、参考文献

各講義担当者から必要に応じて紹介する。

授業計画

１．はじめに
「授業の概要説明 ―『南』の世界への視点」
本学（言語文化学科）　浦部浩之

２．東南アジア（１）　フィリピン
「昔は『先進国』、今は途上国」
アジア経済研究所　鈴木有理佳

３．東南アジア（２）　ベトナム
「一党体制下の多様な社会」
早稲田大学(兼任)　中野亜里

４．東南アジア（３）　カンボジア
「内戦からの復興と仏教」
愛国学園大学　高橋美和

５．西南アジア（１）　インド
「世界最大の民主主義とカースト社会」
筑波大学　三輪博樹

６．西南アジア（２）　イラン
「中東地域再編の嵐のなかで」
アジア経済研究所　鈴木 均

７．西南アジア（３）　トルコ
「世俗主義と議会政治」
アジア経済研究所　間 寧

８．アフリカ（１）　トーゴ
「長期独裁政治と権力の世襲」
筑波大学　岩田拓夫

９．アフリカ（２）　モザンビーク
「社会的多様性と政治」
敬愛大学　矢澤達宏

10．ラテンアメリカ（１）　ベネズエラ
「模索する中南米と改革の行方」
前在ベネズエラ日本国特命全権大使　伊藤昌輝

11．ラテンアメリカ（２）　ボリビア
「立ち上がる先住民」
前在ボリビア日本大使館専門調査員　藤田 護

12．ラテンアメリカ（３）　ブラジル
「北東部の風土と貧困の地域構造」
東京学芸大学　矢ケ崎典隆

なお、講義の順番は未定（初回の授業でスケジュールを配布する）。

（春）	全学総合講座（食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」）	担当者	青柳　多恵子

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。

受講生への要望

我が家の味・おふくろの味を調査（写真・レシピ）を提出

評価方法

毎回調査とＰＣによる回答とする。
出席

テキスト、参考文献

プリント適宜配布

授業計画

1　4/11　青柳　「ガイダンス」

2　4/18　青柳　「現代日本の食育について」
給食の問題点

3　4/25　朝倉敏夫「食の文化変容」
日本の焼肉と韓国の刺身

4　5/ 2　青柳　「現代日本の食育について」
味覚の育成と家庭

5　5/ 9　土屋桜子「料理と酒」

6　5/16　井上一郎「アジアの食文化１」
インドと料理

7　5/23　辻　「アジアの食文化２」
ルーツをもとめて

8　5/30　辻　「文化交流の成果」
日本のラーメン

9　6/ 6　和田智　「キャンプと食事」
野外での楽しみ方

10 6/13　武内修邦「日本の伝統的食文化」
普茶料理と修行（長興山紹太寺住職）

11 6/20　武内修邦「日本の伝統的食文化２」
茶道と懐石料理

12 6/27　青柳　「現代食事情の問題点」
食事のマナー

（秋）	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	青柳　多恵子

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。

受講生への要望

我が家の味・おふくろの味を調査（写真・レシピ）を提出

評価方法

毎回調査とＰＣによる回答する。
出席

テキスト、参考文献

プリント適宜配布

授業計画

1　9/26　青柳　「食文化と人間」
動物の餌と人間の食事の違い

2　10/3　未定　「食事（暮らし）の歴史学」
食事作法の背景にあるもの

3　10/17　未定　「世界の食文化」
韓国の宮廷料理

4　10/24　未定　「世界の食文化」
中国の食事情

5　10/31　未定　「世界の食文化」
極寒の地の食と健康

6　11/7　未定　「世界の食文化」」
グローバリズムな食の功罪

7　11/14　未定　「世界の食文化」」
肉食文化と魚食文化

8　11/21　未定　「日本の食文化」
日本の東西の食文化

9　11/28　未定　「日本の食文化」
故郷の家庭料理と給食

10 12/5　未定　「日本の食文化」
祭りと行事のおもてなし料理

11 12/12　未定　「日本の食文化」
食とからだのエコロジー

12 6/27　青柳　「日本の食文化」
食卓とくらしの時代変容

（春）（秋）	全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）	担当者	町田喜義

講義目標

本講座は、本年度から開設される本学卒業生による後輩諸君への熱きメッセージです。

① 自分自身を知る：自己発見
② 異なった環境でどの様に生きるか：適応力
③ 近未来を考える：職業選択
④ 人間関係を構築する：個と集団の均衡
⑤ 自己の物差しの構築：理論と実践

上記は一例であるが、これらを通して人間形成に役立てること。

講義概要

実業界、学会、法曹界、教育界、官界、政界など各地域・社会で、活躍する卒業生を皆さんに紹介します。一人一人が語るメッセージに耳を傾けて、同じキャンパス・ライフを共有しながら絆を感じてください。

皆さんのキャリア・デザイン（career design）に役立つ話題が満載です。例えば、在学中の過ごし方、人生の展望、自己発見、社会適応、異文化間コミュニケーション、職業選択、政治と経済、生活と法律、外国語学習、あるいは失敗から何を学ぶか、その他多くの話題です。

毎週担当者が交代で教壇に立ちます。

受講生への要望

・ すべて出席することを目指してください。
・ 遅刻をしないこと（も目指してください）。

評価方法

・ 出席点：３６％
・ レポート：２編（６４％）
・ その他（詳細は最初の授業で伝えます）

テキスト、参考文献

各担当者が指示します。

授業計画

（春学期）

１．本講座の概要など―町田喜義（英語学科６８年卒）
２．ことばと文化―竹中　豊（英語学科６９年卒）
３．ドイツ事情―中田修二（ドイツ語学科６８年卒）
４．職業選択について―服部千賀子（９２年英語学科卒）
５．中国と私―小針俊郎（７１法律学科卒）
６．
７．
８．
９．
１０．
１１．
１２．

※　現段階（２月末）ではテーマや担当者が未決定です。履修登録までには何らかの方法で情報をお知らせします。

（秋学期）

※春学期末には予定をお知らせします。

（秋）	全学総合講座（さまざまな視点からのアート）	担当者	高松　和幸

講義目標

本学と協定を結んでいる４大学（獨協大学・文教大学・日本工業大学・埼玉県立大学）のコラボレーションによる授業です。
講義目標として、日本の美しさって、いったい何なのだろうか。それが中国や韓国、あるいは欧米諸国とは、「違う」ということは実感します。しかしどこにその特色があるのか、その中味は何なのか改めて問われると、答えることができません。学校の教科書にも、この肝心のことは書かれていません。
幽玄とか枯淡、わび・さび等といわれるが、しかしそれでは、外国人にはわからないでしょう。わたしたちも何となく分かった気になっているだけで、そのじつ、何も分かっていないのも事実です。
「日本の美しさとは何か」について、少しでも解明したいと思い、この講義を開設しました。
4 大学の協働による初めての試みでもあり、この大きな問題について、受講生とともに考えて参りたいと思います。

講義概要

２００５年元旦のＮＨＫ総合テレビで、「日本の美しさとは何でしょうか」とキャスターが、ニューヨーク在住の日本画家、千住博氏に尋ねたとき、その回答が的を得ていますので紹介します。
「それは、静けさと華やかさの共存だと思います。静けさと華やかさが一緒になっている美しさは、他の国にはありません」と、じつに明快です。
夜のしじまに、はらはらとふる桜の「花びら」や、勇壮な富士の姿。日本の美しさには音がない。茶の作法も無言、美しいコミュニケーションです。
日本語の美しさ、用の美しさなど、その一端が講義を通して紹介できれば幸いです。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　３０％
レポート　３０％
その他（ノートなど）　４０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

４大学（獨協大学・文教大学・日本工業大学・埼玉県立大学）の共同授業

各大学で取り扱うテーマ（案）

獨協大学：ことばの美

文教大学：表象芸術美　イメージ・舞台芸術

日工大：機能美　工業デザイン・建築

埼玉県立大学：未定

１大学が各３～４回程度担当し、リレー方式でつなぎ合計12 回の授業。

原則１回完結のオムニバス方式。

最終回は、「まとめの授業」も予定。

	哲学 a(哲学の諸問題 1)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのはどういうことなのか」、「なぜ人を愛するのか」、「自己自身であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」などという問題だからです。今学期は特にこれらの問題について考えたいと思います。著名であり、なおかつ比較的易しい哲学文献を読みながら、ともに考えるという講義形式になりますので、受講する場合には自分自身の問題として考える姿勢で臨んでください。	1. プラトンの『饗宴』における《エロース》の概念について 2. 引き続き、エロースについて 3. 引き続き、エロースについて 4. フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます 5. 前回の続き 6. レッシング『ヨハネの遺言』 7. ワルター・トロビッシュ『自分自身を愛する』を取り上げます 8. 前回の続き 9. サルトルの『実存主義とは何か』を取り上げ、「主体的であること」「自由であること」などについて考えます 10. 上の問題を時代とのかかわりに重点を置いて考える予定です 11. 前回の続き 12. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に資料を配布します	試験を行ないます

	哲学 b(哲学の諸問題 2)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
思想はその生き方に反映します。どのような生き方をしたかを見れば、その人がどのような考え方・価値観を持っていたかがわかります。このような観点から、今学期は、ソクラテス、キルケゴール、ニーチェの生涯をその思想と関連させながら、見ていきます。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. ソクラテスの生涯、プラトンの著作に描かれたソクラテスの言動 2. 前回の続き――『ソクラテスの弁明』 3.前回の続き――『クリトン』 4. 前回の続き――『パイドン』 5. キルケゴールの生涯――婚約破棄を中心に 6. キルケゴールの思想[1] 7. キルケゴールの思想[2] 8. キルケゴールの思想[3] 9. ニーチェの生涯 10. ニーチェの思想――神の死 11. ニーチェの思想――ニヒリズムの問題永遠回帰と超人 12. ニーチェの思想――永遠回帰と超人
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に資料を配布します	試験を行ないます

	倫理学ａ(倫理の基本について考える)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。講義では、倫理についての「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。その上で、倫理思想の歴史を簡単にたどり、現代倫理を代表する自由主義と功利主語をとりあげる。	1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)「倫理」という言葉 4)規範としての倫理（1）……習俗と倫理 5)規範としての倫理（2）……法と倫理 6)価値としての倫理（1）……事実と価値の問題 7)価値としての倫理（2）……欲求から倫理的価値へ 8)行為への問いかけ 9)倫理思想史を振り返る（1） 10)倫理思想史を振り返る(2) 11)功利主義 12)自由主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

	倫理学ｂ(環境と生命の倫理)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。この両者を見据えながら、伝統的な人間観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境論理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。	1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況……医療化社会 3)生命倫理の前線(1)　医療倫理から生命倫理へ 4)生命倫理の前線(2)　中絶、生殖医療の問題 5)生命倫理の前線(3)　安楽死問題 6)生命倫理の前線(4)　臓器移植の問題 7)ケアの倫理について 8)環境倫理の世界(1)　生態系の価値を中心にする思想 9)環境倫理の世界(2)　自然物の権利を中心とする思想 10)環境倫理の世界(3)　地球的公正の問題 11)風土というとらえ方と環境倫理 12)まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

	社会思想史 a(魔女裁判と現代)	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。そのような現象をどう見るか、自分なりの見方ができるようになることが目標である。 〔講義概要〕 これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近世の錬金術思想において分析する。さらに、これを日本の江戸時代から明治にかけての絵画と西洋の絵画等との比較を通して、日本人の社会思想と自我意識を検討する。 〔受講生への要望〕 これは単なる講義形式の授業ではない。質問をされて、自分でも考えることが要求されるので、その覚悟で受講すること。	１．講義概要の説明。 ２．異端審問成立以前のヨーロッパ社会。 ３．異端審問制度の成立。 ４．異端審問制度の変質。 ５．異端審問から魔女裁判へ。 ６．異端者と魔女。 ７．映画「バラの名前」の鑑賞１ ８．映画「バラの名前」の鑑賞２と映画中の中世的諸現象の説明。 ９．ヨーロッパの中世の精神的・社会的状況と魔女裁判の位置づけ。 10　魔女裁判の終焉とヨーロッパにおける自我意識の変遷。 11　現代と魔女裁判。 12　現代に残る魔女裁判的現象。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	試験と授業貢献度

	社会思想史 b(錬金術と現代)	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。そのような現象をどう見るか、自分なりの見方ができるようになることが目標である。 〔講義概要〕 これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近世の錬金術思想において分析する。さらに、これを日本の江戸時代から明治にかけての絵画と西洋の絵画等との比較を通して、日本人の社会思想と自我意識を検討する。 〔受講生への要望〕 これは単なる講義形式の授業ではない。質問をされて、自分でも考えることが要求されるので、その覚悟で受講すること。	１．講義概要の説明。 ２．錬金術思想と哲学 ３．中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 ４．中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 ５．中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 ６．中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 ７．中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 ８．錬金術と現代の問題。 ９．ルネッサンス期以降の遠近法と近代科学。 10　芸術作品に見られる世界観と自我意識（１） 11　芸術作品に見られる世界観と自我意識（２） 12　できれば、自我意識についてのディスカッション。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	試験と授業貢献度

	社会思想史 a(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期（a）では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗、またそれの変革のなかで社会認識の新しい軸が形成される時期である。	1)「社会」とは何だろうか 2)「市民社会」の原型と近代的再生 3) ルネッサンスと都市 4) マキャベリと『君主論』 5) ユートピアという思想 6) トマス・モアと『ユートピア』 7) 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 8) ルターの改革運動と神学 9) ルターの経済思想。 10) カルヴィニズムの宗教思想 11) カルヴィニズムと近代的エートス 12) まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

	社会思想史 b(市民的社会像の確立期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業が思想家達によってはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりにして社会契約という考え方が生まれ、社会は個人の自然権を守るための装置として認識されることとなる。同時に、その自然な人間の活動が経済のレベルでとらえられ、国家とは区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。	1) 西欧自然法思想の流れ 2) 社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 3) 社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 4) 個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 5) 個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 6) 個人と社会の一体化(1)……フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 7) 個人と社会の一体化(2)……ルソーの歴史認識とデモクラシー 8) 社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 9) 社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社会思想 10) 社会的に生きる(1)……社会主義の思想 11) 社会的に生きる(2)……マルクスの思想 12) まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

	心理学ａ(知覚･認知)	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。 心理学ａ（知覚・認知）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学ｂ（行動・個性）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス　心理学では心をどのように理解しようとしたか 2. 個体と環境　心理学のもののとらえ方 3. 物理的世界と心理学的環境 4. 感覚の世界 5. 主観のものさし 6. まとまりのある知覚世界(1) 7. まとまりのある知覚世界(2) 8. 認知的判断 9. 判断と意志決定 10. 態度形成とダイナミクス 11. 社会的現実の構築 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 手軽な入門書として以下の２冊を紹介します。 大山　正ほか（著）『心理学のあゆみ（新版）』有斐閣新書 野口　薫ほか（著）『心理学入門（新版）』有斐閣新書	定期テストと随時行う出席調査を兼ねる小レポートなどによります。

	心理学ｂ(行動･個性)	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。また、個性はどのように理解され、それはどのように測定されてきたかを考えます。 心理学ｂ（行動・個性）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学ａ（知覚・認知）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス　行動を理解するために 2. 環境への適応様式 3. 生得的行動・獲得的行動 4. 遺伝的に規定された行動 5. 行動の変容（１）レスポンデント行動 6. 行動の変容（２）オペラント行動 7. 行動分析学とその応用 8. 個性をどのように理解するか 9. パーソナリティをいかに測定するか 10. 知能をいかに測定するか 11. パーソナリティのダイナミクス 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 手軽な入門書として以下の２冊を紹介します。 大山　正ほか（著）『心理学のあゆみ（新版）』有斐閣新書 野口　薫ほか（著）『心理学入門（新版）』有斐閣新書	定期テストと随時行う出席調査を兼ねる小レポートなどによります。

	心理学ａ(人間の行動･認知･感情の共通法則)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介します。心理学の視点から大学生を見ていると、１）自分の価値や個性を認め、自信を持つ。２）友人関係を大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があると、先ず言いたいと思います。また、心理学は自分を知ることが研究目的の１つであり、且つ、その自分が研究対象でもあるという、学問として特異な特色があります。 この授業では、１）自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、２）心理学の視点から、自分の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直すこと、３）心理学から考えた、将来の職業（仕事）と自分の関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。 前期の「心理学ａ」では、教科書の前半に当たる、認知、行動、モティベーションの３側面に焦点を当てる予定です。	１．ヒューマン・サイエンスとしての心理学：歴史、研究対象と方法、動向などの心理学への導入。 ２．感じる／考える（感覚と知覚・認知）：人間の感覚受容器や脳、感覚と知覚の仕組みや特徴について。 ３．感じる／考える（つづき）：顔や原因の認知（原因帰属）、認知や記憶の情報処理モデルなど。 ４．感じる／考える（つづき）：環境心理学、工業デザインなどについて。 ５．動く／変わる（行動と行動獲得・変容）：学習の基礎、条件づけ、強化の随伴性、モデルを媒介とした観察学習など。 ６．動く／変わる（つづき）：進化と人間行動、利他行動や協力、殺人と自殺等について。 ７．動く／変わる（つづき）：教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習と学習環境デザインなどについて。 ８．もえる／動かす（モティベーション）：動機づけの基礎概念、生理的ホメオスタシス、学習動機などについて。 ９．もえる／動かす（つづき）：達成動機と対人社会性動機。対人行動／責任行動などについて。 １０．もえる／動かす（つづき）：欲求不満、葛藤、ストレス。無気力（学習性無力感）などについて。 １１．もえる／動かす（つづき）：内発的動機づけと意欲を高める自己原因性、有能感などについて。 １２．まとめと残された問題。
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版（予定）	試験で評価する。出席は前提だが、出席は学生の権利と考える。従って、出欠は取らない。

	心理学ｂ(人間の個性･多様性理解)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介します。心理学の視点から大学生を見ていると、１）自分の価値や個性を認め、自信を持つ。２）友人関係を大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があると、先ず言いたいと思います。また、心理学は自分を知ることが研究目的の１つであり、且つ、その自分が研究対象でもあるという、学問として特異な特色があります。 この授業では、１）自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、２）心理学の視点から、自分の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直すこと、３）心理学から考えた、将来の職業（仕事）と自分の関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。 後期の「心理学ｂ」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ、発達、社会心理学に焦点を当てる予定です。	１．後半の導入：前期のまとめと導入。後期の視点についてなど。 ２．きわだつ／できる（パーソナリティ）：性格検査から何が言えるのか。何故そう言えるのか。 ３．きわだつ／できる（つづき）：パーソナリティ理論は多様な人間性のモデルである。 ４．きわだつ／できる（つづき）：知能とは。知能と創造性の違い。対人関係の社会的・スキルとは。 ５．育つ／育てる（発達）：ビッグネームの多様な発達理論。生涯発達視点など ６．育つ／育てる（つづき）：生育初期の重要性。アタッチメントとは。 ７．育つ／育てる（つづき）：青年期のアイデンティティ。発達支援、世代間伝達などについて。 ８．育つ／育てる（つづき）：高齢化社会。生き甲斐と有能感。well-beingとは何か。 ９．かかわる／競う（社会）：社会心理学的自己の視点とは。自己開示／自己提示とは。 １０．かかわる／競う（つづき）：集団と個人、変革期のリーダーシップとは何か。 １１．かかわる／競う（つづき）：態度と態度変化。説得的コミュニケーションなどについて。 １２．まとめ：各人の違いを認めたうえで、健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、心理学から何が言えるか。どんな課題が残されているか。
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版（予定）	試験で評価する。出席は前提だが、出席は学生の権利と考える。従って、出欠は取らない

	言語学ａ(一般言語学)	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では言語学の基本概念を確認しつつ、主な対象言語として英語・スペイン語・日本語を取り上げる。 授業は３回を１セットとし，１回目は英語やスペイン語等を材料とし、２回目は，日本語を中心にして当該の問題をあつかう。そして，３回目は，前２回の授業を材料として，議論を整理するとともに，学生諸君からの質問をとりあげ，それぞれの個別の問題を議論していく。 教員はできるだけさまざまの言語資料を提供したいとかんがえている。学生諸君には，質問や議論など，授業に積極的に参加されることが望まれる。 なお、スペイン語は材料であり、学習していることは必須条件ではない。	1　ガイダンス 2　音声音韻論その１～英語やスペイン語など 3　音声音韻論その２～日本語など 4　音声音韻論その３～比較検討・質問と議論 5　形態論その１～スペイン語・英語など 6　形態論その２～日本語など 7　形態論その３～比較検討・質問と議論 8　統語論その１～スペイン語や英語など 9　統語論その２～日本語など 10 統語論その３～比較検討・質問と議論 11 春学期のまとめ・その１ 12 春学期のまとめ・その２
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要なものについては，授業中に指示する。	期末試験によって評価する。

	言語学ｂ(一般言語学)	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
言語学ａにひきつづき，一般言語学として各種の問題をとりあげる。 基本的な授業の方法は春学期の「言語学ａ」に準ずる。 授業は３回を１セットとし，１回目は英語やスペイン語等を材料とし、２回目は，日本語を中心にして当該の問題をあつかう。そして，３回目は，前２回の授業を材料として，議論を整理するとともに，学生諸君からの質問をとりあげ，それぞれの個別の問題を議論していく。 教員はできるだけさまざまの言語資料を提供したいとかんがえている。学生諸君には，質問や議論など，授業に積極的に参加されることが望まれる。 なお、スペイン語は材料であり、学習していることは必須条件ではない。	1　ガイダンス 2　意味論語用論その１～スペインや英語など 3　意味論語用論その２～日本語など 4　意味論語用論その３～比較検討・質問と議論 5　社会言語学その１～スペイン語・英語の言語社会 6　社会言語学その２～日本語の言語社会 7　社会言語学その３～比較検討・質問と議論 8　比較言語学その１～欧印語族など 9　比較言語学その２～シナ・チベット諸語とアルタイ語族 10 比較言語学その３～比較検討・質問と議論 11 秋学期のまとめ・その１ 12 秋学期のまとめ・その２
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要なものについては，授業中に指示する。	期末試験によって評価する。

	言語学ａ(母語の修得と日本人)	担当者	桂　千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、実に、無意識に母語を身につけており、言語能力のメカニズムを意識することは殆ど不可能である。しかし、遺伝子や脳の研究によって、様々なことが明らかにされ、また、乳幼児、あるいは胎児の研究によって、母語習得の実態も明らかにされてきている。 それらの成果を学びながら、自分自身のコトバを見つめ、コトバを通して、自分を見つめてもらいたい。	1. コトバはなぜ通じるのか① ―表現と理解 2. コトバはなぜ通じるのか② ―意識するということ 3. コトバが通じるのは本能か① ―遺伝子、脳 4. コトバが通じるのは本能か② ―赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション 5. コトバが通じるのは本能か③ ―子どものことば 6. ソシュールの言語理論① 7. ソシュールの言語理論② 8. ソシュールの言語理論③ 9. 自分のコトバを見つめる －日本人の母語意識 10. コトバと文化① 11. コトバと文化② 12. まとめと質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示	テストおよび出席率

	言語学ｂ(コトバの構造と文法観)	担当者	桂　千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
普段意識していない日本語のルールについて、自分なりの分析ができるようにする。 いくつかの方法論について、実際に例文を作って自分で検証していく。 一つ一つについて、文の意味、用いているルール、その文が発話された意図について考えられるようにする。	1. 頭の中の文法 ―日本語学習者の誤用例から 2. 日本語の「時」の表現① ―絶対テンス 3. 日本語の「時」の表現② ―相対テンス 4. 日本語の文章の構造 ―「文」と「節」その１ 5. 日本語の文の構造① ―コト 6. 日本語の文の構造② ―ムード 7. 日本語の文の階層構造① ―南不二男による４つの分類① 8. 日本語の文の階層構造② ―南不二男による４つの分類② 9. 日本語の文の階層構造 ―陳述論争 10. アスペクト 11. アスペクト 12. まとめと質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示	テストおよび出席率

	文学ａ(恐怖の日本文学)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 〔講義概要〕 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 〔受講生への要望〕 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	恐怖の現代文学 ①　恐怖の現代文学のアウトライン ②　③　④ 伝統的手法による恐怖の造形 荒俣宏。京極夏彦。坂東眞砂子。ほか。 ⑤　⑥ 超自然的事象の題材からの造形 梅原克文。鈴木光司。瀬名秀明。ほか。 ⑦　⑧ 心理学的な題材からの造形 貴志祐介。桐野夏生。ほか。 ⑨　⑩ 社会派ミステリー 宮部みゆき。東野圭吾。ほか。 ⑪　⑫ スプラッター。パズラー。ほか。 ⑬以降 総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。定期試験。

	文学ｂ(癒しの日本文学)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 〔講義概要〕 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 〔受講生への要望〕 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	癒しの現代文学 ①　癒しの現代文学のアウトライン ②　③　④　⑤ 人間関係による癒しの造形 【家族編・友人編・恋人編】 重松清。恩田陸。浅田次郎。市川拓司。村上龍。 村上春樹。ほか。 ⑥　⑦ 日常のリセットによる癒しの造形 庄司薫。宮本輝。山田詠美。ほか。 ⑧　⑨ 笑いによる癒しの造形 奥田英朗。佐藤多佳子。ほか。 ⑩　⑪ タイムスリップによる癒しの造形 北村薫。浅田次郎。佐藤正午。宮部みゆき。ほか。 ⑫ 美しい生き方による癒しの造形 藤沢周平。浅田次郎。ほか。 ⑬以降 総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。定期試験。

	文学 a(スペイン文学)	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
近代スペイン文学の名作を解説する。 最後にドン・キホーテも解説する。	１　短篇集　「イワシの埋葬から」ベッケル ２　アソリン ３　アソリン ４　アソリン ５　クラリン ６　クラリン ７　ロルカ ８　ロルカ ９　ドン・キホーテ １０　ドン・キホーテ １１　〃 １２　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
野々山　真輝帆編「イワシの埋葬」 ロルカはプリントを用いる。 セルバンテス「ドン・キホーテ」前篇（岩波文庫）	出席とレポートによる。

	文学 b(ラテンアメリカ文学)	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカ文学の二つの大きな流れ、モデルニズモと魔術的レアリズモの生んだ名作を解説する。	１　短篇集から　ルベン・ダリオ ２　アマード・ネルボ ３　クレメンテ・パルマ ４　バレット ５　キローガ ６　キローガ ７　キローガ ８　オネッティ ９　アレオラ １０　カルペンティエール・コルタサル（プリント） １１　ボルヘス（岩波文庫） １２　ボルヘス（　〃　）
テキスト、参考文献	**評価方法**
野々山　真輝帆編「ラテンアメリカ短篇集」 ボルヘス「伝奇集」	出席とレポートによる。

	文学 a(日本文学－奈良時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　日本の古典文学史は、上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 　奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話・伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話・風土記の水江の浦島子の伝説を題材として、上代と現代の人々の考え方（特に自然観）の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代のファンタジーの作品として、宮崎駿の「もののけ姫」についても扱うことを予定している。 　なお、前年度の「文学 a（日本文学－上代から中古前期）とは内容が重なるものなので、受講できない。	1はじめに 2ヤマタノヲロチ神話を読む① 3ヤマタノヲロチ神話を読む② 4ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5宮崎駿「もののけ姫」を見る① 6宮崎駿「もののけ姫」を見る② 7宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 8ギルガメシュ叙事詩を読む 9水江の浦島子伝説を読む① 10水江の浦島子伝説を読む② 11水江の浦島子伝説を読む③ 12まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

	文学 b(日本文学－平安時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　日本の古典文学史は、上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 　平安時代の文学テクストの代表的なものは、古今和歌集・伊勢物語。枕草子・源氏物語・平家物語である。この中で、古今和歌集・枕草子は時間の関係上取り扱わない。取り扱う作品は、伊勢物語における業平の二つの罪、源氏物語における光源氏の罪、平家物語における平清盛の罪についての物語である。この三つの物語を通して、中古と現代の人々の考え方（特に罪についての考え方）の違いについて話をしていきたい。 　なお、前年度の「文学 b（日本文学－中古後期から現代）とは内容が重なるものなので、受講できない。	1はじめに 2伊勢物語を読む① 3伊勢物語を読む② 4伊勢物語を読む③ 5源氏物語を読む① 6源氏物語を読む② 7源氏物語を読む③ 8源氏物語を読む④ 9平家物語を読む① 10平家物語を読む② 11平家物語を読む③ 12まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

	歴史学 a(「15 年戦争」をどうとらえるか)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。	1　8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　真珠湾からか、コタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　加害の問題①―731 部隊とは何か 6　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 7　加害の問題③―強制連行と従軍慰安婦 8　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　兵士と民衆③―荷担と抵抗をめぐって 12　まとめとして―戦争の全体像を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

	歴史学 b(戦後史の中の「15 年戦争」)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　サンフランシスコ講和のもった問題 5　内外での補償・賠償をめぐって 6　日本とドイツの戦後補償 4　東京裁判をめぐって 7　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8　日中国交回復への道のり 9　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 10　アジアの民衆からの戦後補償要求 11　戦後 50 年の国会決議をめぐって 12　過去の戦争と現代の戦争
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

	歴史学 a(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。	1　イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2　イスラーム教の誕生以前の世界について考える。 3　預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。 4　最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5　ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6　アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7　啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8　アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9　アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10　マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11　ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12　同　その２
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

	歴史学 b(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるよう留意したい。	1　オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2　欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3　西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4　さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5　エジプトの近代化とその過程について。考える。 6　トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7　近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8　知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9　近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10　今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11　現在のアラブ諸国のかかえる問題，東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12　まとめをおこなう
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

	歷史学 a(中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 2　太平天国 3　体制の反撃 4　洋務運動 5　中体西用の諸相 6　開港場の社会と経済 7　農村社会の変容 8　周辺地域宗主権の喪失 9　日清戦争 10　変法改革 11　戊戌の政変 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
菊池秀明『中国の歴史 10　ラストエンペラーと近代中国 清末　中華民国』講談社，2005 年。	期末試験による。

	歷史学 b(中国近代史概説－近代国家創成の試み)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら，中華民国期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　義和団の蜂起 2　革命派の台頭 3　地方自治の試み 4　王朝体制の崩壊 5　民国の混迷 6　五四運動 7　第一次国共合作 8　北伐と南京国民政府の成立 9　満州事変 10　満州国の成立 11　抗日運動の高まり 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
菊池秀明『中国の歴史 10　ラストエンペラーと近代中国 清末　中華民国』講談社，2005 年。	期末試験による。

	歴史学ａ(ヨーロッパの歴史-統合と分裂の視点から)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ２１世紀の人間社会は一体どのような道を歩もうとしているのか？また、その中で国家という枠組みはどうなっていくのか？本講座は、そのような問題意識のもとに、副題として「ヨーロッパの歴史」と銘打ち、分裂と統合の視点からその歴史を通観し、今日のヨーロッパ連合（ＥＵ）がどのような思想的系譜から生み出され、かつまた、いかなる発展の可能性を秘めているのかを考えることを主目的とする。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていくが、関連するテーマをビデオや映画、ＤＶＤなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることが期待されている。なお、春学期に少なくとも１回の討論会を催す予定にしている。	１．はじめに（歴史を学ぶ意味、今なぜヨーロッパか？） ２．ヨーロッパとは何か？（「ヨーロッパ」の概念規定） ３．古代地中海世界とヨーロッパ（その１：古典文明とヨーロッパ人の意識） ４．古代地中海世界とヨーロッパ（その２：民主主義理念の系譜） ５．古代地中海世界とヨーロッパ（その３：ヨーロッパにおける古代ローマの遺産） ６．統一ヨーロッパ構想の起点（「ヨーロッパ合衆国」の原型とフランク王国） ７．最初のヨーロッパ統合（中世ヨーロッパをとらえる視点） ８．討論会（テーマや開催の仕方は授業中に指示する） ９．第二のヨーロッパ統合（その１：近代以前のヨーロッパ統合の思想的系譜） １０．第二のヨーロッパ統合（その２：近代以後のヨーロッパ統合の思想的系譜） １１．ヨーロッパ統合の歴史的意義（共存の新しい枠組？） １２．まとめ（ヨーロッパ統合と日本）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布する。なお、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する。	期末のレポート、数回の小レポート、討論会への参加度、出席点を加味して総合的に評価する。

	歴史学ｂ(バルカン情勢の現在-地域・国家･民族の視点から)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ２１世紀の人間社会はどのような道を歩もうとしているのか？その中で国家という枠組みはどうなっていくのか？本講座はそのような問題関心から、副題として「バルカン情勢の現在」と銘打ち、ヨーロッパの不安定要因の一つであったバルカン地域をとりあげ、その地域における諸国家、諸民族、諸地域の協力のあり方を考えることによって、新しい共存の可能性をさぐることを目的とする。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画、ＤＶＤなどの映像史料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとにに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることが期待されている。なお、秋学期に少なくとも１回の討論会を催す予定にしている。	１．はじめに（地域研究の意義と方法） ２．オスマン帝国の支配と民族問題（その１：バルカン前史とオスマン帝国の進出） ３．オスマン帝国の支配と民族問題（その２：フランス革命とバルカン地域の民族意識の形成） ４．バルカン地域における民族運動の展開（その１：民族的統合の諸契機） ５．バルカン地域における民族運動の展開（その２：バルカン諸民族の独立と対立） ６．バルカン地域の民族問題の諸類型（国内民族対立、分割の再統合、少数民族） ７．討論会（テーマや開催の方法は授業中に指示する） ８．バルカン地域の諸問題の現状（その１：マケドニア共和国をめぐる問題） ９．バルカン地域の諸問題の現状（その２：コソボ問題） １０．バルカン地域の諸問題の現状（その３：キプロスの再統合とトルコのＥＵ加盟問題） １１．バルカン地域の将来（連邦構想と地域協力の動き） １２．まとめ（現代世界の課題：地域協力と地域統合）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布する。なお、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する。	期末のレポート、数回の小レポート、討論会への参加度、出席点を加味して総合的に評価する。

	歴史学 a（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。	1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力 2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業 3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業 4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業 5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人 6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い 7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかかわりがあるのか 8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリーフォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書 680 円） 『アメリカ経済のユダヤパワー』佐藤唯行（2001 年　ダイヤモンド社　1700 円）	評価は前後期各 1 回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。

	歴史学 b（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 黒人、ヒスパニック、アジア系、ネイティブ・アメリカン（インディアン）のエスニック・ヒストリーを中心に毎回、完全に文章化されたレジメを配布する。	1. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥 2. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史 3. 黒人の反ユダヤ主義 4. 差別体制下の黒人指導者、B.T.ワシントン、W.E.B.デュボイス、M.ガーベイ 5. 黒人回教徒とマルコム X 6. 公民権闘争とブラック・ナショナリズムの台頭 7. ハワイにおける多人種・多民族社会の形成史 8. 日系アメリカ人の歴史と現状 9. 先住民（インディアン）と白人の関係史　その 1 10. 〃　〃　その 2 11. ヒスパニック・アメリカンの歴史と現状　その 1 12. 〃　〃　その 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書）	前期とおなじ

	歴史学ａ（現代史と映像）	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
現代史を扱った映画やテレビ・フイルムを見、その扱うテーマに関する他の史料や文献を調べていく。そうしたなかで映像そのものがその歴史をどのように解釈し表現しようとしたかを明かにし、ひいては現代史をどのように解釈していくかを考え学んでいく。	春学期は「ファシズムの時代とその記憶」という課題からいくつかの映画を選んでみていく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントで配布。 参考文献はその都度紹介する。	評価方法はレポート提出による。

	歴史学ｂ（歴史と映像）	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
現代史を扱った映画やテレビ・フイルムを見、その扱うテーマに関する他の史料や文献を調べていく。そうしたなかで映像そのものがその歴史をどのように解釈し表現しようとしたかを明かにし、ひいては現代史をどのように解釈していくかを考え学んでいく。	秋学期はヨーロッパの古代・中世から近代にいたる時代をあつかったいくつかの映画を選んでみていく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントで配布。 参考文献はその都度紹介する。	評価方法はレポート提出による。

	歴史学ａ(中世の仏教と社会)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した観進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （１）　東大寺を再建した男 （２）　重源の時代	（１） ・　炎上する東大寺 ・　誰の力に頼るか ・　重源の業績 ・　木材をどこから運ぶか ・　出現した大群衆 （２） ・　雨を突いて伊勢へ ・　重源の記憶 ・　法然と重源 ・　合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ・　天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ・　源平合戦の余燼
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)	出席状態 試験成績

	歴史学ｂ(中世の「悪党」と民衆)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるともいわれている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域の自治とは何か、という問題を通して民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （１）　戦乱の中の伊賀 （２）　自立する村 （３）　戦国のコンミューン	（１） ・　伊賀国の南北朝内乱 ・　錯綜する地侍の行動 （２） ・　大規模な合戦は続けられない ・　国人領主の出現 ・　自立する村 （３） ・　南都への志向 ・　悪党たち、起請文を提出 ・　タテの力とヨコの力 ・　惣国のコンミューン ・　内部の規律と「平和」 ・　織田信長軍、伊賀へ侵攻 ・　崩れ去る惣国・中世の黄昏
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)	出席状態 試験成績

	現代文化論 a(グローバリゼーションを巡って)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
「文明」を意味する civilization が「市民」という言葉とかかわっているのに対し、「文化」を意味する culture はその語源として「農耕」と深くかかわっている。このことはわれわれの暮らしを取り巻く文化が、グローバル化する世界と地域や民族などローカルな価値とのせめぎ合いのなかで生成・発展していることの証でもあろう。 この春学期の授業では２０世紀のグローバリゼーションを導いた米国の覇権とそれに伴う文化的影響力の功罪を、歴史をたどりながら見て行きたい。ここで取り上げる「文化」の素材は、通常われわれが念頭に浮かべる芸術や伝統的な表現、ライフスタイルなどにとどまらず、広くその社会システムや価値観、モラルなどに及ぶ幅広い領域にわたる。大英帝国をはじめ、過去の歴史のなかで世界的な覇権をふるった「帝国」のパワーとの対比のなかで、米国のいわゆる「ソフトパワー」の優位性がどのように形成されていったのか。またイラク戦争の経緯をはじめ、その覇権の陰りは世界にとって何を意味するのか。 ビジネスや国際関係、消費市場などを支えるルールの普遍化という視点からも、文化モデルとしての米国の功罪を掘り下げて考えてみたい。	1　はじめに 2　「帝国」の様式 3　米国型民主主義の誕生 4　フランクリン型人間像 5　フォーディズム 6　大量消費社会の光と影 7　Social　capital 8　市場原理とビジネス倫理 9　ベトナム戦争と米国の正義 10　ハリウッドと大衆文化 11　冷戦後から 9/11 へ 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に平常の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

	現代文化論 b(日本の表象と世界)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
日本は古来、中国大陸という大きな文明に接する列島としてその深い影響を受けてきた。アジアの先頭を切って近代国家に生まれ変わり、欧米列強に対抗するなかで大国となってゆく歩みには、その地政学的な条件が刻印されている。欧米とアジアを結ぶ経済大国となり、グローバリズムの渦に置かれた現在においても、その基礎条件を足場にした「日本モデル」は世界に対しビジネスや大衆文化など幅広い領域で独特の影響力を広げている。 １９世紀末から２０世紀はじめにかけて欧米社会に広がった「ジャポニスム」が西欧と異なる文化の発見だったのならば、「脱亜入欧」をスローガンにした日本の近代化と戦後の「日本型システム」の成功は普遍的な経済システムにおける異文化の発見ということもできる。 秋学期のこの授業では「日本」をモデルにして文化における「普遍」と「特殊」の関係を考えたい。集団主義や終身雇用制度など欧米の競争システムとは異質に見える社会の仕組みや、アニメーション、ファッションなど大衆文化の世界的な評価の意味を考えるなかで、ローカルな価値とグローバリズムをつなぐ文化の鍵を探りたい。	1　はじめに 2　脱亜入欧とジャポニスム 3　日本型システム 4　集団主義と天皇制 5　アメリカニズムの受容 6　ものつくりの優位性 7　高度成長と総中流社会 8　日本礼賛と日本たたき 9　日本的経営 10　信頼の構造 11　Japanese　cool 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。夏目漱石『三四郎』（新潮文庫）荒井一博『文化の経済学』（文春新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に平常授業で行うリポートの実績を勘案して評価する。

	比較文化論 a(東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，「西洋」の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，ひとつのトピックにほぼ３回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　A；キリスト教の広がりとアジア世界。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　C；十字軍・レコンキスタとその時代。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　D；２つの旅行記（マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ）と当時の世界。その１ 11　同　その２ 12　同　その３
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	比較文化論 b(東西文化と近代化)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的） 比較文化論 a と同じ。b ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，ひとつのトピックにほぼ３回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　E；大航海時代とその後。アジアと近代ヨーロッパの出会い。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　F；西アジアにおけるさまざまな近代化。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　G；帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　H；旧ソ連諸国や旧ユーゴースラビア諸国における民族・宗教意識。その１ 11　同　その２ 12　同　その３
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	経済学ａ(国民所得の概念と決定メカニズム)	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，現実の経済の仕組みを理解し，理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し，経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 経済学ａでは，国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。	1　経済学という学問について 2　マクロ経済学の課題について 3　家計の消費・貯蓄行動 4　企業の投資行動 5　企業の資金調達と株価市場 6　貨幣と経済活動 7　マクロ経済モデル
テキスト、参考文献	**評価方法**
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

	経済学ｂ(経済政策の基礎理論と課題)	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
経済学ｂでは，経済学ａの講義内容を踏まえて，マクロ経済政策の効果や失業問題，および為替レートの決定メカニズムなどについて解説する。続いて，ミクロ経済学を取り上げ，需要と供給および経済厚生について解説し，規制緩和や環境税などの経済政策・公共政策の基礎理論について講義を行なう。 受講を希望する学生は，経済学ａを既習であることが望ましい。	1　マクロ経済政策 2　労働市場と失業 3　開放マクロ経済 4　ミクロ経済学の課題について 5　需要曲線と供給曲線 6　社会的余剰の考え方 7　競争市場と独占 8　市場の失敗と公共政策 9　環境政策の理論と実際
テキスト、参考文献	**評価方法**
経済学ａで用いたものを引き続き使用するほか，ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

	経済学 a(ミクロの視点で考える)	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 講義の目的は、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事を参照したり経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。ビジネスの問題や企業や産業の現場の事例もできるだけ取り上げていきます。 今年度新しい教科書を検討していますが、シラバス原稿を書いている時点でまだ刊行されていませんので、未定です。したがいまして授業計画もあくまでも目安と考えてください。	1. 経済学とは何か 2. 完全競争市場 3. 市場メカニズム 4. 需給の変化 5. 消費者余剰 6. 生産者余剰 7. 市場均衡 8. 弾力性 9. 市場介入の効果 10. 生産者行動の理論 11. 消費者行動の理論 12. 不完全競争
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。清野一治『ミクロ経済学入門』(シリーズ・新エコノミクス)(2006 年 3 月刊行予定)を予定。	出席状況、練習問題、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

	経済学 b(マクロの視点で考える)	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 講義の目的は、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事を参照したり経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。秋学期は、マクロ経済学の分野を中心に講義します。 今年度新しい教科書を検討していますが、シラバス原稿を書いている時点でまだ刊行されていませんので、未定です。したがいまして授業計画もあくまでも目安と考えてください。	1. マクロ経済学とは何か 2. 所得循環 3. インフレーション 4. 失業 5. 貯蓄と投資 6. 経済成長 7. 景気循環 8. 貨幣システム 9. 所得・支出分析 10. 生産物市場と貨幣市場 11. 労働市場 12. 開放マクロ経済学の基礎
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。二神孝一『マクロ経済学入門』(シリーズ・新エコノミクス)(日本評論社、2006 年 3 月刊行予定)を予定。	出席状況、練習問題、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	大藤　紀子

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 半期の授業なので、扱える内容は限られているが、教科書を使いながら、日本国憲法の概要を講義することを目標とする。 [講義概要] 人権と統治機構の問題をそれぞれ教科書から拾う形で話したい。 また、憲法改正の動きを踏まえ、国民投票につき検討する。 [受講生への要望] 教科書をよく読み、予習・復習を通じて、ノートをよく整理すること。	１．日本国憲法の基本原理 ２．国民主権とその発現 ３．象徴天皇制 ４．平和主義と第９条 ５．憲法改正と国民投票 ６．人権と公共の福祉 ７．経済的自由と公共の福祉 ８．人権の私人間効力 ９．マイノリティーの権利 10．子どもの権利 11．人身の自由と刑事手続上の人権 12．社会権 （多少の変更がありうる）
テキスト、参考文献	**評価方法**
・大津浩他『憲法四重奏』（有信堂高文社） ・『改憲・国民投票法』（蒼天社）（タイトル要確認） ・山内敏弘篇『新現代憲法入門』（法律文化社）	試験期間中の論述試験の結果による評価。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、初めて日本国憲法を学ぶ人たちを対象に、人権を中心に授業を行う。 毎回、判例（事件）を用いて、日本の人権状況を考察する。 なお、教科書の他、学生用『六法』（出版社は問わない）も必携である。	主たる項目を掲げる。 １．『六法』の使い方 ２．憲法概念 ３．法の下の平等 ４．精神的自由権／信教の自由 ５．精神的自由権／学問の自由 ６．精神的自由権／プライバシーの権利 ７．精神的自由権／報道の自由 ８．経済的自由権／職業選択の自由 ９．人身の自由 １０．社会権／生存権 １１．社会権／教育権
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤・植村編著『新２版　現代憲法入門講義』（北樹出版）	ペーパーテストによる。

	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、初めて日本国憲法を学ぶ人たちを対象に、人権を中心に授業を行う。 毎回、判例（事件）を用いて、日本の人権状況を考察する。 なお、教科書の他、学生用『六法』（出版社は問わない）も必携である。	主たる項目を掲げる。 １．『六法』の使い方 ２．憲法概念 ３．法の下の平等 ４．精神的自由権／信教の自由 ５．精神的自由権／学問の自由 ６．精神的自由権／プライバシーの権利 ７．精神的自由権／報道の自由 ８．経済的自由権／職業選択の自由 ９．人身の自由 １０．社会権／生存権 １１．社会権／教育権
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤・植村編著『新２版　現代憲法入門講義』（北樹出版）	ペーパーテストによる

	国際法ａ(国際社会と私たち)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国家を中心とした国際法上の行為主体の観点から学ぶ。	1 国際法の歴史 2 国際法の存在形式 3 国際法と国内法 4 国家の成立 5 国家の基本権 6 外交使節 7 条約のしくみ 8 国際機構 9 個人の地位 10 人権の国際的保護 11 国際犯罪 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

	国際法ｂ(国際紛争を考える)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会を地的管轄権という観点から検討し、それぞれの領域に適用される国際法のしくみを学ぶとともに、国際的な紛争の解決が、どのように図られるのかを考察する。	1 国家領域 2 日本の領域 3 国際化地域(極地・国際河川) 4 海洋の国際法制度 5 海洋の資源 6 空域・宇宙 7 国際環境保全(1) 8 国際環境保全(2) 9 国家責任 10 国際紛争の平和的解決(国際裁判等) 11 国際安全保障制度 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

	政治学 a(政治システムの構成要素)	担当者	津田　由美子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、多様で複雑な今日の政治社会を分析するための道具としての、政治的概念や理論、方法を習得することを目的とする。私達をとりまく世界の問題を、政治的現象として認識・理解するために、これまでの政治学研究の蓄積のなかから、有効と思われるものを紹介・説明する。受講者各自においては、それらの道具を応用して、自分をとりまく環境（身近な地域から地球規模の現象にいたるまで）を分析する能力を身につけることが望まれる。 前期では、国内政治の政策決定過程を中心に講義する。	若干の変更がありうるが、詳細については初回の授業で説明する。 1. はじめに 2. 議会 3. 執行府 4. 官僚制 5. 選挙 6. 投票行動 7. 政党 8. 利益団体 9. 中央地方関係 10. 福祉国家 11. 政治の心理 12. マスメディアと世論
テキスト、参考文献	**評価方法**
久米郁男　他（著）『政治学』（有斐閣）	定期試験を中心に評価する。授業中に小テストを行う場合もある。

	政治学 b(現代の民主主義)	担当者	津田　由美子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、多様で複雑な今日の政治社会を分析するための道具としての、政治的概念や理論、方法を習得することを目的とする。私達をとりまく世界の問題を、政治的現象として認識・理解するために、これまでの政治学研究の蓄積のなかから、有効と思われるものを紹介・説明する。受講者各自においては、それらを応用して、自分をとりまく環境（身近な地域から地球規模の現象にいたるまで）を分析する能力を身につけることが望まれる。 後期では、政治思想と国際関係を中心に講義する。	若干の変更がありうるが、詳細については初回の授業で説明する。 1. 保守主義と自由主義 2. 社会主義と民主主義 3. 民主主義体制と非民主主義体制 4. 民主主義体制の諸類型 5. ナショナリズム 6. 多文化主義 7. 国際関係と国内政治 8. 国際政治経済学 9. 国際関係における安全保障 10. 国際社会の組織化 11. 現代の民主主義 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
久米郁男　他（著）『政治学』（有斐閣） その他、適宜指示する。	定期試験を中心に評価する。授業中に小テストを行う場合もある。

	社会学ａ(社会理解の基礎構築)	担当者	圓岡　偉男

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は＜社会学＞の入門として、社会学の基礎知識の習得を第一の目標とする。具体的には、社会学の代表的な学説の基礎理解をめざし、そして、そこから現代社会を理解するための基礎づくりを目標とする。代表的な学説には＜社会＞について考えられてきた学問の歴史が詰まっている。これらの理解は、深い＜社会理解＞のための基礎であると言える。さらに、この学説をふまえ＜現代社会＞を理解するための基礎づくりとして、具体的な事例の検討を行う。事例の内容は、福祉、家族、少年犯罪など現代日本社会で社会問題となっているものを適宜選択したい。	1　イントロダクション 2　社会学小史 3　社会的人間発達論 4　社会集団論 5　社会変動論 6　家族論 7　都市論 8　現代社会の諸問題(1) 9　現代社会の諸問題(2) 10　現代社会の諸問題(3) 11　現代社会の諸問題(4) 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
圓岡偉男編『社会学的問いかけ』新泉社。	出席、講義時に課す小レポート、定期試験を総合して評価する。

	社会学ｂ(社会問題の考察)	担当者	圓岡　偉男

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は現代社会の理解のため入門として、社会理解の基礎知識の習得を第一の目標とする。具体的には、社会学的な視点から現代社会を検討する。特に、ここでは＜現代日本社会＞で問題となっている事柄を社会学という学問水準で検討する。実際の事例を通して、＜現代社会＞を理解するための基礎づくりとしたい。取り上げる事例については、それぞれの特徴に従い解説や検討を加えるが、そこには、事例固有の問題だけではなく、＜現代社会＞について考えるための材料が詰まっている。これらの理解も含め、深い＜社会理解＞のための基礎づくりとしたい。事例の内容は、生と死、子どもの社会的発達、家族の諸問題、高齢化問題、障害をもった人にまつわる問題などを扱う。	1　イントロダクション 2　生と死１：(生きることの意味) 3　子どもの諸問題１（社会的人間発達） 4　子どもの諸問題２（児童虐待の現実） 5　家族の諸問題１（若者の結婚と離婚） 6　家族の諸問題２（少子化問題の背景） 7　障害者福祉の諸問題１（福祉の意味） 8　障害者福祉の諸問題２（障害者の自立） 9　高齢化社会の諸問題１（高齢者の介護） 10　高齢化社会の諸問題２（高齢者の生き甲斐） 11　生と死２：(再考・生きることの意味) 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
木戸功・圓岡偉男編『社会学的まなざし』新泉社。	出席、講義時に課す小レポート、定期試験を総合して評価する。

	地理学 a(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（1） 4　環境の諸要素（2） 5　環境の諸要素（3） 6　熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 7　熱帯地域（2）―アジアの稲作 8　熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 9　熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 10　砂漠地域（1）―自然的特質とイスラム 11　砂漠地域（2）―石油資源と近代化 12　前期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

	地理学 b(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（1）自然的特質 2　温帯地域（2）地中海森林地域 3　温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（5）新大陸 6　冷帯地域 7　冷帯地域・寒帯地域 8　山地地域 9　世界の環境問題（1）人口 10　世界の環境問題（2）食料 11　世界の環境問題（3）温暖化と砂漠化 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

	地理学ａ(世界の自然環境と文化)	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。	1.　オリエンテーション－地理学とは 2.　環境の諸要素(1) 気候環境 3.　環境の諸要素(2)緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4.　環境の諸要素(3) 植生 5.　熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 6.　熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 7.　熱帯地域(3)熱帯林の保全 8.　沙漠地域(1)　自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9.　沙漠地域(2)　石油資源と近代化、沙漠の開発 10.　亜寒帯森林地域(1)タイガの中の生活 11.　亜寒帯森林地域(2)タイガの開発と保全 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著『自然環境と文化－改訂版』原書房	定期試験等

	地理学ｂ(世界の自然環境と文化)	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地形環境を概観し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し、自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。	１．環境の諸要素－地形環境 ２．山地地域(1)　山地の自然環境 ３．山地地域(2)　高度帯の利用と伝統的生業 ４．山地地域(3)　山地資源の開発と観光化 ５．地中海森林地域の特性 ６．地中海地域の生活様式－西欧文化の原点 ７．温帯草原地域の自然特性 ８．温帯草原地域の開発と環境問題 ９．温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性 10．温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大 11．世界の環境問題－自然生態系と社会生態系の概念 12．まとめ　自然環境の保全と保護
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著『自然環境と文化－改訂版』原書房	定期試験等

	女性学ａ(生活のなかの女性学)	担当者	井上　たか子

講義目的、講義概要	授業計画
女性学とは、簡単に言えば、社会が女性についてかたちづくっているイメージや社会において女性が占める位置について検証し、女性が自分らしく生きていくための妨げになっているものを明らかにして、社会の変革をめざす学問である。その意味で、女性の現状を知ることは重要である。 女性と社会の関係が変われば、必然的に男性と社会の関係も変わるので、男性にとっても無関係ではありえない。 身近な問題点を検証し、これからの社会のあり方を自分の問題として考えてもらいたい。	１．はじめに 毎回の授業の流れについて説明するので、必ず出席するように。 ２．女性学とはなにか ３．女性と家族（1） ４．女性と家族（2） ５．女性と身体（1） ６．女性と身体（2） ７．女性への暴力（1） ８．女性への暴力（2） ９．女性と労働（1） 10．女性と労働（2） 11．女性の政治参画 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回資料を配布する。また、適宜、ビデオを使用する。参考文献は、その都度指示する。	毎回提出してもらう短い感想と学期末のテストによる。

	女性学ｂ(ジェンダーと表象)	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では女性学ａで学んだ具体的な事象を踏まえ、ジェンダーの表象を読み解く力を身につけてほしい。なぜ、今、そのような力が必要とされるのか。文化と社会のジェンダー規範は、ジェンダー表象を通じて社会の構成メンバーの意識にうえつけられる。現在、わたしたちを縛っているジェンダー規範が、社会と個人の可能性を狭めるようなもので、それを変えたいと思うのなら、まずその規範がいかに個々人の意識のなかに内面化されるのかを知らねばならない。そして、新しいジェンダー表象を作りだす力を獲得しなければならない。 わたしたちは、「おぎゃあ」と生まれたその瞬間から、ジェンダー表象にまみれて育つ。ベビー服、絵本、アニメ、オヤが子どもに語る言葉などなど、ジェンダー化されていないものをみつけるほうが困難なほどだ。12 回の講義では、身近なアニメや広告、雑誌記事などもとりあげながら、ジェンダー規範の強化につながる表象を批判的に読み解くとともに、ジェンダー規範の変化にともなう表象の変化、さらには新たな可能性を提示する表象のあり方も見ていきたい。	2006 年 9 月 1 日までに、講義支援システムに掲示します。なお、講義支援システムへの掲示ができないときは、掲示板に貼り出します。 （注） 「表象」という言葉については講義のなかで詳しく説明しますが、とりあえずは、言葉その他によって表現されたものと理解していてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で使う資料はプリントを用意する。なお主な参考文献は開講時に指示するとともに、授業支援システムに掲示し、本は図書館の指定図書コーナーに置く。	出席（コメントペーパー）とテストによる。（登録人数によって変わる場合もある。登録人数が決定し次第、お知らせします。）

	数学　a　（微分学）	担当者	福井　尚生

講義目的

∂数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。

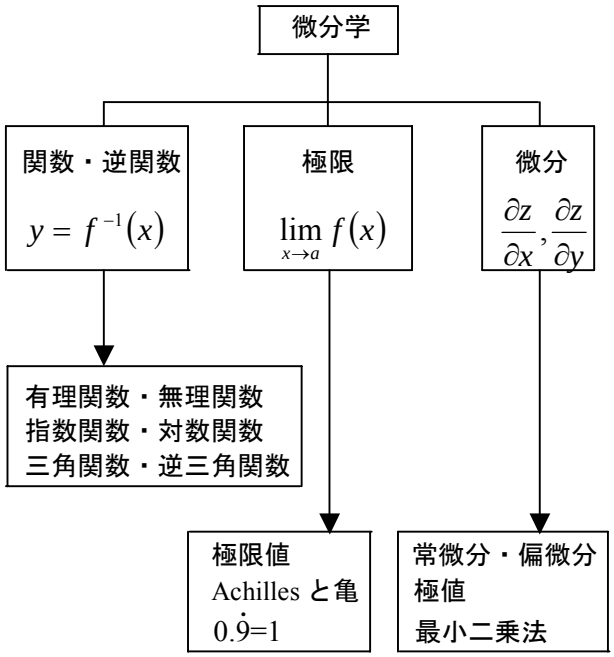
∂身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。

∂講義・演習を通して、微分学の知識を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。

∂主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。

∂同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。

講義概要



(テキスト)・(参考文献)

∂(テキスト/ 配布するプリント)・(参考文献/『数学読本』松坂和夫　著・岩波書店)

評価方法

∂主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

	数学　b　（積分学）	担当者	福井　尚生

講義目的

∮『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分学（**積分・微分方程式**）」を学びます。

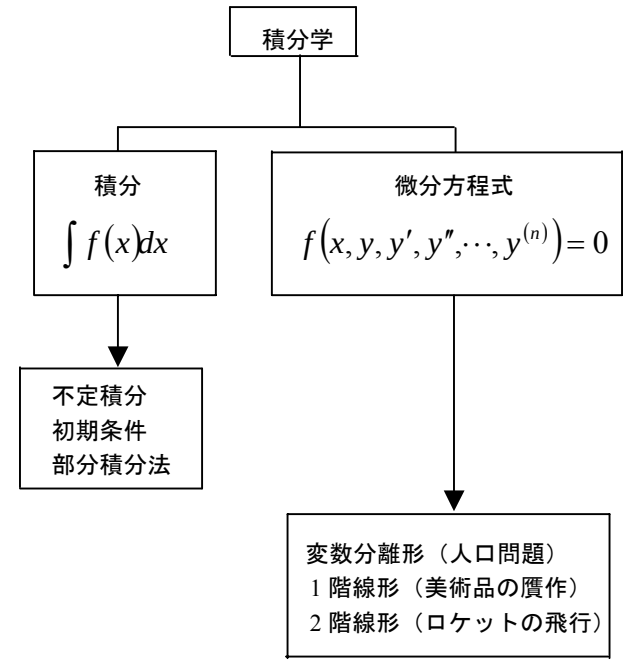
∮応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等にも挑戦します。

∮講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。

∮主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。

∮同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

∮（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田高夫、大町比佐栄　訳・日本評論社）

評価方法

∮主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

	物理学ａ(特殊相対論の世界)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。 「物理学ａ」（春学期）では、特殊相対論の内容である光速一定の原理、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更等をとりあげる。	1　はじめに 2　相対性原理 3　電磁気と光速度 4　光速一定の原理 5「光とアインシュタイン」 6　同時概念の相対性 7　時間概念の相対性 8　空間概念の相対性 9「時を刻む」 10　浦島効果と双子のパラドックス 11　ローレンツ変換 12　４次元不変量
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

	物理学ｂ(一般相対論の世界)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。 「物理学ｂ」（秋学期）では、一般相対論の内容である等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等をとりあげる。	1　等価原理 2　一般相対性原理 3　重力の幾何学化 4　Einstein 方程式 5　時空の歪み 6　Schwarzschild 解 7「ブラックホールを探る」 8　Friedmann 解 9　宇宙の空間的時間的広がり 10　ビッグバン宇宙 11　宇宙論上の諸問題 12　地球外文明
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

	化学 a(自然と環境の化学)	担当者	和田　浩志

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 自然界の仕組みや人間活動を見渡しながら，自然保護や環境問題などを化学の面からとらえ，解決する方法を探る。 【講義概要】 我々の身近にある様々な化学物質について，時には簡単な実験を行いながら，構造式を含めた特徴と共通性，特殊性などについて講義する。 また，新聞などのマスコミで話題になっている物質についても適宜取り上げ，様々な観点から考察する。	1．はじめに：講義方針の説明と受講上の注意 2．水の特性と生命とのつながり 3．水溶液とその性質 4．洗剤の歴史と特性 5．界面活性剤について 6．大気汚染と酸性雨 7．地球温暖化とオゾン層破壊 8．内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン） 9．農薬と身近な毒物 10．物質を介した生物間の相互作用（1） 11．物質を介した生物間の相互作用（2） 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・テキスト：資料プリントを講義時に配布する。 ・参考書：渡辺　啓著,『日常の化学』，サイエンス社	出席，レポート，受講態度，定期試験の結果を総合して判断する。

	化学 b(生命と健康の化学)	担当者	和田　浩志

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 人間の体に直接作用する様々な化学物質について，その役割や有用性・有害性を正しく理解するとともに，日常生活に役立てる方法を探る。 【講義概要】 栄養物，味や香り・色に関係する物質，健康に関係する物質，医薬品や毒物について，時には味わうなどしながら，構造式を含めた特徴と共通性，特殊性などについて講義する。 また，新聞などのマスコミで話題になっている物質についても適宜取り上げ，様々な観点から考察する。	1．はじめに：講義方針の説明と受講上の注意 2．栄養の化学（1）：炭水化物 3．栄養の化学（2）：脂質とタンパク質 4．味の化学（1）：天然甘味料 5．味の化学（2）：人工甘味料，味覚変革物質など 6．香辛料の化学 7．お茶とポリフェノールの化学 8．着色料の化学 9．毒と薬の化学（1）：天然毒と人工毒 10．毒と薬の化学（2）：麻薬，覚せい剤，幻覚剤など 11．毒と薬の化学（3）：合成薬と漢方薬など 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
・テキスト：資料プリントを講義時に配布する。 ・参考書：渡辺　啓著,『日常の化学』，サイエンス社	出席，レポート，受講態度，定期試験の結果を総合して判断する。

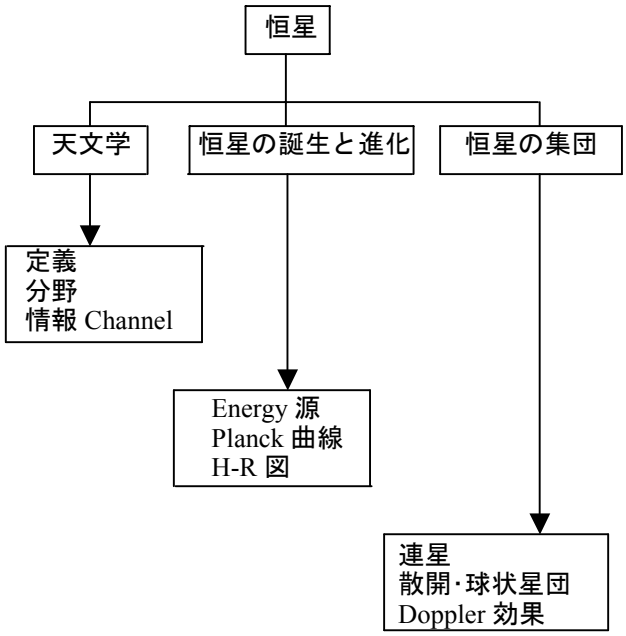
	生物学 a(植物の特性と自然の仕組み)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・　生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることを目標とする。 **履修資格** ・　植物名に関心があること。 ・　普通の植物取りあえず 100 種を認識できること（最初の講義で試験を行なう)。	以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。 1　種々の植物観察 2　学名と地方名の暗記（基礎ラテン語の理解） 3　標本の役割と作成 4　Taxon(Taxa)の概念 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	随時提出してもらう標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

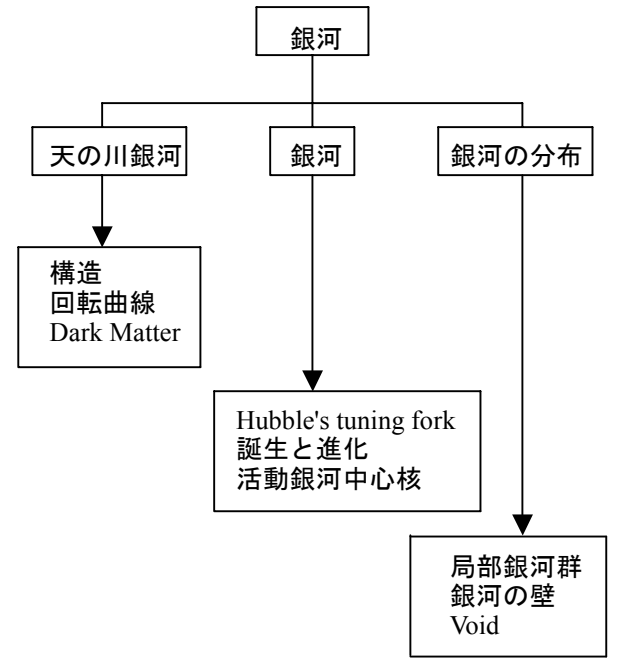
	生物学 b(植物の分布)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ・日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることを目標とする。 **講義の目的** 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ることを目標とする。 **履修資格** 植物に興味があり、地理が好きであること。 普通の植物、取りあえず 100 種を認識できること（最初の講義で試験を行なう)。	以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。 1　種々の植物観察 2　産業革命と資源調査 3　植物の分布 4　生態学的大国｢日本｣ 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	随時提出してもらう標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

	地球科学　a　（恒星天文学）	担当者	福井　尚生

講義目的	講義概要
☀地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと捉えて、『地球科学』では、**天文学**を学びます。「天文」とは「天」から届く「文」のこと、天文学は宇宙から届くこの手紙を解読する学問です。 ☀『地球科学 a』は「恒星」についての天文学です。天文屋は地球上での自然法則が、太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に宇宙を支配する自然法則が地球にも及んでいることを知りました。 ☀主体的に勉強して得た知識をもとに自らの頭で先を考え、地球が宇宙に浮かぶ天体の一つ、**自然の一員**であることを実感して下さい。 ☀視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☀同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
☀（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『天文学への招待』岡村定矩　編・朝倉書店）	☀主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）で、「いかに努力したか」も評価の対象です。

	地球科学　b　（銀河天文学）	担当者	福井　尚生

講義目的	講義概要
★『地球科学 b』では、上記『地球科学 a』の知識を前提に、恒星のより大きな集団「銀河」についての天文学を学びます。 ★天文屋は恒星までを対象に発見した自然法則を用いて**天の川銀河**・**銀河**にまで考察を広げ、更に大きな自然に適うよう自然法則を統一し、普遍化する大きな夢の実現に努めています。 ★現在までに得られた知識をもとに自らの頭で未知の世界を探り、自然の一員であることの自覚の上に、独自の世界を未来に向かって開いて下さい。「天」からの「文」には経験したことの無い**大きな夢**が認められているかもしれません。 ★視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ★同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
★（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/　『教養のための天文学講義』米山忠興　著・丸善）	★主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）で、「いかに努力したか」も評価の対象です。

	スポーツ･レクリエーション学 a(トレーニングの科学的基礎)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要となる。 スポーツ・レクリエーションに関する知識について解説する。スポーツ・レクリエーションの実践にかかわる身体活動について、生理学的な側面から理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。	１．講義内容の全般的な説明　トレーニングの定義 トレーニングの効果を決定する要因 ２．トレーニング効果が生じる条件　競技成績とトレーニングについて ３．成長段階に応じたトレーニングと基本の動作 ４．最大酸素摂取量の発達について　年齢に応じたトレーニングについて ５．筋肉の構造と活動のメカニズムについて ６．筋活動の様式と力の大きさ ７．筋肉の活動をもたらす収縮関連　運動神経の筋線維支配について ８．運動神経を興奮させる大脳　筋肉の活動のためのエネルギーについて ９．筋線維の種類と筋線維組成について　筋線維組成とスポーツ種目について １０．運動の種類と筋線維の動員について １１．筋線維の代謝について　運動強度と酸素摂取量 １２．最大酸素摂取量と呼吸機能のついて
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下充正　「トレーニングの科学的基礎」 ブックハウス HD	出席回数、授業参加態度、提出物の内容を加味して決定する。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(トレーニングの理論と実際)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
生涯を通じての健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。	１．講義概要の全般的な説明　トレーニングの定義 ２．トレーニングの理論　最大筋力について（1） ３．トレーニングの理論　最大筋力について（2） ４．トレーニングの理論と実践（1） ５．トレーニングの理論　最大筋力について（3） ６．トレーニングの理論　筋持久力について（1） ７．トレーニングの理論　インターバルトレーニング ８．トレーニングの理論と実践（2） ９．トレーニングの理論　持久力について（1） １０．トレーニングの理論　持久力について（2） １１．トレーニングの理論　最大酸素摂取量について １２．トレーニングの理論と実践（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下充正　「トレーニングの科学的基礎」 ブックハウス HD	出席回数、授業参加態度、提出物の内容を加味して決定する。

	スポーツ・レクリエーション学 a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけてほしい。そのために、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。 春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。 秋学期は、春学期で学んだ考え方を実践に移してもらうため、健康つくりやトレーニングについて科学的視点から実践的ノウハウを学んでもらいます。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。 授業で質問の受付、アンケートへの回答等に携帯電話を利用します。	1　オリエンテーション 2　自由時間とは 3　生活時間の構成と自由時間の現状 4　自由時間をすごす能力「森と老人」 5　現代における自由時間の意味 6　古典的解釈から知るレジャー 7　QOL 8　多様な価値観について 9　生き方の例　その１ 10　生き方の例　その２ 11　あなたのライフデザイン 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒャエル・エンデ、「モモ」、岩波書店	出席状況（４０％）、学期末試験の結果（４０％）、クイズ・レポート（２０％）

	スポーツ・レクリエーション学 b(最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけてほしい。そのために、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。 春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。 秋学期は、春学期で学んだ考え方を実践に移してもらうため、健康つくりやトレーニングについて科学的視点から実践的ノウハウを学んでもらいます。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。 授業で質問の受付、アンケートへの回答等に携帯電話を利用します。	1　オリエンテーション 2　自分の体について正しく知ろう 身長・体重・体脂肪率 3　身体計測の結果から 4　肥満 5　運動しない現代生活 6　運動と栄養　ダイエット・サプリメント 7　運動と栄養　いろいろな健康法 8　トレーニングの基本 9　エアロビクストレーニングについて　その１ 10　エアロビクストレーニングについて　その２ 11　筋力トレーニング 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	出席状況（４０％）、学期末試験の結果（４０％）、クイズ・レポート（２０％）

	ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 a)	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。	１．ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム ２．ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 ３．ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 ４．イングランドのキリスト教化 ５．デーン人とアルフレッド大王 ６．カロリング王朝とイングランドのキリスト教 ７．グレゴリウス７世の教会改革 ８．イングランドの教会改革 ９．中世の異端 １０．地獄堕ちへの恐怖 １１．黒死病と農民一揆 １２．教皇権の栄光と下降 １３．中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。	出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。

	ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 b)	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	１．ルター：我ここに立つ ２．ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 ３．イングランドの宗教改革：ヘンリー８世 ４．エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 ５．エリザベス１世の宗教改革 ６．ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 ７．スチュワート王朝の国教会 ８．国王の処刑とピューリタニズム ９．ピルグリム＝ファーザーズ １０．王政復古から名誉革命以降 １１．啓蒙主義時代から現代まで 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期に準じる。

	ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観することで，心理学の基本的な知見について説明していく。その後，性格の形成，ストレス，生きがいと健康などのテーマについて，さまざまなデータを示しながら説明していく。	授業計画は以下のとおり 1．　授業ガイダンス 2．　こころの科学の成立過程① 3．　こころの科学の成立過程② 4．　自己の性格の理解 5．　性格をとらえる枠組み 6．　性格の形成①：世界の子育て 7．　性格の形成②：遺伝と環境 8．　ストレス①：ストレスと性格 9．　ストレス②：ストレスへの対処 10.　ストレス③：現代社会とストレス 11.　現代人とこころの健康① 12.　現代人とこころの健康②
テキスト、参考文献	
テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。	出席と小レポート，試験などにより総合的に評価する

	ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらのことを通して自己についての理解を深めてもらうことが、本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果などをレポートにまとめてもらう。また、関連するビデオなどを見てもらい、レポートを書いてもらうこともある。	授業計画は以下のとおり。 1．　オリエンテーション 2．　質問紙による性格検査① 3．　質問紙による性格検査② 4．　職業への興味 5．　将来の夢 6．　こころの IQ 7．　集団式 TAT 8．　絵からみる家族像 9．　ストレス・コーピング 10.　グループ・ワークによる自己理解① 11.　グループ・ワークによる自己理解② 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。	出席と授業でのレポートにより総合的に評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
日本語教師になることを目的とした学生のみを 対象としたコースではなく、日本語、日本語教育、しいては語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。 １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．世界の中における日本語教育の現状を知る。 ３．日本語を外国語として概観する。 ４．日本語の基本的な仕組みを知る。 ５．日本語を外国人に教えるとは？	1）オリエンテーション　－　日本語教育の現場を見る　（ビデオ） 2）日本語教育とは？　日本語教育と国語教育の違について 3）日本語教育の歴史 4）第一言語習得　対　第二言語習得 5）外国語教授法－直接法 オーディオリンガル コミュニカティブ･アプローチ 6）授業の展開　－　ビデオ 7）コースデザインとシラバス- 8）日本語のしくみとその指導のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『教師用日本語教育ハンドブック⑦ 教授法入門』国際交流基金 参考文献　『新・はじめての日本語教育１』 ＡＳＫ	１．テスト　　2．出席率 （欠席４回以上はＦとする）

	ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学 1)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
生と死の問題は、臓器移植や臓器売買、さらに、癌に冒された自分自身を治療法が開発されるまで冷凍保存するなどということが実際に行なわれている現代においては、いっそう複雑な問題になろうとしています。それでもなお、われわれは死の運命を逃れることはできません。また、いわゆる先進国に住む多くの現代人は、病院で生まれ、病院で死を迎えます。とりわけ、死は弧絶された状況の中で迎えることが多くなってしまっています。今学期は、死から生を見るという方法で、生について考えます。著名かつ平易な文献を取り上げ、それについて考える講義スタイルですから、傍観者として講義に出席するのではなく、自らの問題として考える姿勢で臨んでもらいたいと思います。	1. モンテーニュの『エセー』を取り上げます 2. ジャンケレヴィッチ『死』 3. キューブラー・ロスの『死ぬ瞬間』を取り上げます 4. エリアス『死に逝く者の孤独について』 ここまでのテーマは「死の準備」の可能性です 5. パスカル『パンセ』 6. 前回の続き 7. 引き続き『パンセ』 8. ランツバーク『死の経験』 9. ここまでのテーマは「運命」です 10. パウル・ティリッヒ『生きる勇気』 11. 前回の続き 12. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に資料を配布します	試験を行ないます

	ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学 2)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは意味の世界に生きています。したがって、われわれに与えられた課題は、まずわれわれ自身の世界を広げることです。知識がない物に対して意味を見出すことはできませんから、受講生の皆さんにはいわゆる雑学的な知識をたくさん持っていただきたいと考えています。さまざまな宗教・文化・時代についての知識を豊かにすることで、さまざまな価値観が見えてくるからです。 その上で、いくつかの視点から、生と死の意味を考えることがこの講義のテーマです。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. 講義テーマに関連した映画をごらんいただく予定です 2. フランクル『夜と霧』――これは名著です 3. 前回の続き 4. フランクル『死と愛』 5. 前回の続き 6. アドラー『人生の意味の心理学』 ここまでのテーマは《意味》です 7. ベッカー『死の拒絶』 8. 前回の続き 9. フロム『自由からの逃走』を使いながら、《時代・使命・自己》などの問題について考えます。 10. 前回の続き 11. 前回の続き ここまでのテーマは《自己実現》です 12. 予備
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に資料を配布します	試験を行ないます

	ことばと思想(Ⅲ)(日本語の仕組み a)	担当者	城田　俊

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、現代の日本語の動詞及び形容詞が、いかなるかたちと意味を持ち、いかなる手段で結びつき、コミュニケーションの役に立っているかの仕組みを理解することにある。(2005 年度に行った講義「日本語学 a」、「ことばと思想（Ⅲ）（ 国文法から日本語文法へ)」と内容は基本的に一致する。よって、上記の単位取得者は受講することができない。2005 年度の講義と異なるのは、あまり関心の深まりを呼ばない国文法への言及を少なくし、新しい日本語教育用の文法に注意を集中した点にある。) テキストは特に指定しない。講義および授講者との対話によって授業を進める。ただし、以下に掲げる参考文献を読んでおくことが望ましい。	1. 品詞分け、国文法と日本語文法、膠着的形態と屈折的形態、日本語は膠着語か？ 2. 動詞の語尾のかたち、言い終るかたちと連なるかたち、現在形と過去形、日本語の時制（テンス)、かたちの作り方 3. 命令形、意思・勧誘形、ヨウによる推量、日本語の法（ムード) 4. 連らなるかたち（1）テ形、タラ形 5. 連らなるかたち（2）レバ形、タッテ形、タリ形 6. いわゆる「連用形」について 7. 形容詞のかたち 8. 動詞の語幹のかたち、かたちの作り方 9. 使役態（セル／サセル) 10. 受身態（レル／ラレル)、可能・自発態 11. 否定形（ナイ)、動詞の否定と形容詞の否定、否定の諸相 12. まとめ、試験の準備に関して
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　鈴木重幸著『日本語文法形態論』 むぎ書房、1972	出席、試験による

	ことばと思想(Ⅲ)(日本語の仕組み b)	担当者	城田　俊

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、動詞のマス形やテ形＋補助動詞が表わす意味、名詞のかたちと意味、形容動詞とそれに類似する語類の用法及び文に付加されるモダリティーの理解を深めることにある。また、語と語の慣用的結びつきの本質を把握するのも目的の一つにあげられる。(2005 年度に行った講義「日本語学 b」「ことばと思想（Ⅲ）(国語学から日本語学へ)」と内容は基本的に一致する。よって、上記単位取得者は受講することができない。副題を変更したのは、講義の内容をより明らかにするためである。) テキストは特に指定しない。受講者参加方式の授業を目指す。ただし、以下に掲げる参考文献を読んでおくことが望まれる。	1. 動詞のていねいなかたち（マス) 2. 動詞のその他の語幹の拡大形 3. テ形＋補助動詞（1)、テクレル、テヤル、テモラウ、テクル、テイク 4. テ形＋補助動詞（2)、テイル、テオク、テアル、テミル、テシマウ 5. 敬語、主語に対する尊敬（オ＋「連用形」＋ニナル)、補語に対する尊敬（オ＋「連用形」＋スル)、マスとデス 6. 名詞、格助詞、事柄と登場者、述語の支配 7. 形容動詞とその類、名詞との区別、副詞、連体詞 8. ノダ文、推量を表わす文、カモシレナイ、ダロウ、ニチガイナイ、ヨウダ、ラシイ、ソウダ 9. 語と語の慣用的結びつき（1)、強め、讃え、正しさ、動詞化動詞、 10. 語と語の慣用的結びつき（2)、アスペクト、機能発揮、生成、調え、無化、等 11. 語と語の慣用的結びつき（3)、鳴き声のオノマトペ、助数詞、集合・集団、反義、反転等 12. まとめ、試験の準備に関して
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　鈴木重幸著『日本語文法形態論』 むぎ書房、1972	出席、試験による

	歴史と文化（Ⅲ）（日本思想史ａ）	担当者	小澤　浩

講義目的、講義概要	授業計画
1. 日本の伝統的な思想に触れることの現代的な意義を学び、自己の精神形成の糧とする。 2. 思想や意識の領域に接近する方法や視点を学ぶ。 3. 古代から近・現代までの日本思想史の大きな流れを把握するとともに、とくに支配階級や知識人の思想とは相対的に区別される、近世から近代にかけての民衆思想の流れに焦点を当てる。	1. 思想史への誘い（武田清子編『思想史の方法と対象』などを手がかりに） 2. 日本における思想のあり方①（丸山真男『日本の思想を手がかりに） 3. 日本における思想のあり方②（加藤周一『雑種文化』などを手がかりに） 4. 日本とアジア（竹内好「中国の近代と日本の近代」などを手がかりに） 5. 古代・中世思想史概観 6. 近世思想史概観 7. 近世民衆の思想――百姓一揆と義民信仰① 8. 近世民衆の思想――百姓一揆と義民信仰② 9. 近世民衆の思想――心中物と町人物の世界① 10. 近世民衆の思想――心中物と町人物の世界② 11. 近世民衆の思想――心中物と町人物の世界③ 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント等による。参考文献は適宜紹介する。	期末レポート、および適宜課す感想文等による。

	歴史と文化（Ⅲ）（日本思想史ｂ）	担当者	小澤　浩

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照。 春学期の「日本思想史 a」は履修していなくてもよいが、「日本思想史 b」のみ履修する場合は、指定する文献を読むように指示する。	1. 近代思想史概観 2. ナショナリズム＝国体論の系譜①　水戸学 3. ナショナリズム＝国体論の系譜②　復古神道 4. 民衆宗教の系譜　天理教と金光教 5. 民衆宗教の系譜　丸山教と大本教 6. 民俗の思想　柳田國男① 7. 民俗の思想　柳田國男② 8. エコロジーの思想　南方熊楠① 9. エコロジーの思想　南方熊楠② 10. 民芸の思想　柳宗悦① 11. 民芸の思想　柳宗悦②
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

	歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	小山　慎治

講義目的、講義概要	授業計画
日本文化や時事問題について調べ発表する活動を通し、日本社会における諸問題に関する常識的な知識を獲得することが主たる目的である。授業を通して、幅広く問題意識を持ち、積極的に知識を獲得しようとする態度を身に付けることが期待される。特に、日本語教育に興味を持つ学生の受講を歓迎する。 授業ではまずコミュニケーション論の枠組みおよび効果的なプレゼンテーションの手法を提示した上で、日本社会に関するテーマの発表を課す。受講者による発表と発表内容に関する質疑応答、発表方法に関するコメントを軸に授業を進める。日本社会に関する問題意識を持つことと同時に、知識を他者と共有するプロセスへの関心も高められるよう配慮していきたい。 なお、受講者が多数の場合は、発表の形式や回数等変更することもある。	1　ガイダンス・発表者および発表テーマ調整 2　コミュニケーションの概念と構成要素 3　情報提供を目的とするプレゼンテーションの手法 4　発表（1） 5　発表（2） 6　発表（3） 7　発表（4） 8　発表（5） 9　発表（6） 10　発表（7） 11　発表（8） 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
水谷修他（編）『日本事情ハンドブック』大修館 1995 年 文藝春秋（編）『日本の論点 2006』文藝春秋 2005 年	出席、クラスへの貢献、クラスでの課題、および定期試験による総合評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	歷史と文化(Ⅲ)(グローバル化とイスラム-公と私)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：イスラム社会を一例として学ぶことにより異文化理解を深め、「公共性」という概念を視野に入れて国際的問題を理解し、行動できるようにする。 講義概要：本講義では、グローバル化が進む国際社会にあって、１３億の人口を有するイスラム世界と欧米社会がどのような関係にあるのかを歴史的過程を通して考える。そのことを踏まえ、日本社会とイスラム社会との比較にまで視野を広げて、伝統文化と国際秩序、「公」と「私」について考えていきたい。	１　異文化接触と文化変容 ２　イスラム社会の誕生 ３　イスラム社会の発展とギリシア思想 ４　キリスト教とイスラム ５　ムスリムの西欧についての知識 ６　西洋の衝撃と中東 ７　イスラムと近代国家 ８　イスラムと経済 ９　イスラムと民主主義 １０　イスラムと女性社会 １１　イスラムと公共性 １２　日本社会とイスラム社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：『イスラム世界はなぜ没落したか？』（日本評論社）、『イスラム世界の経済史』（NTT 出版）、『公と私の思想史』（東京大学出版会）	出席とレポートを４：６の割合で評価する。

	歷史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：「交易離散共同体」や「核家族」「地域コミュニティー」について学ぶことを通し、自己のアイデンティティー形成と文化・社会の関係について考察を深める機会を持ってほしい。 講義概要：本講義では、交易や民族移動、移民などの人や物、情報の移動を通し、生じる文化変容を都市という空間で考察し、それが現代的問題に関わっているのかを考えたい。	１　移動と文化変容 ２　移民過程とエスニック・マイノリティ ３　歴史の中の都市(1)中東 ４　歴史の中の都市(2)アジア ５　歴史の中の都市(3)ヨーロッパ ６　商業ネットワークと都市 ７　EU と移民 ８　フランスのアルジェリア移民 ９　イギリスのパキスタン移民 １０　ドイツのトルコ移民 １１　米国の移民の歴史的概観 １２　多文化主義の論争点
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：『国際移民の時代』（名古屋大学出版会）、『都市的体験』（未来社）、『多文化世界』（有斐閣）、『ヨーロッパとイスラム』（有信堂）	出席とレポートを４：６の割合で評価する。

	歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの音楽史)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期でまとめて扱うので、原則として除外する。	1　古代ギリシャの音楽と西洋音楽 2　グレゴリオ聖歌とイタリア 3　「イタリア音楽」の誕生 4　16 世紀の声楽曲とペトラルキズモ 5　モンテヴェルディ 6　ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 7　ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 8　ヴィヴァルディとヴェネツィア 9　パガニーニと超絶技巧 10　ヴェルディとイタリア国家統一運動 11　プッチーニとオリエンタリスム 12　プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書 1045）	テストによる。

	歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの声楽曲)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観する。	1　オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2　オペラ誕生：初期の試み 3　バロック・オペラの台本 4　バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 5　バロック・オペラと劇場 6　オペラ・セリアとオペラ・ブッファ 7　ロッシーニの世界 8　ベッリーニとドニゼッティ 9　ヴェルディ（1） 10　ヴェルディ（2） 11　ヴェリズモ・オペラ 12　プッチーニ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に選定しない。参考文献については、授業中に指示する。	テストによる。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築)	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 木の文化に対して石の文化とも言われるように、ヨーロッパでは我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は建築の歴史と通してヨーロッパの文化の一面を知ることを目的とする。 〔講義概要〕 ヨーロッパの建築の歴史は、過去の過去の文化として記録の中に記されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通してより直接的に体験することができる。本講義では、古代から中世もしくはルネサンスまでのヨーロッパの建築の様式を、その意味を考えながらみてゆく。 〔受講生への要望〕 詳細な資料を提示しながら授業を進める必要から、受講生の定員を 150 名とします。	1　古代ギリシャの建築 2　古代ギリシャの建築（続） 3　古代ギリシャの建築（続） 4　古代ローマの建築 5　古代ローマの建築（続） 6　古代ローマの建築（続） 7　中世ロマネスクの建築 8　中世ロマネスクの建築(続) 9　中世ロマネスクの建築（続） 10　中世ゴシックの建築 11　中世ゴシックの建築（続） 12　中世ゴシックの建築（続） 以上の計画には多少の変更がありうる。

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは用いない。授業に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。	中間および期末の試験によって評価する。

	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 a)	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
ジェーン・オースティンは 19 世紀初期のイギリスの小説家ですが、代表作品『自負と偏見』の映画化されたものがこの春わが国で上映されたのをみても分かるように、英米では今現在広く親しまれている作家です。オースティンの小説は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説は 19 世紀 20 世紀のイギリス小説の主流をなしていて、その中心的位置にあるのがオースティンといってよいでしょう。わが国では広く愛読されているとはいえませんが、オースティンはイギリスとアメリカではよく読まれ、現代小説として高く評価され、数多く映画化されてもきました。 講義を親しみやすくするために映画の鑑賞をとりいれます。扱う作品は『高慢と偏見』『マンスフィールド・パーク』『説得』の 3 作品を予定しています。講義の内容も昨年度より分かりやすいものにしますが、それでも洗練された純文学作品ですから、人間とか人間性に興味がある人、語学力を向上させることに熱意を傾ける人でないと興味を持って学ぶことは難しいといえるかもしれません。	最初の授業で全体的な解説と説明をします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
手作りのプリント 参考文献は授業中に指定する。	感想文、レポートなど

	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 b)	担当者	北澤　滋久

講義目的、講義概要	授業計画
昨年のジェイムズ・ジョイス論に続き、もうひとりのイギリス、モダニズムの巨匠、D. H..ロレンスの文学と思想を講義する。 これが担当者の、文学研究人生の大学における最後の講義となろう。誤解の多い、複雑・多岐に及ぶ思考回路を持ったロレンスであるが、その彼が現代文明下に生きる我々に生涯をかけて切実に語りかけたところを、できるだけ易しく話すつもりでいる。 心ある諸君の受講を期待している。	1．ロレンス概説 2．*The White Peacock* をめぐって 3．*Sons and Lovers* をめぐって 4．*The Rainbow* をめぐって 5．*Women in Love* をめぐって 6．*The Aaron's* と *Rod Kangaroo* をめぐって 7．*The Plumed Serpent* をめぐって 8．“The Ladybird” をめぐって 9．*The Man Who Died* をめぐって 10．*The Lady Chatterley's Love* をめぐって 11．ロレンスの宇宙観と死生観をめぐって 12．質疑応答・総括：受講生の関心の赴くままに
参考文献	**評価方法**
北澤滋久著『D. H..ロレンス：その文学と人生』、墨水書房 北澤滋久著『D. H..ロレンス、生と死のファンタジィ：人と文明の再生をもとめて』、金星堂	出席率と、主には学期末の小論文提出により評価する。

	歴史と文化(Ⅲ)(能楽論)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。 この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に解明していきます。 また、一作品を教材として、他の芸能との関わりを考察します。 春期は、能楽の知識を主に全体像を捉えます。 「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。	①　古典芸能としての能楽 ②　能楽の概説 ③　能楽のながれ ④　能楽を演じる各役 ⑤　能舞台について ⑥　能の演技について（実演） ⑦　能の演目について　Ⅰ ⑧　夢幻能と現在能 ⑨　夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞　Ⅰ ⑩　夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞　Ⅱ ⑪　能の演目について　Ⅱ（実演） ⑫　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	歴史と文化(Ⅲ)(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
平安時代中期の武将・源頼光の鬼退治の伝説を能の作品で解釈・鑑賞し、同じ古典芸能の歌舞伎にどのように転化したか比較検討する。 秋期からの受講者のため、簡略な能の知識も視野に入れますが、より深い理解のために、春期からの通年受講を希望します。	①　能楽の紹介 ②　源頼光について ③　能「土蜘」の作品解釈　Ⅰ ④　能「土蜘」の作品解釈　Ⅱ ⑤　能「土蜘」の鑑賞 ⑥　能と歌舞伎 ⑦　歌舞伎「土蜘」の鑑賞　Ⅰ ⑧　歌舞伎「土蜘」の鑑賞　Ⅱ ⑨　能「大江山」の解釈と鑑賞　Ⅱ ⑩　能「大江山」の解釈と鑑賞　Ⅲ ⑪　能に登場する鬼 ⑫　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	現代社会(Ⅲ)(英国人は階級問題抜きで語れない)	担当者	有吉　広介

講義目的、講義概要	授業計画
英国人の生活は常に階級がらみで語られる。現代英国人の社会生活および文化を、階級と関連させて社会学的な分析を通して理解する。 世界の工場といわれた近代英国の資本主義社会を築いた歴史的主体は、そのブルジョア階級であれ、ジェントルマン階級と結びついた都市の金融資本家であれ、階級的性格を帯びていた。かれらは、この国の伝統と革新を独特な方法で調和させて、近代英国社会を作り出した。またこの国のダイナミックな発展は、それらの階級と労働階級との対立関係において起こった。19 世紀末における 経営者革命や官僚組織の発達に起源を置く経営者層、中間管理者層、専門･技術者層および大量の事務員層からなるホワイトカラー階級との関係で、は現代社会の英国人の生活と文化とを読み取ることを主眼とする。	1. 産業革命前の階級関係 2. 産業革命後の階級関係 3. ジェントルマンの勤め 4. 19 世紀末から 20 世紀にかけての階級関係 5. 20 世紀におけるミドルクラスの日常生活 6. 5 の補足および 20 世紀の上流階級 7. ホワイトカラー階級の発達 8. 下層ホワイトカラー 9. 管理者および専門職階層：サービス階級とプチ･ブルジョア階級 10. 労働者階級 11. 英国の教育制度と階級再生産 12. 階級と家庭における子どもの教育
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、講義の要点に関するプリントを渡す。 参考文献は適時紹介	期末に求めるレポートの評価による。

	現代社会(Ⅲ)(少子・高齢社会を生きる)	担当者	有吉　広介

講義目的、講義概要	授業計画
日本では人口の少子化と高齢化が急激に進んでいる。21 世紀の半ばには､総人口が今より約 2 割減少するとともに、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上になる。今後人口減少と少子高齢化が同時に進むという、今までに経験したことのない時代を迎えるが、これは、個人や家族の生活のありかたから、わが国の経済･政治の社会まで深刻な影響をおよぼす。世の中がどのように変化するのか、そこに一体どんな問題が起こるのかを、考えたい。 少子･高齢社会が起こる原因をまず明らかにして、次に少子化の社会的･経済的影響を調べ、ついで少子化を起こす要因にどのように対処すればいいのかを簡潔にとらえる。その後、現代の家族の形態・機能および家族観の変化を概観し、そこから現代の男女あるいは夫婦の関係を、そして家庭生活の現状を考える。さらに、少子化の問題の解決には地域や職場の環境の整備が必要であることにふれる。次に、高齢者が現在暮らしている家庭の特徴、老親の扶養問題、高齢者の介護問題、定年のあるサラリーマンにとっての高齢期の生活、高齢者にとっての社会参加の意義を論じる。	1. 少子化社会の到来 2. 少子化への対応 3. 家族集団および家族観の変化 4. 結婚および夫婦生活の現実 5. 地域生活の変化 6. 職場および企業の問題 7. 大衆長寿時代 8. 老親の扶養 9. 高齢者の介護 10. サラリーマン老人の生活 11. 高齢者と社会参加 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、講義の要点および資料に関するプリントを配布する。参考文献は適時紹介する。	学年末にレポートを書いてもらい、これを評価する

（春）（秋）	現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	担当者	山越　徳

講義目標

１年間の学生生活を踏まえて、人間形成においてどのような成長を遂げたか、何を学んだか、チャレンジして達成できたことは何であるか等再確認させる。２年次の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。

講義概要

選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義ではさまざまな業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。仕事をする中での努力、工夫、苦労、喜び、を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に答えられるようにする。

受講生への要望

とにかく出席すること。
講座内容のさらなる充実を図るためと講師への還元のため、毎回の感想をレポートすること

評価方法

出席、レポート（期末）

テキスト、参考文献

必要な資料は授業で配布

授業計画

（春）

1. さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
2. 産業の構造変化と労働市場の変貌
3. 女性を取り巻く労働環境の変化
4. 経済社会の変化と人事制度
5. 職場から見た公務員の仕事
6. 社会が求める人材とは（学生時代にやっておくこと）
7. 職場から見た旅行業の仕事
8. 職場から見た金融・保険業の仕事
9. 職場から見た総合商社の仕事
10. 職場から見たマスコミの仕事
11. 職場から見た運輸業の仕事
12. キャンパスライフと仕事（シンポジューム形式による授業を予定）

（秋）

1. さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
2. 産業の構造変化と労働市場の変貌
3. 女性を取り巻く労働環境の変化
4. 経済社会の変化と人事制度
5. 職場から見たアパレル業の仕事
6. 職場から見た食品関連企業の仕事
7. 職場から見た百貨店の仕事
8. 職場から見た情報業の仕事
9. 職場から見たホテル業の仕事
10. 職場から見た福祉・医療機関の仕事
11. 社会が求める人材とは（学生時代にやっておくこと）
12. キャンパスライフと仕事（シンポジューム形式による授業を予定）

上記授業計画は講師の都合により変更することもある。

	現代社会(Ⅲ)(中東政治思想 a)	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
「イスラム原理主義」と呼ばれる過激な宗教・政治運動がいま世界を揺るがしている。オサマ・ビンラーディン率いる過激原理主義組織アルカーイダは２００１年９月、反米ジハード「９・１１テロ」を引き起こした。これに対し、ブッシュ米政権は翌１０月から史上初の「対テロ戦争」を開始した。 講義では「ジャーヒリーヤ論」に代表される過激原理主義思想・運動の理解を目指す。また、毎時限の講義は（1）授業計画に基づいた過激原理主義思想・運動の解説（2）同運動を中心にした中東政治情勢ビデオの視聴――の 2 部構成とする。	1 （イントロダクション）セム族一神教の系譜 2 イスラーム教多数派スンニー派と少数派シーア派の関係など 3 イスラーム教戒律シャリーア（イスラーム律法） とメッカ巡礼、利息の禁止など 4 エジプトの過激原理主義組織「イスラーム集団」と「ジハード団」 5 １９８１年のサダト・エジプト大統領暗殺 6 エジプトの過激原理主義革命家サイイド・クトゥブの革命理論「ジャーヒリーヤ論」 7 過激原理主義組織の原型、エジプトの「タクフィール・ワ・ヒジュラ（断罪と逃亡）団」 8 イスラーム共同体（ウンマ）内部のジハード 9 タリバンによるカリフ制の復活 10 「イスラーム集団」を生んだ上エジプト（エジプト中・南部）の社会風土 11 「イスラーム集団」の反コプト（キリスト教）主義 12 「イスラーム集団」の１９９７年のルクソール事件
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『イスラム過激原理主義―なぜテロに走るのか』(中公新書, ２００１年)	出席率とテストによる

	現代社会(Ⅲ)(中東政治思想 b)	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
「イスラム原理主義」と呼ばれる過激な宗教・政治運動がいま世界を揺るがしている。オサマ・ビンラーディン率いる過激原理主義組織アルカーイダは２００１年９月、反米ジハード「９・１１テロ」を引き起こした。これに対し、ブッシュ米政権は翌１０月から史上初の「対テロ戦争」を開始した。 講義では「ジャーヒリーヤ論」に代表される過激原理主義思想・運動の理解を目指す。また、毎時限の講義は（1）授業計画に基づいた過激原理主義思想・運動の解説（2）同運動を中心にした中東政治情勢ビデオの視聴――の 2 部構成とする。	1 原理主義運動一般の反ユダヤ主義 2 西欧民主主義とイスラーム民主主義「シューラー」 3 １９７９年末の旧ソ連のアフガニスタン侵攻とアフガニスタン戦争の勃発 4 アラブ・アフガンズ（イスラーム義勇兵） 5 アラブ・アフガンズの初期の精神指導者、パレスチナ人のアブダッラー・アッザーム 6 ビンラーディンによるアル・カーイダの結成 7 ビンラーディンの１９９６年「ジハード宣言」 8 初の原理主義国際連帯組織「世界イスラーム戦線」の結成 9 アル・カーイダにおける、アイマン・ザワヒリらエジプト人勢力の台頭 10 ９・１１テロとアメリカの対テロ戦争 11 「イラク戦争」とアル・カーイダ新世代の登場 12 ロンドン同時テロとユーロイスラム
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『イスラム過激原理主義―なぜテロに走るのか』(中公新書、２００１年)	出席率と試験による

	現代社会(Ⅲ)(中国を考える a)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
日中間では経済、文化面での交流が広がり深まりながらも政治面では不協和音が聞こえる。そこには様々な要因がからんでいるが、その根底には日々の生活を営む人々が構成する社会があり、その社会レベルでの不定形の歴史観、価値観、情念が横たわっている。中国全体を正確に理解するには社会レベルでの人々の営みを理解しなくてはならない。13 億人を超える人々の生き様はさまざまであるが、可能な限りそこに共通するもの、民族性なるものを探ってみたい。	左記の目標を追求するため、関係する多くの資料を読む必要がある。下記に指定した資料はいずれも邦訳があり、一般図書館でも入手できるものである。 これらの資料を逐次読みながら論点を紹介する。 ① フェアバンク『中国』(東大出版) ② 増井経夫『中国の歴史と民衆』(吉川弘文館) ③ 柏楊『醜い中国人』(光文社) ④ パールバック『大地』(邦訳多数) ⑤ 老舎『駱駝祥子』(　同　) ⑥ 林語堂『我国 我国民』(黄河出版『我が中国論抄』) ⑦ 魯迅『阿 Q 正伝』(邦訳多数) ①は複写配布する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
岩波書店『現代中国事典』	中間レポート、期末レポート、出席点で評価

	現代社会(Ⅲ)(中国を考える b)	担当者	辻　康吾

講義目的、講義概要	授業計画
同	同
テキスト、参考文献	**評価方法**
同	同

	現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
メディアが歴史の中で果たしてきた役割は大きく、政治や経済、社会の仕組と人々の日常の暮らしから宗教や文化のかたちにまで、その働きが深くかかわってきた。新聞や雑誌などの活字メディアからテレビなど電波メディア、さらに近年のわたしたちの生活に欠かせない道具となっているインターネットの存在を考えると、現代社会にあってこの傾向はますます強まっているといえよう。 春学期の授業ではこうしたメディアの発展と社会的な働きを歴史にさかのぼって検証する中で、人間と社会をつなぐメディアが民主主義の発展と市場経済の広がりとともに巨大化し、政治権力や市場原理とのかかわりのなかでどんな問題に直面しているかを考える。 コミュニケーションの歴史はグーテンベルクによる活字印刷術の発明で大きな転換点を迎え、近代の映像や電信技術の開発で大量の情報を瞬時に幅広く伝達することを可能にした。民主主義を監視する「番犬」として発達したジャーナリズムは「第四の権力」と呼ばれるメディアの大きな力と、２０世紀後半に登場したネットメディアの挑戦によってその公共性的使命が問われている。授業ではその推移を通して人とメディアの関わりの変容を考えたい。	1　はじめに 2　グーテンベルクの革命 3　ピュリツァーと新聞戦争 4　大英帝国とロイターの軌跡 5　視覚の２０世紀 6　複製芸術の時代 7　プロパガンダ（政治宣伝） 8　戦争報道と国益 9　メディア複合体 10　ネットと公共性 11　Contents　is　King 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。	定時試験の成績に平常の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

	現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
マスメディアは民主主義社会の発展とともに、ジャーナリズムという場を通して世論形成や権力の監視機能を高めてきた。「公共圏」という概念は言論を通した社会的公正や公共的な価値の実現を担うジャーナリズムの重要な足場とされてきたが、その倫理的基盤が大きく揺らぐ。 国際化と市場経済の広がりのもとでメディアが巨大産業化する一方、「国益」への関与が深まっている。ネットメディアなどを通した「私」の領域の拡大は、これまでの送り手と受け手の関係を変化させ、メディアを介した個人と国家や社会との調和的関係に摩擦が生じている。 こうした観点に立って秋学期の「メディアと現代社会」では、メディアの報道倫理のあり方を具体的な事例を通して問うなかで、それを支えてきた「表現の自由」や「知る権利」と個人の「プライバシーの権利」や「個人情報保護」の対立などの背景を考える。 メディアの巨大産業化とネットメディアの参入で「知的財産」としての情報の価値が高まる一方で、これまでメディアが担ってきた「公共圏」とジャーナリズムの社会的機能が衰退するのではないか。われわれが日々直面している現実からその問題点と課題を探りたい。	1　はじめに 2　「公共圏」とメディア 3　客観報道・キャンペーン・検閲 4　メディアの情報操作 5　「知る権利」と「プライバシー」 6　揺らぐ「表現の自由」 7　メディア経営の基盤 8　誤報・人権侵害はなぜ起きるのか 9　世論とテレポリティックス 10　知的財産とメディア 11　視聴率至上主義 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。原寿雄『ジャーナリズムの思想』（岩波新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に平常の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

	現代社会(Ⅲ)(広告論 a)	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 １、現代広告の潮流について考えます。 ２、広告の機能について考えます。 ３、広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 ４、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 ５、CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	１、 現代広告の潮流と課題 ２、 広告の定義と機能 ３、 広告の目的と広告の種類 ４、 マーケティング戦略と広告 ５、 ブランド戦略と広告 ６、 広告のターゲットと広告の種類 ７、 広告ビジネスの全体像 ８、 広告主の役割 ９、 広告会社の機能 １０、　広告メディアの動向（マスメディア） １１、　広告メディアの動向（Web、SP） １２、　事例研究①
テキスト、参考文献	**評価方法**
■　梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■　足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、レポート、試験による。

	現代社会(Ⅲ)(広告論 b)	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 １、現代広告の潮流について考えます。 ２、広告の機能について考えます。 ３、広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 ４、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 ５、CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	１、 広告計画の全体フロー ２、 広告目標の設定 ３、 マーケティング戦略の立案①（ターゲット・インサイト） ４、 マーケティング戦略の立案②（ポジショニング戦略） ５、 アカウント・プラニング ６、 ブランド戦略の立案 ７、 クリエーティブ戦略の立案 ８、 広告制作 ９、 メディア戦略の立案 １０、　広告効果の測定 １１、　事例研究② １２、　事例研究③
テキスト、参考文献	**評価方法**
■　梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■　足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、レポート、試験による。

	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 a)	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 春学期は、テキストとして小浜逸郎氏の『「責任」はだれにあるのか』を用います。同氏は、家族論、学校論、思想、哲学などを幅広く論じている気鋭の社会批評家です。本書では「責任」をめぐって、現代社会の多様な問題が扱われています。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの考え方・生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。覚えるのではなく考える授業です。	1　社会科学とは何か 2　性関係における男女の責任 3　学校と教師の責任、少年犯罪における親の責任 4　大人と子どもの責任の違い、刑法第 39 条について 5　メディアの責任と風評被害について、イラク人質問題と「自己責任」について 6　近代国家における責任、戦後国民に戦争責任はあるのか 7　昭和天皇の戦争責任を考える 8　「責任」を論じることの難しさ 9　カントの定義、過去こそが責任をリアルにする 10　共同関係という現実的観点の不足、「未来」をリアルに生きる視点 11　なぜ不条理なのか、カントの道徳命題 12　法・ルール・規則、責任の比重 ※　以上は、だいたいの目安です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
小浜逸郎『「責任」はだれにあるのか』ＰＨＰ新書、2005 年	中間レポートと学期末試験の成績を基本とし、自由提出レポートと出席状況を加味して、総合的に評価します。

	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 b)	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 秋学期は、テキストとして青木人志氏の『「大岡裁き」の法意識――西洋法と日本人――』を用います。同氏は、法文化論の研究者です。本書では「大岡裁き」に象徴されるようなわが国の法意識や裁判観をめぐって、日本文化論が比較法的に論じられています。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの考え方・生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。覚えるのではなく考える授業です。	1　穂積陳重と明治法制史、大学南校貢進生のスナップ、法学の名門穂積一族 2　自信たっぷり西洋紳士への変身、イギリス留学の影響、ドイツ法学への転換 3　西洋法継受のはじまり、不平等条約への影、フランス法を学んだ天才少年 4　ボアソナードの来日、草創期の法学教育、フランス法学の衰退、二つの法体系の対立 5　法典論争、ドイツ流民法の誕生、アメリカ法学の影響 6　法廷見取図の変遷と裁判官の歴史、三つの法廷図、お白洲の構造と身分序列、法廷の近代化 7　法受容の三つの段階、八雲の観察した日本人の法意識、西洋法の日本語化 8　訳語が議論を枠づける、法と裁判の担い手の養成、拷問廃止のいきさつ 9　法律と文化を考えた学者たち、二つの「隣人訴訟」 10　法務省の見解、新聞が報道した「大岡裁き」、「三方一両損」的価値観 11　裁判手数料と理想の裁判官、双方とも得をする和解 12　交通事故賠償での損得勘定、法意識論・法文化論の現状と課題、「大岡裁き」から自己責任へ
テキスト、参考文献	**評価方法**
青木人志『「大岡裁き」の法意識――西洋法と日本人――』光文社新書、2005 年	中間レポートと学期末試験の成績を基本とし、自由提出レポートと出席状況を加味して、総合的に評価します。

	現代社会(Ⅲ)(教育法 a)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利義務関係の視点から整理して、教育問題の分析･解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされるいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判はむしろ増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害を具体的な裁判事例を通して法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。	1　学校における子どもの人権侵害 ――問題化の経緯と分類 2　体罰裁判とその特徴 ――体罰裁判の判例動向 3　体罰裁判の新しい展開 ――障害児体罰･スポーツ体罰 4　いじめと裁判 ――中野富士見中事件図いわき小川中事件 5　いじめ自殺と予見可能性 ――津久井町立中野中いじめ自殺事件 6　いじめ調査・報告義務訴訟 7　丸刈り校則裁判 8　修徳高校パーマ校則裁判 9　都立高校原級留置き訴訟 10　信教の自由と学校教育 ――エホバの証人退学事件 11　内申書･指導要録開示訴訟 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。	試験

	現代社会(Ⅲ)(教育法 b)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的問題状況の把握(教育法ａ)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、教育法の基礎概念である教育人権の問題状況と、教育と国家との関係の原理的なあり方と現実の緊張関係を分析します。	1　戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2　教育と国家 ――学テ裁判 3　教科書裁判（1） 4　教科書裁判（2） 5　障害児の学習権 ――特殊学級入級処分取消訴訟 6　子どもの市民的自由 ――内申書裁判 7　親の教育権 ――日曜日訴訟 8　親の教育権 ――七尾養護学校事件 9　教師の教育の自由 ――伝習館高校事件 10　教師の教育の自由と日の丸･君が代 11　教師の良心の自由 12　教育基本法改正問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください	試験

	現代社会(Ⅲ)(民法 a)	担当者	石井　保雄

講義目的、講義概要	授業計画
最近では、法律相談を題材にしたテレビのヴァラエティー番組もあり、法ないしは法律について、以前よりも身近なものに思える人も増えているかと思う。この講義では、法律学のなかでの「基本のキ」(少し古いか！)ともいえる民法の概略を説明したいと考えている。 民法は、私たちの日常生活のなかで、もっとも身近な法律である。しかし一方、民法は全体で千条を超える条文数のある大きな法律で、関連法規も含めれば膨大なものとなる。またつい最近までカタカナ混じりの文語体の漢字が多用された、分かりにくい法律であった。ただしこれについては、昨年からひらがな口語体になり、随分改善された。 この講義では、民法について、その基本的な考え方を説明しようと考えている。具体的には、民法の別名でもある「商品交換法」「財産取引法」という側面を中心にして、その基本的な枠組みがどのようなものとなっているのかを説明し、また私たちが生きる現代社会では、どのようなことが問題となっているのか考えていきたいと思う。 受講にあたっては、小型のものでいいから、「六法全書」を持参してほしい。	契約の成り立ちとその役割 １　私たちの生活と民法 ２　法的は効果が発生する行為としない行為 ―法律行為 ３　契約当事者となるための条件 ―権利能力・意思能力・行為能力 ４　同上 ５　当事者の意思に問題があって契約が有効にならないとき ―意思の欠決、瑕疵ある意思表示 ６　同上 ７　本人の活動を拡大するためのシステム ―代理制度 ８　法律関係を時間的に調整する制度 ―時効、除斥期間 ９　契約関係の重複と物の引渡し ―債権と物権の意味 １０　契約内容が不十分にしか実現されないとき ―債務不履行 １１　契約の目的物のキズがあった場合の売り主の責任 ―瑕疵担保責任 １２　契約の実行を確保するための制度 ―保証
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門』(信山社・２００４)	基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただしレポートの提出を求め、そのことも考慮するつもりである。

	現代社会(Ⅲ)(民法 b)	担当者	石井　保雄

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、春学期に続いて、法律学における基本科目であり、私たちの日常生活においてもっとも身近な法律である民法について、その基本的な考え方と現代社会でいったいどのような問題が提起され、それらを民法はいかに解決し、またしようとしているのかということを検討してみたいと思う。 具体的には、最初に人びとのあいだの、自由な商品交換を、いわば裏から支えている不法行為法を中心に触れて、そのあとは、民法の、もう一つの側面である、家庭内における夫婦や親子関係をめぐる問題などについてとりあげたいと思う。なお今日「家族法」と呼ばれる、民法分野も、それが決して商品交換法としての民法と無関係でないことも、あわせて明らかにしたいと思う。 春学期に続いて受講することが望ましいのは、いうまでもない。ただし秋学期のみの受講者にとっても、興味・関心のもてるものになるように努めたいと思う。受講に際しては、「六法全書」必携であることは、春学期と同じである。	契約だけで解決できない問題 １　契約によらないで生じた富はだれの手に ―不当利得と事務管理 ２　他人の権利・利益を侵す行為の責任 ―不法行為 ３　同上 ４　同上 契約から家族へ ５　夫婦関係の形成 ―婚姻 ６　夫婦関係の解消 ―離婚 ７　先端医療時代の家族 ―親子関係 ８　家族のなかの「弱者」 ―子供を育てる ９　保護の必要な大人 ―高齢者と民法 １０　家族関係と財産関係の交錯 ―相続 １１　同上 １２　家族から社会へ ―「個」と共生
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門』(信山社・２００４)	基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただしレポートの提出を求め、そのことも考慮するつもりである。

	現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開)	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。 講義では、第2 次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。	1　東アジア国際関係の特質 2　冷戦の起源と東アジア 3　中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦 4　中ソ対立とベトナム戦争 5　米中和解の衝撃 6　米ソ・デタント：進展する核軍備管理 7　新冷戦：日米中戦略提携の時代 8　民主化の潮流とソ連体制の崩壊 9　ポスト冷戦の世界 10　東アジア地域の台頭 11　アメリカ単独覇権の時代 12　（予備日）
テキスト、参考文献	**評価方法**
阿部純一『中国と東アジアの安全保障』（明徳出版）	筆記試験（論述）

	現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望)	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中ロという大国の利害が交錯し、かつASEAN という地域協力体やAPEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。	1　21 世紀の超大国・中国：建国 50 年の紆余曲折 2　21 世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷 3　21 世紀の超大国・中国：将来への模索 4　台湾：蒋介石・蒋経国の権威主義時代 5　台湾：李登輝の民主化路線 6　台湾：陳水扁と米中台関係 7　北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展 8　韓国：強権政治から民主体制への転換 9　北朝鮮の核問題と朝鮮半島を取り巻く国際関係 10　東南アジア世界の統合：東アジア共同体の模索 11　総括：現代東アジア国際関係の課題 12　（予備日）
テキスト、参考文献	**評価方法**
阿部純一『中国と東アジアの安全保障』（明徳出版）	筆記試験（論述）

	現代社会(Ⅲ)(アンダルシアの文化)	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン文化といえばアンダルシア文化ともいえる。イスラムスペインの特色を残し他のヨーロッパとは異なるアンダルシアの個性とその特色を解説する。	１　スペインにおけるアンダルシア ２　その個性 ３　イスラムスペインとは ４　闘牛 ５　南北をわける闘牛と牛追い祭 ６　フラメンコ ７　パティオ ８　アンダルシア的コンセプト 　ーピロホ・時間 ９　スペイン的死生観 １０　レポート発表 １１　〃 １２　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト 野々山　真輝帆著「すがおのスペイン文化史」（東洋書店）	出席、レポートによる

	現代社会(Ⅲ)(現代スペイン社会の諸問題)	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
フランコ体制を経てスペインは民主化した。新しいスペインの諸問題を浮き彫りにする	１　フアン・カルロス国王 ２　アルバ女公爵のライフスタイル ３　フランコ時代の男女交際 ４　麻薬 ５　外国人移民問題 ６　性差別 ７　同棲 ８　食生活 ９　クリスマスの祝い方 １０　レポート発表 １１　〃 １２　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト 野々山　真輝帆著「すがおのスペイン文化史」（東洋書店） 参考文献 野々山　真輝帆著「スペインを知るための６０章」（明石書店）	出席、レポートによる

	現代社会(Ⅲ)(ビジネス思考で考える)	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義の狙い 本学は学生がまじめであることは定評があるものの、一方で外部からは他大学に比して学生がおとなしく受身である、語学系の大学からか実業に関心が薄い、と指摘されることが多い。こうした傾向を打破し、実社会で活躍する人材になるために、使える思考方法とはなにか、必要な知識はなにかを考えるための講義を行う。 ２．講義の内容 大企業の元取締役（担当講師）と担当者の２名により、毎回当該「大企業ビジネス」をケースとして、講義、課題発表や実践的な討議を実施する。 ３．受講者 この講義は意欲ある学生の実践的な能力を伸ばすことを目的としているので、以下の条件を満たす学生を対象とする ①２年生以上で全学総合講座「ものづくりの現場から」の単位取得者 ②２年生は、１年生の成績でＡＡ、Ａの数が１０以上 ③３年生以上は、前年度までの成績でＡＡ、Ａの数が２０以上。②、③は自己申告ベース。定員を超えた場合は抽選	１．ガイダンス、商社ビジネス（講義） ２．商社ビジネス（課題発表、討議） ３．商社ビジネス（討議とまとめ） ４．アパレルビジネス（講義） ５．アパレルビジネス（課題発表、討議） ６．アパレルビジネス（討議とまとめ） ７．家庭用製品メーカービジネス（講義） ８．家庭用製品メーカービジネス（課題発表、討議） ９．家庭用製品メーカービジネス（討議とまとめ） １０．自動車タイヤメーカービジネス（講義） １１．自動車タイヤメーカービジネス（課題発表、討議） １２．自動車タイヤメーカービジネス（討議とまとめ） ※　受講者数、レベルにあわせて内容の一部変更がありうる
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料を配布する予定	出席・課題提出とテストによる総合評価

	現代社会(Ⅲ)(ビジネス思考で考える)	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
春に同じ	春に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料を配布する予定	出席・課題提出とテストによる総合評価

	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	1　オリエンテーション：授業概要等の説明 2　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ 3　地球環境の歴史 4　地球環境の構造等：地球という惑星について 5　地球環境と地球システム 6　地球環境と資源（I）：資源の特性 7　地球環境と資源（II）：エネルギー 8　地球環境と材料：地球材料学とは 9　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １０　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １１　地球環境問題概論 １２　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	1　オリエンテーション：授業概要等の説明 2　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a) 3　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b) 4　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a) 5　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b) 6　地球環境問題各論（II）：酸性雨 7　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 8　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 9　地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少 １０　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少、開発途上国等の環境（公害）問題など １１　地球環境の保全：環境と開発、文化・経済・社会等の今後のあり方など １２　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

	自然・環境・人間（III）（宇宙論 a）	担当者	福井　尚生

講義目的

✡『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。

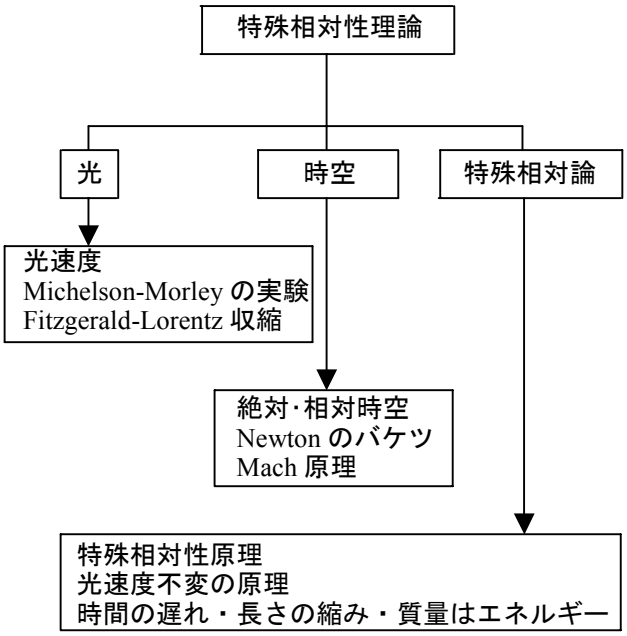
✡Einstein は当時、研究者の間で議論されていた**光**の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。
また Einstein が、**時**間・**空**間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。

✡主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った**発想の転換**、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。

✡視聴覚教材を出来るだけ利用します。

✡同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

✡（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『なっとくする相対性理論』松田卓也、二間瀬敏史　著・講談社）

評価方法

✡主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）で、「いかに努力したか」も評価の対象です。

	自然・環境・人間（III）（宇宙論 b）	担当者	福井　尚生

講義目的

☯『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。

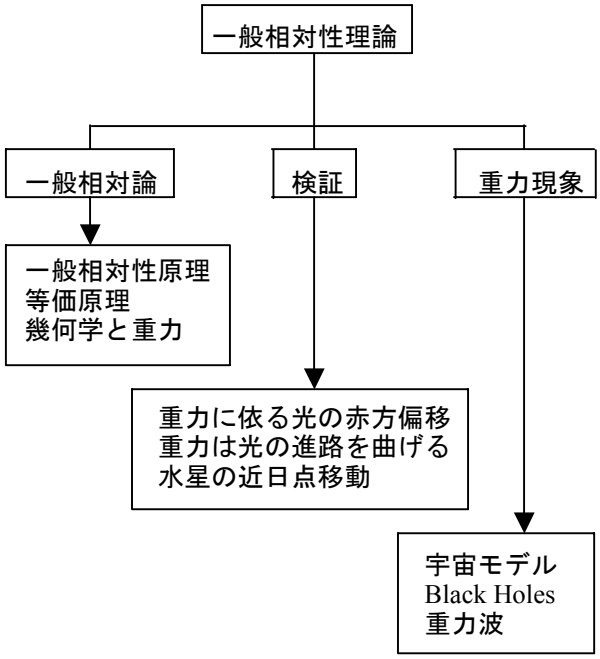
☯“一般”化する事により「一般相対性理論」は**重力**をより深く理解することになりました。
そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の話題を交えながら学びます。理論はその後の観測で**検証**されなければなりません。折角の理論に変更を強いられることも多々あります。

☯発想を転換して得られた独自の考えは、**用心深く実践**する必要があります。（相対性）理論構築への道程の話が、自分の考えを実践する際の役に立てば良いと思います。

☯視聴覚教材を出来るだけ利用します。

☯同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。

講義概要



（テキス）・（参考文献）

☯（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『なっとくする宇宙論』二間瀬敏史　著・講談社）

評価方法

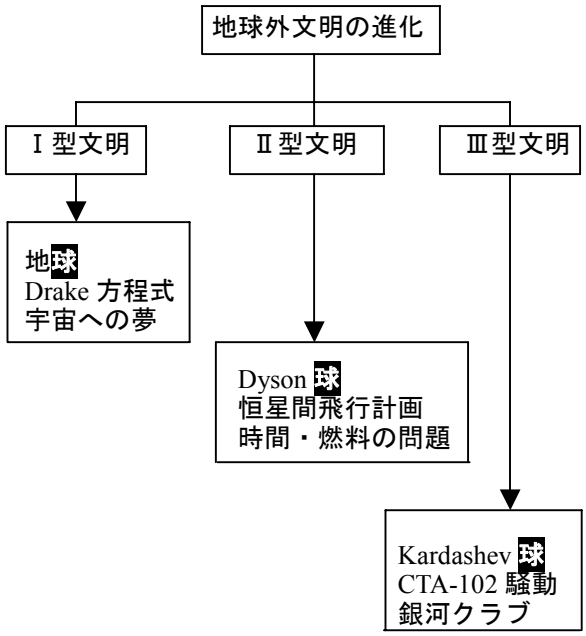
☯主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）で、「いかに努力したか」も評価の対象です。

	自然・環境・人間（III）　（地球外文明論　a）	担当者	福井　尚生

講義目的

- 『地球外文明論 a』では、現在の地球文明を基点に「地球外文明の進化」を学びます。
- 我々人類は、宇宙進化を司る“宇宙方程式”の現（時間・空間）に対する一つの解として存在します。この解の時間･空間発展を辿れば、文明の進化を考察出来る筈です。ただ、宇宙方程式の完成には、自然の探求方法を「自然科学」から「自然学」へと広げる必要があります。
- 人類が今行う進化への営為が、この時間･空間発展に沿ったものかどうかを、主体的に勉強して得た知識をもとに模索し、「進化への自由で大きな夢」を各自が抱くきっかけにして下さい。
- 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- 同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

- （テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『地球外文明の思想史』横尾広光　著・恒星社厚生閣）

評価方法

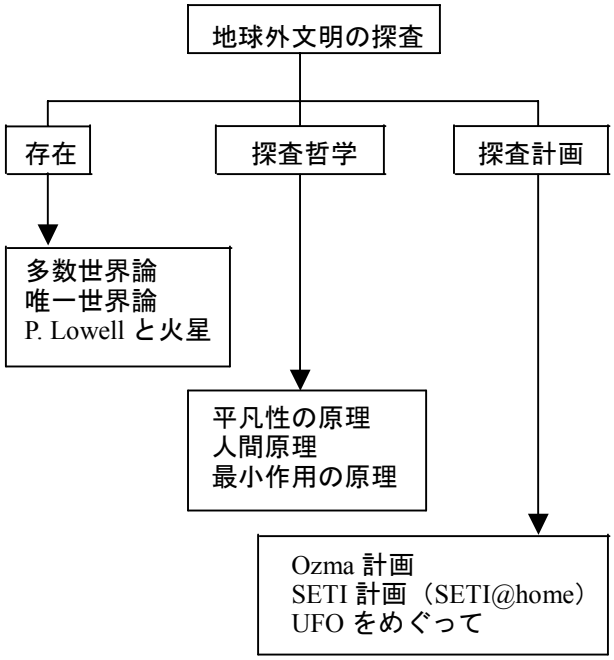
- 主に、試験（授業・配布プリント・宿題から出題）で、「いかに努力したか」も評価の対象です。

	自然・環境・人間（III）　（地球外文明論　b）	担当者	福井　尚生

講義目的

- 『地球外文明論 b』は、『地球外文明論 a』の知識を前提に「地球外文明の探査」を学びます。
- 多数世界論の立場から地球外文明の存在を信じ、地球外文明の探査哲学を通して我々を探査に駆り立てる原理を、また探査計画を通じて自然の本質を考えます。
- 地球外文明の探査･発見（への努力）は、我々人類の存在意義･進化の方向に指針を与えてくれると思います。主体的に勉強して得た知識をもとに自然学への更なる広がりを模索し、「ETI への夢」を自由に大きく膨らませながら、“Are we alone?”の問い掛けを続けて下さい。
- 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- 同年度・学期に私の他講義受講はお薦めしません。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

- （テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『*Cosmic Company*』S. Shostak & A. Barnett, CAMBRIDGE）

評価方法

- 主に、試験（授業・配布プリント・宿題から出題）で、「いかに努力したか」も評価の対象です。

	ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　言語の４技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「書く」技能の向上を目指す。 講義概要 　「書く」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に大学生活において必須となる論文の書き方について練習する。この練習を通して、客観的に事物を説明し、根拠を示して自らの考えを述べることができる能力の育成を行う。 　具体的には、まず、日本語検定３級程度の問題演習を行いながら基本的な文章能力を向上させる。その後に、その成果をふまえつつ、基本的な形式を備えた短い論文を作成し、論文の形式について理解させる。	１はじめに ２表現の方法①（５Ｗ１Ｈ） ３表現の方法②（文を短く切る） ４意見文を書く①（文が持つ役割） ５意見文を書く②（事実の報告、意見） ６意見文を書く③（事実の報告、意見、意見の正しさの論証） ７意見文を書く④（事実の報告、問題提起、提起された問題の解答） ８論文を書く①（序論） ９論文を書く②（本論①） 10 論文を書く③（本論②、結論） 11 レポート提出 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

	ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　言語の４技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「話す」技能の向上を目指す。 講義概要 　「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 　具体的には、まず、発声練習として朗読を行う。次に、プレゼンテーションの技術について、ビデオを見ながら学習する。さして、その成果を踏まえたかたちで発表を行う。	１はじめに ２発声練習 ３朗読① ４朗読② ５朗読③ ６プレゼンテーションの理論① ７プレゼンテーションの理論② ８プレゼンテーションの理論③ ９発表① 10 発表② 11 発表③ 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

	ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙、メールの本質に迫る。 〔講義概要〕 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 〔受講生への要望〕 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③ 手紙文の約束。 拝啓―時候の挨拶―本文―敬具―（追伸）まで。 ④　⑤ 時候の挨拶と季節感 ⑥　⑦ 著名人の手紙鑑賞、解説。 ⑧　⑨ 手紙を題材にした小説の鑑賞 ⑩　⑪　⑫ メール作成の問題点 ⑬以降 添削指導
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。レポート。定期試験。

	ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 〔講義概要〕 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 〔受講生への要望〕 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③　④ 流行語の変遷（流行語大賞の分析） ⑤　⑥ 若者言葉の問題（世代語についての考察） ⑦ 放送コードの問題 ⑧ 共通語の理想と現実 【実践編】 ⑨ 心を開かせる挨拶のしかた ⑩　⑪　⑫ ３分間スピーチの実践 ⑬以後 総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。レポート。定期試験。

	ことばと思想（Ⅳ）（日本語音声表現のトレーニング　基礎編）	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を獲得する為の基礎を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その基礎となる発音・発声・アクセント・イントネーション・更に敬語等のことばと表現について学ぶ。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	1　オリエンテーション 「ことばと人間」 2　自然な発音・発声 「母音」トレーニング 3　自然な発音・発声 「子音」トレーニング 4　自然な発音・発声 「鼻濁音・拗音・促音・長音・無声化」 5　自然な発音・発声 「総合トレーニング」 6　アクセントの型と種類 「名詞・形容詞・動詞のアクセント」 7　自然なイントネーション 8　敬語 「用法と実践」 9　話して伝える基本 「話を組みたてる」 10　話して伝える基本 「説明する」実践 11　話して伝える基本 「スピーチ」実践 12　気をつけたい表現 「曖昧表現・若者ことば・慣用句」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

	ことばと思想（Ⅳ）（日本語音声表現のトレーニング　表現編）	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、話して伝える能力・対話する能力・読んで伝える能力を習得する。 従って、春学期を受講した上での参加が望ましい。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	1　スピーチの実践 「即座にまとまった話をする」 2　リポートの実践 「内容把握と伝達」 3　聴く力 「インタビュー実践」 4　話すと読む 「読んで伝えること」 5　文に則したイントネーション 6　文意と「間」「速さ」「呼吸」 7　意味のつながりと「卓立」「抑揚」「強弱」 8　意味のつながりと句読点/表現技術の復習 9　短文を読む 「告知文」 10　朗読 「随筆」 11　朗読 「小説」 12　読んで伝える 「まとめ」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

	ことばと思想（Ⅳ）（生活文化の発見）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、ことばだけであるものではない。会話をしようとするとき、文章を書こうとするとき、まず、その前に何を話すのか、何を書くのか、その材料となるべきものがなくてはならない。ここでは、我々の身のまわりにある「何でもない事柄」が、どのように記録の対象となり記述されていったのかを検討することによって、自らが話し、書く前提を考えていきたい。	１　ガイダンス ２　生活文化の枠組み ３　情報の蒐集と共有化 ４　創作としての読解 ５～９　民俗誌を読む １０　民俗調査の方法－観察 １１　民俗調査の方法－サーヴェイ・聞き書き １２　民俗調査の方法－記録・カード化
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想（Ⅳ）（生活文化の記述）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、発せられてこそ役割を果たす。せっかく調査し、理解したものも、表現されなければ意味を持たない。ここでは、身のまわりで発見した普段見過ごしがちな「何でもない事柄」を主題化し、その理解、記述することによって、ことばの理解と表現を体感したい。	１　記述の意義 ２　情報の整理・分析 ３　記述の方法 ４　主題と構成 ５～９　民俗誌を書く １０　批評 １１　推敲と校正 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想（Ⅳ）（生活史を読む）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
生活史とは、集団や社会を把握することを目的として、ひとりの個人の全生涯、もしくは半生を記録したものである。 ことばは、コミュニケーションにおいて、もっとも有効に活用される手段である。それは、他者の理解と自己の表現の仲立ちとして、ことばが使われているということでもある。ここでは、コミュニケーションにおけるもっとも基礎となる他者の理解を、生活史をテキストとして考えてみたい。	１　ガイダンス ２　読解と想像 ３　読解と創造 ４　生活史とは何か ５　生活史を読むー日記 ６　生活史を読むー個人史 ７　生活史を読むー民俗誌(1) ８　生活史を読むー民俗誌(2) ９　生活史を読むー個人史と社会史 １０　観察の方法 １１　聞き書きの方法(1) １２　聞き書きの方法(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想（Ⅳ）（生活史を書く）	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
会話であれ、作文であれ、人がことばを発するとき、通常は、情報の蒐集→理解・分析→構成・表現の順でおこなわれる。ここではそれをふまえて、特定の個人を選び、インタビューによって情報を蒐集し、その個人の社会背景を文献資料等によって理解をし、そして、それを文章として表現する、すなわち、個人の生活史を編むことによって、ことばの理解と表現を体感したい。	１　表現とは何か ２　表現の方法 ３　用字法 ４　表現の工夫 ５　文章の種類 ６　文章の書き方 ７　生活史を書くー情報の蒐集 ８　生活史を書くー情報の整理・分析 ９　生活史を書くー主題と構成 １０　批評 １１　推敲と校正 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を勉強する目標または将来就きたい仕事として通訳ということを少しでも考えているみなさんに、通訳者が何に苦労してどんな仕事をしているかを紹介します。 複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での現状と問題点、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。 ほかにここでは、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントを提供します。参加者の英語のレベルを問わず、人数も多いため、厳しい通訳学校のような訓練はできませんが、最初の数回で英語の通訳の基本的な訓練方法を紹介し（授業計画の[　　]内参照)、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。 初回（4 月 15 日）には必ず出席すること。 火曜３限の(英語通訳の仕事２)のシラバスもご参照を。	1　通訳って何だろう　どんな通訳があるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2　ふだんの学習と直前の準備 [shadowing 入門] 3　通訳者に向いている性格、評判の良い通訳とは [sight-translation 入門] 4　どんな声を出すべきか [日本語アナウンス入門] 5　同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 6　通訳として良い仕事をするには（心構えと労働条件） 7　頼れる情報源紹介、先入観に邪魔されないコツ 8　重大ミスの避け方／ハイテク導入と将来像 [Q&A 練習の応用とインタビュアー入門] 9　世界共通語の功罪、言葉を通じさせることの意味 10　異文化のギャップを埋める努力 11　これからの人間らしい holistic な通訳とは 12　予備（たとえば、英語による講演と通訳実演）
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	レポートを課し、期末テストは行わない。

	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を勉強する目標または将来就きたい仕事として通訳ということを少しでも考えているみなさんに、通訳者が何に苦労してどんな仕事をしているかを紹介します。 複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での現状と問題点、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。 ほかにここでは、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントを提供します。参加者の英語のレベルを問わず、人数も多いため、厳しい通訳学校のような訓練はできませんが、最初の数回で英語の通訳の基本的な訓練方法を紹介し（授業計画の[　　]内参照)、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。 初回（9 月 30 日）には必ず出席すること。 火曜３限の(英語通訳の仕事２)のシラバスもご参照を。	1　通訳って何だろう　どんな通訳があるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2　ふだんの学習と直前の準備 [shadowing 入門] 3　通訳者に向いている性格、評判の良い通訳とは [sight-translation 入門] 4　どんな声を出すべきか [日本語アナウンス入門] 5　同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 6　通訳として良い仕事をするには（心構えと労働条件） 7　頼れる情報源紹介、先入観に邪魔されないコツ 9　重大ミスの避け方／ハイテク導入と将来像 [Q&A 練習の応用とインタビュアー入門] 9　世界共通語の功罪、言葉を通じさせることの意味 10　異文化のギャップを埋める努力 11　これからの人間らしい holistic な通訳とは 12　予備（たとえば、英語による講演と通訳実演）
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	レポートを課し、期末テストは行わない。

	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事 2)	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
2003 年秋から行ってきた「英語通訳の仕事」の一部の受講者から「事情講義の傾向が強く英語の勉強にならなかった」という批判を受けたことを反省し、通訳の実践と英語の勉強に重点を移すことを目ざして開講します。英語通訳の訓練および実例の検討が全体の時間配分の半分を超えるように努力します。 すでに「英語通訳の仕事」を受講した、英検 2 級 TOEIC 550 点以上くらいの人に向いた内容にしますが、受講資格は定めません。何らかの通訳の訓練を受けたことのある人には簡単すぎるかもしれません。今学期に土曜日の「英語通訳の仕事」との同時履修も可能ですが、一部内容が重複するので同時履修を強く勧めるわけではありません。 講義の趣旨は土曜日の「英語通訳の仕事」と一致するので、土曜日の授業の講義目的も参照してください。 基本的には厳しい訓練と課題を課すことはなく、学習方法のヒントを与え自習のコツがつかめるような練習をすることと、通訳の役割について考えることを中心に進めます。 参加者の人数、レベル、希望によって内容の調整をしたいので、初回（4 月 11 日）には必ず出席して、この授業に何を期待するのかをお聞かせください。	1　練習材料の入手方法 2　音声教材を使いこなす練習 3　shadowing の効果、意味、練習方法 4　sight-translation 5　日本語アナウンス入門 6　同時通訳の要領と問題点 7　Q&A Reproduction Method／interviewer 入門 8　時事の通訳（情報源の検討と普段の学習） 9　異文化障壁、stereotype の具体例と対処法 10　最近放送された通訳例の批判的検討 11　予備（たとえば英語による講演と通訳の実演） 12　ふりかえり、成績評価につながる参加者の発表など 全体を通じて、shadowing は頻繁に練習する。 ほかに、土曜日の「英語通訳の仕事」の授業計画に示された内容も一部取り入れる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	十分に準備をした上での短時間の通訳実演を基本にしたいが、参加者に無理のない多様なレポートおよび自主的な課題提出を認める。出席をある程度は重視する。

	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事 2)	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
2003 年秋から行ってきた「英語通訳の仕事」の一部の受講者から「事情講義の傾向が強く英語の勉強にならなかった」という批判を受けたことを反省し、通訳の実践と英語の勉強に重点を移すことを目ざして開講します。英語通訳の訓練および実例の検討が全体の時間配分の半分を超えるように努力します。 すでに「英語通訳の仕事」を受講した、英検 2 級 TOEIC 550 点以上くらいの人に向いた内容にしますが、受講資格は定めません。何らかの通訳の訓練を受けたことのある人には簡単すぎるかもしれません。今学期に土曜日の「英語通訳の仕事」との同時履修も可能ですが、一部内容が重複するので同時履修を強く勧めるわけではありません。 講義の趣旨は土曜日の「英語通訳の仕事」と一致するので、土曜日の授業の講義目的も参照してください。 基本的には厳しい訓練と課題を課すことはなく、学習方法のヒントを与え自習のコツがつかめるような練習をすることと、通訳の役割について考えることを中心に進めます。 参加者の人数、レベル、希望によって内容の調整をしたいので、初回（9 月 26 日）には必ず出席して、この授業に何を期待するのかをお聞かせください。	1.　練習材料の入手方法 2.　音声教材を使いこなす練習 3.　shadowing の効果、意味、練習方法 4.　sight-translation 5.　日本語アナウンス入門 6.　同時通訳の要領と問題点 7.　Q&A Reproduction Method／interviewer 入門 8.　時事の通訳（情報源の検討と普段の学習） 9.　異文化障壁、stereotype の具体例と対処法 10. 最近放送された通訳例の批判的検討 11. 予備（たとえば英語による講演と通訳の実演） 12. ふりかえり、成績評価につながる参加者の発表など 全体を通じて、shadowing は頻繁に練習する。 ほかに、土曜日の「英語通訳の仕事」の授業計画に示された内容も一部取り入れる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	十分に準備をした上での短時間の通訳実演を基本にしたいが、参加者に無理のない多様なレポートおよび自主的な課題提出を認める。出席をある程度は重視する。

	ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．「正しく」とは？ ３．「わかりやすく」とは？ ４．「切れ味よく」とは？ ５．シッカリした文のくみたて ６．ものごとをズバリとあらわすピッタリした語句選び ７．タトエとコトバの魔術 ８．スッキリした文章とは？ ９．テーマ展開と省略 １０．前提と焦点 １１．視点 １２．生き生きとした文章 以上はテーマをムリに分けたものですから、必ずしもこの順に話しが進むわけではないことをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『生きたコトバづかい』(近刊)	たくさん文章を書いているうちに、生きたコトバづかいが身につくことと思うので、それを自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

	ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．「正しく」とは？ ３．「わかりやすく」とは？ ４．「切れ味よく」とは？ ５．シッカリした文のくみたて ６．ものごとをズバリとあらわすピッタリした語句選び ７．タトエとコトバの魔術 ８．スッキリした文章とは？ ９．テーマ展開と省略 １０．前提と焦点 １１．視点 １２．生き生きとした文章 以上はテーマをムリに分けたものですから、必ずしもこの順に話しが進むわけではないことをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『生きたコトバづかい』(近刊)	たくさん文章を書いているうちに、生きたコトバづかいが身につくことと思うので、それを自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

	ことばと思想(Ⅳ)(ネーミングの言語学)	担当者	田中 善英

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・内容：人間同士がコミュニケーションを行う際に言語は必要不可欠なツールであるが、その言語を使用する際には、「ネーミング」という行為が必要不可欠である。例えば何かについて語ろうとする場合、その「何か」には、何らかの名前が付いていなければ説明できない。この講義では、この「ネーミング」という行為について考え、芸名、地名、企業名、商品名、ブランド名、サービス名あるいはキャッチコピーなどの実例を言語学（発音、意味、構文等）の立場から分析していき、受講生にも実際に分析・ネーミングをしてもらう。「広告」「広報」といった話も出るであろうが、あくまでもこの授業は「言語学」であり「広告論」の授業ではない。なお、分析対象言語は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語等とする。 **その他**：授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。また、この講義はカテゴリーⅣ（実習科目）のため定員があり、受講希望者数が定員を超えた場合には抽選を行う。受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。	第１回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明。「ネーミング」とは何か。なぜ、「ネーミング」という行為が必要不可欠なのか。 第２回以降は原則として２回で１セットの講義形態となる：［１回目］実例の分析、言語学的解説→授業終了後翌週までに簡単なレポート提出、［２回目］提出されたレポートに対するコメント、補足説明（もちろんそのレポートが誰のものであるかは発表しない）。レポートの提出は講義支援システムあるいはホームページ経由の予定。従って、ホームページの閲覧や文字入力等、パソコンに関する最低限のスキルが要求される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	授業への積極的参加姿勢、レポート等により評価する。レポートの提出回数が規定回数を下回った場合には、理由の如何を問わず不可とする。追試験等は行わない。

	ことばと思想(Ⅳ)(ネーミングの言語学)	担当者	田中 善英

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

	ことばと思想（Ⅳ）（哲学的実習：愛について）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。 〔講義概要〕 春学期はさまざまな角度から、愛の問題を扱う。つまり、恋愛から家族愛、社会愛、人類愛などの問題を考える。 ただし、ディスカッションはディベートではない。相手を議論で打ち負かすゲームではない。そうではなく、先ず第一に、相手の言うことを「相手の立場」で理解できることができるようにすることが大事である。その時に大事なことは「我を忘れる」ほどに、相手の立場になる努力をして、相手の話を理解することである。次に、自分の考えを、相手が理解できるようにするには、どういう仕方で伝えることができるかを考えながら、話すことである。その時に大事なことは、やはり相手の立場から見たら、自分はどのように理解されることになるのかを感じ取りながら、自分の中にあるアイデアを表現する努力である。従って、自分の考えを押し付けるような形で、ここでのディスカッションは成立しないことをこの機会に体得することになる。	１　概要説明 ２　グループ分け ３「愛」についての哲学思想 ４　小グループディスカッション ５　全体ディスカッション ６「愛」についてのヴィデオ（１）と説明 ７　小グループディスカッション ８　全体ディスカッション ９「愛」についてのヴィデオ（２）と説明 １０　小グループディスカッション １１　全体ディスカッション １２　調整日 〔受講生への要望〕 ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味である。したがって、ディスカッションを遊びに思っている参加者はこの授業を取るべきではない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席状況（ディスカッションの出席が不足すれば単位は取れない）とレポート

	ことばと思想（Ⅳ）（哲学的実習：生きる意味）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。 〔講義概要〕 秋学期期はさまざまな角度から、生死の問題を扱う。 ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味である。ディスカッションはディベートではない。相手を議論で打ち負かすゲームではない。そうではなく、先ず第一に、相手の言うことを「相手の立場」で理解できることができるようにすることが大事である。その時に大事なことは「我を忘れる」ほどに、相手の立場になる努力をして、相手の話を理解することである。次に、自分の考えを、相手が理解できるようにするには、どういう仕方で伝えることができるかを考えながら、話すことである。その時に大事なことは、やはり相手の立場から見たら、自分はどのように理解されることになるのかを感じ取りながら、自分の中にあるアイデアを表現する努力である。従って、自分の考えを押し付けるような形で、ここでのディスカッションは成立しないことをこの機会に体得することになる。	１　概要説明 ２　グループ分け ３「生きる」についてのヴィデオ（１）と説明 ４　小グループディスカッション ５　全体ディスカッション ６「生きる」についてのヴィデオ（２）と説明 ７　小グループディスカッション ８　全体ディスカッション ９「生きる」についてのヴィデオ（３）と説明 １０　小グループディスカッション １１　全体ディスカッション １２　調整日 〔受講生への要望〕 これは単なる講義ではなく、ディスカッションをまじめに行う限り成立するものである。ただ単位をとるために参加することは意味がないので、真剣にものを考え、しかも他の参加者とそれを共有するつもりのある人だけが参加できる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	ディスカッションへの出席点。および、レポートの内容。レポートは、真剣に考えたかどうかを、私の判断によって評価する。

	ことばと思想（Ⅳ）（現代ジャーナリズム考 1）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
「表現の自由」、「報道のあり方」、「報道の倫理・責任」、「報道と人権」、「取材の手法」、「ジャーナリズム批判」、「ジャーナリズムの将来」などについて、具体例を示しつつ多角的に分析する。現代ジャーナリズムが用いる特有の語句・表現方法についても学習する。 30 年を超える自らの新聞記者生活を通じて培ったジャーナリズム論とジャーナリスト観を次の世代に伝えたい。ジャーナリスト志望者に役立つ実践的授業をめざす。	ニュースの価値基準、「知る権利」、個人情報保護法、報道協定、報道綱領、スクープと誤報、記者クラブ問題、プライバシーの保護、取材源の秘匿、調査報道、戦争報道、メディア・スクラム、オンブズマン制度、ブログ・ネット新聞など、現代ジャーナリズムに関する基礎的知識と、現代ジャーナリズムが抱える問題点をテーマとして取り上げる（順不同）。 業界用語、差別用語、流行語、外来語の扱いなど、現代ジャーナリズムと言葉の問題についても考察する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト、小論文、レポートなどに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に判断する。

	ことばと思想（Ⅳ）（現代ジャーナリズム考 2）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
「表現の自由」、「報道のあり方」、「報道の倫理・責任」、「報道と人権」、「取材の手法」、「ジャーナリズム批判」、「ジャーナリズムの将来」などについて、具体例を示しつつ多角的に分析する。現代ジャーナリズムが用いる特有の語句・表現方法についても学習する。 30 年を超える自らの新聞記者生活を通じて培ったジャーナリズム論とジャーナリスト観を次の世代に伝えたい。ジャーナリスト志望者に役立つ実践的授業をめざす。	ニュースの価値基準、「知る権利」、個人情報保護法、報道協定、報道綱領、スクープと誤報、記者クラブ問題、プライバシーの保護、取材源の秘匿、調査報道、戦争報道、メディア・スクラム、オンブズマン制度、ブログ・ネット新聞など、現代ジャーナリズムに関する基礎的知識と、現代ジャーナリズムが抱える問題点をテーマとして取り上げる（順不同）。 業界用語、差別用語、流行語、外来語の扱いなど、現代ジャーナリズムと言葉の問題についても考察する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト、小論文、レポートなどに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に判断する。

	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。 **授業計画** 第 1 回目:イントロダクション 第 2 回目:レクチャー:センスのよい表現 　テキスト:第 1 章 　ディスカッション・テーマ:大学で勉強する目的① 第 3 回目:レクチャー:アウトラインの作成方法 　テキスト:第 2 章 　ディスカッション・テーマ:大学で勉強する目的② 第4回目:レクチャー:他者との対話 　テキスト:第 9 章 　ディスカッション・テーマ:大学で勉強する目的③	第 5 回目:レクチャー:プレゼンテーションの準備 　テキスト:第 7 章 　ディスカッション・テーマ:「幸せ」の定義① 第6回目:レクチャー:草稿の作成 　テキスト:第 3 章 　ディスカッション・テーマ:「幸せ」の定義② 第7回目:レクチャー:編集作業 　テキスト:第 4 章 　ディスカッション・テーマ:「幸せ」の定義③ 第 8 回目:レクチャー:チームはどのようにして成長するのか 　ディスカッション・テーマ:感性と理性① 第 9 回目:レクチャー:プレゼンテーションの様々なスタイル 　テキスト:第 6 章 　ディスカッション・テーマ:感性と理性② 第 10 回目:レクチャー:効果的なプレゼンテーションのスキル 　テキスト:第 8 章 　ディスカッション・テーマ:感性と理性③ 第 11 回目:レクチャー:ファシリテーションとコーチング 　ディスカッション・テーマ:感性と理性③ 第 12 回目:総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mary Munter & Harvard Business Press（2003）『ハーバード・ビジネス・エッセンシャルズ〈4〉対話力』講談社	出席、参加状況、テスト

	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	歴史と文化（Ⅳ）（ヨーロッパ地域研究『カルメン』1）	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
世界でもっとも上演回数の多いオペラ『カルメン』の原作者メリメは、長く文化財保護監としてフランスの文化政策の基礎を築きました。そんな才人の彼が書いた小説の中ではスペインの地方色が鋭く観察されています。ビゼーは劇場の方針で原作の棘を省かざるを得ませんでしたが、その偉大な通俗性が人気の秘密となりました。 『カルメン』にもっとも興味があるのは、舞台となったスペインの人たちでしょう。それを受けて原作に忠実な映画化や、もっぱらフラメンコで演じられる舞台など多数の試みがあります。しかし残念なことに、小説の真の主人公であるドン・ホセの人間性の追及が、今ひとつであるようです。 この授業では小説、オペラ、映画、舞台映像などいくつかの資料を比較しながら、このフランス人が創造したスペイン国民文学の受容を検討してゆきたいと思います。学生は語学力・調査能力・演技力・舞踊などさまざまな形で授業に参加できます。 フランス語･スペイン語とも既修であることは要求しませんが、外国語を聞いて楽しめる積極性は欲しいです。資料は講義支援システムで配布します。原則として毎週アンケートをとって平常点をつけます。	以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序、内容とも予告なく変更することがあります。 1　授業方法､評価方法の解説。 2　メリメの人と作品 3　マノン・レスコー 4　多文化の発見 5　ビゼーの人と作品 6　ロマの故郷アンダルシア 7　コンポステラへの巡礼路バスク 8　セビリアの泣いているマリア 9　アルカラの龍騎兵 10　ハバナ 11　三大テノール 12　オーレ ！
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムで配布。ＤＶＤ各種は授業中に紹介。	授業での発表（全員ではない）と平常点および定期試験による。

	歴史と文化（Ⅳ）（ヨーロッパ地域研究『カルメン』2）	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
同上。 内容は連続しているので通年が望ましいが､後期のみでも可。	後期の詳細は未定。前期リストを参照。
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上。	同上。

	歷史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 1)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
16 世紀のイタリアでは、作曲家は競ってペトラルカ（風）の歌詞を無伴奏重唱アンサンブルのための多声音楽に作曲した。今日「マドリガーレ」と呼ばれるこれら一群の作品においては、当時の最先端の作曲技法が用いられているのみならず、西洋音楽史全体を見渡しても他に類がないほど歌詞と音楽の結びつきが重視されている。本講義では、16 世紀のイタリアを代表する 5 人の作曲家のマドリガーレを歌詞と音楽の両面から詳細に検討し、演奏を十分に鑑賞することによって、当時のイタリアにおける歌詞と音楽のあり方をより深く理解することを目的とする。	1　ガイダンスと導入 2　「ルネサンス」と「マニエリスム」 3　音楽史の上でのルネサンスとマニエリスム 4　マドリガーレとは何か 5　マドリガーレの歌詞 6　16 世紀の作曲家の手紙 7　作曲家紹介：ローレ 8　作曲家紹介：ヴェルト 9　作曲家紹介：マレンツィオ 10　作曲家紹介：ジェズアルド 11　作曲家紹介：モンテヴェルディ 12　マドリガーレのその後
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	テストによる。

	歷史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 2)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ギリシャ神話におけるオルフェウスの物語は、何人もの作曲家によってさまざまな時代にオペラ化されており、音楽の世界において最も馴染み深い題材の１つである。本講義では、ギリシャ神話および西洋古典文学におけるオルフェウス像を概観したのち、この神話がどのように音楽史とかかわりを持ち、オペラ化されるようになったのか、またこれらの作品の中でオルフェウスの物語がどのように描かれているのかを、実際に作品を鑑賞しながら観察する。なお、オペラ以外の作品（映画）も適宜取り上げて比較・考察する予定である。	1　ガイダンスと導入 2　オルフェウスとアルゴー号伝説 3　オルフェウスのカタバシス（冥府行） 4　ポリツィアーノ『オルフェオの物語』 5　初期のオペラとオルフェウス 6　モンテヴェルディ『オルフェオ』（オペラ） 7　グルック『オルフェオとエウリディーチェ』（オペラ） 8　森鴎外とオルフェウス 9　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・仏語版） 10　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・二期会による日本語版） 11　コクトー『オルフェ』（映画） 12　マルセル・カミュ『黒いオルフェ』（映画）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	テストによる。

	歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ a)	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読む戯曲作品の抜粋は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。 レポートに関する詳細を初回授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）2 編で 70%。授業で 30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

	歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ b)	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読む戯曲作品の抜粋は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。 レポートに関する詳細を初回授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）2 編で 70%。授業で 30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

	歴史と文化(Ⅳ)(アメリカの詩の楽しみ方)	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
まず第一に、詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。 アメリカ先住民の口承詩（うた)、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。	1 アメリカの大地の声—Native American の歌を聴く 2　Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3 デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman のアメリカ 4 ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson の世界 5 モダニズムの起源を探る— (1)Ezra Pound がみた東洋の詩学 6 (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok”—詩に描かれた現代人の苦悩 7 (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8 (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9 ポストモダンの詩を読む (1)Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” を読む 10 (2)Gary Snyder の “Ripples on the Surface”を読む 11 (3) Sylvia Plath の “Daddy” を読む 12 (4) Robert Creeley の “The Whip”を読む
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントを使用。参考文献亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』(岩波文庫)	授業への参加度とレポート（ワープロで 4,000 字程度の詩人論、または作品論）で決める。

	歴史と文化(Ⅳ)(イギリスの詩の楽しみ方)	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ワーズワス（W.Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 **講義概要** 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する **参考文献** 新井明著　『英詩鑑賞入門』　研究社　１９８７	１．詩形について ２．＜マザーグース＞　I ３．＜マザーグース＞　II　（video 鑑賞） ４．＜現代英詩アラカルト＞　T. Hughes(1992-1985),Seamus Heaney(1939-)など ５．＜ロマン派の曙＞　W.Blake(1757-1827), video 鑑賞（字幕なし、以下同じ） ６．＜ロマン派の詩＞　I　ワーズワス、video 鑑賞 ７．＜ロマン派の詩＞　II　S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) ８．＜ロマン派の詩＞　III　P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) ９．＜ロマン派の詩＞　総括　解説と video 鑑賞 １０．Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。　Video 鑑賞 １１．John　Milton(1608-74) *Paradise Lost*(1667)のさわり、ソネット２３．Video 鑑賞 １２．William Shakespeare(1564-1616),　解説と video 鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
薬師川虹一他　編注『マザーグスと美しい英詩』 北星堂　１９８７	テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。

	歴史と文化(Ⅳ)(西洋美術史 a)	担当者	前川　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
ルーヴル美術館に所蔵される絵画作品の中から、時代、ジャンルを代表する名作を取り上げ、それを中心にさまざまな美術の見方を学びながら、中世から 19 世紀までの西洋美術史を概観します。 授業中に配布する重要事項をメモしたプリントを参照しながら、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解し、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間(イントロダクション)に講義の進めかたや、勉強のしかたなどをお話しますので、必ず出席してください。	1　イントロダクション 2　ルーヴルの歴史と現在 3　ジョット『聖痕を受ける聖フランチェスコ』 4　ヴァン・エイク『ロランの聖母』 5　ダ・ヴィンチ『モナリザ』 6　プッサン『四季図』 7　ルーベンス『メディチ・サイクル』 8　ボージャン『チェス盤のある静物』 9　ワトー『シテール島への船出』 10　アングル『ホメロス礼賛』 11　ドラクロワ『民衆を率いる自由』 12　(予備)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に指示します。	テストによる。

	歴史と文化(Ⅳ)(西洋美術史 b)	担当者	前川　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
15 世紀のイタリアとフランドルの絵画について学びながら、さまざまな美術史上の問題について考えます。 授業中に配布する重要事項をメモしたプリントを参照しながら、スライドで映す作品と関係付けて講義の内容を理解、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間(イントロダクション)に講義の進めかたや、勉強のしかたなどをお話しますので、必ず出席してください。	1　イントロダクション 2　15 世紀の美術 3　15 世紀のフィレンツェ美術 4　マザッチョ作サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂ブランカッチ礼拝堂壁画 5　遠近法 6　パトロンと芸術家 7　パラッツォ・メディチ・リッカルディ礼拝堂の装飾 8　15 世紀のフランドル美術 9　ヴァン・エイク作ヘントの祭壇画 10　偽装のシンボリズム 11　絵画に包含された鑑賞者 12　(予備)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に指示します。	テストによる。

（春）	現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
講座目的 　この講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、「働く」とはどういうことなのか、「働く」ためにどのようなスキルが必要なのかについて、受講生に受講してもらうことを目的としている。 　働くことは、人生の一部である。生きる上で働くこと以外にも重要なことはたくさんある。これから社会に出て生きていく諸君が、どのような人生を設計していくのか、そしてどのようなキャリアを形成していくのか、をこの講座を通してよく考えてもらいたいとおもう。 講座概要 　この講座は、１２回の講義と夏休みに実施するインターンシップ実習から成る。 　講義では、まず受講生に自分と向き合い、これからの人生をどう生きていくかを真剣に考えてもらう。その上で、自己目標を設定し、目標達成に必要なスキルを身につけてもらう。この講座で重視するスキルは、「心の知能指数」と呼ばれる EQ（Emotional Quotient）である。ゲーム等を通して EQ を開発し、リーダーシップ能力やコミュニケーション能力を高め、受講生の今後のキャリア形成に役立てる。 　インターンシップ実習は、受講生自身がインターンシップ先を見つけることから始まる。そして、２週間にわたるインターンシップ実習では様々な体験をすることになるだろう。これは今後の生き方や職業選択を考える上で、貴重な体験になるだろう。なお、インターンシップ先を選択する上で参考になる職業適性テストも講義中に行う。 ・4 月 7 日（金）10:30～　インターンシップ総合説明会（4-407）に必ず出席すること ・EQ アセスメントおよび R－CAP 実施費用として 4000 円程度の費用が必要になる。 　履修決定者は自動発行機にて申請書を購入し、第１回目の授業に持参すること。	第１回　オリエンテーション 　この講座の目的、講座の進め方、グループの決定、EQ アセスメントの実施 第２回　インターンシップの実際 　実習先の探し方や実習先で何をするのかなど、インターンシップを経験した先輩やキャリアセンターの人から話を聞く 第３回　働くこととは？ 　働くこととは何か、自分の適職は何かを考える 第４回　自分と向き合おう 　自分の将来を考え、これからの目標を考える 第５回　EQ とはなにか 　EQ アセスメントの解説 第６、７回　リーダーシップ 　リーダーシップとは何かを理解し、リーダーシップ能力を養成する。 第８、９回　コミュニケーション 　上手にコミュニケーションをとるためには、どうすればよいのか。コミュニケーション能力を養成する。 第１０回　インターンシップ実習に向けて 　実習先での成功談や失敗談など、先輩から話を聞く。また、企業の人事担当者からインターンシップのねらいなどについて話を聞く。 第１１回　実習先でのマナー 　実習で必要とされるマナーを身につける 第１２回　報告会（１０月初旬開催予定） 　インターンシップ実習について報告書を書き、報告する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高山直『EQ　こころの鍛え方』、東洋経済新報社（価格 1680 円） 高山直『EQ　こころの距離の近づけ方』、東洋経済新報社（価格 1680 円）	授業中やインターンシップ先での発言や行動、および実習報告書と報告会での報告、により総合的に評価する。

	現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)a)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定３級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。 したがって、ビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。	①講義ガイダンス　～　簿記の意味・目的・種類 ②簿記の基礎概念 ③取引と仕訳 ④勘定 ⑤帳簿の記入（その１） ⑥帳簿の記入（その２） ⑦決算と財務諸表Ⅰ（その１） ⑧決算と財務諸表Ⅰ（その２） ⑨決算と財務諸表Ⅰ（その３） ⑩現金預金取引（その１） ⑪現金預金取引（その２） ⑫まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井清光著『入門簿記』中央経済社	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)b)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定３級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 春学期に学んだ「現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)a」を基に、一つ一つの勘定科目について深く学ぶ。そして、最後に、財務諸表を作成し、経営組織の財政状態および経営成績を明らかにすることを目的とする。	①商品売買（その１） ②商品売買（その２） ③売掛金と買掛金 ④その他の債権債務 ⑤手形取引 ⑥有価証券 ⑦固定資産 ⑧資本金と引出金、税金 ⑨収益と費用（その１） ⑩収益と費用（その２）、帳簿と伝票 ⑪決算と財務諸表Ⅱ（その１） ⑫決算と財務諸表Ⅱ（その２）、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井清光著『入門簿記』中央経済社	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)a)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきている。 本講座では、日本商工会議所主催のＢＡＴＩＣ（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。 また本講座では、日商簿記３級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その合否は問わない。)	春学期では、英文会計について初めて学習する学生を対象に、基礎的な内容を中心に講義を行う。 ①講義ガイダンス　～　英文会計とは ②資産・負債・資本 ③借方と貸方：複式簿記 ④仕訳と転記 ⑤財務諸表 ⑥修正仕訳と決算仕訳 ⑦売上と仕入取引 ⑧現金仕訳帳 ⑨精算表（その１） ⑩精算表（その２） ⑪その他 ⑫まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)b)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきている。 本講座では、日本商工会議所主催のＢＡＴＩＣ（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。 また本講座では、日商簿記３級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その合否は問わない。) なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。	秋学期では、春学期に比べ、少し応用的な内容について取り扱う予定である。また、問題演習についても、春学期と比較して意識的に増やすつもりでいる。 したがって、基礎的な内容についてはある程度、事前に学習しておく必要があるため、全学共通授業科目として本講義を登録する予定の学生は、春学期にａクラスを履修しておくことが望ましい。 ①講義ガイダンス　～　基礎の確認（その１） ②基礎の確認（その２） ③財務諸表 ④その他（その１） ⑤その他（その２） ⑥国際会計理論（その１） ⑦国際会計理論（その２） ⑧国際会計理論（その３） ⑨国際会計理論（その４） ⑩問題演習 ⑪問題演習 ⑫まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門 a）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，大学でのレポート作成やゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となるワードプロセッサ，表計算ソフト，プレゼンテーションソフトの基本的な使い方を，Microsoft Office を使用した実習により身につけることを目的とします．また，リレーショナルデータベースと呼ばれる，大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても扱います． 注）　この講義は複数の教員により行われるため，各テーマが取り扱われる順序や時間配分については，担当教員によって異なることがあります．	1. 授業の進め方について 2. ネットワークの利用および ID の管理について 3. ワードプロセッサの使用法 1－文章の作成，各種書式の設定 4. ワードプロセッサの使用法 2－図形描画，表の作成，数式の入力 5. 表計算ソフトの使用法 1－表の入力，グラフの作成 6. 表計算ソフトの使用法 2－関数を用いた計算 7. 表計算ソフトの使用法 3－マクロを用いた計算 8. プレゼンテーションソフトの使用法 1－スライドの作成，プレゼンテーション方法 9. プレゼンテーションソフトの使用法 2－アニメーションの設定 10. データベースの作成 1－ソフトの概要とデータの入力方法 11. データベースの作成 2－データの関連付け，検索 12. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください．	各担当教員の指定する評価方法に従ってください．

	現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門 b）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いて作業を行う際には，市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく，コンピュータプログラムを作成し，既存のソフトでは出来ないことを実行させることも可能です．プログラムを作成するには，プログラム言語の文法を覚えることに加えて，「アルゴリズム」と呼ばれる，コンピュータに問題を解決させる手順について考えることが必要になります． この講義では，Java，C 言語，Visual Basic などのコンピュータ言語の一つを使用して，プログラム作成の基礎を学びます．使用する言語は担当教員ごとに異なりますが，各種の言語を用いたプログラム法を学び，基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します．	1. 授業の進め方について 2. コンピュータ言語の文法 1－使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. コンピュータ言語の文法 2－変数と配列，演算式 4. コンピュータ言語の文法 3－条件分岐，繰り返し 5. コンピュータ言語の文法 4－関数，ファイル処理 6. アルゴリズム 1－ソート 7. アルゴリズム 2－数値計算法 8. アルゴリズム 3－乱数を用いた計算 9. 基礎的な問題のプログラム作成 1（各担当教員が指定した問題を，数回の講義に分けて作成します） 10. 基礎的な問題のプログラム作成 2 11. 基礎的な問題のプログラム作成 3 12. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください．	各担当教員の指定する評価方法に従ってください．

	現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンス a)	担当者	兼宗　進

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを通してコンピュータを理解することにより、学生生活・社会生活におけるコンピュータ活用の幅を広げることを目的とする。 授業の前半では、学習に適したオブジェクト指向言語を利用してプログラミングの基礎を学び、ゲームなどの作品プログラムを作成する。 授業の後半では、ネットワークを活用したプログラミングを行い、チャットや対戦ゲームのような作品プログラムを作成する。 これらの体験を通して、使うだけではわからない、コンピュータの動作原理やインターネットの仕組みを学習する。	1.ソフトウェアとオブジェクト指向 2.GUI 部品の活用(1) 3.GUI 部品の活用(2) 4.グラフィックス(1) 5.グラフィックス(2) 6.作品製作(1) 7.作品製作(2) 8.インターネットの原理 9.ネットワークプログラミング(1) 10.ネットワークプログラミング(2) 11.作品製作(1) 12.作品製作(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定(授業で資料を配布する予定である)	出席、レポート、作品プログラムによる

	現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンス b)	担当者	兼宗　進

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを通して、インターネットの商用サイトを理解することにより、社会生活におけるコンピュータ活用の幅を広げることを目的とする。 授業では、サーバーで動作するプログラミングを学習し、実際にショッピングサイトなどの商用サイトを構築する。 これらの体験を通して、使うだけではわからない、サーバーの動作原理やインターネット上のサービスの仕組みを学習する。	1.e コマースサイトの構成 2.データベースの照会 3.データベースの更新 4.HTML 5.サーバー上のプログラミング 6.プログラムからのデータベース操作(1) 7.プログラムからのデータベース操作(2) 8.認証、セッション 9.作品製作(1) 10.作品製作(2) 11.作品製作(3) 12.相互評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定(授業で資料を配布する予定である)	出席、レポート、作品プログラムによる

	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	A．ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、経済学部「コンピュータ入門ａ」・法学部「情報処理概論ａ」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。 １）情報や資料のやり取りをする。 ２）有用な情報を自ら発信する。 ３）マルチメディアを活用する。 ４）各自の発表をパソコンで行う。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1　コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2　ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバー 3　ページ構成、編集方法 4　画像、背景、GIF アニメーション 5　文書整形、フォント、リスト、 6　リンク、イベント処理 7　フレーム、BODY、Window、Document コンポネントへのアクセス 8　テーブル 9　マップ 10　ダイナミック HTML、スクリプト 11　フォーム、オブジェクト 12　アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
http://www.abacuss.com/HTML_help/ http://www.belov.tut.ru/	出席、レポートによる

	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	A．ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、経済学部「コンピュータ入門ａ」・法学部「情報処理概論ａ」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。 １）情報や資料のやり取りをする。 ２）用な情報を自ら発信する。 ３）ルチメディアを活用する。 ４）各自の発表をパソコンで行う。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1　コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2　ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバー 3　ページ構成、編集方法 4　画像、背景、GIF アニメーション 5　文書整形、フォント、リスト、 6　リンク、イベント処理 7　フレーム、BODY、Window、Document コンポネントへのアクセス 8　テーブル 9　マップ 10　ダイナミック HTML、スクリプト 11　フォーム、オブジェクト 12　アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
http://www.abacuss.com/HTML_help/ http://www.belov.tut.ru/	出席、レポートによる

	現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。 その足がかりとして、実際に、自分のホームページを作成し、世界に向けて情報を発信することは有意義な活動である。 この授業の目的は、このような情報発信するのに必要な知識やスキルを学ぶことである。 さらに、インターネットの背景にある脅威、ネチケット、個人情報、著作権等の現代社会における情報分野の諸問題についても深く考えながら授業をすすめていきたいと思っている。 授業内で各自が作成したホームページは、インターネットにつながった PC さえあれば世界中のどこでも閲覧できることになる。獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。 さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようにお願いしたい。	1　ホームページの仕組み 2　ホームページの作成環境 3　ホームページの作成 4　HTML ファイルの公開 5　スタイルシート 6　画像表示 7　表とレイアウト 8　ホームページの構成 9　ファイルシステム上の構成 10　インターネット上の諸問題 11　ホームページ上の効果 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介	出席、レポート、小テストによる総合評価

	現代社会（Ⅳ）（ホームページ作成）	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。 その足がかりとして、実際に、自分のホームページを作成し、世界に向けて情報を発信することは有意義な活動である。 この授業の目的は、このような情報発信するのに必要な知識やスキルを学ぶことである。 さらに、インターネットの背景にある脅威、ネチケット、個人情報、著作権等の現代社会における情報分野の諸問題についても深く考えながら授業をすすめていきたいと思っている。 授業内で各自が作成したホームページは、インターネットにつながった PC さえあれば世界中のどこでも閲覧できることになる。獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。 さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようにお願いしたい。	1　ホームページの仕組み 2　ホームページの作成環境 3　ホームページの作成 4　HTML ファイルの公開 5　スタイルシート 6　画像表示 7　表とレイアウト 8　ホームページの構成 9　ファイルシステム上の構成 10　インターネット上の諸問題 11　ホームページ上の効果 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介	出席、レポート、小テストによる総合評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	現代社会(Ⅳ)(模擬国際裁判)	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
模擬国際裁判とは、ある架空の国際事件を想定して、学生が原告・被告・裁判官の三グループに分かれて、自主的に調査・研究を行い、現実の国際裁判さながらに法的主張を競い合う法学教育です。本講義では、外国語で書かれた外交文書を調査したり、大使館等で実務家にインタビューをしたりしながら、書面手続と口頭手続とを行います。これを経ることで、国際法の基礎的視点を体得することができます。また、グループでの作業が中心となるので、共同で勉強することが苦痛でない人に適した講義です。 受講希望者が３０名を超える場合、第１回目の講義で、国際法のテストにより選抜します（法学部生を優先します)。法学部以外の学生の場合、全学共通授業科目の国際法 a, 同 b, 法学部の国際法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、国際人道法のいずれかを既に履修していることを受講の前提とします。	1　コースガイダンス ――模擬国際裁判とは何か？ 2　課題文と訴状の発表 3　準備段階 4　申述書提出（原告側） 5　答弁書提出（被告側） 6　国際法上の論点を学ぶ 7　口頭弁論 8　判決 9　自己評価と反省 本講義で過去に扱った事例としては、核兵器使用の合法性に関する事件、ミロシェビッチ事件（旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所)、拡散安全保障イニシアチブ（ＰＳＩ）構想、イスラエルの分離壁、宇宙空間への兵器配備などがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『国際条約集　2006 年版』有斐閣 その他、適宜、参考文献を紹介します。	書面及び発表や模擬裁判への参加態度に基づいて評価します（試験は行いません)。

	現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．言い合いと話し合いの違い ３．ウソとコトバの魔術 ４．主張と根拠づけ ５．じょうずな聞きかた ６．メモのとりかた ７．反論のしかた ８．まとめかた ９．現代日本の諸問題 １０．現代世界の諸問題 １１．望ましい世界像 １２．話し合いによる紛争の解決 以上はテーマをムリに順番にならべたものですから、順序や範囲が違ってくることのあることをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『生きたコトバづかい』（近刊）	話し合いと役割分担には必ず参加してもらいますから、自分のできを自己評価してもらい、それをもとに評価を決定します。

	現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．言い合いと話し合いの違い ３．ウソとコトバの魔術 ４．主張と根拠づけ ５．じょうずな聞きかた ６．メモのとりかた ７．反論のしかた ８．まとめかた ９．現代日本の諸問題 １０．現代世界の諸問題 １１．望ましい世界像 １２．話し合いによる紛争の解決 以上はテーマをムリに順番にならべたものですから、順序や範囲が違ってくることのあることをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』（国際語学社） 同『生きたコトバづかい』（近刊）	話し合いと役割分担には必ず参加してもらいますから、自分のできを自己評価してもらい、それをもとに評価を決定します。

	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』1)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記のテキストにゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　EU の歴史　EC 創設への道 2　EU の歴史　EC15 カ国の実現 3　拡大する EU 4　拡大にともなう各種問題 5　フランス農業と共通農業政策 6　共通農業政策の仕組み 7　共通農業政策の問題点 8　共通農業政策の改革とフランス 9　欧州通貨制度とフランス 10　単一通貨ユーロ導入までの動き 11　安定成長協定とはなにか 12　EU 予算の抱える問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	出席、レポート、試験による。

	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』2)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記のテキストにゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　フランスの政治と EU(欧州議会) 2　フランスの政治と EU(主権擁護派) 3　フランスの政治と EU(リーダーシップ) 4　フランス経済と EU(門戸開放と統合市場) 5　フランス経済と EU(世界経済への一体化) 6　フランス経済と EU(移民労働者) 7　フランス経済と EU(国内産業の保護) 8　フランス経済と EU(産業の空洞化) 9　フランスの ODA 政策と EU 10　市民社会の台頭とフランス 11　欧州憲法条約への道 12　憲法条約とフランス
テキスト、参考文献	**評価方法**
日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	出席、レポート、試験による。

	現代社会(Ⅳ)（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんが今学んでいる「獨協」は，明治時代にできた「獨逸学協会」が母胎となっています。当時の人々は，ドイツやドイツ語圏であるオーストリア（当時は大国）やスイスから何を学ぼうとしたのでしょうか。 この授業では，日本とドイツ語圏（ドイツ，オーストリア，スイス）の交流の歴史を辿ってみます。交流は，政治経済のみならず，学問や文化，スポーツなど多岐に渡っています。 その多面的な様相の一部を紹介しながら，異文化との接触が何をもたらすのかを批判的に検討していきます。 人数が適正であれば，学生の皆さんにも調査研究して発表してもらいます。	詳しくは，第１回授業で紹介します。 主なトピックとしては，次のようなものがあります。 ＊江戸時代，出島に来たドイツ人（ケンペル，シーボルト） ＊ドイツ語を学び始めた人々（獨協のはじまり） ＊スポーツでの交流（スキー伝来など） ＊俘虜収容所でのベートーヴェン『第九』初演 ＊メルヒェンの伝来　　など
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中コピーを配布します。	授業への出席（4 回以上の欠席は F となります）および学期末試験もしくはレポートの結果に基づいて評価します(参加人数による)。第１回の授業には必ず出席してください。

	現代社会(Ⅳ)（ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、日本人にはあまりなじみのないヨーロッパ、特にドイツ語圏の国々やその国の文化を簡単に紹介し、受講者それぞれの興味・関心で調査し、発表することを目的とする。 講義は、受講者をグループに分け、ドイツ語圏を中心とする旅行プランを企画し、それをプレゼンテーションするという方法で行いたい。これにより、良い魅力的な商品としての旅行を企画するためにはどのような調査を行い、どのように組み立て、プレゼンテーションするかとグループワークにどのように関わる必要があるのかという体験と、同時にドイツ語圏の国々や文化に関する知識を得られればと思う。	１．イントロダクション ２．ドイツ語圏の国々 ３．同上 ４．同上 ５．グループ分けとテーマ決め ６．企画と組み立て ７．効果的なプレゼンテーション ８．企画プレゼンテーション ９．同上 １０．同上 １１．同上 １２．総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適時指摘する。	レポートと授業への参加度

	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　ドイツ語圏（つまり、ドイツ語が話されているヨーロッパの地域、具体的には主にドイツ、オーストリア、スイスの一部）に関する一般的な知識を手に入れる。その上でヨーロッパに対する関心を深める。 　この講義自体はドイツ語の知識は前提としていないが、ドイツ語を習得するための知識と具体的動機を形成するのに役立つであろう。 講義概要 　一学期かけて、ドイツ語圏に関する基本的知識（地理など）と文化現象を入門的なレベルで教える。時間があれば、こちらから一方的に話すのではなく、グループ発表などで学生にも発表してもらう。、また、話だけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。	1. 導入（授業内容の口頭説明） 2. ヨーロッパの中のドイツ語圏（1) 3. ヨーロッパの中のドイツ語圏(2) 4. ドイツ語圏の現代文化(1) 5. ドイツ語圏の現代文化(2) 6. 歴史から見るドイツ語圏(1) 7. 歴史から見るドイツ語圏(2) 8. ドイツ語圏の言語文化 9. ドイツ語圏の社会(1) 10. ドイツ語圏の社会(2) 11. ドイツ語圏の芸術(1) 12. ドイツ語圏の芸術(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。	講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。

	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　ドイツ語圏（つまり、ドイツ語が話されているヨーロッパの地域、具体的には主にドイツ、オーストリア、スイスの一部）に関する一般的な知識を手に入れる。その上でヨーロッパに対する関心を深める。 　この講義自体はドイツ語の知識は前提としていないが、ドイツ語を習得するための知識と具体的動機を形成するのに役立つであろう。 講義概要 　一学期かけて、ドイツ語圏に関する基本的知識（地理など）と文化現象を入門的なレベルで教える。時間があれば、こちらから一方的に話すのではなく、グループ発表などで学生にも発表してもらう。、また、話だけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。	1. 導入（授業内容の口頭説明） 2. ヨーロッパの中のドイツ語圏（1) 3. ヨーロッパの中のドイツ語圏(2) 4. ドイツ語圏の現代文化(1) 5. ドイツ語圏の現代文化(2) 6. 歴史から見るドイツ語圏(1) 7. 歴史から見るドイツ語圏(2) 8. ドイツ語圏の言語文化 9. ドイツ語圏の社会(1) 10. ドイツ語圏の社会(2) 11. ドイツ語圏の芸術(1) 12. ドイツ語圏の芸術(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。	講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。

	現代社会（Ⅳ）（新聞を読む 1）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が十分に与えられていないからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、その背景を詳しく解説することとしたい。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。 受講生には、旺盛な好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	たとえば、皇室典範の改正、イランの核開発問題といった国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。補足として「新聞に関する基礎的知識」をそのつど伝授する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト、小論文、レポートなどに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に判断する。

	現代社会（Ⅳ）（新聞を読む 2）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が十分に与えられていないからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、その背景を詳しく解説することとしたい。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。 受講生には、旺盛な好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	たとえば、皇室典範の改正、イランの核開発問題といった国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。補足として「新聞に関する基礎的知識」をそのつど伝授する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト、小論文、レポートなどに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に判断する。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・　講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・　一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。*詳細は掲示する。* **講義の目的** ・　身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** ・　植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに　簡単なテストの後、席順の確認、講義内容の説明 2　実験室内における心得・実験器具の説明 3　キャンパスウオッチング 1　種の識別 4　身近な植物の観察 1　花の構造 5　顕微鏡使用法 1　顕微鏡の構造 6　顕微鏡使用法 2　ミクロメーターの使用 7　顕微鏡使用法 3　細胞の大きさと数 8　キャンパスウオッチング 2　五感を働かす 9　身近な植物の観察 2　　果実の構造 10 身近な植物の観察 3　葉の構造 11 自然保護運動 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、説明する。	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・　講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。*詳細は掲示する。* **講義の目的** ・　身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** 植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに：講義の内容を説明。 2　身近な植物の観察 1：Abelia の花の構造 3　キャンパスウオッチング 1：種の同定 4　蛋白質の分析 5　生産構造図の作成 6　種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7　身近な植物の観察 2：落葉と落枝 8　光合成の色素の分析：クロマトグラフィー利用 9　身近な植物の観察 3：真果と偽果の構造 10 キャンパスウオッチング：五感を働かす 11 形質と分類 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度説明する。	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(東洋の健康哲学 a)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることの意味を理解し、人間もその一員としての意識と共に地球単位での将来を考える事が健康になる最も大事な近道といえる。そのために個々人が如何なる考えと、意識を持ち、実行できるかを理解し学ぶことが必要である。	1・ガイダンス・健康問題の現状 2・時代の変遷と健康問題の推移 3・食事情と疾病との関連 4・西洋の科学と東洋の健康哲学 5・健康意識と現代科学の進歩 6・歴史的健康哲学の検証 7・世界の健康理論 8・東洋の身体観 9・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論の意味する事とは。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況・レポート

	自然・環境・人間(Ⅳ)(東洋の健康哲学 b)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることとは 半世紀の社会状況・生活文化度と健康問題を検証 人間生活の経済・個人の欲・近代化の副産物としての様々な現象を基に「健康とは？」を考える。	1・ガイダンス・健康問題の現状 2・時代の変遷と健康問題の推移 3・世界の人口・食事情と自給率 4・医科学の発達と経済の健康に及ぼす影響 5・健康意識と現代科学の進歩との関連 6・歴史的健康哲学の検証 7・世界の健康理論 8・東洋の身体観
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況・レポート

	自然・環境・人間(Ⅳ)(からだの仕組み)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 　普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な状況に対して適応しています。たとえば暑いと汗をかいたり、運動中に心臓がドキドキするといった反応があげられます。もっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 　講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、場合によっては実際に試してみたりします。毎回授業のテーマにそったレポートの提出により理解の定着を図ります。	1.　オリエンテーション－生きている仕組みを考える 2.　ホメオスタシスって？ 3.　体温調節－汗は最強 4.　摂食調節－お腹が空いたのは「脳」 5.　体液調節－のどの渇きは脳のサイン 6.　睡眠－眠くなるのはなぜ？ 7.　生体リズム－体の中の時計 8.　呼吸と循環－息して生きてる 9.　喜怒哀楽と脳 10.　生体の防御－ストレスに負けるな！ 11.　感覚－なかなか鋭い 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『生理学はじめの一歩』　彼末一之　メディカ出版	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(からだの仕組み)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 　普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な状況に対して適応しています。たとえば暑いと汗をかいたり、運動中に心臓がドキドキするといった反応があげられます。もっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、場合によっては実際に試してみたりします。毎回授業のテーマにそったレポートの提出により理解の定着を図ります。	1.　オリエンテーション－生きている仕組みを考える 2.　ホメオスタシスって？ 3.　体温調節－汗は最強 4.　摂食調節－お腹が空いたのは「脳」 5.　体液調節－のどの渇きは脳のサイン 6.　睡眠－眠くなるのはなぜ？ 7.　生体リズム－体の中の時計 8.　呼吸と循環－ 9.　喜怒哀楽と脳 10.　生体の防御－ストレスに負けるな！ 11.　感覚－なかなか鋭い 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『生理学はじめの一歩』　彼末一之　メディカ出版	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（アウトドアレクリエーション）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
社会的構造の変化や子供を含めた生活様式の変化に伴う、余暇生活の計画性が大きな社会問題である。健康・余暇についての知識と経験を積み重ねることを重視し、個人・チームの中で集団をコーディネートできる能力も養う。 概要 自然と人間行動を充分に理解する。また人間として、自然環境の保全の意味や、責任を理解する事と、自然環境に踏み込むルール（気象の読み方・地図の見方）を学び、安全と自然体系を乱さない知識と配慮を研究し、危険防止の観点から、事前実施計画の作成と、将来にわたってのグループ形成と、楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。 （教職を取る学生にも参考になる）	１：ガイダンス ２：基礎体力測定 ３：ゲームと班分け ４：・志賀高原ルートと自然観察 ５：山間を想定しての調理訓練（１） 食材の選定とごみの処理の原則 ６：自然の楽しみ方１）山野草観察・ ７：サバイバル体験の知識と危険度について ８：救急法 ９：キャンプ地での調理訓練 事前食材購入とキャンプ地の安全度 10：テントの調整法と危険度について 11：山行の個人装備品・団体装備品 山行パンフつくり 12：事前実施計画の最終検討・参加人員決定 時期　　未定 １案「志賀高原」にて合宿 トレッキング靴・雨具必携 ２案キャンプ「志賀」 キャンプ装備・ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席重視・レポート作成

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション（アウトドア山岳）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
集中授業（山岳） 軽登山と自然観察 班でのトレッキングと飯ごう炊飯 地域ボランティア活動 山野草・温泉見学・地域祭りに参加	７月定期テスト終了後を予定 ４泊５日 志賀高原 個人での携帯品 トレッキングシュウズ 雨具・日用洗面用具
テキスト、参考文献	**評価方法**
	合宿参加と実施

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 [講義概要] 　学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ＆コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については学生の要望に応えて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。	1. 授業の内容と計画についての説明 2. 仲間つくりの時間：グループゲーム 3. 仲間つくりの時間：グループゲーム 　野外炊飯の計画 4. 仲間つくりの時間：アウトドアクッキング 5. アウトドアレクリエーション種目 6. アウトドアレクリエーション種目 7. アウトドアレクリエーション種目 8. アウトドアレクリエーション種目 9. アウトドアレクリエーション種目 10. アウトドアレクリエーション種目 11. アウトドアレクリエーション種目 12 合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席と受講態度、レポート

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
夏季集中合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの２つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。 　海浜型野外活動では、スキンダイビング、シーカヤック、蛍狩り、夜空の観察、釣り等、良好な自然環境と地域の利点を活かすプログラムを体験してもらいます。 　ウィンドサーフィンでは、技術の習得を通して海浜環境の特徴を知ることにより、安全で楽しく過ごすためのノウハウを知ってもらいます。 　どちらの活動も自然環境を背景としますので、天候により、活動内容を変えることがあります。 　内容の詳細については、スポーツ・レクリエーションのホームページを見てください。 [受講者への要望] 　夏季集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。	[集中授業]　「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日：2006 年 7 月 31 日（月）～8 月 4 日（金） 4 泊 5 日 費用：35000 円（宿泊費、傷害保険、プログラム費） [集中授業]　「ウインドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日：2006 年 9 月 11 日(月)～15 日(金)　4 泊 5 日 費用：20000 円（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	全日程良好な健康状態で参加することを前提に、取り組み姿勢を評価・レポート作成

（秋）	スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。 秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。	1　オリエンテーション 2　用具あわせ、基本動作 3　フォアストロークとバリエーション　その１ 4　フォアストロークとバリエーション　その１ 5　ホッケーにチャレンジ　その１ 6　ホッケーにチャレンジ　その２ 7　バックストロークとバリエーション　その１ 8　バックストロークとバリエーション　その２ 9　フォアクロッシング　その１ 10　フォアクロッシング　その２ 11　バッククロッシング 12　集中授業についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で紹介します。	出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講してもらいます。アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。また、合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。宿泊地近隣に温泉があるので希望者は毎日の日程終了後利用することが可能です。	3 泊 4 日を午前と午後の 6 コマに分け、アイススケートとカーリングを行います。 アイススケート 4 コマ、カーリング 2 コマの予定です。 アイススケートは、技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでを行います。 詳細については、オリエンテーション時に説明します。 時期：　2007 年 2 月中旬予定　3 泊 4 日 場所：　長野県軽井沢町　現地集合解散 費用：　27000 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で紹介します。	出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バランストレーニング）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ インラインスケートその他を教材とする。滑走するスポーツとして、用具を利用し、通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付けたら、インラインホッケーに挑戦する。また、冬のスノースポーツへの導入としてスラローム滑走、ジャンプ等も視野に入れる。 ［受講者への要望］ フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 受講にふさわしい服装の用意。	1 オリエンテーション　　個人票の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 用具合わせ　　基本スケーティング 3 基本スケーティング フォア、バック、ターン、ストップ 4 基本スケーティング　　スラローム 5 インラインホッケー 6 インラインホッケー 7 スラローム滑走　　ジャンプ 8 インラインホッケー 9 インラインホッケー 10 スラローム競争 11 総合練習 12 テスト ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション(スノースポーツ)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［冬期集中講義］ 滑走するスポーツとして、用具を利用し、自然の斜面を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。スノースポーツの基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付ける。挑戦するスノースポーツは、スノーブレード・ファンスキー・ビッグフット・カービングスキー・スノーボードなど。 実施期間：12 月 26 日(火)～30 日(土)予定(4 泊 5 日) 実施場所：秋田県たざわ湖スキー場 実施費用：40,000 円（交通費含まず） ［受講者への要望］ フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 受講にふさわしい服装の用意	秋学期中に学内でオリエンテーションを行い、要項を配布する。 個人票の作成に伴い写真を提出しる。 費用の納入など、学内授業とは異なる負担がある。 注:02 年度以前の受講生はバランストレーニングとのセット履修となる。 ＊不明な点は３棟１階体育準備室にて指示を受けること
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 [講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。	1 オリエンテーション　インラインスケートとは 2 用具合わせ　立ち方・歩き方・とまり方 3 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 5 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 7 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 8 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 9 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 10 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 11 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション 12 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト

	スポーツ・レクリエーション(インラインスケートb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 秋学期は、技術のバリエーションを体験してもらいます。 [講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。	1 久しぶりにインラインスケート 2 自由な動き作り：カーブ 3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 6 自由な動き作り：フォアクロス 7 自由な動き作り：フォアクロス 8 自由な動き作り：バッククロス 9 自由な動き作り：バッククロス 10 インラインホッケー・実技テスト 11 インラインホッケー・実技テスト 12 インラインホッケー・実技テスト・まとめ インラインホッケーは、練習途中で適宜取り入れます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。 3 基本技術の練習。 4 〃 5 〃 6 〃 7 〃 8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 9 〃 10 〃 11 〃 12 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。 2 基本技術の練習。 3 〃 4 〃 5 〃 6 〃 7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの２つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合が出来るまでをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。	1　オリエンテーション　　個人票の作成 授業実施上の諸注意 2　受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認 3　基本トレーニング　　ラケットコントロール 4　基本トレーニング　　ラケットコントロール 5　基本戦術　　サーブ・レシーブ・ストローク 6　基本戦術　　サーブ・レシーブ・ボレー 7　試合に必要な準備　　競技場の設営 審判の仕方　　試合の進め方 8　ミックスダブルスによる試合 9　ミックスダブルスによる試合 10　男子ダブルス・女子ダブルス 11　男子ダブルス・女子ダブルス 12　テスト　ルール・技術・審判法 ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] 硬式テニスを教材とするが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを充分に理解し、レベルに応じて試合の楽しみ方を考える。プレーヤー、審判、コーディネーターと関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。	1　オリエンテーション　個人票の作成 授業実施上の諸注意 2　受講決定の確認と個人票の写真提出 授業実施場所の確認 3　基本戦術 プレーの組み合わせ　ゲームプラン 4　班に班分け 班別に練習　　オーダーの検討 5　リーグ戦（一巡目） 6　リーグ戦（一巡目） 7　リーグ戦（一巡目） 8　チームとしてリーグ戦（二巡目） 9　チームとしてリーグ戦（二巡目） 10　チームとしてリーグ戦（二巡目） 11　トーナメント 12　トーナメント ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、テニスの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 テニスの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるテニスのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはダブルスをメインとして行う。 〔受講者への要望〕 各自、テニスシューズを必ず用意してください。テニスにふさわしい服装で参加してください。 ★コートが使用できない場合には、教室で講義を行うか、場所を変えて実技を行います。	1. オリエンテーション 2. ラケットとボールに慣れよう 3. ラケットとボールに慣れよう 4. ストローク（フォア・バック） 5. ストローク（フォア・バック） 6. ボレーの形 7. サーブとレシーブ 8. ルールを知って、ゲームを始めてみよう 9. ダブルスゲームの中で動きの確認 10. ゲーム 11. ゲーム 12. ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、テニスの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 テニスの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるテニスのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはダブルスをメインとして行う。 〔受講者への要望〕 各自、テニスシューズを必ず用意してください。テニスにふさわしい服装で参加してください。 ★コートが使用できない場合には、教室で講義を行うか、場所を変えて実技を行います。	1. オリエンテーション 2. 基本技術の確認 3. 基本技術の確認 4. ゲームの中で動きの確認 5. リーグ戦 6. リーグ戦 7. リーグ戦 8. リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。 ［講義概要］ ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTR を用いた分析等を用いた授業となる。 ［受講者への要望］ 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	1 オリエンテーション 2 ゴルフ競技の概要（VTR と講義） 3 スイング、グリップ、スタンスについて （学内グランドで実習） 4 スイング、グリップ、スタンスについて （学内グランドで実習） 5 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 6 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 7 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 8（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 9 番アイアン） 9（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 10（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 11（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 7 番アイアン） 12（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、 本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。 ［講義概要］ ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTR を用いた分析等を用いた授業となる。 ［受講者への要望］ 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	1（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 5 番アイアン） 2（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 3（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主にドライバー、スプーン） 4（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 5（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 6（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 9 、 7 、5 番アイアン） 7（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 8（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 9 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 10 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 11 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 12 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 オリエンーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン（8、9、PW、SW）のスウィング（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する） 5 学内でプラスティック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 7 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 8 ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球） 9（反復練習） 10（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック 11（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック） 12（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット（3、5、7、9、PW、SW）（個別指導とフォームのチェック） 3 １番ウッド（ドライバー）3 番ウッド（スプーン）の打法と練習 4 ロングアイアン（3、4）ショット練習 5 ロングアイアン（3、4）ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 11 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 12 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. １対１の守備。 4. １対１の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス＆コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. CF を使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ サッカーを教材とする。サッカーの攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。サッカーの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。 ［受講者への要望］ フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でサッカーにふさわしいシューズと服装を用意すること。	1 オリエンテーション　　個人票の作成 授業実施上の諸注意 2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認 3 ボールコントロール 4 簡易のゲーム 5 〃 6 競技規則、審判法の理解 7 正規のゲーム 8 〃 9 ポジションの理解 10 正規のゲーム 11 〃 12 〃 ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] サッカーを教材とする。チームとしての攻守の切替の中で自然に個人の瞬間的な判断と行動を繰り返し行い身に付ける。レベルに応じてサッカーの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。	1 オリエンテーション　個人票の作成 2 受講決定の確認　個人票の写真提出 3 簡易のゲーム 4 班分け・班別練習 5 リーグ戦① 6 リーグ戦② 7 リーグ戦③ 8 リーグ戦④ 9 リーグ戦⑤ 10 リーグ戦⑥ 11 リーグ戦⑦ 12 リーグ戦⑧ ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。 [講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。 [受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。	1 オリエンテーション 2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム 3 技術練習とハーフゲーム 4 〃 5 〃 6 ルールの解説（雨天時に割り当てる） 7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 8 〃 9 〃 10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 11 〃 12 サッカーの歴史（雨天時に割り当てる

テキスト、参考文献	評価方法
[テキスト]「サッカースキル　(技術と戦術)」松本光弘著　学習研究社「サッカーのテクニック」　スピンドラー著　松本光弘訳　ベースボールマガジン社[参考文献]　『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著　浅見俊雄訳ベースボールマガジン社	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。 [講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。 [受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。	1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 2 〃 3 〃 4 特殊戦術とフルゲーム 5 〃 6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム 7 〃 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 フルゲーム、評価

テキスト、参考文献	評価方法
[テキスト]「サッカースキル　(技術と戦術)」松本光弘著　学習研究社「サッカーのテクニック」　スピンドラー著　松本光弘訳　ベースボールマガジン社[参考文献]　『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著　浅見俊雄訳ベースボールマガジン社	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。

	スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズ a)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野の入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。	１、オリエンテーション　年間授業計画の説明　実施上の諸注意 ２．トレーニングルームの使い方　体力測定について ３．トレーニングの理論と実践　筋力について（１） ４．トレーニングの理論と実践　筋力について（２） ５．トレーニングの理論と実践　筋力について（３） ６．トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について（１） ７．トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について（２） ８．トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について（３） ９．トレーニングの理論と実践　筋持久性について（１） １０．トレーニングの理論と実践　筋持久性について（２） １１．トレーニングの理論と実践　筋持久性について（３） １２．トレーニングの理論と実践　体力測定及び評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下充正　「トレーニングの科学的基礎」 ブックハウス HD	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。

	スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズ b)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。	１．トレーニングの理論と実践　食事について（１） ２．トレーニングの理論と実践　食事について（２） ３．トレーニングの理論と実践　食事について（３） ４．トレーニングの理論と実践　体力測定及び評価 ５．トレーニングの理論と実践　心拍数について（１） ６．トレーニングの理論と実践　心拍数について（２） ７．トレーニングの理論と実践　心拍数について（３） ８．トレーニングの理論と実践　歩行について（１） ９．トレーニングの理論と実践　歩行について（２） １０．トレーニングの理論と実践　ジョギングについて（１） １１．トレーニングの理論と実践　ジョギングについて（２） １２．トレーニングの理論と実践　体力測定及び評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下充正　「トレーニングの科学的基礎」 ブックハウス HD	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールａ）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 ［講義概要］ 　前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。 ［受講者への要望］ 　雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、空いている体育施設での実施または教室内でのビデオによる学習に切り替えることがある。	1. 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 　ソフトボールの特質、ルール等について説明 2. キャッチボール 　（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法） トスバッティング 3. ピッチング（スリングショット投法の復習および ウインドミル投法） ハーフバッティング 4. 守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング 5. 守備練習（各ポジションの守備方法）　シートノック 6. 審判の方法についての説明　チームの編成（1） （ポジション・打順を決める）　練習試合 7. チーム練習（シートノック）　試合　A～B　C～D 8. チーム練習（トスバッティング）　試合　A～C　B～D 9. チーム練習（バント）　試合　A～D　B～C 10. チーム編成（2）　チーム練習（ダブルプレー） 試合　E～F　G～H 11. チーム練習（シートノック）　試合　E～G　F～H 12. チーム練習（バント）　試合　E～H　F～G
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（努力・服装・態度等）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールｂ）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 ［講義概要］ 　試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。 ［受講者への要望］ 　雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、空いている体育施設での実施または教室内でのビデオによる学習に切り替えることがある。	1. 総合的練習　審判方法の復習 2. 総合的練習　スコアブックのつけ方について説明 3. チーム編成（3）（以下、3 試合ごとに編成をかえる） 練習試合 4. チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施） 試合　Ｉ～J　K～L 5. チーム練習　試合　Ｉ～K　J～L 6. チーム練習　試合　Ｉ～L　J～K 7. チーム編成（4） チーム練習　試合　M～N　O～P 8. チーム練習　試合　M～O　N～P 9. チーム練習　試合　M～P　N～0 10. チーム編成（5） チーム練習　試合　Q～R　S～T 11. チーム練習　試合　Q～S　R～T 12. チーム練習　試合　Q～T　R～S
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（努力・服装・態度等）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。 ［講義概要］ 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	1 オリエンテーション 2 個人的技能　基本技能　キャッチング 3 スローイング　1対1での正確な技能の修得 バッティング　ノックとトスバッティング 4 フリーバッティング正確なキャッチングと スローイング、バッティングをしっかり身につける 5 ピッチング 6 集団的技能　連携プレー攻撃＝バント及び ヒットエンドラン 7 タッチアッププレー守備＝フォースプレー 8 ダブルプレーバントの処理と各野手の動き 9 カバーリング　あらゆるプレーに対する フォーメーション 10 ルールの解説とスコアーのつけ方 (ワンプレーに対する判定法) 11 簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。 12 簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能（捕球、送球、遠投）・ゲーム結果（集団、個人技能）欠席時数４回以上の者は、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール b)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。 ［講義概要］ 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	1 個人技能　　ゲーム　・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくならないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。集団技能の反復練習 2 キャッチボールトス、フリーバッティングピッチング・簡単なスコアーをつけ個々の成績（打率、盗塁、打点など）を集計し成績を出し、技能を競い合う 3　　〃 4　　〃 5　　〃 6　　〃 7　　〃 8　　〃 9　　〃 10　　〃 11　　〃 12　　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能（捕球、送球、遠投）・ゲーム結果（集団、個人技能）欠席時数４回以上の者は、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3 前回の復習 ゲームの実施 4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5 前回の復習。リーグ戦 6 リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8 前回の復習 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦
テキスト、参考文献	評価方法
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール b)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 基本練習。 リーグ戦 2 基本練習。 リーグ戦 3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 リーグ戦 4 前回の復習。 リーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯にわたって卓球を楽しめるように、卓球の基本技術を習得して、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学び、健康の維持増進にも貢献できること。 【講義概要】 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループを編成し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さ楽しさを体感し、卓球の基本技術・戦術を習得する。 【受講者への要望】 自己の健康管理を含めた出席を重視するので、体調を整えて授業に参加すること。スポーツにふさわしい服装（運動服）、体育館シューズを用意すること。尚、ラケットは個人で用意するのが望ましい。	1 オリエンテーション 授業内容の説明と個人カード作成 （写真を必ず用意すること４×３） 2 用具の準備、片付けの仕方と基礎知識 3 グループ編成と、構え、ボールに慣れるための練習、 4 サーブ・レシーブ、簡易ゲーム 5 ロングとサービス（1)、簡易ゲーム 6 ロングとサービス（2)、簡易ゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方（ルールの確認） 9 ダブルスゲーム　（パートナーと動きを考える） 10 ダブルスゲーム　リーグ戦 11 ダブルスゲーム　リーグ戦 12 ダブルスゲーム　能力別トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
「図解コーチ・卓球」長谷川信彦・他著　成美堂出版	出席点を重視し、授業態度、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。欠席 4 回以上の者は、評価の対象にはならない。遅刻も減点の対象となる。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯にわたって卓球を楽しめるように、卓球の基本技術を習得して、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学び、健康の維持増進にも貢献できること。 【講義概要】 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループを編成し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さ楽しさを体感し、卓球の基本技術・戦術を習得する。 【受講者への要望】 自己の健康管理を含めた出席を重視するので、体調を整えて授業に参加すること。スポーツにふさわしい服装（運動服）、体育館シューズを用意すること。尚、ラケットは個人で用意するのが望ましい。	1 春学期の復習とチーム編成 2 チーム別シングルスリーグ戦 3 チーム対抗戦① 4 チーム対抗戦② 5 チーム対抗戦③ 6 チーム対抗戦④ 7 チーム対抗戦⑤ 8 シングルス・予選リーグ戦 9 シングルス・予選リーグ戦 10 シングルス・決勝リーグ戦 11 シングルス・決勝リーグ戦 12 講評・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
「図解コーチ・卓球」長谷川信彦・他著　成美堂出版	出席点を重視し、授業態度、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。欠席 4 回以上の者は、評価の対象にはならない。遅刻も減点の対象となる。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2 用具の準備と片付け方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3 ボールの打ち方　スイングの基本 4 フォアハンド・バックハンドの練習　簡易ゲーム 5 サービス・レシーブの練習　簡易ゲーム 6 フォアハンドロング・バックハンドショート シングルスゲームの審判法と進め方 7 カット・スマッシュ　シングルスゲーム 8 シングルスゲーム 9 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 10 ダブルスゲーム　パートナーとの動きを考える 11 ダブルスゲーム 12 まとめ（シングルスゲーム　ダブルスゲーム）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1 復習　基本練習　シングルスゲーム 2 決定打までの組み立て チーム編成とシングルスゲーム・チーム内リーグ戦 3 シングルスゲーム・チーム内リーグ戦 4 シングルスゲーム・チーム対抗戦 5 上に同じ 6 ダブルスゲーム・チーム内リーグ戦 7 上に同じ 8 ダブルスゲーム・チーム対抗戦 9 上に同じ 10 シングルス・トーナメント戦 11 ダブルス・トーナメント戦 12 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をして　コンディションを整えて出席するように、欠席.遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1 授業内容の説明と個人資料カード作成 （写真を必ず用意すること） 2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、 動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイング フットワークなどの基本練習 4 サーブ・レシーブ　簡易ゲーム 5 フォアーハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6 バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 9 ダブルスゲーム　パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	出席点、平常点、技能点、の３つで行う。（出席点は、無欠席は特Ａ，欠席１回Ａ、欠席２回Ｂ、欠席３回Ｃ、欠席４回以上はＦとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をして　コンディションを整えて出席するように、欠席.遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1 チーム編成とチーム内シングルスリーグ戦 2 キャップ・マネージャーなどの選出と シングルスリーグ戦。 3 チーム対抗戦１ 4 チーム対抗戦２ 5 チーム対抗戦３ 6 チーム対抗戦４ 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 シングルス・トーナメント戦 12 技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	出席点、平常点、技能点、の３つで行う。（出席点は無欠席特Ａ，欠席１回Ａ、欠席２回Ｂ、欠席３回Ｃ、欠席４回以上はＦとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）

	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 体育館用のシューズ、バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　ファンダメンタルを身につけよう ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3.　ファンダメンタルを身につけよう 様々なシュート、ストップ・ターンの使い方 4.　ファンダメンタルを身につけよう ディフェンスの基本、パスのもらい方、動きの中でのシュート 5.　1 対 1：ハーフコート・オールコート 6.　2 対 2：スクリーンプレー 7.　速攻：基本 ワンマン・ツーメン・スリーメン 8.　速攻：応用 2 対 1、3 対 2 9.　オールコートでゲーム 10.　オールコートでゲーム 11.　オールコートでゲーム 12.　オールコートでゲーム （9～12：審判、オフィシャルのやり方）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、受講態度を重視して評価を行います。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し楽しくゲームができるようにする。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 体育館用のシューズ、バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席してください。	1.　ファンダメンタルの確認 2.　チーム編成のためのゲーム 3.　チームごとの練習およびゲームプラン 4.　リーグ戦 5.　リーグ戦 6.　リーグ戦 7.　リーグ戦 8.　リーグ戦 9.　リーグ戦 10.　リーグ戦 11.　リーグ戦 12.　リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、受講態度を重視して評価を行います。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ バドミントンの特性である①性別・年令を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。 ［講義概要］ バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける ［受講者への要望］ 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。	1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。 2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ 3 基本的技術ストローク・オーバーヘット（バック、フォア）・サイドアーム（フォア、バック） アンダーハンド（フォア、バック） 4 基本的技術○フットワーク前後、左右フライトの理解 ラケットワークとフライト（クリアー･ドライブ） 5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス○ショートサービス（フォア・バック） ○ショートサービスに対する対応（プッシュ） ○基本的技術の復習 6 〃 7 〃 8 ○いろいろなフォーメーション ○基本的技術の復習簡単なゲーム（シングルス） 審判法の習得 9 前回までの復習 10 前回までの復習 11 前回までの復習 12 前回までの復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ バドミントンの特性である①性別・年令を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。 ［講義概要］ バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。 ［受講者への要望］ 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。	1 グループ別でのシングルスのリーグ戦 毎回基本的技術の復習 2 〃 3 〃 4 〃 5 〃 6 シングルスの決勝リーグ戦 7 〃 8 〃 9 ダブルスのリーグ戦 10 〃 11 〃 12 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法のついても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．年間授業計画の説明　実技実施上の諸注意　連絡事項の確認 ２．バドミントン競技の全般的説明　クリヤーの基本 ３．ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 ４．クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの基本 ５．各種ストロークの復習　サービスの基本練習 ６．半面シングルスの実施　カウント方法の確認　前後へのフットワークの基本 ７．半面シングルス　審判法の理解　審判の実施 ８．ドライブの基本　正規のシングルスゲーム ９．スマッシュの基本　シングルスゲーム １０．各種ストロークの練習　ダブルスの基本 １１．ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 １２．リーグ戦の実施
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．基本的なストロークの復習　ダブルスの試合方法と審判法の確認 ２．ダブルスの組み合わせの決定　いくつかのグループによるリーグ戦 ３．ダブルスの基本的フォーメーションの確認をしてゲームの中に生かす。 ４．ゲーム結果の分析　問題点の整理　ダブルスゲームの実施 ５．ゲームの進行状況の確認　組み合わせを変えてのリーグ戦 ６．ダブルスゲームの進行　課題をゲーム内で解決 ７．ダブルスゲームの進行　ゲームの面白さの理解 ８．ダブルスゲームの進行　高いレベルのゲーム ９．ゲームの中での課題の練習　組み合わせの変更 １０．ゲームの中での課題の練習　相手のプレーヤーの動きに合わせたプレーの練習 １１．ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員が実施 １２．ゲームの進行　勝敗・順位について整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	小川　又八朗

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 ［講義概要］ バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 ［受講者への要望］ 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 基本技と動き（アンダー　オーバー)、パスゲーム１。 3 レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム３ 5 基本技と動き（アンダー　フローターサーブ）サーブレシーブ　基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ 6 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 7 チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション サーレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 9 上記と同じ。8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 10 上記と同じ。 11 上記と同じ。 12 上記と同じ。まとめテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ　ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏　弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編　不昧堂出版	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	小川　又八朗

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 ［講義概要］ バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 ［受講者への要望］ 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1 チーム編成（スターティングポジションと 攻守のフォーメーション)。 2 上記と同じ。 3 サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4 上記と同じ。 5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム (特に攻撃スパイク　サーブ) 6 上記と同じ。 7 上記と同じ。 8 ゲーム（リーグ戦）記録、チーム (特に守りレシーブ　ブロック)。 9 上記と同じ。 10 ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、 ゲームの評価と練習課題。 11 上記と同じ 12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ　ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏　弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編　不昧堂出版	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バレーボールの基礎的技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バレーボールというチームスポーツを通して協調性、自主性など社会性を養う。生涯スポーツとして楽しむことのできるバレーボールの魅力を知る。 〔講義概要〕 バレーボールの技術、戦術、ルールを理解し、グループごとにゲームの運営を行う。毎回ゲームを行い、その授業で行ったことの確認をする。学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなく、チーム力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 バレーボールにふさわしい服装、および体育館用のシューズで授業に参加してください。	1. オリエンテーション 2. パスの基本を身につけよう 3. パスの基本を身につけよう 4. 得意なサーブをみつけよう 5. レシーブとつなぎ 6. スパイクとレシーブ 7. ゲームの流れ（攻撃の組み立て、レシーブフォーメーション） 8. チーム分けのためのゲーム 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バレーボールの基礎的技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バレーボールというチームスポーツを通して協調性、自主性など社会性を養う。生涯スポーツとして楽しむことのできるバレーボールの魅力を知る。 〔講義概要〕 バレーボールの技術、戦術、ルールを理解し、グループごとにゲームの運営を行う。学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなく、チーム力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 バレーボールにふさわしい服装、および体育館用のシューズで授業に参加してください。	1. オリエンテーション 2. 基本技術の確認 3. チーム戦術の確認 4. チーム分けのためのゲーム 5. リーグ戦 6. リーグ戦 7. リーグ戦 8. リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。 ［講義概要］ ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 ［受講者への要望］ 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. １対１の守備。 4. １対１の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス＆コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。 ［講義概要］ ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 ［受講者への要望］ 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. ピヴォを使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。 ［受講者への要望］ フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を用意すること。	1 オリエンテーション　　個人票の作成 授業実施上の諸注意 2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認 3 ボールコントロール 4 簡易のゲーム 5 〃 6 競技規則、審判法の理解 7 正規のゲーム 8 〃 9 ポジションの理解 10 正規のゲーム 11 〃 12 〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。レベルに応じてフットサルの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。	1 オリエンテーション　個人票の作成 2 受講決定の確認　個人票の写真提出 3 簡易のゲーム 4 班分け・班別練習 5 リーグ戦① 6 リーグ戦② 7 リーグ戦③ 8 リーグ戦④ 9 リーグ戦⑤ 10 リーグ戦⑥ 11 リーグ戦⑦ 12 リーグ戦⑧
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(フリスビーa)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。 ［講義概要］ フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。	1 オリエンテーション　フライングディスクとは 2 バックハンドスロウとサイドアームスロー 3 バックハンドスロウとサイドアームスロー 4 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 5 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 6 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 7 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 8 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲームの導入 9 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲームの導入 10 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲーム 11 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲームの導入 12 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。 ［講義概要］ フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。 秋学期は、チームを編成し、アルテミットの試合を行います。	1 秋学期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明 2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 4 チーム編成とリーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス a)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ボールルームダンス（社交ダンス）とは、音楽にのって歩くこと。エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることもかのうです。靴を履いて美しく歩くことが基本です太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。 　目的 基本は、歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く音楽にのって、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、ダンスは難しいという概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法の一つとして基礎を、脳と筋肉運動を連結させ、自然に動けることを目的とします。 ダンス靴を使用のこと。 休まない事	１・ダンスとは ２・正しく歩く・カップルで音楽に乗って歩く ３拍子（ワルツ）で歩く（ステップ） ３・ワルツの音楽を踊る ４・ラテンのリズム・ジルバ&サンバをステップする ５・ブルース（4 拍子）に馴染む ６・タンゴらしくステップすることとは？ ７・ラテンのリズム・ルンバ&チャチャチャ ８・ダンスでのマナーとパーティ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	ＶＴＲで自己採点

	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス b)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期にボールルームダンスを受講し基礎をマスターしていること。 前学期より自然に踊ることを目的とし、楽しく誰とでも踊れるフィガー（ステップ）を身に着ける。 英国で行われているシークエンスダンス（１６小節）を、姿勢を正しく保ち、楽しく・大勢の人と踊ることを学ぶ。 ラテンリズムのサルサ 回転する事とは、そんなに難しくない。 楽しく踊りながら、コミュニケーションしよう。 休まないこととあきらめないこと。	１・シークエンスダンスについて ２・音楽を楽しんで歩く（ダンスの基本） ３・誰とでも踊れる（ダンスの基本） ４・サルサで自由に踊る ５・速いリズム・クイックステップ ６・タンゴ・リンクをステップ ７・ワルツ・で回転する（スピンターン）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	ＶＴＲで自己採点

	English 111-a Basic Reading Strategies English 112-a Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。通年で履修すること。 現代社会、文化などに関する講読を行う。 授業では連絡事項が多く、そのつど資料が配布されるのできちんと目を通し、しっかり学習してもらいたい。 ○教科書は担当教員の指示に従うこと。ただし、独仏の111,112 は統一教科書。 ○TOEIC 語彙を身に付けるための統一副教材がある。必ず購入のこと。 ○教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業内で配られる資料によく目を通し、しっかり学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は担当教員の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 111-b Basic Reading Strategies English 112-b Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。春学期から継続して通年で履修すること。 現代社会、文化などに関する講読を行う。 授業では連絡事項が多く、そのつど資料が配布されるのできちんと目を通し、しっかり学習してもらいたい。 ○教科書は担当教員の指示に従うこと。ただし、独仏の111,112 は統一教科書。 ○TOEIC 語彙を身に付けるための統一副教材がある。必ず購入のこと。 ○教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業内で配られる資料によく目を通し、しっかり学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末（1 月）に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は担当教員の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 112-a Reading Strategies (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
English 112 Super は、外国語学部（ドイツ語学科・フランス語学科）経済学部・法学部の新入生を対象としています。入学時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象に、学部の枠を取り払った授業を行います。各学部の必修科目の時間帯を避けるために 5 限目という時間帯に入っていますが、このクラスに該当した学生はぜひ、時間帯にめげずに履修してください。なお、この科目は English 142 Super と連動しています。この 2 科目を取ってさらに英語力をつけていただきたいと思います。 English 112 Super は、読解力をつけるための科目です。専攻が異なる学生がそれぞれ楽しんでもらえる教材を選び、多読・速読・精読の訓練を行います。補助題材は主に、新聞・雑誌などの記事を用います。 効果的に読むことへのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現することができるようにしたいと思っています。授業は大変ですが、必ず力がつきます。TOEIC テストでのさらなる高得点も確実です。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当者の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 112-b Reading Strategies (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春の授業の継続として、更なる語彙力、文法力をつけ、大学生にふさわしい総合的な英語運用力を身につけてもらうことを目標とします。 予習･復習の量も多く、大変な授業だと思いますが、必ず実力アップします。ご期待ください。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当者の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 121-a Basic Composition English 122-a Composition (国際関係法学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。通年で履修すること。 アカデミック・ライティングにつながる基礎科目として位置付けられている。英語の論理構造を学び、説得力のある英語（パラグラフ・ライティング）が書けるように訓練しよう。 ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 121-b Basic Composition English 122-b Composition (国際関係法学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。春学期から継続して、通年で履修すること。 アカデミック・ライティングにつながる基礎科目として位置付けられている。英語の論理構造を学び、説得力のある英語（パラグラフ・ライティング）が書けるように訓練しよう。 ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 141-a Basic Listening Comprehension English 142-a Speech Communication （141a:ドイツ語・フランス語学科、141/142a:経済・法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
111/112 とともに、全カリ英語のコア科目と位置付けられている。通年で履修すること。 リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）または CAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。 ○教室によって、カセット、MD などを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	春学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書（Viva! San Francisco）使用。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 141-b Basic Listening Comprehension English 142-b Speech Communication （141b:ドイツ語・フランス語学科、141/142b:経済・法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
111/112 とともに、全カリ英語のコア科目と位置付けられている。春学期に引き続き通年で履修すること。 リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）または CAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。 ○教室によって、カセット、MD などを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	秋学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書（Viva! San Francisco）使用。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 142-a Speech Communication (ドイツ語・フランス語学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
111/112 とともに、全カリ英語のコア科目と位置付けられている。通年で履修すること。 高度なリスニング力・スピーキング力を高めるための授業である。積極的に取り組もう。 原則として LL (語学実習室)、CAL(コンピュータ室)は使用しない。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 142-b Speech Communication (ドイツ語・フランス語学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
111/112 とともに、全カリ英語のコア科目と位置付けられている。春学期に引き続き通年で履修すること。 高度なリスニング力・スピーキング力を高めるための授業である。積極的に取り組もう。 原則として LL (語学実習室)、CAL(コンピュータ室)は使用しない。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 142-a Speech Communication (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The Super Speech Communication class is for students with TOEIC scores over 600 points. The aims of this class are to build students' confidence in their communicative ability while helping them improve their speaking and listening skills. The Super class aims to go beyond basic daily communication skills. Students will learn more academic communication skills such as discussion and presentation skills, and will listen to lots of natural English to help improve their listening ability. This class is a challenging class. Students who take this class will be expected to actively participate in class, and to study hard outside of class.	To be decided by each teacher.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be decided by each teacher.	To be decided by each teacher.

	English 142-b Speech Communication (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The Super Speech Communication class is for students with TOEIC scores over 600 points. The aims of this class are to build students' confidence in their communicative ability while helping them improve their speaking and listening skills. The Super class aims to go beyond basic daily communication skills. Students will learn more academic communication skills such as discussion and presentation skills, and will listen to lots of natural English to help improve their listening ability. This class is a challenging class. Students who take this class will be expected to actively participate in class, and to study hard outside of class.	To be decided by each teacher.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be decided by each teacher..	To be decided by each teacher.

	English 211-a Basic Reading Strategies English 212-a Reading Strategies （ドイツ語・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
全カリ英語では、English 111/112 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 211/212 はさらにその上位科目である。通年で履修すること。 現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 111/112 のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 教室外でコンピュータを用いた語彙学習が義務付けられている。これに基づき、毎週語彙小テストが実施される。きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 211-b Basic Reading Strategies English 212-b Reading Strategies （ドイツ語・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
全カリ英語では、English 111/112 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 211/212 はさらにその上位科目である。春学期に引き続き、通年で履修すること。 現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 111/112 のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 教室外でコンピュータを用いた語彙学習が義務付けられている。これに基づき、毎週語彙小テストが実施される。きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 212-a Reading Strategies (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
English 212 Super は、ドイツ語学科、フランス語学科、法律学科、国際関係法学科の２年生を対象とした読解力を養うコースです。１年次終了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象に、学部の枠を取り払った授業を行います。各学部の必修科目の時間帯を避けるために５限目に開講されます。 １年次に学んだ様々な Reading strategies を使いながら、著者の主張を正しく読み取り、内容分析を行う訓練をします。	授業計画と評価方法の詳細については、担当教員からの説明を受けてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。	

	English 212-b Reading Strategies (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、Reading strategies の実践力を強化し、著者の主張を正確に批判的に読み取る力を伸ばします。	授業計画と評価方法の詳細については、担当教員からの説明を受けてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。	

	English 221-a Basic Composition English 222-a Composition （国際関係法学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。English 121/122 の上位科目である。通年で履修すること。 121/122 ではパラグラフライティングを学んだが、ここではさらにそれを進歩させて、アカデミック・ライティングのを学ぶ。国際関係法学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 221-b Basic Composition English 222-b Composition （国際関係法学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。English 121/122 の上位科目である。春学期に引き続き通年で履修すること。 121/122 ではパラグラフライティングを学んだが、ここではさらにそれを進歩させて、アカデミック・ライティングのを学ぶ。国際関係法学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 241-a Basic Listening Comprehension English 242-a Speech Communication （ドイツ語・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
全カリ英語では、English 141/142 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 241/242 はさらにその上位科目である。通年で履修すること。 TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。 リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、111/112 の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 241-b Basic Listening Comprehension English 242-b Speech Communication （ドイツ語・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
全カリ英語では、English 141/142 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 241/242 はさらにその上位科目である。春学期に引き続き通年で履修すること。 TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。 リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、111/112 の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 242-a Speech Communication (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The Super Speech Communication class is for students with TOEIC scores over 600 points. The aim of this class is to build speaking and listening skills, so that students can eventually understand the main points of English news broadcasts, lectures, etc, and are able to talk about them intelligently. In this class, students can expect to do activities such as the following: - Listen to news broadcasts and lectures - Think about and research current events and social issues - Hold discussions in small and large groups, - Make presentations individually or in groups. This class is a challenging class. Students who take this class will be expected to actively participate in class, and to study hard outside of class.	To be decided by each teacher.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be decided by each teacher.	To be decided by each teacher.

	English 242-b Speech Communication (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The Super Speech Communication class is for students with TOEIC scores over 600 points. The aim of this class is to build speaking and listening skills, so that students can understand the main points of English news broadcasts, lectures, etc, and are able to talk about them intelligently. In this class, students can expect to do activities such as the following: - Listen to news broadcasts and lectures - Think about and research current events and social issues - Hold discussions in small and large groups, - Make presentations individually or in groups. This class is a challenging class. Students who take this class will be expected to actively participate in class, and to study hard outside of class.	To be decided by each teacher.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be decided by each teacher.	To be decided by each teacher.

	English 311-a Reading English for Specific Purposes (ドイツ語・フランス語学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語両学科の学生諸君にとっては、それぞれの専攻言語と英語をともに学ぶことで、専攻言語の特色、英語の特色がよくわかってきたことと思う。English 111/112 とその上位科目である 211/212 を履修し、さらにその上位科目である 311 に積極的に取り組み、英語の読解力に磨きをかけてもらいたい。 通年で履修すること。 すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 311-b Reading English for Specific Purposes (ドイツ語・フランス語学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語両学科の学生諸君にとっては、それぞれの専攻言語と英語をともに学ぶことで、専攻言語の特色、英語の特色がよくわかってきたことと思う。English 111/112 とその上位科目である 211/212 を履修し、さらにその上位科目である 311 に積極的に取り組み、英語の読解力に磨きをかけてもらいたい。 春学期に引き続き、通年で履修すること。 すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 110-a Introductory Reading Strategies	担当者	保坂　華子

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に所属学科にかかわらず英語初習者を対象に、英語の基礎力をつけていきます。英文法の基礎演習を中心に、適時テキスト以外の教材も取り入れます。受講者各自に合わせた練習も予定しています。 また、教室外でのコンピューターによるアルク･ネットアカデミーの受講が課せられます。PowerWords に関しては順に学習範囲を指定して、授業中に語彙テストを実施します。その他、授業中に指示します。 語学の習得には｢授業の参加者の積極性｣が必要不可欠です。必ず予習や課題をし、辞書を持参してください。 当科目用の講義支援システムを用意し、ここに重要な連絡事項なども掲載するので、適時確認しておくこと。	1)　Introduction 2)　Getting started with English 3)　Practices 基本的にテキストを毎回１章ずつ進めます。必要に応じて、補助教材も取り入れて学習していきます。 アルクの PowerWords は、最低週２回それぞれ１時間ずつ位のペースで学習すること。定期的に語彙テストを授業中に行うので、自主的に指定範囲を学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは受講者と相談の上決定します。 必ず各自辞書を用意、持参すること。 自習教材:　アルク･ネットアカデミー	出席状況(2/3 以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」―やる気と努力を重視する。

	English 110-b Introductory Reading Strategies	担当者	保坂　華子

講義目的、講義概要	授業計画
110a にひき続き、基本的に所属学科にかかわらず英語初習者を対象に、さらに英語の基礎力を養います。英文法の基礎演習などを中心に、適時テキスト以外の教材も取り入れます。受講者各自に合わせた練習も予定しています。どんどん英語に接していきましょう。 また、教室外でのコンピューターによるアルク･ネットアカデミーの受講が課せられます。PowerWords に関しては順に学習範囲を指定して、授業中に語彙テストを実施します。その他、授業中に指示します。 語学の習得には｢授業の参加者の積極性｣が必要不可欠です。必ず予習や課題をし、辞書を持参してください。 当科目用の講義支援システムを用意し、ここに重要な連絡事項なども掲載するので、適時確認しておくこと。	1)　Review 2)　Practices 3)　Year-end review 基本的にテキストを毎回１章ずつ進めます。必要に応じて、補助教材も取り入れて学習していきます。 アルクの PowerWords は、最低週２回それぞれ１時間ずつ位のペースで学習すること。定期的に語彙テストを授業中に行うので、自主的に指定範囲を学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
110a の続き。テキストは受講者と相談の上決定します。 必ず各自辞書を用意、持参すること。 自習教材:　アルク･ネットアカデミー	出席状況(2/3 以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」―やる気と努力を重視する。

	English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	髙木 亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
TOEIC や英検の資格、またインターネット検索等で必要な速読の力を養成します。様々なリーディングの題材を取り扱いますが、スキャニング、アイスパントレーニングなどを含めたリーディングストラテジーも同時に学習することで、ある程度正確に速く読む力を育成することを目標とします。 受講生の皆さんの興味・関心や英語力を考慮しながら、読みやすい多読教材も取り入れる予定です。	Unit 1 速読のすすめ・あなたの速読力を試そう Unit 2 英文リーディング大作戦(1 分間 80 ワードのスピードで 300 ワードの英文を読む) 縦読み練習 スキャニング アイスパン・トレーニング 題材直結語彙を探す 挿入句
テキスト、参考文献	**評価方法**
「英文リーディング大作戦　初級」　（三省堂）	出席、授業態度、語彙小テスト、リーディングレポートで総合評価。

	English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	髙木 亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で学習したリーディング能力を発展させ、法律、環境、文化的問題などの題材を毎回４つの異なった視点で読みながら、クラスメイトと意見交換をします。 ジグソータイプのグループリーディングを行うことで、社会問題について批判的に考える力を養いながら、リーディングスキルのみならず、学習ストラテジー、グループ学習スキルを養成することを目標とします。クラスメイトの多様な考え方を学ぶことで皆さんの世界を広げてほしいと思います。	1. Introduction 2. Understanding Jigsaw Reading Activities 3. The Letter of the Law 4. The Letter of the Law 5. Heart Victim Can't Stay 6. Heart Victim Can't Stay 7. Industrial Accident 8. Industrial Accident 9. Saving the Biramichi River 10. Saving the Biramichi River 11. Who Discovered the America? 12. Who Discovered the America?
テキスト、参考文献	**評価方法**
「All Sides of the Issue」 (Atla Book Center Publishers)	出席、授業態度、語彙小テスト、リーディングレポートで総合評価。

	English 121-a Basic Composition	担当者	堀　いづみ

講義目的、講義概要	授業計画
文を作るための基礎的な授業です。身の回りの事柄について、自分の考えを適切に表現できるようになることが目的です。 そこで、授業では、次の 2 つのことを中心に行います。①テーマに沿って適した表現方法を身につけること。②英作文でよく使用される構文を知ること。（この構文は、次回の授業で小テストとして出されます。）	1.　英作文の構造について 2～11.　テーマに沿った文の練習及び小テスト 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Write What You Mean　（成美堂）	授業参加度、小テスト、学期末試験によります。

	English 121-b Basic Composition	担当者	堀　いづみ

講義目的、講義概要	授業計画
文を作るための基礎的な授業です。身の回りの事柄について、自分の考えを適切に表現できるようになることが目的です。 そこで、授業では、次の 2 つのことを中心に行います。①テーマに沿って適した表現方法を身につけること。②英作文でよく使用される構文を知ること。（この構文は、次回の授業で小テストとして出されます。）	1.～11.　テーマに沿った文の練習及び小テスト 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Write What You Mean　（成美堂）	授業参加度、小テスト、学期末試験によります。

	English 121-a Basic Composition	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
本コースでは、 1） 人に伝えることを目的としたライティングの練習を行う。 2） 従って、書いたものは必ずクラスで発表する。 3） このため、書くことに加えて、プレゼンテーション（発表）の技術も並行して学習する。 4） 授業はプロジェクト形式（個人とグループ）で行い、コースを通して３つの課題に取り組む予定。 5） IT をフルに活用できるよう、授業はコンピュータ室で行う。 nbmatsuoka@ybb.ne.jp	1. コース紹介：Writing と Presentation 2. Presentation の構成と方法 / PowerPoint の使い方 3. Project 1: Why Not Marry Me? （個人：準備） 4. Project 1: Why Not Marry Me? （個人：発表） 5. Project 2: News Casting（グループ：準備） 6. Project 2: News Casting（グループ：準備） 7. Project 2: News Casting（グループ：発表） 8. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? （グループ：準備） 9. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? （グループ：準備） 10. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? （グループ：発表） 11. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? （グループ：発表） 12. Review
テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布	プレゼンテーション（3 回）で評価

	English 121-b Basic Composition	担当者	松岡　昇

講義目的、講義概要	授業計画
本コースは、 1） English 121-a Composition の講義目的を引き継ぎ、 2） それをさらに応用、発展させるものである。 3） コースを通して 2 つの課題に取り組む予定である。 4） また、並行して、個人が英文ブログを作り、英語を書くことを日常化していくと同時に、WEB 上の国際交流を行う。 nbmatsuoka@ybb.ne.jp	1. 後期の授業予定、前期の復習 2. Project 4: How Do Foreigners See Japan? （グループ：準備：企画） 3. Project 4: How Do Foreigners See Japan? （グループ：準備：取材） 4. Project 4: How Do Foreigners See Japan? （グループ：準備：編集） 5. Project 4: How Do Foreigners See Japan? （グループ：準備：リハ） 6. Project 4: How Do Foreigners See Japan? （グループ：発表） 7. Project 4: How Do Foreigners See Japan? （グループ：発表） 8. Project 5: My Future Plan（個人：準備） 9. Project 5: My Future Plan（個人：準備） 10. Project 5: My Future Plan（個人：発表） 11. Project 5: My Future Plan（個人：発表） 12. Review
テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布	プレゼンテーション（2 回）とブログ・レポートで評価

	English 121-a Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語の必要不可欠な文法事項を再確認する必要性を感じている、TOEIC のスコアが、400～500 の学生を対象としています。 　授業では主として次の２つのことをします ①「文法の復習とともに、１センテンスレベルの英文が確実に書けるように配慮した」テキストを用いて、文法事項の再確認と、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる（書く）練習をします。英文は、どれも BASIC なものばかりです。 ②テキストと平行して、（日本語文を含む）課題作文を書く練習（提出＋添削＋書き直し）を数回します。その際、センテンス自体の良し悪しよりも、内容の良し悪しに重点をおく、英語の表現力不足を内容で補うという書き方を前提とします。また、レポートには、レポート点の対象になるものとならないものがありますが、レポートのできの良し悪しが、評価に直接反映されることはありませんので心配無用です。あくまでも練習です。 詳しくは、ガイダンスで述べます。	テキストと平行して、作文指導や課題作文の評価などを行います。 以下の内容は、大まかな進行予定です。進行状況にズレが生ずる可能性があります。 1　ガイダンス 2　第１章 3　作文指導（＋プリント） 4　第２章 5　第３章 6　第４章 7　第５章 8　第１回テスト（範囲：１～４）＋作文指導 9　第６章 10　第７章 11　第８章 12　まとめ＋第２回テスト（範囲：５～８）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための１５章』、**英宝社**	**レポート点 ＋ 授業時の発表点 ＋ 授業時のテスト** 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： ＡＡ・Ａ：２回　　Ｂ：３回　　Ｃ：４回

	English 121-b Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
授業方針は春学期と同じです。テキストは春学期の続きです。課題作文に関しては、春学期の内容を踏まえ、更にそれを発展させることを目指します	テキストと平行して、作文指導や課題作文の評価などを行います。 以下の内容は、大まかな進行予定です。進行状況にズレが生ずる可能性があります。 1　ガイダンス 2　第９章 3　作文指導（＋プリント） 4　第 10 章 5　第 11 章 6　第 12 章 7　第 13 章 8　第１回テスト（範囲：９～12）＋作文指導 9　第 14 章 10　第 15 章 11　作文指導（＋プリント） 12　まとめ＋第２回テスト（範囲：13～15）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための１５章』、**英宝社**	**レポート点 ＋ 授業時の発表点 ＋ 授業時のテスト** 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： ＡＡ・Ａ：２回　　Ｂ：３回　　Ｃ：４回

	English 131-a Basic Communicative English	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability. Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your discussions and presentations and think about what you are doing well and what areas you could improve in. To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to complete each project.	This is a guide. The schedule may change. 1. Course explanation and introduction 2. Techniques of good speakers 1 Project 1 3. Techniques of good speakers 2 4. Techniques of good speakers 4 Project 2 5. Video 1 6. Video 1 Project 3 7. Techniques of good listeners 1 8. Techniques of good listeners 2 Project 4 9. Techniques of good listeners 3 10. Video 2 Project 5 11. Video 2 12. Review Project 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first lesson.	This is a guide. The grading system may change. Attendance 24%　Class participation 12% Projects 24% Reflection journal 24% Presentations16%

	English 131-b Basic Communicative English	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. In this semester, we will focus especially on discussion skills. You will learn how to participate in a discussion as a speaker and listener, and also how to lead a discussion. Reflection is also an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your discussions and presentations and think about what you are doing well and what areas you could improve in. To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to complete each project.	This is a guide. The schedule may change. 1. Introduction and course explanation 2. Expressing opinions Project 1 3. Asking for opinions 4. Being a good listener I Project 2 5. Discussion 1 6. Being a good listener 2 Project 3 7. Leading discussions 1 8. Leading discussions 2 Project 4 9. Discussion practice 10. Discussion practice Project 5 11. Discussion 2 12. Review Project 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first lesson.	This is a guide. The grading system may change. Attendance 24%　Class participation 12% Projects 24% Reflection journal 24% Presentations16%

	English 131-a Basic Communicative English	担当者	M. ウーラートン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to develop students speaking skills and improve their listening. This class is for lower intermediate level students. For each topic, students will watch 4 short video conversations on DVD and answer listening questions as well as doing a lot of speaking practice. Students will study the useful language for each topic and then develop their own conversations. All of the situations and skills will be useful for students realistic communication needs. The situations are an equal mixture of social, school and business situations. Students will hear English spoken by people from several different countries with many different accents. There will also be a game-based speaking activity for each topic. Students will work with a partner, in small groups or with the whole class. There will be a web site for students to use to do extra work in their own time.	Week 1 – Introduction to the course & student level check Week 2 – Unit 1. Introductions (formal and casual) Week 3 – Unit 1. Introductions (formal and casual) Week 4 – Unit 2. Starting conversations Week 5 – Unit 2. Starting conversations Week 6 – Unit 3. Keeping a conversation going Week 7 – Unit 3. Keeping a conversation going Week 8 – Unit 4. Suggestions and invitations Week 9 – Unit 4. Suggestions and invitations Week 10 – Unit 4. Suggestions and invitations Week 11 – Review Unit 1. Review Week 12 - Review Unit 1. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ireland, Murphy, Woollerton (2006) *The English Course, 2nd Ed.* Tokyo: The English Company.	Students will be graded on attendance – 30% (30%); class work – 40% and homework – 30%.

	English 131-b Basic Communicative English	担当者	M. ウーラートン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation from Semester 1. The aim of this course is to develop students speaking skills and improve their listening. This class is for lower intermediate level students. For each topic, students will watch 4 short video conversations on DVD and answer listening questions as well as doing a lot of speaking practice. Students will study the useful language for each topic and then develop their own conversations. All of the situations and skills will be useful for students realistic communication needs. The situations are an equal mixture of social, school and business situations. Students will hear English spoken by people from several different countries with many different accents. There will also be a game-based speaking activity for each topic. Students will work with a partner, in small groups or with the whole class. There will be a web site for students to use to do extra work in their own time.	Week 1 – Semester 2 starting activities Week 2 – Unit 5. Likes & dislikes; emotions & feelings Week 3 – Unit 5. Likes & dislikes; emotions & feelings Week 4 – Unit 5. Likes & dislikes; emotions & feelings Week 5 – Unit 6. Making & responding to requests Week 6 – Unit 6. Making & responding to requests Week 7 – Unit 7. Giving & responding to opinions Week 8 – Unit 7. Giving & responding to opinions Week 9 – Unit 8. Asking for, giving & listening to advice Week 10 – Unit 8. Asking for, giving & listening to advice Week 11 – Review Unit 2. Review Week 12 - Review Unit 2. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ireland, Murphy, Woollerton (2006) *The English Course, 2nd Ed.* Tokyo: The English Company.	Students will be graded on attendance – 30% (30%); class work – 40% and homework – 30%.

	English 131-a Basic Communicative English	担当者	M. フッド

講義目的、講義概要	授業計画
At the end of this term, students will be able to: Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics; Express their own ideas about these topics; Engage other students to elicit their ideas on these topics. This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com	Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.

	English 131-b Basic Communicative English	担当者	M. フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This term, we will continue practicing and developing the skills learned in the first term At the end of this term, students will be able to: Conduct library research independently; Support their own ideas in spoken English Present their ideas effectively to their classmates.	Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com	Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.

	English 131-a Basic Communicative English	担当者	G. G. コッホ

講義目的、講義概要	授業計画
Basic Communicative English This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed. Web page: http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701	1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text Material will be downloaded from a web site.	Participation Weekly quizzes, and assignments

	English 131-b Basic Communicative English	担当者	G. G. コッホ

講義目的、講義概要	授業計画
Basic Communicative English This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed. Web page: http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701	1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text Material will be downloaded from a web site.	Participation Weekly quizzes, and assignments

	English 131-a Basic Communicative English	担当者	B．K．カートル

講義目的、講義概要	授業計画
1. **Course Description:** This is the first half of a basic English communication course that will develop speaking and listening skills. Each week, various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through meaningful activities. Three short quizzes and a final presentation will be used to assess student progress. 2. **Course Objectives:** At the end of this course, students should be able to apply speaking and listening skills to communicate in English. In addition, students should have greater confidence in their English language abilities. 3. **Classroom Management:** Student attendance and participation are very important. Students more than 15 minutes late will be considered absent, except in unavoidable situations, such as train/bus delays, accidents, illness, etc. 4. **Contact:** The instructor is happy to talk with and help students outside of class at Dokkyo. The instructor may also be contacted by e-mail at bkcottle@hotmail.com	**Week 1 – Lesson 1:** Introduction **Week 2 – Lesson 2:** My Family **Week 3 – Lesson 3:** My Friends **Week 4 – Lesson 4:** My Pastimes **Week 5 – Lesson 5:** My Home / Quiz One **Week 6 – Lesson 6:** Modern Sounds **Week 7 – Lesson 7:** World Foods **Week 8 – Lesson 8:** New Products / Quiz Two **Week 9 – Lesson 9:** Famous People **Week 10 – Lesson 10:** Future Hopes **Week 11 – Lesson 11:** Small World / Quiz Three **Week 12 – Lesson 12:** Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
IMPACT INTRO by Rod Ellis & Fujiko Sano, published by Longman Asia ELT. (ISBN 962-00-1432-4)	Attendance & Participation: 60% Quizzes: 30% Final Presentation: 10%

	English 131-b Basic Communicative English	担当者	B．K．カートル

講義目的、講義概要	授業計画
1. **Course Description:** This is the second half of a basic English communication course that will continue to develop speaking and listening skills. Although speaking and listening will be emphasized, reading and writing will also be incorporated. Each week, various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through meaningful activities. In addition, there will be a short reading/writing homework assignment for each lesson and a final presentation to assess student progress. 2. **Course Objectives:** Same as English 131a. 3. **Classroom Management:** Same as English 131a. 4. **Contact:** Same as English 131a.	**Week 1 – Lesson 1:** New People Homework 1 **Week 2 – Lesson 2:** First Impressions Homework 2 **Week 3 – Lesson 3:** Busy Times Homework 3 **Week 4 – Lesson 4:** High Tech Homework 4 **Week 5 – Lesson 5:** In Touch Homework 5 **Week 6 – Lesson 6:** Special Places Homework 6 **Week 7 – Lesson 7:** Daily Bread Homework 7 **Week 8 – Lesson 8:** Different Ways Homework 8 **Week 9 – Lesson 9:** Strange, but True Homework 9 **Week 10 – Lesson 10:** A Good Education Homework 10 **Week 11 – Lesson 11:** Modern Times Homework 11 **Week 12 – Lesson 12:** Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
FIRST IMPACT by Rod Ellis, Marc Helgesen, Charles Browne, Greta Gorsuch & Jerome Schwab, published by Longman Asia ELT. (ISBN 962-00-1355-7)	Attendance / Participation: 60% Homework: 30% Final Presentation: 10%

	English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は、1 年生で English 111/112 を修得した経済学部（経済学科・経営学科）の学生（2 年生以上）がさらに読解力をつけるために選択科目として受講するものです。 この科目の特徴は教科書にあります。経済・経営の学生のために開発された「日本の企業研究」とも言える教科書を用い、読解力をつけながらも経済・経営の基礎用語を学び、さらに文法力もつけられるように工夫されています。 この教科書を読んでいくことが中心ですが、種々のアクティビティ、また新聞なども生の補助教材として使用します。 この科目を選択しようとする学生は、現在英語力があるかないかにかかわらず、大量のリーディング、問題練習をこなす熱意とやる気が必要です。予習･復習も多く大変だと思いますが、ガッツで頑張っていきましょう！そのかわり、1 年間終わったら英語力の上昇を必ず実感できます。 最後に一緒に笑いましょう！ なお、教室外でコンピュータを用いての語彙学習が義務付けられています。積極的に取り組むこと。	1　Orientation 2　Chapter 1 キユーピー 3　Chapter 1 キユーピー 4　Chapter 2 島津製作所 5　Chapter 2 島津製作所 6　Chapter 3 光岡自動車 7　Chapter 3 光岡自動車 8　Chapter 4 ワコール 9　Chapter 4 ワコール １０ Chapter 5 ヤイリギター １１ Chapter 5 ヤイリギター １２ Review (上記は予定なので、多少変更の可能性がある) 毎週、コンピュータ語彙学習を範囲とする語彙小テストが実施される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Front-runners in the 21st Century（松柏社） 補助教材は担当者が準備する	出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。

	English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
春と同じ教科書で継続的に英語読解力をつける訓練を行います。また同時に、日本の企業について知り、就職への意識も高めて行きましょう。 なお、教室外でコンピュータを用いての語彙学習が義務付けられています。積極的に取り組むこと。	1　Orientation 2　Chapter 6　KGS 3　Chapter 6　KGS 4　Chapter 7　カシオ計算機 5　Chapter 7　カシオ計算機 6　Chapter 8　三和酒類 7　Chapter 9　三和酒類 8　Chapter 10　京セラ 9　Chapter 11　サンリオ １０ Chapter 12　サンリオ １１ Chapter 12　モスフードサービス １２ Review (上記は予定なので、多少変更の可能性がある) 毎週、コンピュータ語彙学習を範囲とする語彙小テストが実施される。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Front-runners in the 21st Century（松柏社） 補助教材は担当者が準備する	出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。

	English 221-a Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
各ユニットごとに文法上のテーマが決まっており、そのテーマに沿って構文を作成してもらうという趣向のテキストを使用する。構文は概して平易であるため、英作に特に長じていなくても作業に特に支障を来たすことはないことと思う。基本英文法の確認を頻繁に行いつつ英作の作業を進めるため、既習文法の復習も兼ねることができる。	1. 動詞 2. 形容詞・副詞 3. 助動詞（1） 4. 助動詞（2） 5. 助動詞（3） 6. How 7. What 8. 主語　it 9. 主語　I 10. 主語　you 11. 総復習 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
小中秀彦編著『話すための英語構文 139』　青踏社	出席、小テスト、試験による

	English 221-b Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
各ユニットごとに文法上のテーマが決まっており、そのテーマに沿って構文を作成してもらうという趣向のテキストを使用する。構文は概して平易であるため、英作に特に長じていなくても作業に特に支障を来たすことはないことと思う。基本英文法の確認を頻繁に行いつつ英作の作業を進めるため、既習文法の復習も兼ねることができる。	1. 動詞・副詞・前置詞 2. To 不定詞、動詞の原型 3. 動名詞 4. 分詞 5. 否定詞 6. 冠詞 7. 接続詞 8. 副詞句 9. 前置詞・名詞 10. If 11. 総復習 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
小中秀彦編著『話すための英語構文 139』　青踏社	出席、小テスト、試験による

	English 231-a Basic Communicative English	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate level students of English. We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences and participate in discussions. The weekly topics list a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final. Part of some lessons will be set aside for short presentations by the students. Performance and strength of preparation in the presentations will be reflected in the final grade.	1 Introduction to the course 2 Consolidation activities 3 Consolidation activities 4 Work – talking about jobs and careers 5 Homes – location inside the house 6 Directions- giving directions and using maps 7 Past (1) – talking about people's histories 8 Travel – making travel arrangements 9 Introduction to the UK 10 London 11 Comparing countries 12 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the presentations (33%). In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.

	English 231-b Basic Communicative English	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The autumn term will be a continuation of the course begun in the spring. We will proceed with the same approach and style of lesson. The same conditions for grading and presentations will apply.	1 Consolidation 2 Health 3 Giving advice 4 Past (2) – biographies 5 Hypothetical situations – talking about the future 6 Hypothetical situations – talking about the past 7 Festivals 8 Cultural comparison 9 Current events – listening to the news 10 Discussions – giving opinions 11 Discussions – giving opinions 12 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the presentations (33%). In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.

	English 231-a Basic Communicative English	担当者	C．カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to help students become better and more confident at expressing themselves in spoken English. We will practice giving short presentations, debating, and discussing various topics. Discussions will be based on topics we investigate in readings, videos, interviews with each other, and individual research. We will cover a wide range of issues, including lifestyles, family and personal relationships, social issues, and more. Students will be prepared to actively participate in classroom discussions. The teacher will guide and support you in your reading, listening, research, and discussions, but students will do most of the talking in this class.	**Semester 1** Week 1: Orientation and Level-Test Weeks 2 – 11: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students. Week 12: Final Assessment ※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The text and recommended references will be announced in class.	Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ *Attendance is required*. More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)

	English 231-b Basic Communicative English	担当者	C．カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
Same as above. ※ During the second semester, students will have greater responsibility for selecting discussion topics and will do more individualized research on these topics.	**Semester 2** Week 13: Getting re-acquainted Weeks 14 – 23: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students. Week 24: Final Assessment ※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The text and recommended references will be announced in class.	Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ *Attendance is required*. More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)

	English 241-a Basic Listening Comprehension	担当者	C．カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
The main goals of this class is to help students increase their listening skills and their confidence and fluency in discussions in English of common activities and everyday topics. Discussions will be based on listenings done in and out of class. Class work will often include working in pairs and small groups so students should be prepared to interact with their classmates. Students must be prepared to actively participate in classroom discussions class. The teacher will guide and support you in your reading, listening, research, and discussions, but students will do most of the talking in this class.	**Semester 1** Week 1: Orientation Weeks 2 – 11: Various listening and discussion topics to be announced. Week 12: Final Assessment ※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.
テキスト、参考文献	評価方法
The text and recommended references will be announced in class.	Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ *Attendance is required*. More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)

	English 241-b Basic Listening Comprehension	担当者	C．カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
Same as above. ※ During the second semester the students will record short conversations to be uploaded to the class homepage.	**Semester 2** Week 13: Getting re-acquainted Weeks 14 – 23: Various listening and discussion topics to be announced. Week 24: Final Assessment ※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.
テキスト、参考文献	評価方法
The text and recommended references will be announced in class.	Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ *Attendance is required*. More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)

	English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	佐々木　恵理

講義目的、講義概要	授業計画
この授業ではさまざまな社会問題について学びながら、「何を感じ、考え、それを自分のことばでどう表現するか」に重点を置きたいと思います。どのようにすれば問題を解決できるのかについて、自分の意見をもてるようになることが最終的な目標です。もちろん英語の授業なので、語彙を増やし、文法の確認をしながら読解力をつけてゆきます。 毎回テキストを精読し、適宜、練習問題を解いてゆきます。春学期でテキストの前半 6 項目（授業計画に各項目の仮訳をつけてみたので参照のこと）を読み終える予定です。テーマごとに具体的な説明を加え、新聞記事を読んだりビデオを見たりして理解を深めたいと思います。受講人数にもよりますが、発表や小レポートも考えています。	1 初回のガイダンス Chapter 1: Peeping on the Royal Family （イギリスの王室を覗き見する） 2 Exercise 3 Chapter 2: America's Gun Culture （アメリカの銃社会） 4 Exercise 5 Chapter 3: Sexual Harassment （セクシュアル・ハラスメント） 6 Exercise 7 Chapter 4: Magic's Fight Against AIDS （エイズと闘うマジック・ジョンソン） 8 Exercise 9 Chapter 5: Racism and Rodney King （人種差別とロドニー・キング事件） 10 Exercise 11 Chapter 6: Murder or Mercy Killing? （殺人、それとも安楽死？） 12 Exercise
テキスト、参考文献	**評価方法**
Freedom, Rights and Responsibility Norma Reveler、根間弘海著（金星堂）	試験、平常点（発表など）、および出席による。ただし、総授業数の 3 分の 1 を欠席すると自動的に F の評価となる。遅刻は 30 分しか認めないのですぐに申し出ること。

	English 311-b Reading English for Specific Purposes	担当者	佐々木　恵理

講義目的、講義概要	授業計画
この授業ではさまざまな社会問題について学びながら、「何を感じ、考え、それを自分のことばでどう表現するか」に重点を置きたいと思います。どのようにすれば問題を解決できるのかについて、自分の意見をもてるようになることが最終的な目標です。もちろん英語の授業なので、語彙を増やし、文法の確認をしながら読解力をつけてゆきます。 毎回テキストを精読し、適宜、練習問題を解いてゆきます。秋学期でテキストの後半 6 項目（授業計画に各項目の仮訳をつけてみたので参照のこと）を読み終える予定です。テーマごとに具体的な説明を加え、新聞記事を読んだりビデオを見たりして理解を深めたいと思います。受講人数にもよりますが、発表や小レポートも考えています。	1 初回のガイダンス Chapter 7: Dealing Drugs （麻薬取引） 2 Exercise 3 Chapter 8: Steroids in Sports （スポーツ界のステロイド使用） 4 Exercise 5 Chapter 9 :Violence on Television （テレビの中の暴力シーン） 6 Exercise 7 Chapter 10: The Abortion Debate （中絶問題） 8 Exercise 9 Chapter 11: Greenpeace Protests （グリーンピースの抗議行動） 10 Exercise 11 Chapter 12: A Fight for Human Rights （人権獲得への闘い） 12 Exercise
テキスト、参考文献	**評価方法**
Freedom, Rights and Responsibility Norma Reveler、根間弘海著（金星堂）	試験、平常点（発表など）、および出席による。ただし、総授業数の 3 分の 1 を欠席すると自動的に F の評価となる。遅刻は 30 分しか認めないのですぐに申し出ること。

	English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤　保

講義目的、講義概要	授業計画
できる限り身近な内容のものを選んだので、技術に専門でない人にも容易に理解できます。 担当教員自身も文科系出身である（Master of Arts）が、技術翻訳には 20 年以上の経験を持っており、実務翻訳就職希望者（part-time, permanent job いづれの場合も）の相談には、大いに応じたいと思っています（例えば、昼休み（308 教室）や、時には課外（居酒屋、等）で）。	1. MINIATURIZATION・・・・・・・・・・・・・・・10 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11 2. WHY IS TEMPERTURE RISING?・・・・・・・・・12 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13 3. WHAT MAKES AN ATMOSPHERE?・・・・・・・・14 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15 4. THE SURFACE OF THE SEA・・・・・・・・・・16 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17 5. HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER・・18 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19 ・・・・・・・20 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21 6. THE PURPOSES OF TVA・・・・・・・・・・・・22 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23 7. INDUSTRIAL POLLUTION・・・・・・・・・・ 24 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25 8. BATTERY AND CURRENT FLOW・・・・・・・ 26 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27 9. BELL SYSTEM・・・・・・・・・・・・・・・・ 28 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29 10. THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE・・・30 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31 11. ULTRASONICS・・・・・・・・・・・・・・・・ 32 12. Etc.
テキスト、参考文献	**評価方法**
科学技術英語の基礎（南雲堂） 実務翻訳ガイド 2006 年度版（アルク社）	（平常点）5 点×□（回）=□点 （定期試験）15 点×6（問）=90 点

	English 311-b Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤　保

講義目的、講義概要	授業計画
同上	Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33 1. ELECTRIC FUNACE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35 2. TELEVISION – HOW THE PICTURE IS TELECAST・・・・36 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37 3. ELECTRONIC COMPUTERS・・・・・・・・・・・・・・・38 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39 4. THE BRAIN IN SPACE・・・・・・・・・・・・・・・・・・40 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41 5. ROCKETS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43 6. ORBIT OF A SATELLITE・・・・・・・・・・・・・・・・・44 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45 7. IMP SATELLITES AND SOLAR WIND・・・・・・・・・・・46 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47 8. AN ELECTRONIC HIGHWAY・・・・・・・・・・・・・・・48 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49 9. MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER・・・・・50 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51 10. PLASTICS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53 11. ARTIFICIAL FIBERS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55 12. TENSILE STRENGTH・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56 Exercise・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57 ELECTRICITY IN THE HOME・・・・・・・・・・・・・・・58
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	大田原　眞澄

講義目的、講義概要	授業計画
インターネット上で読める Newsweek の international edition から、日本の学生にも興味の持てる、そして内容も英語の文章もさほど難しくない最新の記事を選んで読んでいきます。できれば受講生の関心を考慮して毎週の課題を決めていきたいと思いますので、積極的に要望を出してください。政治経済だけでなく、スポーツ・芸術・健康・科学など現代世界の新鮮なニュースに英語で接するおもしろさを味わえたらと願っています。 下記サイト参照 http://www.msnbc.msn.com/id/3037881/site/newsweek/	最初に“The New Rich-Rich Gap”という記事のプリントを読みます。その後は 2〜3 週間にひとつのペースで読み進めます
テキスト、参考文献	**評価方法**
	定期試験と出席、小テストで評価

	English 311-b Reading English for Specific Purposes	担当者	大田原　眞澄

講義目的、講義概要	授業計画
インターネット上で読める Newsweek の international edition から、日本の学生にも興味の持てる、そして内容も英語の文章もさほど難しくない最新の記事を選んで読んでいきます。できれば受講生の関心を考慮して毎週の課題を決めていきたいと思いますので、積極的に要望を出してください。政治経済だけでなく、スポーツ・芸術・健康・科学など現代世界の新鮮なニュースに英語で接するおもしろさを味わえたらと願っています。 下記サイト参照 http://www.msnbc.msn.com/id/3037881/site/newsweek/	2〜3 週間に 1 記事のペースで読み進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	定期試験と出席、小テストで評価。

	English 321-a Writing English for Specific Purposes	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
英文で自己表現をするにあたり、英語の論理構造を踏まえ、英文をパラグラフ単位で書く力を養成します。英文を書くことに慣れるために身近な話題を題材とし、アイディアのまとめ方、下書き、改訂、校正とステップを踏んでライティング能力を身につけていきます。 クラスメートの下書きを読み合うことで、より良い英文の完成を目指すとともに、ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、多様な視点を学びます。 皆さんの意見を授業になるべく取り入れ、興味のある話題について伸び伸びと英文を書いてもらうことで、楽しく英語で自己表現する力を身につけてほしいと考えます。	取り上げる題材は、受講者の皆さんと相談して決定する予定です。 1. About me 2. Career consultant 3. A dream come true 4. Invent 5. It changed my life 6. Exciting destination 7. Research interview 8. The power interview 9. Personal goals 10. Architect 11. My role models 12. Be a reporter
テキスト、参考文献	**評価方法**
「Writing from Within」 （Cambridge University Press）	出席、授業態度、ライティング課題、Journal で総合評価。

	English 321-b Writing English for Specific Purposes	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で学習した英文による自己表現能力を発展させ、様々な形で自分の意見を発信することで、他者と積極的にコミュニケーションする能力を育成します。 コンピューターを活用し、実生活に役立つスキルを身につけながら、クラスメイトのみならず、世界の人々と英語でコミュニケーションを行います。また、書いた意見を人に伝えるために、パワーポイントを用いてプレゼンテーションをしたり、英文ホームページの作成を行います。 コンピューターソフトの使用経験の有無は問わず、基礎から指導しますので、心配しないで受講してください。	下記の項目を取り上げる予定ですが、具体的な内容や進度については、受講生の皆さんと相談して決定します。 1. 英文メールの書き方 2. チャット 3. メーリングリスト 3. グリーティングカード 4. E-pal 交流 5. PowerPoint を用いたプレゼンテーション 6. 英文ホームページ作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	出席、授業態度、課題、Journal で総合評価。

	English 331-a Speech Communication	担当者	Ｔ．Ｊ．フォトス

講義目的、講義概要	授業計画
This course is for intermediate to more advanced level English students. The actual content and difficulty of the lessons will be decided after a level test and short interviews of the prospective students have been administered in the first couple of class meetings. The stress will be on speaking and listening. There will be some outside research required of the students on topics ranging from business to world events. Presentations or speeches will be expected of all students in addition to the usual requirements of actively participating in the small group discussions and doing one`s assignments in a timely and careful manner.  Some video may be used to supplement the regular handouts and student-selected topics.  It is expected that those in the course will devote some time outside of class to practicing English. Just attending the lessons won`t do the trick. Any seniors enrolled in the course will have to do extra assignments and reports to compensate for absences due to job-hunting activities.	Week 1 Explanation meeting , level test, and student self-introductions. Weeks 2 –10 There will be various topics to be covered that will be announced during the course. Week 11 Last set of student presentation and review. “ 12 Final one-to-one interview for the term
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is planned at this time. There will be handouts and student—decided research topics that will be used.	There will be continuous assessment and advice to the students. Pesentations are important as well as doing one`s best in class acivities.

	English 331-b Speech Communication	担当者	Ｔ．Ｊ．フォトス

講義目的、講義概要	授業計画
Please refer to the explanation for the spring semester.	Week 1 Introduction if necessary. Last summer presentation. Weeks 2 – 10 Various topics will be studied with appropriate handouts that will be announced during the semester. Week 11 Last student presentation and review. “ 12 Final one-to-one interviews
テキスト、参考文献	**評価方法**
Refer to the spring semester.	Refer to the spring semester.

	English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register. In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following: - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm> There is a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do> Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.	This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester. Week: 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study, 12. Personal study, self-evaluation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.	This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10%　Quizzes 30% Study plan 20%　Journals 30%　Self-evaluations 10%

	English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register. In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following: - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm> You can try a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do> Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.	This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester. Week: 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study 12. Personal study, self-evaluation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.	This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10%　Quizzes 30% Study plan 20%　Journals 30%　Self-evaluations 10%

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ｉa(基礎) ドイツ語ＩAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検)」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は、日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。	『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年 Lektion 1 ~ Lektion 3
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本　淳：『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ｉb(基礎) ドイツ語ＩAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検)」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は、日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。	『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年 Lektion 4 ~ Lektion 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本　淳：『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ｉa(基礎) ドイツ語ＩBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は、日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。	『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年 Lektion 1 ~ Lektion 3
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本　淳：『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ｉb(基礎) ドイツ語ＩBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は、日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。	『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年 Lektion 4 ~ Lektion 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本　淳：『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ｉa(会話) ドイツ語ＩCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社) 2006 年 Lektion 1 ~ Lektion 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤修子＋伊藤祐紀子：『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社) 2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ｉb(会話) ドイツ語ＩCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社) 2006 年 Lektion 7 ~ Lektion 12
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤修子＋伊藤祐紀子：『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社) 2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ⅱa(基礎) ドイツ語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検)」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 　1 年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 　使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。	『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年 Lektion 1 ~ 5
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤＋小林＋新倉＋松尾:『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ⅱb(基礎) ドイツ語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検)」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 　1 年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 　使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。	『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年 Lektion 6 ~10
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤＋小林＋新倉＋松尾:『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ⅱa(基礎) ドイツ語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検)」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 　1 年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 　使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。	『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年 **Lektion 1 ~ 5**
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤＋小林＋新倉＋松尾:『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ⅱb(基礎) ドイツ語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検)」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 　1 年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 　使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。	『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年 **Lektion 6 ~10**
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤＋小林＋新倉＋松尾:『Dialog　－　ステップアップ版』（郁文堂）2003 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ⅱa(会話) ドイツ語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと､1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 　対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』（三修社）2004 年 Lekiton 1 ~ Lektion 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver :『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』（三修社）2004 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

０５年度以降 ０４年度以前	ドイツ語Ⅱb(会話) ドイツ語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと､1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 　対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』（三修社）2004 年 Lekiton 7 ~ Lektion 12
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver :『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』（三修社）2004 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

	ドイツ語ⅢBa	担当者	田島　加奈子

講義目的、講義概要	授業計画
学生の日常生活をテーマにしたドイツ語の対話を参考にして練習し、実際に会話ができるよう、また、ドイツ語のテキストを読んで理解できるようにしたい。ドイツ語で表現するためにパートナー練習を通して会話の練習をするので積極的に参加してほしい。下記のテキストだけを読むのではなく他のテーマのテキストも取り入れたい。	1～2　今までの復習 2～4　祖父のタイムマシーン　名詞の２格・序数 5～6　私の人生　動詞の三基本形 7～8　私はカバンをなくしました　形容詞の格変化 9～10　日本で一番美しい町　形容詞の比較級・最上級 11～12　ゴローは病気です　再帰動詞（1）・非人称の表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
モデル２　問題発見のドイツ語（三修社）	出席、口頭試験、筆記試験

	ドイツ語ⅢBb	担当者	田島　加奈子

講義目的、講義概要	授業計画
同　上	1～2　いっしょに行く気ある？　zu 不定句（1） 2～4　日本でのヴィースマン氏　再帰動詞（2） zu 不定句（2） 5～6　キャンパスからのリポート　受動文 7～8　私は本当に愛している女性と結婚するつもりです 関係代名詞・形容詞の名詞化 9～10　プリンターがこわれている　接続法Ⅱ式 外交的用法 11～12　何をしたいですか　接続法Ⅱ式　非現実の表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
同　上	同　上

０５年度以降 ０４年度以前	フランス語 Ia(基礎) フランス語 IAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週１回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 春学期では Tome 1 の第５課まで進みます。授業では CD を使うことがあります。 右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は先生により異なります。	1. 発音とつづり字の読み方 2. 発音とつづり字の読み方 3. 第１課 4. 第２課 5. 第２課 6. 第３課 7. 第３課 8. 第４課 9. 第４課 10. 第５課 11. 第５課 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：Tome 1（第三書房） 辞書、参考書については担当の先生より指示があります。	担当の先生より指示があります。

０５年度以降 ０４年度以前	フランス語 Ib(基礎) フランス語 IAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週１回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 秋学期では Tome 1 の第６課から第 10 課まで進みます。授業では CD を使うことがあります。 右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は先生により異なります。	13. 第６課 14. 第６課 15. 第７課 16. 第７課 17. 第８課 18. 第８課 19. 第９課 20. 第９課 21. 第 10 課 22. 第 10 課 23. annexe 24 総合問題（bilan）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：Tome 1（第三書房） 辞書、参考書については担当の先生より指示があります。	担当の先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I a（総合 J） フランス語 I Ba	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I（総合 J）は日本人、I（総合 F）はフランス人講師が担当します（再履修クラスを除く）。 I（総合 J）ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。 右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 F）とのペアでしか取れません。	1. 発音（1） 2. 発音（2） 3. unité 1　leçon 1 4. unité 1　leçon 2 5. unité 1　leçon 3 6. unité 1　leçon 4 7. unité 2　leçon 5 8. unité 2　leçon 6 9. unité 2　leçon 7 10. unité 2　leçon 8 11. unité 3　leçon 9 12. unité 3　leçon 10
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I b（総合 J） フランス語 I Bb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I（総合 J）は日本人、I（総合 F）はフランス人講師が担当します（再履修クラスを除く）。 I（総合 J）ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。 右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 F）とのペアでしか取れません。	1. unité 3　leçon 11 2. unité 3　leçon 12 3. unité 4　leçon 13 4. unité 4　leçon 14 5. unité 4　leçon 15 6. unité 4　leçon 16 7. unité 5　leçon 17 8. unité 5　leçon 18 9. unité 5　leçon 19 10. unité 5　leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I a（総合 F） フランス語 I Ca	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。 フランス語 I（総合 J）とペアになる授業ですが、このI（総合 F）はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し（expressions）を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I（総合 J）とともにぜひ取ってもらいたい授業です。 右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 J）とのペアでしか取れません。	1. 発音（1） 2. 発音（2） 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I b（総合 F） フランス語 I Cb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。 フランス語 I（総合 J）とペアになる授業ですが、このI（総合 F）はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し（expressions）を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I（総合 J）とともにぜひ取ってもらいたい授業です。 右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 J）とのペアでしか取れません。	1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

０５年度以降 ０４年度以前	フランス語Ⅱa(基礎) フランス語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週１回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座の 2 年目です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 使用する教科書は< Salut !> <Bis,amicalement>の 2 種類のうちのいずれかになります（担当の先生によって異なります)。 １年間学んだことを発展させていきます。	担当の先生および教科書によって異なります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Salut！(駿河台出版社) Bis,amicalement（駿河台出版社） のうちのひとつ。辞書等は先生より指示があります。	先生より指示があります。

０５年度以降 ０４年度以前	フランス語Ⅱb(基礎) フランス語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週１回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座の 2 年目です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 春学期の続きです。	担当の先生および教科書によって異なります
テキスト、参考文献	**評価方法**
Salut！(駿河台出版社) Bis,amicalement（駿河台出版社） のうちのひとつ。辞書等は先生より指示があります。	先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱa（総合 J） フランス語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 J）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 J）では文法と語彙の学習が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.1 unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. INITIAL vol.2 unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の各先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱb（総合 J） フランス語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 J）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 J）では文法と語彙の学習が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の各先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱa（総合 F） フランス語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 F）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 F）では決まった言い回しと会話がが中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.1 unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. INITIAL vol.2 unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の先生より指示されます。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱb（総合 F） フランス語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 F）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 F）では決まった言い回しと会話が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.2 unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の先生より指示されます。

	フランス語ⅢAa	担当者	Ｌ．フォンテーヌ

講義目的、講義概要	授業計画
Conversation Ce cours a un double but: offrir aux étudiants l'occasion de parler en français et développer leur compréhension auditive. À chaque cours, les étudiants écouteront deux dialogues, répondront à des questions sur ces dialogues et prépareront ensuite, en groupes de deux ou trois, des scènes reliées à ces dialogues. Les étudiants joueront ensuite les scènes imaginées devant leurs camarades.	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Exercices d'oral en contexte, Niveau intermédiaire Hachette Livre 2002	Evaluation: Il y aura un examen écrit et un examen oral en juillet et en janvier. L'assistance aux cours et la participation aux cours seront aussi prises en considération.

	フランス語ⅢAb	担当者	Ｌ．フォンテーヌ

講義目的、講義概要	授業計画
Conversation Ce cours a un double but: offrir aux étudiants l'occasion de parler en français et développer leur compréhension auditive. À chaque cours, les étudiants écouteront deux dialogues, répondront à des questions sur ces dialogues et prépareront ensuite, en groupes de deux ou trois des scènes reliées à ces dialogues. Les étudiants joueront ensuite les scènes imaginées devant leurs camarades.	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Exercices d'oral en contexte, Niveau intermédiaire Hachette Livre 2002	Evaluation: Il y aura un examen écrit et un examen oral en juillet et en janvier. L'assistance aux cours et la participation aux cours seront aussi prises en considération.

	フランス語ⅢAa	担当者	近江屋　志穂

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、フランス語のテキストの講読を行います。手ごたえのあるフランス語の文章が読めるようになることを目標とします。 また、テキストの講読を通して、グローバルな視点からフランスの文化を理解することを目指します。教材として用いる『Passages』は、フランス本国だけでなく、アジア、アフリカ、地中海、カリブ海なども視野に入れています。フランスの文化、歴史は、周辺のヨーロッパ諸国だけでなく、こうした地域の民族、宗教との葛藤と共存において形成されているのです。 授業は訳読形式ですが、必要に応じて文法事項を復習します。また、音読や聞き取りの練習も行い、できるだけ総合的なフランス語力が身につけられるよう配慮したいと思います。 8 章からなる教材のテキストはそれぞれ独立していますので、受講者の皆さんの関心と理解度に応じて、選択的に講読していきたいと思います。	1　ガイダンス 2～12　選択したテキストを講読します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『Passages – De France et d'ailleurs』、東京大学出版会	原則として、平常点（出席、予習）によって成績評価を行いますが、詳しくは受講者の人数によって決めます。

	フランス語ⅢAb	担当者	近江屋　志穂

講義目的、講義概要	授業計画
同上。	1～12　春学期の方法に従い、テキストの講読を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上。	春学期の方法に従います。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ｉa(文法) スペイン語ＩAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　発音・アクセント ②　名詞の性・数、冠詞 ③　形容詞 ④　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥　ser, estar 動詞の使い方 ⑦　代名詞の使い方 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ｉb(文法) スペイン語ＩAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ｉa(文法), IAa,に引き続き、基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ ②　動詞の活用 --- 直説法現在形不規則の復習とまとめ ③　代名詞の使い方 ④　動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ｉa(文法) スペイン語ＩBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 基本的には、スペイン語 Ia(会話)，ＩCa とのペア履修を要望する。	① 発音・アクセント ② 名詞の性・数、冠詞 ③ 形容詞 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 教科書の Lección 5 までが進度の目安である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ｉb(文法) スペイン語ＩBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia(文法)，ＩBa に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 基本的には、会話コースのスペイン語 Ib(会話)，ＩCb とのペア履修を要望する。	① 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ ② 動詞の活用 --- 直説法現在形不規則の復習とまとめ ③ 代名詞の使い方 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法線過去規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法線過去不規則活用 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 教科書の Lección 10 までが進度の目安である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ｉa(会話) スペイン語ＩCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 Ｉ a(会話), ＩＣａ の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 基本的には、文法コースであるスペイン語 Ia（文法), ＩBa とのペア履修を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ia（文法), ＩBa の項目と同じであるが、スペイン語 Ia（会話), ＩCa ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ia（文法), ＩBa の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 および、担当者が随時プリント等を配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ｉb(会話) スペイン語ＩCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia（会話), ＩCa に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語Ｉｂ（会話), ＩＣｂ の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 基本的には、文法コースであるスペイン語 Ib（文法), ＩBb とのペア履修を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ib（文法), ＩBb の項目と同じであるが、スペイン語 Ib（会話), ＩCb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ib（文法), ＩBb の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 また、担当者が随時プリント等を配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ⅱa(文法) スペイン語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語IAabおよびＩab(文法) の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。	① 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ⅱb(文法) スペイン語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
上記のスペイン語ⅡAa, Ⅱa(文法) に引き続き、基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。	① 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ② 動詞の活用 --- 現在進行形 ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ④ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑤ 命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ⅱa(文法) スペイン語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語 IBab, Ⅰab(文法)の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 基本的には、スペイン語Ⅱa(会話), ⅡCa とのペア履修を要望する。	① 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ⅱb(文法) スペイン語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語ⅡBa, Ⅱa(文法) に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 基本的には、会話コースのスペイン語Ⅱb(会話), ⅡCb とのペア履修を要望する。	① 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ② 動詞の活用 --- 現在進行形 ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ④ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑤ 命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ⅱa(会話) スペイン語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱa(文法)，ⅡBa とのペア履修を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語ⅡBa,Ⅱa(文法)の項目と同じであるが、スペイン語ⅡCa，Ⅱa(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語ⅡBa，Ⅱa(文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

０５年度以降 ０４年度以前	スペイン語Ⅱb(会話) スペイン語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語ⅡCa，Ⅱa(会話) に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱb(文法)，ⅡBb とのペア履修を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語ⅡBb，Ⅱb(文法)の項目と同じであるが、スペイン語ⅡCb，Ⅱb(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語ⅡBb，Ⅱb(文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

	スペイン語ⅢAa	担当者	北岸　団

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。 この授業では、スペインで発行されているスペイン語学習者向け短編小説、「探偵ペペ・レイ」シリーズを読んでいきます。初級文法で得られた知識で十分楽しみながら読んでいけるレベルのものです。 ただ、日本人向けに編集されているものではないので、初級文法では対応できない箇所（命令法、接続法過去など）がでてきますが、こうした点については必要に応じて文法的解説を加えていきます。 初回授業でプリントを配布します。 履修者は、次回授業までに特定された範囲まで下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。	第１回　授業の進め方、プリント配布 第２回以降　同プリント講読、発表 最終回　試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	試験と発表状況

	スペイン語ⅢAb	担当者	北岸　団

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。 メキシコで発行されているメキシコの歴史を読んでいき、スペイン語で知識を得ることを目標とします。 講読対象が歴史であるため、過去形（点過去、線過去、大過去など）が中心となります。 必要に応じて、文法的解説と内容の解説を行います。 初回授業でプリントを配布します。 履修者は、次回授業までに特定された範囲まで下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。	第１回　授業の進め方、プリント配布 第２回以降　同プリント講読、発表 最終回　試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	試験と発表状況

	スペイン語ⅢBa	担当者	J．フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに聞き取り能力を養成する。 スペイン語とともにボディーランゲェジになれること。 ビデオを用いながら会話、文化（世界遺産、生活、習慣など）を紹介。	季節ごとのスペイン語圏の国々の祝日、記念日、行事、慣習（イースター、学生の日、死者の日、など）をビデオや写真によって学ぶこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
本を使わず、その都度担当者が作成。	出席、授業への積極的な参加、小テストによる。

	スペイン語ⅢBb	担当者	J．フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ｉa(会話) 中国語ＩAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります。 中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。 受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。	第１回～第３回：テキスト発音篇 第４回～第１２回：テキスト第１課～第８課 (内　容) 形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、各種疑問文、“在”、“有”の用法、“了”の用法、数の数え方、量詞、比較の表現、結果補語、可能補語、助動詞“会、可以、想”他。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢）によって総合的に評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ｉb(会話) 中国語ＩAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります。 中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。 受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します	第１回～第１２回：テキスト第９課～第１６課 (内　容) 各種前置詞、様態補語、持続の“着”、主述述語文 助動詞“能、得”、方向補語、“把”構文、存現文、受身文、兼語文、“要”の用法、 その他さまざまな言い回し。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって総合的に評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ｉａ(会話) 中国語ＩBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります。 中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。 受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。	第１回～第３回：テキスト発音篇 第４回～第１２回：テキスト第１課～第８課 (内　容) 形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、各種疑問文、“在”、“有”の用法、“了”の用法、数の数え方、量詞、比較の表現、結果補語、可能補語、助動詞“会、可以、想”他。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢）によって総合的に評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ｉｂ(会話) 中国語ＩBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります。 中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。 受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。	第１回～第１２回：テキスト第９課～第１６課 (内　容) 各種前置詞、様態補語、持続の“着”、主述述語文 助動詞“能、得”、方向補語、“把”構文、存現文、受身文、兼語文、“要”の用法、 その他さまざまな言い回し。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって総合的に評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ｉａ(講読・文法) 中国語ＩCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階でまず習得しなければならないのは発音です。ピンイン（中国語表音ローマ字）を正しく読めるように繰り返し練習します。 次に中国語の基礎文法を学び、中国語の語順の基本を理解することによって基礎的な日常表現を習得します。 授業は音読を重視し色々な基礎文型を頭だけでなく「耳」と「口」を使って身体で覚えるようにすることが求められます。 受講者の皆さんが積極的に授業に参加することを期待します。	第１回～第３回：テキスト　中国語の発音 第４回～第１２回：テキスト第１課～第６課 (内　容) 人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数量詞、動詞述語文、形容詞述語文、各種疑問文、連動文、動詞の重ね型、“是、有、在、”の用法、“也、都”の用法、月日・曜日・時刻の言い方　等等。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら 上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント４２』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、 課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ｉｂ（講読・文法） 中国語ＩCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き文法事項と基礎文型を学びます。 また前期で学んだ発音の基礎をさらに強化し、文の内容を理解しながら中国語のイントネーションを身につけるよう練習します。 テキストに出ている単語数はそれほど多くないので、テキスト別冊の「自習単語帳」なども活用して発音・意味ともしっかり覚えてしまうことが求められます。	第１回～第１２回：テキスト第７課～第１２課 (内　容) 各種介詞、各種動詞、動作・状態の進行と持続、 結果補語、状態補語、方向補語、可能補語、 完了を表す“了”、時間量の表し方、“把”構文、 比較の表現　等等。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら 上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント４２』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、 課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ⅱa(会話) 中国語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
最初の１年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。 テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。 各課の「ポイント」には文法事項や慣用語句などを例文をつけて説明しています。この中には１年次ですでに学んだものもありますが復習、予習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。 テキストの巻末には「語句索引」がついてはいますが、予習・復習時には必ず辞書を引いて単語の意味を確認する習慣をつけると語彙の習得が容易になります。	第１回～第１２回：テキスト第１課～第６課 (内　容) ＜場面別会話＞ 北京に到着 ホテルにて はじめまして 北京の変化は本当に大きい 北京の交通 友人を誘って外出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『実用中国語会話』金星堂 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ⅱb（会話） 中国語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
最初の１年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。 テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。 各課の「ポイント」には文法事項や慣用語句などを例文をつけて説明しています。この中には１年次ですでに学んだものもありますが復習、予習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。 テキストの巻末には「語句索引」がついてはいますが、予習、復習時には必ず辞書を引いて単語の意味を確認する習慣をつけると語彙の習得が容易になります。	第１回～第１２回：テキスト第７課～第１２課 （内　容） ＜場面別会話＞ ごちそうする 買い物 道を尋ねる・友人を訪ねる 電話をかける 診察 帰国
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『実用中国語会話』金星堂 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ⅱa(会話) 中国語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
最初の１年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。 テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。 各課の「ポイント」には文法事項や慣用語句などを例文をつけて説明しています。この中には１年次ですでに学んだものもありますが復習、予習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。 テキストの巻末には「語句索引」がついてはいますが、予習・復習時には必ず辞書を引いて単語の意味を確認する習慣をつけると語彙の習得が容易になります。	第１回～第１２回：テキスト第１課～第６課 (内　容) ＜場面別会話＞ 北京に到着 ホテルにて はじめまして 北京の変化は本当に大きい 北京の交通 友人を誘って外出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『実用中国語会話』金星堂 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ⅱb（会話） 中国語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
最初の１年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。 テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。 各課の「ポイント」には文法事項や慣用語句などを例文をつけて説明しています。この中には１年次ですでに学んだものもありますが復習、予習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。 テキストの巻末には「語句索引」がついてはいますが、予習、復習時には必ず辞書を引いて単語の意味を確認する習慣をつけると語彙の習得が容易になります。	第１回～第１２回：テキスト第７課～第１２課 （内　容） ＜場面別会話＞ ごちそうする 買い物 道を尋ねる・友人を訪ねる 電話をかける 診察 帰国
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『実用中国語会話』金星堂 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ⅱa(講読・文法) 中国語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて入門段階ですでに習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。 授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすると中国語の発音は飛躍的に上達するからです。 このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある中国、そして昔から変わらぬ中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。 授業には辞書必携。	第１回～第１２回：テキスト第１課～第６課 （内　容） 各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。 各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国って　どんな国？』　白水社 辞書：『プログレッシブ中国語辞典』　小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

０５年度以降 ０４年度以前	中国語Ⅱb(講読・文法) 中国語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて入門段階ですでに習得した文法・言いまわしを復習、確認しながら春学期に続いてさらに新しい語句や表現を学びます。 授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすると中国語の発音は飛躍的に上達するからです。 このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国、そして昔から変わらぬ中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。 授業には辞書必携。	第１回～第１２回：テキスト第７課～第１２課 （内　容） 各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。 各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国って　どんな国？』　白水社 辞書：『プログレッシブ中国語辞典』　小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

	中国語Ⅲa(会話)	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つの話題をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。	第１回～第１２回：テキスト Unit１～Unit５ (内　容) 各 Unit の話題ごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。 テキストの各 Unit の 後ろにある＜話してみよう＞と＜ヒアリング＞部分は、原則として課題とし次回の授業で受講者の皆さんに解答してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：新版　『トーク・トピックス』白帝社	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

	中国語Ⅲb(会話)	担当者	張　継英

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つの話題をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。	第１回～第１２回：テキスト Unit６～Unit10 (内　容) 各 Unit のテーマごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。 テキストの各 Unit の 後ろにある＜話してみよう＞と＜ヒアリング＞部分は、原則として課題とし次回の授業で受講者の皆さんに解答してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：新版　『トーク・トピックス』白帝社	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

	中国語Ⅲa(講読・文法)	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）を並行して行います。	１．第１課　読解 ２．第２課　読解 ３．第１課、第２課　練習 ４．第３課　読解 ５．第４課　読解 ６．第３課、第４課　練習 ７．第５課　読解 ８．第６課　読解 ９．第５課、第６課　練習 １０．第７課　読解 １１．第８課　読解 １２．第７課、第８課　練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中文新世紀』白帝社	期末試験と平常点（出席・発表・参加姿勢）によって評価します。

	中国語Ⅲb(講読・文法)	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）を並行して行います。	１．第９課　読解 ２．第10課　読解 ３．第９課、第10課　練習 ４．第11課　読解 ５．第12課　読解 ６．第11課、第12課　練習 ７．第13課　読解 ８．第14課　読解 ９．第13課、第14課　練習 １０．第15課　読解 １１．第16課　読解 １２．第15課、第16課　練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中文新世紀』白帝社	期末試験と平常点（出席・発表・参加姿勢）によって評価します。

	イタリア語Ｉa	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） Ｉの段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です．この観点からして次のような練習が主軸になります. １）グループ毎による基本会話練習. ２）文字を見ずに聞き取りに徹する．ネイティヴの発話を繰り返す練習. ３）要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習.	1）簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 2）簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 3）-are 型規則動詞の練習(1) 4）-are 型規則動詞の練習(2) 5）-ere，-ire 型規則動詞の練習(1) 6）-ere，-ire 型規則動詞の練習(2) 7）-ere，-ire 型規則動詞の練習(3) 8）不規則動詞 andare の練習 9）不規則動詞 avere の練習 10）不規則動詞 essere の練習(1) 11）不規則動詞 essere の練習(2) 12）不規則動詞 essere の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書）一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年 （参考書）入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版 2005 町田亘『イタリア語レッスン初級１』スリーエーネットワーク 2005 年	平常点、小テストの成績をもとに総合的に判断します.

	イタリア語Ｉb	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） Ｉの段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です．この観点からして次のような練習が主軸になります. １）グループ毎による基本会話練習. ２）文字を見ずに聞き取りに徹する．ネイティヴの発話を繰り返す練習. ３）要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習.	1）冠詞(1) 2）冠詞(2) 3）所有形容詞 4）不規則動詞 dovere，potere の練習 5）不規則動詞 volere，sapere の練習 6）人称代名詞対格形の練習 7）人称代名詞与格対格形の練習 8）頻出不規則動詞の練習 9）規則動詞 piacere の練習 10）近過去形の練習(1) 11）近過去形の練習(2) 12）近過去形の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書）一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年 （参考書）入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版 2005 町田亘『イタリア語レッスン初級１』スリーエーネットワーク 2005 年	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

	イタリア語Ⅱa	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語Ⅰbに引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。随時小テストを行い、習熟度の確認を行う。	1　イタリア語Ⅰで学習した内容の総復習 2　近過去 3　直接・間接目的語の代名詞（1） 4　直接・間接目的語の代名詞（2） 5　半過去（1） 6　半過去（2） 7　目的地までの行き方を聞く 8　関係代名詞 9　自分の好みを表現する・買い物をする 10　未来形 11　条件法 12　ジェルンディオ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	授業内に行う小テストおよび期末試験の成績による。

	イタリア語Ⅱb	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語Ⅱaに引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。随時小テストを行い、習熟度の確認を行う。	1　前期に学んだ文法事項の復習 2　前期に学んだ会話表現の復習 3　受動態（1） 4　受動態（2） 5　代名詞の結合形（1） 6　代名詞の結合形（2） 7　接続法（1） 8　接続法（2） 9　命令法 10　敬語を使うべき場所での表現 11　ci と ne について（1） 12　ci と ne について（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	授業内に行う小テストおよび期末試験の成績による。

	ポルトガル語Ⅰa	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語Ⅰb に続く形でポルトガル語の基本的文法と基本的表現を学びます。	講師がプリントを用意するので指定の教科書はありません。 授業では、基本的な文法項目の学習を中心として、文型練習や CD・テープを利用したリスニング練習なども行う予定です。文法項目は、学習の便を考え、必要に応じて英語などと対照しながら説明することもあります。受講者の進度・意欲次第では、ポルトガルやブラジルの文化・社会事情を題材にした平易なテキストを読むことも考えています。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めですが、すでに他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については授業計画を参照のこと。 その他の参考書については授業中に適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

	ポルトガル語Ⅰb	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、前期のポルトガル語Ⅰa を引き継いでポルトガル語の基本的文法と基本的表現を学びます。	講師がプリントを用意するので指定の教科書はありません。 授業では、基本的な文法項目の学習を中心として、文型練習や CD・テープを利用したリスニング練習なども行う予定です。文法項目は、学習の便を考え、必要に応じて英語などと対照しながら説明することもあります。受講者の進度・意欲次第では、ポルトガルやブラジルの文化・社会事情を題材にした平易なテキストを読むことも考えています。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めですが、すでに他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については授業計画を参照のこと。 その他の参考書については授業中に適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

	ポルトガル語Ⅱa	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前年度の「ポルトガル語Ⅰ」を受け、１年目で未修の文法項目を学びながら、さまざまな文章を読んでいく予定です。終了時には辞書を引きつつ新聞や雑誌の記事などを正確に読めるようになることを目指しましょう。また受講者の希望しだいでは会話的表現にも時間を割くつもりです。	講師がプリントを用意するので指定の教科書はありません。 文法については、接続法を中心として、ポルトガル語Ⅰで習得できなかった残りの基礎文法を学習します。また、それと並行してポルトガル語圏の文化・社会事情を扱っている新聞や雑誌記事、エッセイなども読んでいく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めですが、すでに他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については授業計画を参照のこと。 その他の参考書については授業中に適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

	ポルトガル語Ⅱb	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語Ⅱa を引き継ぐものです。	講師がプリントを用意するので指定の教科書はありません。 文法については、ポルトガル語Ⅱa で習得できなかった残りの基礎文法を学習します。また、それと並行してポルトガル語圏の文化・社会事情を扱っている新聞や雑誌記事、エッセイなども読んでいく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めですが、すでに他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については授業計画を参照のこと。 その他の参考書については授業中に適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ｉa(総合) ロシア語ＩAa	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
ロシアはヨーロッパ東端の国として独特の文化を育んできた国ですが、一方で、日本とは国境を接する隣国であり、両国は幕末・明治時代から密接な関係を持ってきました。大きく変動しつつある今日の国際社会においても、ロシアはきわめて重要な位置を占めており、日本との関係も、とくに経済の分野で、ますます進展してゆくことと思われます。 この授業はまったくの初心者を対象とし、アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。 会話を中心とした「ロシア語ＩBa」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。	全体で教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。 主な学習事項は以下の通りです。 1-6 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、 基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 7 名詞の性、形容詞類の変化 8 動詞の現在変化（1） 9 場所の表現（1）（前置詞、名詞の格変化の導入） ロシアの歴史・文化・政治などについての基礎知識も、随時とりあげてゆきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席などの平常点。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ｉb(総合) ロシア語ＩAb	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語ＩAa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。	全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 10 場所の表現（2）（前置詞） 11 動詞の現在変化（2） 12 不規則動詞の現在変化 13 形容詞の変化 14 名詞の複数形 15 名詞の格変化（1）生格 16 名詞の格変化（2）対格 17 動詞の過去変化 18 運動の動詞、方向の表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席などの平常点。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ｉa(会話) ロシア語ＩBa	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
はじめてロシア語を学ぶ人を対象とします。 BRICs（ブリックス：著しい経済成長が期待される国々の頭文字ですね）のひとつとして注目を集め、確実に成長を遂げているロシア。改めて世界における主要な位置を占めるようになりました。政治、経済、文化と多岐にわたり日本との交流もますます拡大していきます。今後、ロシア語が重要な言語になることは間違いありません。 ロシアは、深くて美しい芸術（バレエ、音楽、映画、美術、文学）の伝統を誇る国ですが、最近では、テニスのシャラポワ、格闘技のヒョードル、世界的歌姫のネトレプコの活躍、なごみ系アニメキャラのチェブラーシカ、映画『ナイト・ウォッチ』の世界的ヒットなど、新たなエネルギーに満ちた魅力にも溢れています。 むろん、ロシア語そのものが美しいかたちと音を備えた、そして文法の体系も整った、美の結晶のような言語です。この授業では、発音、イントネーションを正しく身につけ、ロシア語で挨拶や自己紹介をしたり、買い物をしたりできるようにします。また、映像をとおして、ロシアの文化や生活習慣に触れる時間ももちます。今年は、「日本におけるロシア年」。ロシア関連のさまざまな催しが日本各地で行われます。折にふれて、情報をお伝えしましょう。	1　ガイダンス（ロシア語、そしてロシアについて）。 2　文字と発音。あいさつ。『チェブラーシカ』鑑賞。 3　文字と発音。名前の尋ね方。お詫びとお礼。『チェブラーシカ』を観る。 4　「これは誰？」「これは何？」名詞の性。『チェブラーシカ』を観る。 5　国の名前を覚えよう。形容詞と名詞の関係。『チェブラーシカ』を観る。 6　家族の紹介。ロシア人の名前のしくみ。名前の愛称形。数をかぞえよう。『チェブラーシカ』を観る。 7　「ーは、どう？」所有代名詞と名詞の関係。ロシア語で足し算。「ロシアのバレエ」を観る。 8　「何をしているの？」動詞の人称変化。「ヤグディン、スルツカヤのスケート」を観る。 9　「ーが好き」名詞の格について。対格。「ロシアの民族舞踊とロシア民謡」を楽しむ。 10　「ーしたい」「ーをください」命令形。映画『戦争と平和』の舞踏会シーンを観る。 11　まとめと補足。 12　映画鑑賞。ダイナミックなモンタージュと流麗なカメラワークを堪能しましょう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社　2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	学期末に試験（リスニングとディクテーション）を行いますが、もっとも重要視するのは出席率です。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ｉb(会話) ロシア語ＩBb	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語ＩBa」で身につけたことを生かして、買い物をしたり、道をたずねたり、カフェで食事ができるようにします。 地下鉄宮殿の名で知られるモスクワの美しい地下鉄は、駅のひとつひとつが個性的で芸術的。地下鉄巡りだけでも楽しめるほどです。交通手段も、路面電車、トロリーバスなど種類が多いので、交通手段を使い、地図を用いてモスクワ巡りをしてみましょう。もちろん、ロシア語を使って。私たちにはなじみのない、車内でのマナーにも触れます。 近年、ロシアでは日本食が人気ですが、ロシア人の間に健康志向とグルメ熱が高まっています。こうした最近の事情を含め、ロシアの食文化、ロシア料理について情報を得ながら、ロシア語で料理を注文できるようにします。 この授業で使用するテキストには CD が付いていますので、自宅で、すきな時にロシア語の音声を繰り返し聴いて楽しむことができます。宿題は出しませんが、自主的に CD を聴き、復唱することをお勧めします。 Говорим по-русски! Желаю вам успехов в учёбе!	1　春学期の復習。辞書について。アニメ映画『霧の中のハリネズミ』を観る。 2　「どこへー？」「どこでー？」方向と場所の区別。「モスクワの街なみ」を観る。 3　「いま、何時？」「何歳ですか？」数詞と名詞の関係。「ガガーリン、宇宙飛行の記録」を観る。 4　「どこへ行くの？」定動詞と不定動詞。「ロシア料理、ボルシチの作り方」を観る。 5　「ーはありますか？」「ーを持ってる？」生格。アニメ映画『きつねとウサギ』を観る。 6　カフェで料理を注文する。メニューの見方。「ロシア料理、モスクワのレストラン」を観る。 7　カフェで料理を注文する。「ロシア料理、モスクワのレストラン」を観る。 8　カフェで料理を注文する。「バレリーナ、プリセツカヤのインタヴューと演技」を観る。 9　「ーへはどう行くのですか？」交通手段の表現。映画『イワン雷帝』（一部）を観る。 10　モスクワの地図を使って道案内。映画『戦艦ポチョムキン』（一部）を観る。 11　まとめと補足。　12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社　2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	学期末に試験（リスニングとディクテーション）を行いますが、もっとも重要視するのは出席率です。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ⅱa(総合) ロシア語ⅡAa	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ　A」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎をマスターすることを目標にします。ここまでくると、本格的な会話や、文章の読解を行なうことが出来るようになり、学ぶ楽しみもぐんと増すことと思います。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ B」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 大学を卒業してしまうと、ロシア語を学ぶ機会も少なくなります。迷っている人は、とにかく最初の授業に足を運んでみてください。	教科書の第 18 課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法の要めである「名詞の格変化」、および「動詞の体」が中心になります。さらに、アルファベットの筆記体、および辞書の引き方を練習します（ロシア語の場合、辞書の引き方を「練習」する必要があるのです)。 その他、ロシアの映画を何本か見る予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席などの平常点。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ⅱb(総合) ロシア語ⅡAb	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱ　Aa」の続編の授業です。春学期に終えられなかった文法事項を習得したあと、プリント教材をもちいて、簡単な文章読解の練習を行なってゆきます。最終的に、辞書を引きながら、自力でロシア語の文章を読めるだけの力をつけることを目標にします。	春学期に教科書を終えられなかった場合は、その続きをやり、その後、プリント教材をもちいて、読解の練習を行ないます。これまで学んだ文法事項の復習や、基本単語の習得にも力を入れます。 さらに、受講者の皆さんの関心に応じて、ロシアの文化についても話してゆきたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) およびプリント教材 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、ないしはレポート、②出席などの平常点。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ⅱa(会話) ロシア語ⅡBa	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ」の既修者、あるいはロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも履修できます。 この授業は、すでに学習したロシア語を生かして、買い物をしたり、スポーツ観戦をしたり、簡単なメールやお祝いカードを書いたりできるようにします。使用する教科書は（第11課から始めます)、会話表現と文法がバランスよく学べる内容になっています。CDも付いているので、発音のチェックや反復練習がいつでもできますね。「読む・話す・書く」の総合的な力をつけるのがこの授業の目的です。そして、できれば、毎年１０月におこなわれるロシア語検定試験にも挑戦してほしい（昨年度も、この授業を受けた先輩が検定に挑戦し、みごと合格しました)。せっかく学ぶロシア語。表現や文法事項をひとつひとつ着実に積み重ねながら、結実させたいですね。 また、ロシアの美しい芸術や最近のロシア事情に触れるため、毎回、映像を観る時間ももちます。コミュニケーションの手段としてばかりでなく、その背景にある文化や自然や慣習に支えられたロシア語に親しんでほしいと思います。ちなみに今年は、「日本におけるロシア年」。ロシア関連のさまざまな催しが日本各地でおこなわれます。折にふれて、情報をお伝えしましょう。	1　ガイダンス（授業について。みなさんの要望も訊く） 2　11課「ーはありますか？」「ーを持っていますか？」映画『エルミタージュ幻想』(一部）を観る。 3　１週間のスケジュールをたてよう。未来形の復習。「シャラポワ・インタビュー」 4　スポーツ観戦の表現。「ーはどこ？」方向と場所の復習。「ヤグディン・インタビュー」 5　「誰に手紙を書くの？」「誰と住んでいるの？」「誕生日おめでとう！」与格と造格。映画『こねこ』(一部) 6　「ーおめでとう！」「ーをお祈りします」電話で祝辞を述べる。映画『チャイコフスキー』(一部) 7　お祝いカードを書く。映画『ハムレット』(一部) 8　お祝いカードを書く。形容詞＋名詞の格変化。映画『アンナ・カレーニナ』(一部) 9　クロスワードパズルを解こう。不完了体と完了体。／検定試験対策。映画『テルミン』(一部) 10　「何月にーします」不完了体と完了体。／検定試験対策。映画『テルミン』(一部) 11　「暑い」「楽しい」「ーすべきだ」「ーしてはだめ」無人称文／検定試験対策。映画『両棲人間』(一部) 12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』(改訂版）白水社　2005年（CD付き） その他、プリントを適宜配布します。	レポートを提出してもらいますが、出席率を最重要視します。

０５年度以降 ０４年度以前	ロシア語Ⅱb(会話) ロシア語ⅡBb	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語ⅡBa」の続きとなります。自分の趣味を話したり、電話番号を伝えたり聴きとったりできるようにします。また、ロシアの祝日（ロシア正教や農耕儀礼に基づく祭日やソ連時代からの祝日など）について、またお祝いに招待された場合のマナーについて情報を得、お祝いの決まり文句を身につけましょう。欧米とも日本とも異なる、ロシアの独特なクリスマスや新年、イースターの祝い方について知ることができるでしょう。 教科書を最後まで終えたら、ロシア語でクイズを解いてみましょう。さまざまなかたちの疑問文とこれに対する応え方を習得したり、ばらばらに並べられた電話での会話文をコンテクストを考えながら組み立て直したりします。口語的表現はもちろんのこと、ロシアに関する情報や雑学を知ることができ、楽しいと思います。 映画やインタヴューなど、映像・音声資料も楽しみますが、聴きとれる表現が徐々に増えて、さらに面白くなることでしょう。	1　前置詞のまとめ。動詞の接頭辞／検定試験対策。 2　「ーするのが好き」「ーにはまっている」趣味の言い方。映画『ざくろの色』(一部) 3　自分の趣味を語る。映画『カメラを持った男』(一部) 4　自分の趣味を語る。「ピアニスト、リフシッツ・インタヴュー」 5　電話番号を伝える。住居について語る。「リフシッツ・インタヴュー」 6　年月日の練習。関係代名詞。「作家ペレーヴィン・インタヴュー」 7　ロシアの祝日について。能動形動詞。「作家ペレーヴィン・インタヴュー」 8　ロシアの祝日について。お祝いの席で。映画『シベリアの理髪師』(一部) 9　お祝いの席で。映画『モスクワは涙を信じない』(一部) 10　ロシア語でクイズ。最上級。さまざまな疑問文に適切な解答を選択する。映画『惑星ソラリス』(一部) 11　ロシア語でクイズ。アニメ映画『ミトン』 12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』(改訂版）白水社　2005年（CD付き） その他、プリントを適宜配布します。	レポートを提出してもらいますが、出席率を最重要視します。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅰa(総合) 朝鮮語ⅠAa	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。また、韓国・朝鮮の歴史や文化、最近の映画などについても紹介する。初級の人にもわかり安く説明する。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅰb(総合) 朝鮮語ⅠAb	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化、最近の映画などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：総合的な表現力を高める １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅰa(総合) 朝鮮語ⅠAa	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	1回　本講義に対する紹介、概要説明 ２～５回　韓国語の文字・文章の理解と解読 ６～11回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「自己紹介」 「あいさつ」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」 12回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅰb(総合) 朝鮮語ⅠAb	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	１～11回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」 12回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅰa(講読・会話) 朝鮮語ⅠBa	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。そのためには多くの慣用表現を習得する必要がある。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅰb(講読・会話) 朝鮮語ⅠBb	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化、最近の映画などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。講読・会話に重点をおく。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：講読の練習 １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ｉａ(講読・会話) 朝鮮語ＩBa	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。 会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。	1回　本講義に対する紹介、概要説明 ２～５回　韓国語の文字・文章の理解と解読 ６～11回　次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。 「市場」 「スーパーマーケット」 「薬局」 「喫茶店」 「郵便局」 「洋服店」 12回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ｉｂ(講読・会話) 朝鮮語ＩBb	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。 会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。	1回　本講義に対する紹介、概要説明 ２～11回　次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。多様な生活現場を設定し柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。 「映画館」 「スポーツ」 「図書館」 「クリーニング店」 「銀行」 「役所」 「銭湯」 「美容院」 「趣味」 「国際電話」 「健康管理」 12回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅱa(総合) 朝鮮語ⅡAa	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 ２～11 回　次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「誕生日」 「遺跡」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「民俗衣装」 「虎と干し柿」（民話） 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅱb(総合) 朝鮮語ⅡAb	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。	1 回～11 回　次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文の学習を行っていく。 「農楽」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「済州島」 「牛になった怠け者」（民話） 「韓国の風俗」 「韓国の礼節」 「伝統芸能」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅱa(講読・会話) 朝鮮語ⅡBa	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 ２～11 回　次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

０５年度以降 ０４年度以前	朝鮮語Ⅱb(講読・会話) 朝鮮語ⅡBb	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	１～11 回　以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。 「出身地」 「伝言」 「ビザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「観光地」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

	タイ語Ⅰa	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 文字は基礎タイ語Ⅱ（タイ語Ⅱa）で学ぶ。時間に余裕のある人は両方履修してもよい。	1　導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について 1　発音練習（声調・数字・子音・母音） 2　会話１（挨拶、所在に関する表現）、タイ語を聞いて発音記号で表記する 3　会話２（ものの性質などに関する表現）、タイ語を聞いて発音記号で表記する 4　会話３（家族に関する表現）、タイ語を聞いて書く 5　会話４（所有、存在に関する表現）、タイ語を聞いて書く 6　会話５（職業、国名に関する表現）タイ語を聞いて書く 7　会話６（可能、不可能に関する表現）、タイ語を聞いて書く 8　会話７（名前、所在、手段などに関する表現） 9　会話６（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く １０　会話７（類別詞の用法１）、タイ語を聞いて書く １１タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） １２タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

	タイ語Ⅰb	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅰa に引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。	1　会話１（類別詞の用法２）、タイ語を聞いて書く 2　会話２（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く 3　会話３（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く 4　会話４（年・月などの表し方）、タイ語を聞いて書く 5　会話５（レストランでの注文）、タイ語を聞いて書く 6　会話６（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く 7　会話７（類別詞の用法 3）、タイ語を聞いて書く 8　会話８（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く 9　会話９（電話をかける）、タイ語を聞いて書く １０　会話 10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く １１　タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説） １２　タイ事情(映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

	タイ語Ⅱa	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
1、文字の表記と発音 を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。	1　導入；今タイ語を学ぶ意義は？ 2　タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3　文字の読み書き１（中子音・高子音） 4　文字の読み書き２（低子音と長母音） 5　文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節） 6　文字の読み書き４（声調符号、短母音） 7　文字の読み書き５（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音） 8　文字の読み書き６（一字再読字） 9　文字の読み書き７（タイ数字、年月日に関する表記、例外）、 10　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 11　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 12　講読１　（読み方、文章のつながり方など）
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績および出席状況

	タイ語Ⅱb	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。	1　講読１　（読み方、文章のつながり方など） 2　講読２　（平易な物語など） 3　文法１　（指示詞の用法） 4　文法２　（一般動詞の用法） 5　文法３　（形容詞の用法） 6　講読３　(平易な物語など) 7　文法４　（類別詞の用法・比較） 8　講読４　(タイの文化・祭り) 9　講読５　（首都バンコクについて） 10　文法６　(出家式) 11　タイ事情（現代映画の鑑賞） 12　タイ事情（現代映画の鑑賞）
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績および出席状況

	アラビア語 Ia	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は、総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連の公用語の一つに指定されています。またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、10 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界で最も誤解された宗教」と言われていますが、アラブ世界もまた、世界で最も誤解された文化圏の一つだといえるでしょう。 本講義では、アラビア語を通じて、その背後にある豊かな文化に親しんでもらうことを目指しています。 文法に片寄らず、「まずは言いたいことをアラビア語で言う」ことを目標に会話にも重点を置きつつ、様々なメディアを通じて、自然にアラビア語を呼吸してもらいたいと考えています。	１．Introduction ２．（会話）挨拶をする ３．（会話）自己紹介をする ４．（文法）アラビア文字に挑戦　1 ５．（文法）アラビア文字に挑戦　2 ６．（文法）アラビア文字に挑戦　3 ７．（文法）アラビア文字に挑戦　4 ８．（会話）アラブ人と友達になろう ９．（文法）アラビア語を読む！　1 １０．（文法）自分の名前を書く　1 １１．（文法）自分の名前を書く　2 １２．復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）（本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー）（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	アラビア語 Ib	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深め、会話を楽しむ感覚でつかんでもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、楽しみながら文法や会話を学び、音楽やビデオを通じて自然にアラビア語を吸収してもらいたいと考えています。	１．（会話）「これは何ですか？」 ２．（会話）「私は日本人です。」 ３．（文法）アラビア語を読む　2 ４．（文法）「これは日本のお茶です」 ５．（文法）「このお茶は日本のものです」 ６．（文法）アラビア語を読む！　3 ７．（会話）「駅はどこですか？」 ８．（文法）動詞は過去形から　1 ９．（文法）動詞は過去形から　2 １０．　復習 １１．　期末テスト １２．　アラビア語の映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）（本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー）（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	アラビア語Ⅱa	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前年度に基礎アラビア語Ⅰを受講し、よりアラビア語の知識を深めることを希望する人を対象にしています。 テキストから会話や文法を学ぶと同時に、音楽やインターネット探検、詩、言葉遊びなど、文化の様々な側面を通じた変化に富んだ学習内容になるでしょう。	1.　復習 2.　復習 3.　（会話）「私は～を持っています」　1 4.　（文法）「私は～を持っています」　2 5.　（文法）「僕は彼女を知った」はひとことで 6.　（文法）未完了形動詞 7.　（文法）名詞は動詞から派生する 8.　（文法）語根って何？辞書を引く！　1 9.　（文法）辞書を引く！ 10.　（会話）アラビア語で買い物を　1 11.　（会話）アラビア語で買い物を　2 12.　復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）（本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー）（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	アラビア語Ⅱb	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、様々なメディアを通じて、アラビア語を楽しく勉強したいと考えています。 一言に「アラブ」と言っても、それぞれの国の「お国柄」があり、ヴァラエティ豊かな文化を構成しています。この講義では、語学力を伸ばすだけでなく、そのようなアラブ世界の素顔に触れること、また受講生一人一人が、それぞれの興味の対象を自ら追求する手助けをすることも目標としています。	1.　（文法）「日本の首都」ってどういうの？ 2.　（文法）双数と複数　1 3.　（文法）双数と複数　2 4.　（文法）数の表し方　1 5.　（文法）数の表し方　2 6.　（応用）絵本を読んでみよう 7.　（応用）手紙を書いてみよう 8.　（応用）電話で話そう 9.　（応用）クルアーンを読んでみよう 10.　復習 11.　期末テスト 12.　アラビア語の映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）（本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー）（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	現代ヘブライ語Ｉａ	担当者	高橋　正男

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエルーユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベンーイフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤーイスラエル文化を紹介する。 講義概要 我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。 受講者への要望 ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。	１．　セム語概説 ２．　ヘブライ文字（アレフ・ベイト）の書体（活字体・筆記体） ３．　ヘブライ文字の書き方（１） ４．　ヘブライ文字の書き方（２） ５．　発音 ６．　発音の手引（１） ７．　発音の手引（２） ８．　名詞と代名詞（１） ９．　名詞と代名詞（２） １０．形容詞 １１．前置詞 １２．動詞の現在形（１）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト・神藤燿他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2005 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 参考文献・『ヘブライ語入門発音テープ』(45 分テープ２本組)　ミルトス（５棟３階　外国語教育研究所で利用可能）	・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。

	現代ヘブライ語Ｉｂ	担当者	高橋　正男

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエルーユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベンーイフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤーイスラエル文化を紹介する。 講義概要 我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。 受講者への要望 ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している	１３．動詞の現在形（２） １４．語根と動詞 １５．ラメッド・ヘー型のパアル態 １６．不定詞（１） １７．ピエル態の現在形 １８．ヒトパエル態の現在形 １９．ニファル態の現在形 ２０．ヒフフィル態の現在形 ２１．不規則名詞複数形 ２２．数詞（１） ２３．数詞（２） ２４．名詞の人称接尾辞と連結詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト・神藤燿他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2005 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 参考文献・『ヘブライ語入門発音テープ』(45 分テープ２本組)　ミルトス（５棟３階　外国語教育研究所で利用可能）	・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。

	現代ヘブライ語Ⅱa	担当者	高橋　正男

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエルーユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル = ベン - イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ-イスラエル文化を紹介する。 講義概要 我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。前年度に引き続き日常会話と文法を交互に学習し、現地のヘブライ語新聞の講読を目標とする。併せて創世記を読む。 受講者への要望 ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。	１．　復習 ２．　復習 ３．　ニフアル態の現在形 ４．　ヒフイル態の現在形 ５．　不規則な名詞複数形 ６．　数詞（１） ７．　数詞（２） ８．　名詞の人称接尾辞 ９．　連結語／ヘブライ語新聞講読（１） １０．パアル態の過去形 １１．ラメッド - ヘー型パアル態の過去形 １２．ラメッド - ヘー型パアル態の過去形（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト・神藤燿他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2005 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 参考文献・『ヘブライ語入門発音テープ』(45 分テープ２本組)　ミルトス（５棟３階　外国語教育研究所で利用可能）	・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。

	現代ヘブライ語Ⅱb	担当者	高橋　正男

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエルーユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル = ベン - イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ-イスラエル文化を紹介する。 講義概要 我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。前年度に引き続き日常会話と文法を交互に学習し、現地のヘブライ語新聞の講読を目標とする。併せて創世記を読む。 受講者への要望 ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。	１３．ピエル態の過去形 １４．ヒトパエル態の過去形 １５．ニフアル態の過去形 １６．プアル態とフフアル態 １７．比較の表現 １８．不定詞（２）／ヘブライ語新聞講読（２） １９．動詞の未来形 ２０．パアル態の未来形 ２１．ヒフイル態の未来形 ２２．ニフアル態の未来形 ２３．不規則な未来形 ２４．条件文 ２５．ヘブライ語新聞講読（３）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト・神藤燿他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2005 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 参考文献・『ヘブライ語入門発音テープ』(45 分テープ２本組)　ミルトス（５棟３階　外国語教育研究所で利用可能）	・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。

	古典ギリシア語Ｉａ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとる。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたい。 ＜講義概要＞ 授業は毎回単元を１～２つずつ学習するペースで進むが、途中１０分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しつつ、アト・ホームな雰囲気で行いたい。また、予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくので、出席は必ず毎回するように心がけること。	１　字母・発音・音韻などの分類 （この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける） ２　音節・アクセント・句読点 （この時点で、古典ギリシア語の単語が読める） ３　動詞の変化・直説法能動相現在 （この時点で、単文が理解できる） ４　名詞の第一変化 ５　動詞の変化・直説法能動相未来 ６　動詞の変化・直説法能動相未完了過去 （この時点で、動詞の三時称がマスターできる） ７　名詞の第二変化 （この時点で、スペルがすらすら書ける） ８　形容詞の変化（第一・第二変化） （ここで語順が決まっていないことが理解できる） ９　前置詞（ここで、ヨーロッパ近代諸語の前置詞との対比によって、その類似性が理解できる） １０　動詞の変化・直接法能動相アオリスト １１　動詞の変化・現在完了と過去完了（これで動詞を諸時制を学ぶことにより、文章理解が一層促進される） １２　指示代名詞と強意代名詞 （この時点で、早くも新約聖書が読めるようになる）
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』（岩波全書、１６４８円）	出席による練習問題の解答を繰り返して行なって到達度を測るため､テストや試験はしない（平常点評価）

	古典ギリシア語Ｉｂ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　直説法能動相本時称の人称語尾 ２　直説法能動相副時称の人称語尾 （本時称と副時称の人称語尾の特徴を知る） ３　ειμι「ある」とφημι「言う」の現在直説法 （この二つの動詞の人称変化を理解する） ４　疑問代名詞と不定代名詞 ５　現在、未完了過去および未来の直説法中動相 （中動相の使い方を学ぶ） ６　人称代名詞 ７　アオリスト、現在完了、過去完了および未来完了の直説法中動相 ８　再帰代名詞、相互代名詞および所有代名詞 ９　第二アオリスト直説法能動相および中動相 （動詞の不規則変化を理解する） １０　直説法受動相、動詞の主要部分 １１　第三変化の名詞（その１） １２　第三変化の名詞（その２） （名詞の不規則変化を理解する）
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 同上	同上

	古典ギリシア語Ⅱa	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講座は、一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手にともかくも可能になることを主目的とする。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を、一語一語かつ一文一文と、こまめに根気よく掘り下げて行くことから始めたい。そして内容説明や解説は丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけたい。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたい。 ＜講義概要＞ 毎回、楽しい読み物（「イソップ物語」「人さまざま」など）の極めてやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語に引き方、文章理解のための文法知識、裏話やエピソード、関連する映像など、さまざまな工夫をこらして授業を進めたい。出席は毎回心がけるようにして欲しい。受講希望者は初級文法を終了していることが望ましい。	１．はじめに （辞書の引き方、ノートの作り方等を指導する） ２．「イソップ物語」の機知と教訓 （アイソーポスの知恵） ３．にわとりと泥棒（その１） ４．にわとりと泥棒（その２） ５．にわとりと泥棒（その３） ６．かめとその寝ぐら（その１） ７．かめとその寝ぐら（その２） ８．かめとその寝ぐら（その３） ９．狼の叫び（その１） １０．狼の叫び（その２） １１．狼の叫び（その３） １２．春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布する。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介する。	出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行なう（平常点評価）。

	古典ギリシア語Ⅱb	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１．さまざまな人間類型 （テオフラストスの鋭い人間観） ２．おべっか使い（その１） ３．おべっか使い（その２） ４．おべっか使い（その３） ５．不平たらたら（その１） ６．不平たらたら（その２） ７．不平たらたら（その３） ８．信用できないひと（その１） ９．信用できないひと（その２） １０．ニュース・メーカー（その１） １１．ニュース・メーカー（その２） １２．秋学期まとめ （古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	ラテン語Ｉａ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 一年間の授業を通して、基礎的なラテン語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには文法的事項の丁寧な解説とそれに関する練習問題を確実にこなして、ひとつひとつステップアップしていく手法をとる。また、ラテン語の学習を通して古代ローマの歴史や文化にも触れながら、動機づけを維持していきたい。 ＜講義概要＞ 授業は毎回単元を一つないし二つずつ学習するペースで進めるが、途中１０分間ほどの中休みを入れ、古代ローマの歴史や文化について映像などを交えて紹介しつつ、アト・ホームな雰囲気で行いたい。なお、予習と復習をきちんとしていることを前提に授業進行をするので、出席は必ず毎回するように心がけること。	１　ラテン語とは何か？：字母・発音・音韻の分類 ２　音節・アクセント・句読点など ３　動詞の変化：規則同士の直説法･能動相・現在 ４　名詞の変化（第一変化）と sum の用法 ５　名詞の変化（第二変化） ６　動詞の変化：規則動詞の直説法・能動相・未完了過去 ７　動詞の変化：規則動詞の直説法･能動相・未来 ８　形容詞の変化（第一変化） ９　形容詞の変化（第二変化） １０　動詞の変化：規則動詞の直説法・能動相・現在完了 １１　人称代名詞 １２　前置詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 初回の授業で提示する。	出席による練習問題を繰り返しおこなって到達度を測るため、特別なテストや試験はしない（平常点評価）。

	ラテン語Ｉｂ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　動詞の変化：規則動詞の直説法・能動相・過去完了 ２　不規則動詞 ３　名詞の変化（第三変化） ４　形容詞の変化（第三変化） ５　指示代名詞 ６　現在分詞 ７　疑問詞 ８　関係代名詞 ９　接続法（１） １０　接続法（２） １１　命令法 １２　受動態
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 同上	同上

02 年度以前 （通年）	経済原論	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　不完全競争の理論 ９．　市場の理論① １０．　市場の理論② １１．　厚生経済学の基本定理 １２．　市場の失敗
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として試験の成績で評価する。 出席を考慮する場合もある。

02 年度以前 （通年）	経済原論	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　IS-LM 分析 ９．　インフレとデフレ １０．　財政赤字と日本経済 １１．　開放マクロ経済 １２．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として試験の成績で評価する。 出席を考慮する場合もある。

02 年度以前（通年）	社会心理学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
個人の行動や認知過程は少なからず，個人をとりまく他者，環境，文化などに影響される。社会心理学は，こうした社会に生きる個人の認知や行動を研究する学問分野といえる。本講義では，近年の社会心理学の研究動向を踏まえながら，１．他者認知，２．自己認知，３．自己呈示と自己開示，４．社会的行動と集団の影響，５．対人コミュニケーションなどのテーマについて論じていきたい。	１．授業ガイダンス ２．社会心理学とは？ ３．他者認知：印象形成 ４．他者認知：印象の記憶 ５．他者認知：性格の認知 ６．他者認知：第１印象の影響力 ７．自己認知：自己意識 ８．自己認知：自覚理論と没個性化 ９．自己認知：自己知識 10. 自己認知：自己評価 11. 自己認知：他者理解と自己理解 12. まとめ
テキスト、参考文献	
テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。	出席と授業での発表，試験により総合的に評価する

02 年度以前（通年）	社会心理学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的と概要は春学期を参照のこと。	1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 対人魅力① 3. 対人魅力② 4. 自己呈示と魅力 5. 対人援助① 6. 対人援助② 7. 他者への攻撃① 8. 他者への攻撃② 9. コミュニケーションの心理① 10. コミュニケーションの心理② 11. コミュニケーションの心理③ 12. コミュニケーションの心理④
テキスト、参考文献	
テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。	出席と授業での発表，試験により総合的に評価する

02 年度以前	コンピュータ入門	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、１人で１台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。 情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかをすでに履修ずみの場合は、本科目を履修してはならない。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作 2　ウィンドウズ入門 ―ウィンドウ操作とアプリケーション 3　日本語入力とタイピング 4　インターネット ―ブラウザ・メール・検索 5　情報倫理 6　ワードプロセッサとは 7　文書の作成（1） 8　文書の作成（2） 9　文書の作成（3） 10　文書への画像の挿入 11　レポートの作成 12　総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ｉ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

02 年度以前 （通年）	情報科学概論	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。 本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。	1　講義の概要と目標 2　情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3　コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論 4　数の体系と基数変換 ２進数と１６進数、基数変換、2 進数の演算 5　コンピュータの論理回路とデータ表現 6　コンピュータの構成要素（1） 中央処理装置（CPU）とメインメモリ 7　コンピュータの構成要素（2） ２次記憶装置と周辺措置 8　コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9　オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 10　コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11　基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12　アルゴリズム
テキスト、参考文献	**評価方法**
山田啓一　『情報科学』　西日本法規出版	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

02 年度以前 （通年）	情報科学概論	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。 本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。	1　ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2　データベース データベースの概要、データベースの種類 3　データベース管理システム（DBMS） DBMS の目的と構成 4　データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5　コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LAN の構成とアクセス方式 6　インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS 7　インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8　インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9　マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10　情報検索 情報検索の方法と演習 11　言語処理における情報技術（演習） 12　ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守
テキスト、参考文献	**評価方法**
山田啓一　『情報科学』　西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用（1） 7 関数の利用（2） 8 関数の利用（3） 9 プレゼンテーション（1）―作成（MS-POWERPOINT とは） 10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ） 11 プレゼンテーション（3）―発表 12 総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用（1） 7 関数の利用（2） 8 関数の利用（3） 9 プレゼンテーション（1）―作成（MS-POWERPOINT とは） 10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ） 11 プレゼンテーション（3）―発表 12 総合演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

02 年度以前	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作１ 3. Powerpoint の基本操作２ 4. Powerpoint の基本操作３ 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示します。	授業内での個人プレゼンテーション。

02 年度以前	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作１ 3. Powerpoint の基本操作２ 4. Powerpoint の基本操作３ 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示します。	授業内での個人プレゼンテーション。

02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2　WWW と LAN 3　情報の単位と情報通信 4　ハイパーテキストと HTML 5　インターネットと情報倫理 6　ページの構造と HTML 7　ホームページの作成—テキスト 8　ホームページの作成—イメージ 9　ホームページの作成—リンク 10　ホームページの作成—テーブル・その他 11　ホームページの作成—完成 12　ファイルの転送とページの更新
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 **注意** 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	1　ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2　WWW と LAN 3　情報の単位と情報通信 4　ハイパーテキストと HTML 5　インターネットと情報倫理 6　ページの構造と HTML 7　ホームページの作成—テキスト 8　ホームページの作成—イメージ 9　ホームページの作成—リンク 10　ホームページの作成—テーブル・その他 11　ホームページの作成—完成 12　ファイルの転送とページの更新
テキスト、参考文献	**評価方法**
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

02 年度以前	情報科学各論（中級―表計算応用１）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。 Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を繰り返す必要がある場合、その処理内容を記録させることで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。 簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA（Visual Basic for Application）プログラムの基礎を理解することを目標とする。 初回の授業に、必ず出席すること。	1　ガイダンスと Excel の復習 2　マクロ機能とは 3　関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4　関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5　マクロ用ボタンとマクロの連携 6　第１回目課題作成 7　VBA の利用―簡単なゲームの作成（1） 8　VBA の利用―簡単なゲームの作成（2） 9　第２回目課題作成 10　最終課題作成（1） 11　最終課題作成（2） 12　最終課題作成（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で指示する。	平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。

02 年度以前	情報科学各論（中級―表計算応用１）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同様。	春学期と同様。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同様。	春学期と同様。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

02 年度以前	情報科学各論（中級―表計算応用２）	担当者	松山　恵美子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は情報科学各論（中級―表計算応用１）の単位を取得した学生を対象として行うものとする。 情報科学各論（中級―表計算応用１）で学習した記録マクロから、VBA（Visual Basic for Application）をもう一歩踏み込んで理解することを目的とする。 最終的には、情報科学各論（中級―表計算応用１）で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。 初回の授業に、必ず出席すること。	1　ガイダンスと Excel マクロ機能の復習 2　VBA とは（1） 3　プログラミングの技法（1） 4　プログラミングの技法（2） 5　マクロ用ボタンとの連携 6　第１回目課題作成 7　プログラミングの技法（3） 8　プログラミングの技法（4） 9　第２回目課題作成 10　最終課題作成（1） 11　最終課題作成（2） 12　最終課題作成（3）

テキスト、参考文献	評価方法
第１回目の授業で指示する。	平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

02 年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用１）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 講義の概要 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（1） 3　HTML と FTP の復習（2） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　JavaScript（1） 6　JavaScript（2） 7　JavaScript（3） 8　JavaScript（4） 9　CGI の利用（1） 10　CGI の利用（2） 11　CGI の利用（3） 12　鑑賞・報告会

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に指示、紹介する。プリントの配布（Web 上も含む）も行う。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

02 年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に，単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく，CGI や JavaScript にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目標とするのではなく，その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め，それの積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には，一方向の情報発信ではなく，インタラクティブな双方向のコミニュケーションを図ることにより，情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。 なお，この授業計画はあくまで一つの目安であり，途中での変更も十分にありえる。	1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. プログラミングの考え方 4. JavaScript1 5. JavaScript2 6. JavaScript3 7. JavaScript4 8. CGI 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に適宜指示する。	授業中に指示する課題と平常点で評価する。

02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎　等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する． 高度情報化社会といわれる現代においては，昔と違い膨大な量の情報がうずまいている．そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である．その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある． データベースの基本的な考え方や利用の仕方について，比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い，学習するのが本講義の目的である． ＜受講者への要望＞ 情報科学各論（初級一表計算入門）　を既修，またはそれと同等程度の知識があることが望ましい．第 1 回目の授業には必ず出席すること． 遅刻は厳禁とします．　また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること．	1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 表計算の復習（1） 3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
1 回目の授業で指示します．	出席及びレポート課題，　さらに実習試験によって評価します．

02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース２）	担当者	長崎　等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する． Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に，　データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう．　そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める． ＜受講者への要望＞ 情報科学各論（中級）　「データベース 1」を既修，　またはそれと同等程度の知識があることが望ましい．　第 1 回目の授業には必ず出席すること．　遅刻は厳禁とします． またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること．	1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリ（1） 6 クエリ（2 ） 7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析） 8 テーブル設計 2 （関係データ分析） 9 テーブル設計 3 （テーブル作成） 10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計） 11 クエリ設計 1 （クエリの作成） 12 プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
『30H で理解できるアクセス 2003』，　実教出版 『図解雑学データベース』，ナツメ出版	出席及びレポート課題によって評価します．

02 年度以前	情報科学各論(中級－プログラミング論 1)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual　Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行う。	1　授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2　プログラミング言語の発展史 3　開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4　Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5　簡単なプログラムの作成 基本なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6　イベント駆動型プログラム 7　文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8　選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9　選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10　繰り返しあるプログラムの作成（1） 回数指定による繰り返し、For～Next 文 11　繰り返しあるプログラムの作成（2） 条件指定による繰り返し 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（1）最初の講義で指示する。 （2）随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

02 年度以前	情報科学各論(中級－プログラミング論 2)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。 ここでは、Visual　Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。	1　プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2　配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3　文字列の処理プログラム（1） 簡単な翻訳プログラムの作成 4　文字列の処理プログラム（2） 文字列の照合と置き換え 5　図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6　文字列の表示 7　画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8　ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9　ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 10　応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11　再帰というプログラミング手法 12　総合練習 綜合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を指示する。	定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

02 年度以前	総合講座 B	担当者	青山　愛香 （コーディネータ）

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、「都市と藝術」と題して、ヨーロッパならびにアジアを代表する都市と、その都市を中心に展開した藝術について考察します。 9 名の講師がオムニバス形式で、幅広い時代の芸術作品を紹介します。	1　青山愛香（本学専任講師）　はじめに 2　青山愛香「ニュルンベルク」 3　諏訪功　（一橋大学名誉教授）「ウィーン①」 4　増谷英樹（本学特任教授）「ウィーン②」 5　加藤磨珠枝（東京藝術大学非常勤講師）「ローマ」 6　K. O. バイスヴェンガー（本学助教授）「ドレスデン①」 7　酒井府　（本学名誉教授）「ミュンヘン①」 8　片山まび（大阪市立東洋陶磁美術館）「東アジアの都市」 9　I. アルブレヒト（本学教授）「ドナウ河流域の都市」 10　酒井府　「ミュンヘン②」 11　佐藤直樹（国立西洋美術館主任研究官）「ドレスデン②」 12　青山愛香　まとめ ※　講師の都合により日程に変更がある場合があります
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する。	学期末試験に平常点を加味した総合評価

02 年度以前	総合講座 B	担当者	木村　佐千子 （コーディネータ）

講義目的、講義概要	授業計画
－ヨーロッパの都市や地域と音楽－ この総合講座では、各回に１つのヨーロッパの都市や地域に焦点をあて、その都市や地域の概容を知っていただくと同時に、その地にまつわる音楽に親しんでいただきたいと思います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の担当者が、とりあげる都市や地域とその地にまつわる音楽について、映像資料や録音資料、生演奏を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、都市論が中心になったり、文学や民俗に重点が置かれたり、音楽史的なことを中心にお話ししたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。 注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。	1　本学ドイツ語学科専任講師　木村佐千子　「ヴェネツィア」 2　ヴァイオリン奏者（本学卒業生）　樋口ゆみ 「ヨーロッパのヴァイオリン音楽」（お話と演奏） （小講堂で実施する予定） 3　木村佐千子　「ヴィーン」 4　本学ドイツ語学科助教授　Kirsten Beißwenger 「ドレスデン」 5　本学ドイツ語学科教授　渡部重美　「ヴァイマル」 6　渡部重美　「ベルリン」 7　本学フランス語学科非常勤講師　松橋麻利　「パリ」 8　本学ドイツ語学科教授　下川浩 「デュッセルドルフとハンブルク ～ハイネ＝シューマン没後 150 年に寄せて」 9　木村佐千子　「スペイン」 10　東京藝術大学名誉教授　角倉一朗　「ライプツィヒ」 11　東京音楽大学教授　岡田敦子 「ペテルブルク～ロシアにおける西洋音楽の導入と、西洋音楽のロシア化」（お話とピアノ演奏） （小講堂で実施する予定） 12　木村佐千子「ロンドン」 ※各回のタイトルは、大雑把な内容をお伝えするための仮のものです。 ※内容や担当者は変更となる場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。各回の終わりに意見・感想を記してもらいます。

シラバス 全学共通授業科目

2006年 4 月 1 日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1
電　話　048-946-1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。

DOKKYO UNIVERSITY